

Campus Handbook

学生便覧 2026

保存版



京都外国語大学
Kyoto University of Foreign Studies

京都外国語短期大学
Kyoto Junior College of Foreign Languages

はじめに

「学生便覧」は、皆さんが滞りなく学生生活を送るための道しるべとなるものです。ここには、学生生活をより実りあるものとするために、必要最小限知っておかなければならない事項を掲載しています。大学生活は、高等学校までとは違い、すべてにわたって自主的に、主体性をもって判断し、行動しなければなりません。これから皆さんには、大学の仕組み、単位の取り方、卒業に必要な条件、課外活動等々……すべてのことがらを自分の力と責任で処理することが要求されます。そのために必要な情報を、この「学生便覧」に掲載しています。ここに書かれていることを知らなかったため、大切な機会を逃したり、貴重な時間を浪費したりする結果にもなりかねません。大学生活をより充実して楽しく過ごすことができるように役立ててください。そして、今後とも折に触れて読み返し、わからないことや相談があれば、気軽に先生方や事務室等に尋ねてください。

なお、この冊子は卒業するまで使用しますので、大切に保管してください。

※記載内容が変更になった場合は、本学ホームページ、ポータルシステム等でお知らせします。



I 本学の概要

建学の精神	2
教育理念	2
教育目標	2
沿革	3
京都外国語大学 学歌	4
京都外国語大学 応援歌	4
京都外国語大学 ディプロマ・ポリシー	5
京都外国語大学 カリキュラム・ポリシー	7
京都外国語短期大学 ディプロマ・ポリシー	15
京都外国語短期大学 カリキュラム・ポリシー	16

II 学修する前に知っておくべきこと

学籍	18
学生証(身分証明)	21
学費および代理徴収金の納入	22
事務室案内	23
各種願・届	24
証明書発行サービス	25
通学定期券	26
学校学生生徒旅客運賃割引証(学割証)	26
アカデミック・アドバイザー制度	27
教科書の購入	27
ポータルシステム [Kyoto Gaidai UNIPA]	28
本学からのお知らせ	29
生成 AI 利用に関するガイドライン	29
京都外国語大学・京都外国語短期大学試験等における不正行為の処分基準	32
マナー・モラル	34

III 京都外国語大学 単位修得要領

学修をすすめるために

単位	38
授業	39
試験	42
成績評価および単位認定	44
日本語非母語話者(日本語を母語としない学生)の履修登録等	47

外国語学部

卒業要件	49
卒業判定	49
履修登録	50
科目区分毎の目標	52
外部の語学検定試験(アセスメント)の受験(英米語学科・日本語学科を除く)	53
英米語学科ダイヤモンドコース(英米語学科1年次生対象)	55
学部導入科目・専門科目(必修・選択必修・選択)・ゼミナール科目	56
全学共通科目(外国語科目)	80
全学共通科目(教養科目)	82
学部共通科目(ゼミナール科目)	86
専門科目(選択)の履修	88
ゼミナール科目(英米語学科ダイヤモンドコースを除く)	90
全学共通科目(教養科目)のスポーツ	93
外国語学部の他学科の授業科目の履修	93

国際貢献学部

卒業要件	95
卒業判定	95
履修登録	96
科目区分毎の目標	98
学部基幹科目・専門科目(必修・展開・選択)・ゼミナール科目	99
全学共通科目(外国語科目)	105
全学共通科目(教養科目)	107
ゼミナール科目	111
全学共通科目(教養科目)のスポーツ	115
国際貢献学部の他学科の授業科目の履修	115



各種プログラム・制度等

コミュニティ通訳者育成プログラム〈英米語学科ダイヤモンドコースを除く学部生対象〉	117
もっと京都プロジェクト	118
Community Engagement〈国際貢献学部生対象〉	119
PBL 科目	120
国内交換留学〈英米語学科ダイヤモンドコースを除く〉	120
科目等履修生制度	121
大学コンソーシアム京都の単位互換制度	121
教育支援活動	122
資格検定試験の単位認定	123
語学検定試験受験料の助成（後援会）申請方法	125
GTEC Academic（4 技能）および TOEIC L&R（IP）の団体受験	126
本学大学院への進学	127

資格課程

本学が開設する資格課程	129
教職課程〈外国語学部生対象〉	130
小学校教諭免許状取得支援プログラム〈外国語学部生対象〉	144
学校図書館司書教諭課程〈外国語学部生対象〉	145
図書館司書課程	146
博物館学芸員課程	148
日本語教員養成課程〈日本語学科生対象〉	152

IV 京都外国語短期大学 単位修得要領

学修をすすめるために

単位	156
授業	157
試験	160
成績評価および単位認定	162

教育課程

卒業要件	164
卒業判定	164
履修登録	165
科目区分毎の目標	167
教育課程一覧表	168
Graduation Project II	170

各種制度等

帰国生・渡日生教育支援プログラム	171
科目等履修生制度	172
大学コンソーシアム京都の単位互換制度	173
資格検定試験の単位認定	174
語学検定試験受験料の助成（後援会）申請方法	175
GTEC Academic（4 技能）および TOEIC L&R（IP）の団体受験	176
進学等	177

V 海外での学び

留学プログラム一覧	179
短期留学	181
長期留学	185
リーダーシップ・チャレンジ	192
留学サポート	193
海外渡航をする場合の留意事項	195
留学生との学内交流	196

VI 就職・キャリア支援・キャリア教育プログラム ・エアラインスタディプログラム

進路・就活サポート	198
KUFS Web Career (就職支援サイト) について	199
キャリア教育プログラム	200
エアラインスタディプログラム	202
就職試験対策・資格取得講座	203

VII 学生生活の手引き

学生生活に関する相談	205
アルバイト	209
食堂・書籍部・購買部・証明写真機・ATM	210
附属図書館	211
ICT サービス・設備利用案内	212
ランゲージセンター	213
国際文化資料館 < 10号館3階・4階 >	217
奨学金一覧	218
災害傷害保険給付	220
NO DRUGS!	221
ストーカーは犯罪行為	222
危険な「闇バイト」や詐欺に注意!	223
SNS 利用上の注意	224
あの手この手の悪質商法	225
命にかかわるアルハラ	227
カルトの罠にはまらない	228
20 歳になったら国民年金	229
選挙権は18 歳以上	229
18 歳は大人です	230

I

本学の概要

I 本学の概要

II 学修する前に知っておくべきこと

III 京都外国語大学単位修得要領

外国語学部

国際貢献学部

各種プログラム・制度等

資格課程



建学の精神

PAX MUNDI PER LINGUAS

— 言語を通して世界の平和を —

本学が京都外国語学校として創立された1947年（昭和22年）5月、終戦後間もないこの当時に何よりも求められたものは世界の平和であり、その基盤としての国際的理解でした。そして、この国際的理解を図るための外国語をマスターし、その文化・経済・社会に熟知した人材の育成は急務でした。

しかし、我々日本人が外国語を身につけることは、日本語の独特な構造が一種の妨げとなり、更には我が国特有の歴史に由来する伝統と習慣とがいよいよ外国語の修得を容易でないものにしています。つまり、島国に住む我々が一つの外国語をマスターするには、国境を接する国と国との間における外国語修得とは比較にならない困難さを伴うわけで、これに必要なものは、才能にもまして強固な意志と不断的努力であると言えます。

本学の建学の精神である“PAX MUNDI PER LINGUAS”（言語を通して世界の平和を）とは、世界平和達成への創立者の強い願いが込められており、創立以来、「不撓不屈」を教育・研究の基本精神としているのは、外国語を専攻する者にとって不断的努力が何よりも重要だからです。

■ シンボルマーク



本学は、建学の精神である“PAX MUNDI PER LINGUAS”－言語を通して世界の平和を－の達成を願い、この精神を体得し、卒業後もこの精神で不断的努力を惜しまぬ学生の育成をめざしています。シンボルマークは、地球の中に建学の精神を掲げ、育成された学生が、平和の使者として世界にはばたく姿を白い鳩で表したものです。

教育理念

本学の教育の理念は「国際社会の平和に貢献し、次世代を担うことのできる『人間力』豊かなリーダーの養成」です。本学が求める「人間力」とは、「国際社会の一員としての責任を自覚し、教養豊かな魅力ある人間として力強く生きていくための総合的な力」のことです。

教育目標

大 学

- ① 学問に裏付けられた実践的な複言語運用力
- ② 世界平和のための社会性と対人関係性の向上に資するコミュニケーション力
- ③ 日本及び世界各国の社会と文化の理解に基づく多文化共生実現力

短期大学

- ① 確かな日本語力と実践的な英語運用力
- ② 世界平和のための社会性、対人関係性の向上に資するコミュニケーション力
- ③ 日本及び外国の社会と文化の理解に基づく多文化共生実現力

沿革

1947年（昭和22年）5月	京都外国語学校を創立
1950年（昭和25年）4月	京都外国語短期大学を設置 京都外国語短期大学英語科（昼間部）を開設
1952年（昭和27年）4月	京都外国語短期大学英語科第二部（夜間部）を開設 京都外国語短期大学英語科に教職課程を開設
1956年（昭和31年）4月	京都外国語短期大学英語商業科（昼間部）を開設 京都外国語短期大学専攻科（昼間部）を開設
1959年（昭和34年）3月	京都外国語短期大学英語科（昼間部）を廃止 京都外国語短期大学英語商業科（昼間部）を廃止 京都外国語短期大学専攻科（昼間部）を廃止
4月	京都外国語大学を設置 京都外国語大学外国語学部英米語学科を開設 京都外国語大学に教職課程を開設
1963年（昭和38年）4月	京都外国語大学外国語学部イスパニア語学科を開設
1964年（昭和39年）4月	京都外国語大学外国語専攻科英米語専攻を開設
1966年（昭和41年）4月	京都外国語大学外国語学部フランス語学科を開設
1967年（昭和42年）4月	京都外国語大学外国語学部ドイツ語学科・ブラジルポルトガル語学科を開設
1971年（昭和46年）4月	京都外国語大学大学院（修士課程）を設置 京都外国語大学大学院（修士課程）外国語学研究科英米語学専攻・フランス語学専攻・ドイツ語学専攻・ブラジルポルトガル語学専攻を開設
1972年（昭和47年）4月	京都外国語大学大学院（修士課程）外国語学研究科イスパニア語学専攻を開設 京都外国語大学大学院に教職課程を開設
1974年（昭和49年）4月	京都外国語大学外国語学部中国語学科を開設
1977年（昭和52年）4月	京都外国語大学に図書館司書・学校図書館司書教諭課程を開設
1980年（昭和55年）4月	京都外国語大学留学生別科を開設
1982年（昭和57年）3月	京都外国語学校を廃校
1989年（平成元年）4月	京都外国語大学に博物館学芸員課程を開設
1992年（平成4年）4月	京都外国語大学外国語学部日本語学科を開設
1997年（平成9年）4月	京都外国語大学外国語専攻科東アジア言語・文化専攻を開設
2000年（平成12年）3月	京都外国語短期大学英語科の教職課程を廃止
2004年（平成16年）4月	京都外国語大学外国語学部イタリア語学科を開設
2005年（平成17年）4月	京都外国語大学大学院外国語学研究科 異言語・文化専攻 博士前期課程・後期課程を設置
2006年（平成18年）3月	京都外国語大学外国語専攻科を廃止
2007年（平成19年）3月	京都外国語大学大学院（修士課程）外国語学研究科英米語学専攻・イスパニア語学専攻・フランス語学専攻・ドイツ語学専攻・ブラジルポルトガル語学専攻を廃止
4月	京都外国語大学外国語学部イスパニア語学科をスペイン語学科に改称 京都外国語短期大学英語科をキャリア英語科に改称
2010年（平成22年）4月	京都外国語大学外国語学部国際教養学科を開設
2018年（平成30年）4月	京都外国語大学国際貢献学部グローバルスタディーズ学科・グローバル観光学科を開設
2020年（令和2年）4月	京都外国語大学外国語学部ロシア語学科を開設
2023年（令和5年）3月	京都外国語大学外国語学部国際教養学科を廃止

京都外国語大学 **ディプロマ・ポリシー** (卒業認定・学位授与に関する方針)

外国語学部

外国語学部は専攻する外国語の学修を通して、高度な語学力、地域や文化について専門的知識および国際社会で活躍するにふさわしい高い見識並びに豊かな教養を身につけ、世界の平和に貢献する人材を育成することを目的としています。

その実現のために、①**高度な語学力**、②**社会性、対人関係の向上に資するコミュニケーション力**、③**京都を中心とした日本及び世界各国の社会と文化の理解に基づく多文化共生実現力**の3つのミッションを修得することにより、下記に示すとおり、世界が地球規模で抱える諸問題に向き合い、共同して解決を模索し、問題を解決に導くことができる人材を育成することを教育目標にしています。

「構想するために必要な力」

私たちが直面している問題を発見し、解決方法を提案する(問題発見力・解決力)にあたり、深い思考力や的確な判断力を養い(思考力・判断力)、創造性あふれる企画をまとめる(創造力・企画力)ことができます。

「実践するために必要な力」

自ら提案をまとめ(主体的に取り組む力)、必要な情報を取捨選択して分析し(情報収集力・分析力)、計画的に実行に移す(計画力・実行力)ことができます。

「共同するために必要な力」

立案した企画を効果的に発表し(プレゼンテーション力)、その重要性を相手に伝え(コミュニケーション力)、ルーツの異なる他者とともに実現していく(多文化共生力)ことができます。

学科ごとの目標は以下のとおりとし、4年の修業年限の中で、卒業に必要な単位を修得した場合に学士(文学)の学位を与えます。

英米語学科

専攻語として英語の確かな運用力を備え、英語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とします。

英米語学科 ダイヤモンドコース

実社会が求める、専攻語として英語の高度な運用力と社会科学の素養を備えた「京都」の精神の継承者として日本と世界をつなぐ存在となり、世界が直面する諸課題に対して、学問に裏付けられた解決策を自律的に立案し、他者と共同して社会実装を達成する力を備えた人材を育成することを目的とします。

スペイン語学科

専攻語としてスペイン語の確かな運用力を備え、スペイン語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とします。

フランス語学科

専攻語としてフランス語の確かな運用力を備え、フランス語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とします。

ドイツ語学科

専攻語としてドイツ語の確かな運用力を備え、ドイツ語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とします。

ブラジル ポルトガル語学科

専攻語としてポルトガル語の確かな運用力を備え、ポルトガル語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とします。

中国語学科

専攻語として中国語の確かな運用力を備え、中国語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とします。

日本語学科

専攻語として日本語の確かな運用力及び日本国内外で日本語を教授する能力を備え、日本社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発信・伝達する力を備えた国語教師、日本語教師、日本語の専門家など幅広い人材を育成することを目的とします。

イタリア語学科

専攻語としてイタリア語の確かな運用力を備え、イタリア語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とします。

ロシア語学科

専攻語としてロシア語の確かな運用力を備え、ロシア語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とします。

国際貢献学部

国際貢献学部は、社会科学の理論と実践の学修を通して、多様な言語及びデジタル技術の高度な運用能力を身につけ、グローバル社会で活躍するにふさわしい高い見識、幅広い視野並びに長期的な洞察に基づいて意思決定と行動ができる能力を身につけ、世界の平和に貢献できる素地を備えた人材を育成することを目的としています。

その実現のために、①**社会科学の素養に基づく、高度な語学力とデジタル技術運用能力**、②**社会性、対人関係の向上に資するコミュニケーション力**、③**京都を中心とした日本及び世界各国の社会と文化の理解に基づく多文化共生実現力**の3つのミッションを修得し、世界が地球規模で抱える諸問題に向き合い、共同して解決を模索し、問題を解決に導くことができる素地を持った人材を育成することを教育目標としています。

グローバル スタディーズ学科	4年の修業年限の中で、卒業に必要な単位を修得し、以下の能力を身につけた学生に学士（国際学）の学位を与えます。
<p>地球規模・人類共通の課題解決に貢献し、世界の平和に貢献する新たな価値を創造する人材を育成することを目的とします。</p> <p>① 主体的・自律的に課題に取り組む力 自らの目標を明確に持ち、自律的に学修を推進することができます。</p> <p>② 問題発見力・解決力 グローバル社会の急速な変化の中において、社会科学の視点から問題を発見し、その解決のために長期的及び俯瞰的な視野と洞察に基づいて社会や組織にポジティブな変化をもたらす意思決定と行動をすることができます。</p> <p>③ 多文化共生実現力 複文化主義を体現したコミュニケーション能力を駆使し、自分と異なるものの見方をする他者との交流・対話を積み重ねることにより、グローバル及びローカルな社会や組織、コミュニティに貢献することができます。</p> <p>④ 世界の平和を脅かす新しい諸問題の解決策に関する科学的素養・デジタル技術の活用能力 グローバルビジネスと経済学、持続可能性と国際協力といった社会科学の専門的知識及び最新のデジタル技術を活用し、課題を解決することができます。</p>	
グローバル 観光学科	4年の修業年限の中で、卒業に必要な単位を修得し、以下の能力を身につけた学生に学士（グローバル観光学）の学位を与えます。
<p>世界の平和に貢献する、多文化共生のための活動としての観光という現象の光と影の側面を、社会科学の視点からとらえ、様々なコミュニティが直面する課題解決に貢献する人材を育成することを目的とします。</p> <p>① 主体的・自律的に課題に取り組む力 自らの目標を明確に持ち、自律的に学修を推進することができます。</p> <p>② 問題発見力・解決力 グローバル社会の急速な変化の中において、社会科学の視点から観光に関わる諸問題を発見し、その解決のために長期的及び俯瞰的な視野と洞察に基づいて社会や組織にポジティブな変化をもたらす意思決定と行動をすることができます。</p> <p>③ 多文化共生実現力 複文化主義を体現したコミュニケーション能力を駆使し、自分と異なるものの見方をする他者との交流・対話を積み重ねることにより、グローバル及びローカルな社会や組織、コミュニティに貢献することができます。</p> <p>④ 新しい世界の平和を支えるための観光をめぐる諸問題の解決策に関する科学的素養・デジタル技術の活用能力 経済学、経営学、社会学など社会科学を基盤とする学際的な観光学の専門的知識及び最新のデジタル技術を活用し、課題を解決することができます。</p>	

京都外国語大学 カリキュラム・ポリシー (教育課程に関する方針)

外国語学部

外国語学部では、卒業認定・学位授与のために、学部導入科目及び専門科目に加えて、9 領域からなる全学共通科目など必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に分けています。

英米語学科		英米語学科では、卒業認定・学位授与のために、学部導入科目及び専門科目に加えて、9 領域からなる全学共通科目など必要とする科目を体系的に編成しています。
教育内容	<ol style="list-style-type: none"> ① 学修の基礎となる学部導入科目においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置きます。大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行います。 ② 英語教育の必修科目において英語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得すべく科目を配置します。定期的に外部の語学検定試験を受験し、語学力の習熟度を測ります。また、資格試験対策やキャリアと関連する英語も含め4技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じて運用能力を育成します。 ③ 英語が用いられている地域及び自国の歴史、文化、社会、政治経済を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を育みます。また、言語としての英語の性質を理解するとともに、英語を効果的に教授する実践的な知識と技能を養います。 ④ 複言語運用能力を育成し、多文化理解を深め、複文化的な視点を大切にします。 ⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、学問に裏付けられた実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組む計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と共同するための力、目標を達成する力を育成します。 	
教育方法	<ol style="list-style-type: none"> ① 自律学修を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れます。 ② 必修科目における英語の修得にあたっては、習熟度に応じて学びを進めるため、少人数制クラス編成を維持します。 ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行います。 	
学修成果 (育成すべき能力)	<ol style="list-style-type: none"> ① 語学力の育成 大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができます。 ② 英語圏に関する専門知識と多文化共生力 英語圏についての専門知識を獲得し、その地域の社会と文化に精通するとともに、京都の学びを通じて自らの社会と文化を知り、異文化に対する理解を深めさせ、寛容性を備えた人材を育成します。 ③ 世界が抱える諸問題の理解 英語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができます。 	
評価	卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下のとおり評価します。	<ol style="list-style-type: none"> ① 各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績 ② 語学の到達度を測る資格試験のスコア ③ ゼミ担当者の指導の下に作成した卒業論文あるいは卒業研究

英米語学科 ダイヤモンドコース	
英米語学科では、卒業認定・学位授与のために、学部導入科目及び専門科目に加えて、9 領域からなる全学共通科目など必要とする科目を体系的に編成しています。	
教育内容	<ol style="list-style-type: none"> ① 学修の基礎となる学部導入科目においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置きます。大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行います。 ② 2 年次からの英語教育の必修科目において英語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の高いレベルの 4 技能を総合的に修得すべく科目を配置します。英語圏の専門留学に必要な IELTS 又は TOEFL のスコアのレベルに到達することができます。 ③ 2 年次からの専門科目では、実社会で求められる社会科学の素養を修得するための必修科目として、「国際関係学」、「経済学」、「経営学」、「データサイエンス」、「会計学」を、英語又は日本語を教授言語として学びます。これらの素養は、専門留学を円滑かつ効果的に修了するために必須となります。 ④ 「京都」の伝統と革新の精神を学び、「京都」を通じた日本の本質と精神を英語で説明できるようにし、京都と世界をつなぐネットワークの一員となる素養を磨きます。 ⑤ 卒業後の進路を見据え、地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格等を身につけ、学問に裏付けられた実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組む計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と共同するための力、目標を達成する力を育成します。
教育方法	<ol style="list-style-type: none"> ① 自律学修を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れます。 ② 2 年次からの必修科目における英語の修得にあたっては、留学に必要な英語力獲得を目指す高度かつ実践的な英語教育を徹底します。また、卒業後の進路を見据え、実社会で必要とされる社会科学の「国際関係学」、「経済学」、「経営学」、「データサイエンス」、「会計学」を修得します。また、一人ひとりが社会科学の理論と実践に裏付けられた解決策を複言語・デジタル技術というツールを用いて京都から世界に発信します。 ③ 「京都学」では、「京都」の伝統と革新の精神を学び、「京都」を通じた日本の本質と精神を英語で説明できるようにします。 ④ 3 年次秋学期から 1 年間、海外協定校（英語圏）への専門留学を必須とします。 ⑤ 留学前後では、産・官・学それぞれの現場で活躍する講師を迎え、国際社会の中で求められる日本のあり方を俯瞰する姿勢を確立します。その上で京都と世界をつなぐネットワークの一員という認識の下、それぞれのキャリアで求められる素養を自律的に考え続ける能力を身につけます。 ⑥ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行います。
学修成果 (育成すべき能力)	<ol style="list-style-type: none"> ① 語学力の育成 大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができます。 ② 英語圏に関する専門知識と多文化共生力 英語圏についての専門知識を獲得し、その地域の社会と文化に精通するとともに、京都の学びを通じて自らの社会と文化を知り、異文化に対する理解を深めさせ、寛容性を備えた人材を育成します。 ③ 世界が抱える諸問題の理解 英語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができます。
評価	<p>卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下のとおり評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績

スペイン語学科		スペイン語学科では、卒業認定・学位授与のために、学部導入科目及び専門科目に加えて、9 領域からなる全学共通科目など必要とする科目を体系的に編成しています。
教育内容		<ol style="list-style-type: none"> ① 学修の基礎となる学部導入科目においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置きます。大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行います。 ② スペイン語教育の必修科目においてスペイン語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得すべく科目を配置します。国際的に通用する語学検定試験によって、スペイン語力の習熟度を測ります。また、4技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じて運用能力を育成します。 ③ スペイン語が用いられている地域及び自国の歴史、文化、社会、政治経済を学んで専門知識を獲得し、当該地域が抱える諸問題に問題意識を持って取り組む能力を育みます。 ④ 複言語運用能力を育成し、多文化理解を深め、複文化的な視点を大切にします。 ⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、学問に裏付けられた実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組み計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と共同するための力、目標を達成する力を育成します。
教育方法		<ol style="list-style-type: none"> ① 自律学修を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れます。 ② 必修科目におけるスペイン語の修得にあたっては、習熟度に応じて学びを進めるため、少人数制クラス編成を維持します。 ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行います。
学修成果 (育成すべき能力)		<ol style="list-style-type: none"> ① 語学力の育成 大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができます。 ② スペイン語圏に関する専門知識と多文化共生力 スペイン語圏についての専門知識を獲得し、その地域の社会と文化に精通するとともに、京都の学びを通じて自らの社会と文化を知り、異文化に対する理解を深めさせ、寛容性を備えた人材を育成します。 ③ 世界が抱える諸問題の理解 スペイン語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができます。
評価		<p>卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下のとおり評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績 ② 語学の到達度を測る資格試験のスコア ③ ゼミ担当者の指導の下に作成した卒業論文あるいは卒業研究

フランス語学科		フランス語学科では、卒業認定・学位授与のために、学部導入科目及び専門科目に加えて、9 領域からなる全学共通科目など必要とする科目を体系的に編成しています。
教育内容		<ol style="list-style-type: none"> ① 学修の基礎となる学部導入科目においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置きます。大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行います。 ② フランス語教育の必修科目においてフランス語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得すべく科目を配置します。国際的に通用する語学検定試験によって、フランス語力の習熟度を測ります。また、資格試験対策や4技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じて運用能力を育成します。 ③ フランス語が用いられている地域及び自国の歴史、文化、社会、政治経済を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を育みます。 ④ 複言語運用能力を育成し、多文化理解を深め、複文化的な視点を大切にします。 ⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、学問に裏付けられた実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組み計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と共同するための力、目標を達成する力を育成します。
教育方法		<ol style="list-style-type: none"> ① 自律学修を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れます。 ② 必修科目におけるフランス語の修得にあたっては、習熟度に応じて学びを進めるため、少人数制クラス編成を維持します。 ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行います。
学修成果 (育成すべき能力)		<ol style="list-style-type: none"> ① 語学力の育成 大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができます。 ② フランス語圏に関する専門知識と多文化共生力 フランス語圏についての専門知識を獲得し、その地域の社会と文化に精通するとともに、京都の学びを通じて自らの社会と文化を知り、異文化に対する理解を深めさせ、寛容性を備えた人材を育成します。 ③ 世界が抱える諸問題の理解 フランス語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができます。
評価		<p>卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下のとおり評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績 ② 語学の到達度を測る資格試験のスコア ③ ゼミ担当者の指導の下に作成した卒業論文あるいは卒業研究

ドイツ語学科		ドイツ語学科では、卒業認定・学位授与のために、学部導入科目及び専門科目に加えて、9領域からなる全学共通科目など必要とする科目を体系的に編成しています。
教育内容		<ol style="list-style-type: none"> ① 学修の基礎となる学部導入科目においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置きます。大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行います。 ② ドイツ語教育の必修科目においてドイツ語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得すべく科目を配置します。国際的に通用する語学検定試験によって、ドイツ語力の習熟度を測ります。また、資格試験対策や4技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じて運用能力を育成します。 ③ ドイツ語が用いられている地域及び自国の歴史、文化、社会、政治経済を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について、問題意識を持って取り組む能力を育みます。 ④ 複言語運用能力を育成し、多文化理解を深め、複文化的な視点を大切にします。 ⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、学問に裏付けられた実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組む計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と共同するための力、目標を達成する力を育成します。
教育方法		<ol style="list-style-type: none"> ① 自律学修を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れます。 ② 必修科目におけるドイツ語の修得にあたっては、習熟度に応じて学びを進めるため、少人数制クラス編成を維持します。 ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行います。
学修成果 (育成すべき能力)		<ol style="list-style-type: none"> ① 語学力の育成 大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができます。 ② ドイツ語圏に関する専門知識と多文化共生力 ドイツ語圏についての専門知識を獲得し、その地域の社会と文化に精通するとともに、京都の学びを通じて自らの社会と文化を知り、異文化に対する理解を深めさせ、寛容性を備えた人材を育成します。 ③ 世界が抱える諸問題の理解 ドイツ語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができます。
評価		<p>卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下のとおりに評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績 ② 語学の到達度を測る資格試験のスコア ③ ゼミ担当者の指導の下に作成した卒業論文あるいは卒業研究

ブラジルポルトガル語学科		ブラジルポルトガル語学科では、卒業認定・学位授与のために、学部導入科目及び専門科目に加えて、9領域からなる全学共通科目など必要とする科目を体系的に編成しています。
教育内容		<ol style="list-style-type: none"> ① 学修の基礎となる学部導入科目においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置きます。大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行います。 ② ポルトガル語教育の必修科目においてポルトガル語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得すべく科目を配置します。国際的に通用する語学検定試験や学科総合試験によって、ポルトガル語力の習熟度を測ります。また、資格試験対策や4技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じて運用能力を育成します。 ③ ポルトガル語が用いられている地域及び自国の歴史、文化、社会、政治経済を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を育みます。 ④ 複言語運用能力を育成し、多文化理解を深め、複文化的な視点を大切にします。 ⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、学問に裏付けられた実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組む計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と共同するための力、目標を達成する力を育成します。
教育方法		<ol style="list-style-type: none"> ① 自律学修を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れます。 ② 必修科目におけるポルトガル語の修得にあたっては、習熟度に応じて学びを進めるため、少人数制クラス編成を維持します。 ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行います。
学修成果 (育成すべき能力)		<ol style="list-style-type: none"> ① 語学力の育成 大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができます。 ② ポルトガル語圏に関する専門知識と多文化共生力 ポルトガル語圏についての専門知識を獲得し、その地域の社会と文化に精通するとともに、京都の学びを通じて自らの社会と文化を知り、異文化に対する理解を深めさせ、寛容性を備えた人材を育成します。 ③ 世界が抱える諸問題の理解 ポルトガル語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができます。
評価		<p>卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下のとおりに評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績 ② 語学の到達度を測る資格試験のスコア ③ ゼミ担当者の指導の下に作成した卒業論文あるいは卒業研究

中国語学科		中国語学科では、卒業認定・学位授与のために、学部導入科目及び専門科目に加えて、9 領域からなる全学共通科目など必要とする科目を体系的に編成しています。
教育内容		<ol style="list-style-type: none"> ① 学修の基礎となる学部導入科目においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置きます。大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行います。 ② 中国語教育の必修科目において中国語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得すべく科目を配置します。国際的に通用する語学検定試験によって、中国語力の習熟度を測ります。また、資格試験対策や4技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じて運用能力を育成します。 ③ 中国語が用いられている地域及び自国の歴史、文化、社会、政治経済を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を育みます。 ④ 複言語運用能力を育成し、多文化理解を深め、複文化的な視点を大切にします。 ⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、学問に裏付けられた実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組む計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と共同するための力、目標を達成する力を育成します。
教育方法		<ol style="list-style-type: none"> ① 自律学修を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れます。 ② 必修科目における中国語の修得にあたっては、習熟度に応じて学びを進めるため、少人数制クラス編成を維持します。 ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行います。
学修成果 (育成すべき能力)		<ol style="list-style-type: none"> ① 語学力の育成 大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができます。 ② 中国語圏に関する専門知識と多文化共生力 中国語圏についての専門知識を獲得し、その地域の社会と文化に精通するとともに、京都の学びを通じて自らの社会と文化を知り、異文化に対する理解を深めさせ、寛容性を備えた人材を育成します。 ③ 世界が抱える諸問題の理解 中国語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができます。
評価		<p>卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下のとおりに評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績 ② 語学の到達度を測る資格試験のスコア ③ ゼミ担当者の指導の下に作成した卒業論文あるいは卒業研究

日本語学科		日本語学科では、卒業認定・学位授与のために、学部導入科目及び専門科目に加えて、9 領域からなる全学共通科目など必要とする科目を体系的に編成しています。
教育内容		<ol style="list-style-type: none"> ① 学修の基礎となる学部導入科目においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置きます。大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行います。 ② 日本語教育の必修科目において日本語を体系的に学び、「日本語学」「日本語教育」「日本文化」「日本文学」の4領域を総合的に修得すべく科目を配置します。授業内外でもフィールドワークを実施し、実践力の養成を図ります。 ③ 日本語圏に関する文化、文学を学んで専門知識を獲得し、日本をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を育みます。 ④ 複言語運用能力を育成し、多文化理解を深め、複文化的な視点を大切にします。 ⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、学問に裏付けられた実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組む計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と共同するための力、目標を達成する力を育成します。
教育方法		<ol style="list-style-type: none"> ① 自律学修を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れます。 ② 必修科目における「日本語学」「日本語教育」「日本文化」「日本文学」の4領域の修得にあたっては、フィールドワークやインターンシップなどを円滑に進めるため、少人数制クラス編成を維持します。 ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行います。
学修成果 (育成すべき能力)		<ol style="list-style-type: none"> ① 語学力の育成 日本語専攻の学生としてふさわしい高度な文章作成能力を備え、専門知識を活かして、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができます。 ② 日本語圏に関する専門知識と多文化共生力 日本語圏についての専門知識を獲得し、その地域の社会と文化に精通するとともに、獲得した知識に基づき、異文化に対する理解を深めさせ、寛容性を備えた人材を育成します。 ③ 世界が抱える諸問題の理解 日本語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができます。
評価		<p>卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下のとおりに評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績 ② ゼミ担当者の指導の下に作成した卒業論文あるいは卒業研究

イタリア語学科		イタリア語学科では、卒業認定・学位授与のために、学部導入科目及び専門科目に加えて、9 領域からなる全学共通科目など必要とする科目を体系的に編成しています。
教育内容	<ol style="list-style-type: none"> ① 学修の基礎となる学部導入科目においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置きます。大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行います。 ② イタリア語教育の必修科目においてイタリア語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得すべく科目を配置します。国際的に通用する語学検定試験によって、イタリア語力の習熟度を測ります。また、資格試験対策や4技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じて運用能力を育成します。 ③ イタリア語が用いられている地域及び自国の歴史、文化、社会、政治経済を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を育みます。 ④ 複言語運用能力を育成し、多文化理解を深め、複文化的な視点を大切にします。 ⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、学問に裏付けられた実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組む計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と共同するための力、目標を達成する力を育成します。 	
教育方法	<ol style="list-style-type: none"> ① 自律学修を達成し、学修成果の定着を図るため、可能な限りアクティブラーニングを効果的に取り入れます。 ② 必修科目におけるイタリア語の修得にあたっては、少人数制クラス編成を維持します。 ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行います。 	
学修成果 (育成すべき能力)	<ol style="list-style-type: none"> ① 語学力の育成 大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができます。 ② イタリア語圏に関する専門知識と多文化共生力 イタリア語圏についての専門知識を獲得し、イタリアの社会と文化に精通するとともに、京都の学びを通じて自らの社会と文化を知り、異文化に対する理解を深めさせ、寛容性を備えた人材を育成します。 ③ 世界が抱える諸問題の理解 イタリア語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができます。 	
評価	卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下のとおり評価します。 <ol style="list-style-type: none"> ① 各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績 ② 語学の到達度を測る資格試験のスコア ③ ゼミ担当者の指導の下に作成した卒業論文あるいは卒業研究 	

ロシア語学科		ロシア語学科では、卒業認定・学位授与のために、学部導入科目及び専門科目に加えて、9 領域からなる全学共通科目など必要とする科目を体系的に編成しています。
教育内容	<ol style="list-style-type: none"> ① 学修の基礎となる学部導入科目においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置きます。大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行います。 ② ロシア語教育の必修科目においてロシア語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得すべく科目を配置します。国際的に通用する語学検定試験や学科総合試験によって、ロシア語力の習熟度を測ります。また、資格試験対策や4技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じて運用能力を育成します。 ③ ロシア語が用いられている地域及び自国の歴史、文化、社会、政治経済を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を育みます。 ④ 複言語運用能力を育成し、多文化理解を深め、複文化的な視点を大切にします。 ⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、学問に裏付けられた実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組む計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と共同するための力、目標を達成する力を育成します。 	
教育方法	<ol style="list-style-type: none"> ① 自律学修を達成し、学修成果の定着を図るため、可能な限りアクティブラーニングを効果的に取り入れます。 ② 必修科目におけるロシア語の修得にあたっては、少人数制クラス編成を維持します。 ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行います。 	
学修成果 (育成すべき能力)	<ol style="list-style-type: none"> ① 語学力の育成 大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができます。 ② ロシア語圏に関する専門知識と多文化共生力 ロシア語圏についての専門知識を獲得し、ロシアの社会と文化に精通するとともに、京都の学びを通じて自らの社会と文化を知り、異文化に対する理解を深めさせ、寛容性を備えた人材を育成します。 ③ 世界が抱える諸問題の理解 ロシア語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができます。 	
評価	卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下のとおり評価します。 <ol style="list-style-type: none"> ① 各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績 ② 語学の到達度を測る資格試験のスコア ③ ゼミ担当者の指導の下に作成した卒業論文あるいは卒業研究 	

国際貢献学部

国際貢献学部では、卒業認定・学位授与のために、学部基幹科目及び専門科目に加えて、9 領域からなる全学共通科目など必要とする科目を体系的に編成しています。

グローバル スタディーズ学科	
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 学部基幹科目では、本学の建学の精神に沿う「PAX MUNDI (世界の平和)」が直面する人類的課題と、科学としての「多文化共生実現力」の基礎及び「コミュニティエンゲージメント (地域社会との関わり)」を修得します。 ② 専門科目の必修科目では、持続可能な「PAX MUNDI (世界の平和)」の構造を理解するための社会科学の理論と実践及びデータ科学の基礎を修得します。選択科目では、卒業後の進路を見据えた 3 つの領域を軸に、多文化共生実現力を支える社会科学への深い理解と最新のデジタル技術の修得に努めます。ゼミナール科目では、「PAX MUNDI (世界の平和)」が直面する課題に、一人ひとりが社会科学の理論と実践に裏付けられた解決策を複言語・デジタル技術というツールを用いて京都から世界に発信します。 ③ グローバルに活動するための複言語運用能力を育成し、多文化への理解を深め、複文化主義に基づく多様性を養います。 ④ 教養教育科目では、社会人として求められる実践的な教養教育をめざすとともに、広くグローバルな舞台で活躍し得る幅広い知識と公正で的確な判断力を身につけることができます。
教育方法	<ul style="list-style-type: none"> ① 自律学修を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れます。 ② 多文化環境の下で学び、複文化主義を体現したコミュニケーション力を身につけるため、専門科目の授業はすべて英語で行います。 ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行います。
学修成果 (育成すべき能力)	<ul style="list-style-type: none"> ① 主体的・自律的に課題に取り組む力 自らの目標を明確に持ち、自律的に学修を推進することができます。 ② 問題発見力・解決力 グローバル社会の急速な変化の中において、社会科学の視点から問題を発見し、その解決のために長期的及び俯瞰的な視野と科学的洞察に基づいて社会や組織にポジティブな変化をもたらす意思決定と行動をすることができます。 ③ 多文化共生実現力 複文化主義を体現したコミュニケーション能力を駆使し、自分と異なるものの見方をする他者との交流・対話を積み重ねることにより、グローバル及びローカルな社会や組織、コミュニティに貢献することができます。 ④ 世界の平和を脅かす新しい諸問題の解決策に関する科学的素養・デジタル技術の活用力 経済学、経営学、国際関係学といった社会科学の専門的知識及び最新のデジタル技術を活用し、課題を解決することができます。
評価	<p>卒業認定と学位授与の方針に従い、以下のとおりに評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績 ② ゼミ担当者の指導の下に作成した成果報告

グローバル 観光学科	
教育内容	<p>① 学部基幹科目では、本学の建学の精神に沿う「PAX MUNDI（世界の平和）」が直面する人類的課題と、科学としての「多文化共生実現力」の基礎を修得します。</p> <p>② 専門科目の必修科目では、持続可能な「PAX MUNDI（世界の平和）」の構造を理解するための社会科学の理論と実践及びデータ科学の基礎を修得します。展開科目では、学際的な観光学の幅広い素養を育みつつ、卒業後の進路を見据えて、データ科学を基礎とする自分と社会の利益を両立させるビジネスや最新のデジタル技術、京都の本質について、体系的に学修することを可能とします。選択科目では、世界平和の構造とそれに向けた協力のあり方、まちづくりの実践や新しい観光について科学的に学ぶことができます。ゼミナール科目では、「PAX MUNDI（世界の平和）」が直面する課題に、一人ひとりが社会科学の理論と実践に裏付けられた解決策を複言語・デジタル技術というツールを用いて京都から世界に発信します。</p> <p>③ グローバルに活動するための複言語運用能力を育成し、多文化への理解を深め、複文化主義に基づく多様性を養います。</p> <p>④ 教養教育科目では、社会人として求められる実践的な教養教育をめざすとともに、広くグローバルな舞台で活躍し得る幅広い知識と公正で的確な判断力を身につけることができます。</p>
教育方法	<p>① 自律学修を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れます。</p> <p>② 「PAX MUNDI（世界の平和）」を支える多文化共生のための観光に対して、科学としての観光学の視点からの教育を行います。また、京都全体をキャンパスとすることで、複文化主義の基盤となる日本を正しく理解するための教育を行います。</p> <p>③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行います。</p>
学修成果 （育成すべき能力）	<p>① 主体的・自律的に課題に取り組む力 自らの目標を明確に持ち、自律的に学修を推進することができます。</p> <p>② 問題発見力・解決力 グローバル社会の急速な変化の中において、社会科学の視点から観光に関わる諸問題を発見し、その解決のために長期的及び俯瞰的な視野と洞察に基づいて社会や組織にポジティブな変化をもたらす意思決定と行動をすることができます。</p> <p>③ 多文化共生実現力 複文化主義を体現したコミュニケーション能力を駆使し、自分と異なるものの見方をする他者との交流・対話を積み重ねることにより、グローバル及びローカルな社会や組織、コミュニティに貢献することができます。</p> <p>④ 世界の平和を支えるための観光をめぐる諸問題の解決策に関する科学的素養・デジタル技術の活用力 経済学、経営学、社会学など社会科学を基盤とする学際的な観光学の専門的知識及び最新のデジタル技術を活用し、課題を解決することができます。</p>
評価	<p>卒業認定と学位授与の方針に従い、以下のとおりに評価します。</p> <p>①各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績</p> <p>②ゼミ担当者の指導の下に作成した成果報告</p>

京都外国語短期大学 **ディプロマ・ポリシー** (卒業認定・学位授与に関する方針)

キャリア英語科は英語の学修を通して、高度な語学力、地域や文化についての専門的知識及び国際社会で活躍するにふさわしい高い見識並びに豊かな教養を身につけ、各自のキャリア形成を通して世界の平和に貢献する人材を育成することを目的としています。

その実現のために、語学力に加えて、下記に示す能力を修得し、世界が地球規模で抱える諸問題に向き合い、共同して解決を模索し、問題を解決に導くことができる人材を養成することを教育目標としています。

「構想するために必要な力」

私たちが直面している問題を発見し、解決方法を提案する（問題発見力・解決力）にあたり、深い思考力や的確な判断力を養い（思考力・判断力）、創造性あふれる企画をまとめる（創造力・企画力）ことができます。

「実践するために必要な力」

自ら提案をまとめ（主体的に取り組む力）、必要な情報を取捨選択して分析し（情報収集力・分析力）、計画的に実行に移す（計画力・実行力）ことができます。

「共同するために必要な力」

立案した企画を効果的に発表し（プレゼンテーション力）、その重要性を相手に伝え（コミュニケーション力）、ルーツの異なる他者ととともに実現していく（多文化共生力）ことができます。

上記の目標を達成すべく、2年の修業年限の中で、卒業に必要な単位を修得した場合に短期大学士（英語）の学位を与えます。

京都外国語短期大学 カリキュラム・ポリシー (教育課程に関する方針)

キャリア英語科		キャリア英語科では、卒業認定・学位授与のために、総合科目及び専門科目に加えて、教養科目など必要とする科目を体系的に編成しています。
教育内容		<ul style="list-style-type: none"> ① 学修の基礎となる総合科目においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置きます。短期大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行います。 ② 英語教育の必修科目において英語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得すべく科目を配置します。定期的に外部試験を受験し、語学力の習熟度を測ります。また、資格試験対策や4技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じて運用能力を育成します。 ③ 英語が用いられている地域及び自国の歴史、文化、社会、政治、経済を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を育みます。 ④ 複言語運用能力を育成し、多文化理解を深め、複文化的な視点を大切にします。 ⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組む計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と共同するための力、目標を達成する力を育成します。「Graduation Project II」では身につけた内容を英語で発表し、意見を交換する機会を持ちます。
教育方法		<ul style="list-style-type: none"> ① 自律学修を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れます。 ② 必修科目における英語の修得にあたっては、習熟度に応じて学びを進めるため、少人数制クラス編成を維持します。 ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行います。
学修成果 (育成すべき能力)		<ul style="list-style-type: none"> ① 語学力の育成 大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができます。 ② 英語圏に関する専門知識と多文化共生力 英語圏についての専門知識を獲得し、その地域の社会と文化に精通するとともに、自らの社会と文化を知り、世界に向けて発信することができます。 ③ 世界が抱える諸問題の理解 英語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができます。
評価		<p>卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下のとおりに評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績 ② 語学の到達度を測る資格試験のスコア

II

学修する前に 知っておくべきこと



I 本学の概要

II 学修する前に知っておくべきこと

III 京都外国語大学 単位修得要領

外国語学部

国際貢献学部

各種プログラム・制度等

資格課程

■ 学 年

単位の修得状況や休学期間にかかわらず、1年単位で年次が進行します。

■ 学籍異動

諸事情により学籍に異動が生じる場合、アカデミック・アドバイザーと十分相談した上で、本学が指定する期限までに、所定の願出を教育支援課に提出し、手続きをとってください。

ただし、手続き書類には本人および保証人の署名・押印が必要です。必ず保証人の同意を得てください。

休 学

病気、経済的理由、海外渡航またはその他の事情等により休学する場合は、「休学願」を教育支援課に提出してください。休学理由が病気（含傷害）療養による場合は「医師の診断書」、海外に渡航する場合は「海外渡航届」を添付してください。

一度に願出可能な休学期間は最長2学期間で、通算して大学は8学期間（3年次編入生は4学期間、2年次編入生は6学期間）、短大は4学期間を超えることができません。

休学願提出期限

春学期を休学する場合 _____ 4月20日

春学期および秋学期を休学する場合 _____
※ただし、春学期学費が納入済みの場合は5月20日

秋学期を休学する場合 _____ 10月20日

秋学期および翌年の春学期を休学する場合 _____
※ただし、秋学期学費が納入済みの場合は11月20日

休学在籍料

60,000円（1学期）

※休学許可後、所定の期限までに納入しない場合は、休学の許可を取り消し「除籍」としますので、注意してください。

休学した人が引き続き休学を願ひ出る場合は、休学期間終了までに「休学願」を再度提出し、許可を得なければなりません。

注：引き続き休学する場合の休学願提出期限は、下記の復学願提出期限と同じです。

復 学

休学した人が復学する場合は、「復学願」を教育支援課に提出してください。

「復学願」は、休学期間終了前に教育支援課から保証人宛に送付します。

※休学理由が「病気（含傷害）療養」の場合は、通学が可能という旨の「医師の診断書」を添付しなければなりません。

復学願提出期限

春学期末に休学許可期間を終了する場合 8月下旬

秋学期末に休学許可期間を終了する場合 2月下旬

退 学

やむを得ない事情で退学する場合は、学生証を添付して「退学願」を教育支援課に提出してください。

除 籍

大学学則第 42 条および短期大学学則第 36 条の以下のいずれかに該当する人は、除籍となります。

- ①在学年限（休学期間を除く）を超えた人
- ②死亡または長期にわたり行方不明の人
- ③休学期間終了日までに復学、休学または退学の手続きをとらない人
- ④学費納入の義務を怠り、督促および除籍勧告を受けても誠意なく納入しない人
- ⑤単位修得不足および成績不振により成業の見込みがないと認められる人

再入学

退学者（大学学則第 39 条および短期大学学則第 33 条による）または除籍者（大学学則第 42 条第 3 号、第 4 号および短期大学学則第 36 条第 3 号、第 4 号による）が再入学を希望する場合は、退学後または除籍後 4 年以内に「再入学願」を、教育支援課へ提出してください。退学理由が「病氣療養（身体疾患または精神疾患）」の場合は、通学が可能という旨の「医師の診断書」を添付しなければなりません。

再入学後の入学年次は、退学前または除籍前の単位修得状況を考慮して決定し、教育課程については、再入学した年次の学生と同じ教育課程になります。

なお、再入学には面接を課します。本学が必要と認める場合には、面接に加えて試験等を課することがあります。

再入学を希望する学期（4 月または 9 月）の 5 ヶ月前までに、教育支援課に相談してください。

※学則は、[本学ホームページに掲載しています](#)。

■ 学生情報に変更が生じた場合

次の事項に変更が生じた場合は、速やかに所定の変更手続きをしてください。変更手続きをしない場合は、本学からの連絡が遅れたり、郵便物が届かないことがあります。

変更事由	手続き方法	取扱窓口
本人の現住所・電話番号に変更があったとき	「住所（電話番号）変更届」を提出する	学生生活課
保証人の現住所・電話番号に変更があったとき		
本人の氏名等に変更があったとき	「改姓名届」を提出する	
保証人を変更するとき	「保証人変更届」を提出する	
保証人が改姓・改名したとき		

※氏名等に関する異動については、「戸籍抄本」または「住民票」など異動を証明できる書類を添付してください。

学生証 (身分証明)



学生証は京都外国語大学・京都外国語短期大学の学生としての身分を証明するものです。学内外を問わず常に携帯してください。

※学生証の有効期限は、卒業年次の学位記授与式当日までです。

■ 学生証の提示

以下の場合には学生証の提示が必要です。

- 本学教職員から提示の指示があった時
- 定期試験等を受ける時
- 各種証明書等の交付を受ける時
- 通学定期券、学割乗車券を購入する時
- 図書館を利用する時

《注意事項》

- 卒業・退学・除籍時には、学生証を速やかに返却してください。
- 留学・休学・留年等により、学生証の有効期限が切れた後も在籍する場合は、3月下旬以降に学生生活課へ申し出てください。有効期限を延長した学生証と交換します。

■ 学生証の再交付 ※有料 (2,000 円)

学生証を紛失した場合は、「学生証再発行願」に必要事項を記入し、学生生活課で再発行の手続きをしてください。

また、紛失（盗難等）した場合は、悪用される恐れがありますので、必ず最寄りの警察署に届け出てください。

《注意事項》

- 再交付後に旧学生証が見つかった場合は、旧学生証を学生生活課に返却してください。ただし、再交付料金は返金しません。

■ 仮学生証の交付

定期試験および追試験を受ける際に学生証を忘れた場合のみ、学生生活課で「仮学生証」を発行します。「仮学生証」は発行日当日のみ有効ですので、試験終了後に必ず学生生活課へ返却してください。

学費および代理徴収金の納入

学費および代理徴収金は、春学期・秋学期にそれぞれ納入してください。学費等の振込用紙については、春学期分は3月下旬、秋学期分は9月中旬に保証人宛に送付します。以下の期限までに納入しない場合は、学則により除籍となりますので、十分に注意してください。

●学費・その他納付金及び代理徴収金 URL:<https://www.kufs.ac.jp/universitylife/fees.html>

学費納入期限

春学期 4月20日 秋学期 10月20日

※但し、日本学生支援機構給付奨学生(修学支援対象者)の学費納付期限は6月20日(春学期)、及び12月20日(秋学期)です。学費などの振込用紙については、それぞれ前月末頃に保証人宛に送付します。

「多子世帯」で給付奨学金を申し込み、採用された人も、日本学生支援機構給付奨学生(修学支援対象者)に含まれます。

■ 延 納

経済的事情等により期限までに学費を納入できない場合は、学費の延納を願い出ることができます。以下の期間に『学費延納願』を学生生活課へ提出してください。延納が許可された人に対して、あらためて学費等の振込用紙を保証人宛に送付(春学期:5月中旬、秋学期:11月中旬)しますので、期限までに必ず納入してください。

「学費延納願」受付期間

春学期 4月1日 ~ 4月20日

秋学期 9月20日 ~ 10月20日

< 注意 > ●受付期間内に、必ず学生本人が学生証を持参のうえ、学生生活課へ提出してください。(郵送不可)

●「学費延納願」提出後、「休学願」および「退学願」は受理できません。

学費延納申請者納入期限

春学期 6月20日 秋学期 12月20日

■ その他

①学費および代理徴収金の領収書は、銀行・信用金庫の発行する振込金領収書をもって本学発行の領収書に代えますので、大切に保管してください。

②新入生については、入学手続き時に学費および代理徴収金を納入済みのため、4月に納入する必要はありません。

経済的支援制度・教育ローン

本学では、今日の経済環境を鑑み、在学中の経済的な支援制度として民間の提携教育ローンや国の教育ローンを案内しています。詳細については、下記の問い合わせ先へ直接連絡してください。

提携教育ローン

■ オリコ学費サポートプラン

<問い合わせ先>

●学費サポートデスク TEL:0120-517-325 (平日9:30~17:30)

●インターネットによる申込み先: <https://orico.jp/gakusapo>

※申込みの際には、下記の学校コード、申込コードを入力してください。

▶学校コード[在学生] 大学:14460406 短大:14460372 ▶申込コード:(大学・短大共通) 0418

■ しがぎんスピードローンジャストサポート

<問い合わせ先>

●滋賀銀行クレジットセンター TEL:0120-889-201 (9:00~21:00)

●インターネットによる申込み先: <https://mcl.sbk.jp/lp/teikei/>

日本政策金融公庫「国の教育ローン」

<申込に関する相談・問い合わせ先>

●教育ローンコールセンター TEL:0570-008656

●URL: <https://www.jfc.go.jp>

事務室案内 ※2026年4月現在

部 署	取 扱 事 項
教育支援部 ■教育支援課 (1号館 1階) 075-322-6032 kyomu@kufs.ac.jp 事務取扱時間 月～金 9:00～21:30 ± 9:00～17:00	<ul style="list-style-type: none"> ・休学、復学、退学など学籍異動に関する事 ・成績、卒業見込み証明書などに関する事 ・履修登録に関する事 ・大学、短期大学の授業に関する事 ・定期試験に関する事 ・卒業判定に関する事 ・単位認定に関する事 ・コミュニティ通訳者育成プログラムに関する事 ・語学検定試験受験料助成 (アセスメント) に関する事
■資格課程担当 (1号館 1階) 075-322-6764 shikaku@kufs.ac.jp	<ul style="list-style-type: none"> ・資格課程 (教職・司書・博物館学芸員・日本語教員養成等) に関する事
■大学院事務室 (5号館 1階) 075-322-6603 daigakuin@kufs.ac.jp 事務取扱時間 月～土 9:00～17:00	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院の授業に関する事 ・大学院の入学試験に関する事 ・その他、大学院生全般に関する事
学生支援部 ■学生生活課 (1号館 1階) 075-322-6021 dep_stu@kufs.ac.jp 事務取扱時間 月～金 9:00～21:30 ± 9:00～17:00	<ul style="list-style-type: none"> ・学費延納に関する事 ・奨学金 (JASSO 以外) に関する事 ・学生証に関する事 ・通学証明書・学割証などに関する事 ・課外活動に関する事 ・学内拾得物 (忘れ物等) に関する事 ・ボランティアに関する事
■日本学生支援機構 (JASSO) 奨学金担当窓口 (1号館 1階) 075-322-6022 jasso@kufs.ac.jp 事務取扱時間 月～金 10:00～18:00	<ul style="list-style-type: none"> ・日本学生支援機構 (JASSO) 奨学金に関する事 <ul style="list-style-type: none"> - 高等教育における修学支援新制度 (給付奨学金・授業料減免 [多子世帯]) - 貸与奨学金 (第一種・第二種)
■京都外大リーダーズ・スクール (2号館 4階) ■健康支援課 <ul style="list-style-type: none"> ・学生相談室 (9号館 5階) 075-322-6025 開室時間 月～金 10:30～18:30 ・障がい学生支援室 (9号館 5階) 075-925-6839 shien@kufs.ac.jp 開室時間 月～金 10:30～18:30 ・保健室 (3号館 1階) 075-322-6024 hoken@kufs.ac.jp 開室時間 月～金 9:00～21:30 ± 9:00～17:00 	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーズ・スクールに関する事 ・心理相談、学生生活における相談に関する事 ・学校医による健康相談に関する事 ・修学上の合理的配慮に関する事 ・学生サポーターに関する事 ・応急処置、健康管理、感染症に関する事 ・健康診断、健康診断証明書発行に関する事 ・学生教育研究災害傷害保険に関する事 ・多様な性に関する相談、対応に関する事
キャリア支援部 ■キャリア支援課 (4号館 2階) 075-322-6017 shushoku@kufs.ac.jp 事務取扱時間 月～金 9:00～18:30 ± 9:00～17:00	<ul style="list-style-type: none"> ・進路、就職に関する事 ・企業セミナー、ガイダンス、就職対策・資格取得講座の実施に関する事 ・キャリア教育プログラム (インターンシップ) に関する事 ・就職に必要な各種証明書に関する事
国際部 ■国際・留学生課 (4号館 2階) 075-322-6043 oips@kufs.ac.jp 事務取扱時間 月～金 9:00～18:30 ± 9:00～17:00	<ul style="list-style-type: none"> ・海外留学プログラム (短期・長期) に関する事 ・国際交流に関する事 ・外国人留学生支援に関する事 ・留学生別科に関する事 ・コミュニティ・エンゲージメント (国際貢献学部) に関する事
ランゲージセンター ■事務室 (4号館 3階) 075-925-5369 i-lang@kufs.ac.jp 事務取扱時間 月～金 9:00～18:30 ± 9:00～17:00 ■外国語自律学習支援室 NINJA (4号館 1階) 075-322-6746 i-lang@kufs.ac.jp 受付時間 月～金 10:00～18:00	<ul style="list-style-type: none"> ・短期集中語学講座 (課外) に関する事 ・課外学習支援に関する事 ・語学検定試験対策講座 (課外) に関する事 ・語学検定試験受験料の助成 (後援会) に関する事 ・NINJA の利用に関する事 ・LinguaLink (翻訳・通訳人材バンク) に関する事
総合企画部 ■情報システム課 (7号館 3階) 075-322-6210 ict@kufs.ac.jp 事務取扱時間 月～金 9:00～20:00 ± 9:00～17:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーザー ID、パスワード、eメールに関する事 ・学内のコンピューターの利用に関する事 ・MAICO の利用に関する事 ・ICT 関連機器備品に関する事
入試広報部 ■入試広報課 (8号館 1階) 075-322-6035 nyushi@kufs.ac.jp 事務取扱時間 月～土 9:00～17:00	<ul style="list-style-type: none"> ・各種入学試験に関する事 ・大学、短期大学のホームページに関する事 ・大学、短期大学案内パンフレットの編集および発行に関する事 ・入試および大学、学園広報に関する事
総務部 ■総務課 (8号館地階) 075-322-6012 somu@kufs.ac.jp 事務取扱時間 月～金 9:00～18:30 ± 9:00～17:00 ■施設課 (8号館地階) 075-322-6047 shisetsu@kufs.ac.jp 事務取扱時間 月～金 9:00～18:30 ± 9:00～17:00	<ul style="list-style-type: none"> ・入学式・学位記授与式に関する事 ・学部・学科主催行事の事務に関する事 ・後援会に関する事 ・施設利用に伴う空調等に関する事 ・施設利用に伴う備品等の貸与に関する事
人権教育啓発室 ■事務室 (9号館 7階) 075-322-6045 jinken@kufs.ac.jp 事務取扱時間 月～金 9:00～17:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ハラスメント、人権等の相談に関する事 ・人権教育啓発のための講演会やイベントに関する事
財務部 ■経理課 (1号館 2階) 075-322-6005 keiri@kufs.ac.jp 事務取扱時間 月～土 9:00～17:00	<ul style="list-style-type: none"> ・学費納入に関する事
付属図書館 ■本館 (7号館 1階) 075-322-6030 kufslib@kufs.ac.jp 開館時間 月～金 9:00～21:00 ± 9:00～17:00 ■分館 [アジア関係図書館] (9号館 2階) 075-322-6214 開館時間 月～金 10:00～18:00	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用に関する事 ・各種ガイダンスの申込に関する事 ・図書館開催イベントに関する事

* 事務取扱および開室・開館時間は「授業期間中」の取扱時間です。
休暇中など臨時に変更する場合は本学ホームページ等でお知らせします。

* 日曜日・祝日等の休業日、大学行事 (入試等) 実施日および休暇中の一定期間 (別途告知) は、事務の取り扱いを行いません。

各種願・届

	手続書類	摘要	取扱窓口
授業・試験関係	履修登録願（追加・削除・変更）	履修登録の内容に不備がある場合など	教育支援課
	重複科目受験願（定期試験用）	定期試験開始日の前日までに提出	
	追試験受験願	定期試験開始日から定期試験終了日の翌日（翌日が日曜日・祝日の場合は翌々日）の午後 5 時まで	
	各種単位認定願	所定の期間に提出	
	成績調査願（不合格科目用）	所定の期間に提出	
学籍関係	休学願	・ 所定の期間に提出 ・ アカデミック・アドバイザーおよび保証人と相談のうえ、所定の願出用紙を提出（19 ページの「学籍異動」参照）	教育支援課
	復学願		
	退学願		
	再入学願	退学後または除籍後 4 年以内に提出	
	海外渡航届	海外渡航に伴う休学の場合に提出	
諸手続関係	住所（電話番号）変更届	変更後速やかに提出 （20 ページの「学生情報に変更が生じた場合」参照）	学生生活課
	改姓名届		
	保証人変更届		
	学生証再発行願	翌々業務日発行（手数料 2,000 円）	
	在籍確認兼通学証明	通学定期券の購入の場合	
	学費延納願	（22 ページの「学費および代理徴収金の納入」参照）	
	海外渡航届	休学を伴わない場合	保健室
	学生教育研究災害保険	発生後速やかに報告	
就職・進路関係	進路希望・就職希望登録票	初回 KUFS Web Career 登録時に希望進路を登録	キャリア支援課
	進路決定届	決定後、KUFS Web Career に登録	
	就職活動報告書	決定後、KUFS Web Career に登録	

証明書発行サービス

証明書は、以下のとおり「証明書自動発行機」、「コンビニエンスストア」、「窓口」で発行できます。

■ 証明書自動発行機

場 所：1号館1階

利用可能日・時間：授業期間中：平日 9:00～21:20、土曜日 9:00～17:00

授業期間外および休講日：9:00～17:00

※日曜日・祝日等の休業日、本学の入学試験実施日および休暇中の一定期間（別途告知）は、利用できません。

注 意 事 項：・ 証明書の発行には、学籍番号およびパスワードを入力する必要があります。

・ 原則として、誤って購入した場合であっても、発行手数料は返金しません。

・ 「厳封」が必要な場合は、学生生活課または教育支援課に申し出てください。



種 類	発行手数料(1通)
在学証明書（日本語・英語）	250 円
在籍証明書（日本語・英語）	
成績証明書（日本語・英語）	
単位修得見込証明書（日本語）	

種 類	発行手数料(1通)
卒業見込・成績証明書（日本語）	100 円
卒業見込証明書（日本語・英語）	
健康診断証明書（日本語）	
学割証（学生旅客運賃割引証）	無料

※「卒業見込・成績証明書」および「卒業見込証明書」は、卒業年次生で当該年度（または学期）に卒業要件を満たす見込みのある人に発行します。

※成績証明書には、履修したすべての科目（不合格科目を含む。ただし、所定の期間に履修登録の取消しを行った科目は除く）の成績を記載します。

■ コンビニエンスストア

場 所：日本国内のコンビニエンスストア（セブン・イレブン、ファミリーマート、ローソン）のマルチコピー機設置店舗

利用可能日・時間：24 時間 365 日（各種商用サービスを含めたメンテナンス時間や本学の運用において停止する期間を除く）

支 払 方 法：・ クレジットカード決済等

・ コンビニ現金払い

注 意 事 項：・ 科目等履修生、単位互換履修生、研究生などの非正規生の証明書は発行できません。

・ 誤って申請・発行した場合であっても、発行手数料は返金しません。

※発行可能な証明書や料金などの詳細については、本学ホームページを参照してください。

※上記の内容については変更する場合があります。（2026 年 4 月 1 日現在）

■ 窓口

下表の証明書等については、所定の証明書交付願に必要な発行手数料分の証紙を貼り、取扱窓口に申し込んでください。証紙は、1号館1階の販売機で購入してください。発行日数等の詳細は、取扱窓口にお問い合わせください。

種 類	発行手数料(1通)	取 扱 窓 口
教育職員免許状取得見込証明書（日本語）	250 円	教育支援課
学校図書館司書教諭課程修了見込証明書（日本語）		
図書館司書課程修了見込証明書（日本語）		
博物館学芸員課程修了見込証明書（日本語）		
調査書（進学等に必要な場合）（日本語）		
推薦状（留学等に必要な場合）（日本語・英語）	250 円	キャリア支援課
学長推薦状（就職等に必要な場合）		
推薦状（就職等に必要な場合）（人物）証明書・調査書		

※上記の内容については変更する場合があります。（2026 年 4 月 1 日現在）

※上記以外の証明書については、取扱窓口で相談してください。

通学定期券

通学定期券は、現住所の最寄駅から大学の最寄駅までの、「通学を目的」とする「最短経路」に限り購入することができます。通学定期券の購入方法は、交通機関により多少異なりますので、以下を参照してください。

1. 直接、鉄道会社等の定期券発行窓口で、所定の申込手続きを行い、『在籍確認兼通学証明』を貼付した学生証を提示して申し込んでください。
『在籍確認兼通学証明』は学生生活課で配布します。
2. 企業等に勤務しながら大学に通う人が、居所・企業・大学を結ぶ定期券を購入する場合は、『通勤・通学定期券購入申込書』に勤務先および大学の証明印が必要です。
3. 交通機関によっては、『指定様式の通学証明書』を必要とする場合がありますので、あらかじめ利用する交通機関の定期券発売窓口で確認してください。指定様式への証明は、申込日の翌業務日発行となります。
4. 通学区間の変更は、現住所を変更した場合と、ほかの交通機関に変更する場合のみです。

■ 在籍確認兼通学証明

必要事項を記入し、学生証の裏面に貼付してください。

通学区間は、現住所から大学までの最短経路（現住所および大学の最寄駅・停留所）を記入してください。

在籍確認兼通学証明		卒業予定年月日 20●●年3月31日まで有効	
氏名			年齢 (歳)
現住所			
交通機関	サ	区	部
発行人	期	間	発 行 駅
1	1	1	1
2	2	2	2

《禁止事項》

通学定期券の購入および使用に際して不正行為があった場合は、記名本人に対し追徴金（普通運賃の3倍）が課せられますので、不正行為は絶対にしないでください。

■ 実習用通学定期券

教育実習、インターンシップ等单位取得を目的として学外へ通う場合は、実習用通学証明書で、実習用通学定期券を購入することができます。

実習用通学証明書は、発行に時間がかかりますので、早めに実習担当窓口まで問い合わせてください。

学校学生生徒旅客運賃割引証 (学割証)

学校学生生徒旅客運賃割引証（以下「学割証」と称す。）は、修学上の経済的負担を軽減し、学校教育の振興に寄与することを目的として実施されている制度です。

主にJR各社を利用する場合、運賃計算に使用した片道営業距離が100kmを超える場合、片道普通乗車券の運賃（特急料金等は対象外）が2割引きになります。学割証1枚につき、片道分もしくは往復分の乗車券を購入できます。有効期限は発行後3ヵ月です。

その他、一部の私鉄、航空、船舶でも使用できる場合がありますので、詳しくは交通機関に直接お問い合わせください。

なお、万一不正に使用した場合は、使用者は追徴金を課せられ、大学は学割証の発行ができなくなりますので、使用にあたっては十分注意してください。

※学割証は、証明書自動発行機で発行します。

■ 学生団体割引乗車券

学生団体割引乗車券は、本学学生8名以上を本学教職員が引率し、ゼミ合宿や課外活動などでJRを利用する場合、普通乗車券の運賃（特急料金は対象外）が5割引きとなります。

駅窓口（みどりの窓口）または旅行代理店で、「団体旅行申込書」を受け取り、必要事項を記入の上、証明書交付願に添付して、学生生活課に提出してください。駅窓口（みどりの窓口）または旅行代理店での受付は、出発日の9ヵ月前から14日前までで、本学での団体旅行割引の証明書は、翌業務日発行となります。

アカデミック・アドバイザー制度

本学には、アカデミック・アドバイザーの制度があります。この制度により、教員を身近に感じ、気軽に相談できる存在であることを知ってもらうことで、修学上の疑問や学生生活の中で生じる様々な問題について質問や相談に応じられるようにしています。

特に、1年次生は大学生活の仲間入りをする大切な出発点、また2年次生は1年次に修得した学びの基礎を大学生活後半に向けてどのように展開していくかという重要な時期にあたります。このような大切な時期に、問題を一人で抱え込んだり未解決のままにしないよう、良き相談相手となり、大学生活が有意義になるよう手助けをします。

大学は、原則として、1・2年次生は必修科目を担当する専任教員、3・4年次生はゼミナール科目を担当する専任教員、短期大学は、原則として、専門科目(選択必修)を担当する短期大学の専任教員がアカデミック・アドバイザーを務めます。

上記アドバイザーを含め専任教員は、学生からの相談等に応じる「オフィスアワー」を設けていますので、積極的に研究室を訪れてください。オフィスアワーは、Kyoto Gaidai UNIPAの「授業・履修」の中にある「教員スケジュール」で確認できます。

なお、非常勤教員の授業に関する質問は、授業内はもちろんのこと、授業前後に行うか Kyoto Gaidai UNIPAの「クラスプロフィール」を活用してください。メールアドレスは、Kyoto Gaidai UNIPAのトップメニュー「リンク>非常勤講師メールアドレス一覧」で公開しています。

教科書の購入

授業で使用する教科書については、授業開始までに以下の書籍部で購入し、授業に備えてください。

なお、教科書の販売期間および購入方法については、別途、本学ホームページ等でお知らせします。

購入場所	書籍部(丸善) 11号館1階 TEL 075-322-5339
営業時間	(月～金曜日) 9:00～18:00 ※ただし、4月の授業開始日前日までは10:00～15:00 ※行事等により営業時間の変更および臨時休業を行う場合があります。 (土曜日) 10:00～15:00

購入時の注意事項	
混雑時(特に授業開始日前後)には、入店を制限することがあります。混雑を避けて早めに購入してください。	
落丁・乱丁などの不良品の場合を除き、教科書の返品・交換は一切受けられません。十分に検討した上で購入してください。	
品切れの場合、取り寄せとなるため、商品入荷まで2～3週間かかります。試験直前に取寄せの申込みをしても試験に間に合わないことがあります。	
年間をとおして、全商品(図書券・検定教科書・特注商品を除く)を10%OFF(オンライン決済の場合は7%OFF)にて販売しております。店頭でクレジットカードは利用できません。	

※教科書を購入することなく他人から電子媒体(写真データ等)として入手し使用するの、著作権法に抵触しますので、絶対にしないでください。

ポータルシステム「Kyoto Gaidai UNIPA」

Kyoto Gaidai UNIPA は、大学・短期大学における学修や学生生活に関するさまざまな情報(本学からのお知らせ、休講情報、教室変更等)を、コンピューターやスマートフォン、タブレット端末を使って、学内だけでなく学外からも確認できるポータルシステムです。各機能の詳細は、Kyoto Gaidai UNIPA 内の学生操作マニュアルを参照してください。

なお、Kyoto Gaidai UNIPA 内の情報(以下の★印)は、保証人も閲覧できるようになっています。

Kyoto Gaidai UNIPA でできること(一部抜粋)

以下の内容は機能の一部です。

【お知らせ】

- ・本学、教員からのお知らせの確認(掲示板)★

【個人情報に関すること】

- ・健康診断結果の照会
- ・学籍情報の照会★



【授業 / 履修 / 成績 / 進級・卒業判定に関すること】

- ・履修登録・取消(履修登録・取消期間中に限る。)
- ・抽選科目の申請(抽選科目申請期間中に限る。)
- ・シラバスの検索と照会★
- ・学生時間割表の確認★
- ・休講・補講・教室変更の確認
- ・クラスプロフィール
 - ◇授業資料の参照および確認(授業資料)
 - ◇課題の提出、課題の評価およびフィードバックの確認(課題提出)
 - ◇テストの解答、テスト結果の確認およびフィードバックの確認(テスト機能)
 - ◇授業担当教員への質問(授業 Q&A 登録)
 - ◇プロジェクトの課題提出、ディスカッションへの参加(プロジェクト)
 - ◇授業担当教員からのアンケートの回答(クリッカー) など
- ・出席の登録
- ・授業出欠状況の確認★
- ・学修目標・学修振り返り+学生アンケートの入力(マイステップ登録)
- ・授業アンケートの回答(実施期間中に限る。)
- ・専門科目(選択)等の履修基準申請(Web 申請 / 申請期間中に限る。)
- ・卒業選択の提出(マイステップ登録 / 該当者および提出期間中に限る。)
- ・ゼミ申請システムへのログイン(該当者および申請期間中に限る。)
- ・成績の確認★
- ・卒業判定結果の確認★
- ・学修ポートフォリオ
- ・教員スケジュールの確認

【資格課程に関すること】

- ・資格取得結果の確認

【その他】

- ・京都外大 Gmail へのログイン
- ・非常勤講師メールアドレス一覧
- ・各種申請書
- ・MAICO 個室予約システムへのログイン
- ・留学月間報告書の閲覧
- ・語学検定試験受験料助成金申請システムへのログイン
- ・NINJA 予約システムへのログイン

本学からのお知らせ

連絡および通知は、特別な場合を除き、本学ホームページまたはポータルシステム「Kyoto Gaidai UNIPA」で行いますので、随時確認をしてください。

なお、確認を怠り不利益や不都合が生じた場合は、自己責任となりますので、見落としのないよう注意してください。

< UNIPA >

<https://unipa.kufs.ac.jp/uprx/>



生成AI利用に関するガイドライン



1. ガイドラインの骨子

京都外国語大学・京都外国語短期大学は、条件付きで生成AIを利用することを認めます。学生は生成AIの特性を熟知し、生成AIが作成した文章を評価できるような文章力を身につけるよう努めてください。

2. 生成 AI をめぐる現況

「生成AI」とは、あらかじめ学習したデータをもとに、画像、文章、音楽などを作成する人工知能のことを指します。ユーザーがAIに対して、プロンプトと呼ばれる命令や指令を出すと、生成AIは答えを出力します。プロンプトに条件を加筆すれば、その条件に合った答えを出力します。

近年、ChatGPTをはじめとする生成AIは、私たちの社会に深く浸透するようになりました。生成AIは大きな可能性を秘めています。例えば東京都が発表したガイドラインには「本ガイドラインで取り上げる文章生成AIについても、これを適切かつ効果的に活用することで、これまでにない形での生産性の向上や、社会課題の解決につながる可能性を秘めており、AI活用に向けた検討や取組を進めていく必要があります。」¹⁾という文言があります。学生のみならず、社会に出ればさまざまな場面で生成AIを使いこなすことが求められるでしょう。

3. 「生成 AI を使いこなす」とは？

では、「生成AIを使いこなす」とはということなのでしょうか。ただ、ChatGPTを使って文章を書ければ、それでいいのでしょうか。「生成AIを使いこなす」ためには、次の2つが不可欠です。1) 学生が生成AIの特性を熟知すること、2) 学生が生成AIの作成した文章を評価できるような文章力を身につけることです。本ガイドラインでは、もっとも使う頻度が高いと考えられるChatGPTを主にみていきます。

1) 生成 AI の特性を熟知すること

ChatGPTは大量のデータを学習しているため、プロンプトに対応した文章を瞬時に作成できます。文法の間違いを正し、より分かりやすい文章にする校閲力にも長けています。またプロンプトを出した人とは異なった観点からのアイデアを提案することもあります。このような利点がある一方で、以下のような問題点が挙げられます。

① 正確性の制限

ChatGPTは常に最新のデータから導いた答えを出力するわけではありません。今後データがアップデートされていくとしても、データの学習時期と、それを反映した利用時期にはタイムラグが生じるでしょう。さらに、ChatGPTは学習していないデータが必要とされるプロンプトを入力すると、正しくない答えを、あたかも本当のように返します（幻覚、hallucinationと言います）。さらに、ChatGPTは出現頻度の高い情報を選択します。出現頻度が高い情報が必ずしも正しい情報とは言えないことにも留意する必要があります。

② 抽象的な文章

ChatGPTは「体験したことを書くのには弱い」との指摘があります。体験をした本人でなければ、具体的な内容、体験をする前と後での自身の変容を知ることとはできないからです。実際の経験をしていないChatGPTが提示する文章は、書き手の意志や感情など「こころ」の部分が反映されず、抽象的でありきたりな内容になってしまいます。

③ 個人情報の漏洩

ChatGPTは個人情報や機密情報もデータとして蓄積し、第三者への回答に利用する可能性があります。実際に、電子機器で有名なサムスン (Samsung Electronics Co., Ltd) では、社員がChatGPTに機密性の高い社内情報を入力した結果、その情報が漏洩したことが報告されています。

④ 偏見や倫理観の偏り

ChatGPTは、インターネットの利便性などの影響から、欧米の見解に偏っているとの報告があります²⁾。ChatGPTが学習したデータの偏りが、結果として差別的な意見を生むこともあります。つまり、ChatGPTが作成した文章には客観性・公平性が担保されていません。

⑤ 著作権の侵害

ChatGPTが作成する文章には、情報の引用元が明記されません。その文章を論文やレポートで用いることは「剽窃」にあたる可能性があります。さらに、情報の収集過程で、著作権を侵害している可能性もあります。実際に、AIが生成した画像に対して、著作権の侵害だと指摘する事例が数多く報告されています。

⑥ 犯罪の誘発

ChatGPTは犯罪につながるような情報も提供する可能性があります。ChatGPTを用いたフィッシング詐欺やサイバー犯罪が技術的には起こり得ます。

⑦ 依存性のリスク

ChatGPTをはじめとする対話型AIは、話し相手に対して批判的なことはめったに言いません。相槌を打ったり、相談に乗ったりと、話し相手がして欲しいと思う対応をすることが多いです。その結果、精神的に対話型AIに依存してしまう可能性があります。

生成AIを利用する際には、以上のような特性に十分留意しましょう。

2) 生成 AI が作成した文章を評価できるような文章力を身につけること

生成AIの登場後、「これからの人間に求められる能力は文章を書く能力ではなく、書かれたものを評価する能力である」という言説がよくみられるようになりました。確かにそうかもしれません。しかし、生成AIが作成した文章を評価するためには、評価できるだけの文章力、判断力が必要です。つまり、「生成AIを使いこなす」ためには、生成AIと同等かそれ以上の文章力を、身につける必要があるのです。そのためには、日頃から論理的な文章（新聞、書籍など）を読む練習も必要でしょう。

また、生成AIに文章を作成させるには、「どのような内容を、誰に対して、誰が書いたか」がわかるようなプロンプトを設定する必要があります。プロンプトがあいまいだと、想定していたような文章は返ってきません。適切なプロンプトを作成する能力も必要です。

4. 本学の生成 AI 利用のルール

以上を踏まえて、本学では生成AIについて以下のような使い方に限って、認めることとしました。

① 語学の自律的学習

生成AIは、外国語の自律的学習に活用できます。例えば、音声を使用した会話練習、単語帳やTOEIC・検定試験の練習問題などの自主教材の作成などが考えられます。担当の外国語教員と相談しながら、生成AIを適切に利用して、外国語運用力の向上に努めてください。

②自身が書いた文章の推敲

文法の間違いを修正する、より分かりやすい表現に直すなど、自身が書いた文章をより良いものにする際に、ChatGPTを一助とすることを認めます。

③自分以外の考え方を知る

みなさんが本学で学ぶ内容の中には、研究者によって見解が異なる問題や、正解のない問題があります。自分とは違う意見を知るためにChatGPTは有用です。

④プロンプトを書く練習

先述したように、自分が知りたい答えをChatGPTに書かせるためには、適切なプロンプトを書く必要があります。プロンプトには、キーワードの選定や具体性が求められます。プロンプトを書くことで、自分が書きたい内容をより深く考えることにもなりますし、Webにおける検索でヒットしやすいキーワードを見つける訓練にもなります。

授業の特性によっては、上記のルールが当てはまらない場合もあります。教員の判断により、生成AIの利用が認められない授業もあれば、逆に上記以外の方法で生成AIの利用を認める場合もあるでしょう。シラバスをよく確認するとともに、授業での教員の指示に従ってください。

5. 京都外国語大学・京都外国語短期大学での学び

本学の建学の精神は「PAX MUNDI PER LINGUAS — 言語を通して世界の平和を —」です。この建学の精神に基づく本学の教育理念は、「国際社会の平和に貢献し、次世代を担うことのできる『人間力』豊かなリーダーの養成」です。

この建学の精神と、教育理念の意味をもう一度考えてみてほしいと思います。ChatGPTが導き出した「言語」で、果たして世界の平和は実現するのでしょうか。ChatGPTに考えることをゆだねた人間は「人間力」豊かなリーダーになれるのでしょうか。

私たちはこの文章を、ChatGPTの力を借りずに書きました。校閲もかけていません。私たちが渾身の力で書いた文章を、学生のみなさんに公表する前に、ChatGPTの糧にしくなかつたからです。私たちの言葉が、学生のみなさんにどのように伝わったかはわかりません。ですが、伝えたいことを精一杯言葉にする努力なくして、「PAX MUNDI PER LINGUAS」を実現することは難しいのではないのでしょうか。京都外国語大学・京都外国語短期大学の学生のみなさんには、「自分の力で言葉を紡ぐ」ことの大切さや大変さ、その言葉が伝わった時の喜びを知ってもらいたい、その経験を通して、世界の平和に貢献する人間になってもらいたいと私たちは切に願っています。

*本ガイドラインは今後の生成AIの進化や社会の変容によってアップデートしていく予定です。

【引用サイト】

- 1) 東京都デジタルサービス局 「文章生成 AI 利活用ガイドライン」
https://www.digitalservice.metro.tokyo.lg.jp/ict/pdf/ai_guideline.pdf
- 2) Open AI Educator FAQ
<https://help.openai.com/en/articles/8313359-is-chatgpt-biased>

【参考サイト】

- 1) 明治大学 ChatGPT をはじめとする生成系 AI の利用について
https://www.meiji.ac.jp/gakucho/message/20230517_generative-ai.html
- 2) 新潟医療福祉大学 ChatGPT 等の生成 AI 利用に関する本学の方針と留意事項について
<https://www.nuhw.ac.jp/n/topics/14982/>
- 3) KUFs ICT サポートページ
https://sites.google.com/kufs.ac.jp/it-suportinfo/kufs_it

京都外国語大学・京都外国語短期大学 試験等における不正行為の処分基準

1 定期試験、平常試験（オンライン試験、小テスト、オーラルテスト及びレポート等を含む）、追試験における不正行為

不正行為の内容	処分基準
① 計画性が低い、または偶発的な不正行為 <ul style="list-style-type: none"> a. 他の受験者の答案の覗き見 b. 問題・答案用紙配布後の話し合い c. 答案を他の受験者に見せる、口伝える d. 使用可の資料、携帯電話、その他の電子機器等の貸借 e. 不審な挙動を注意した監督者の指示に従わない 	<ul style="list-style-type: none"> ○譴責または謹慎1カ月未満及び ○当該科目の成績評価を失格（F 評価） ※春学期に行った不正行為により成績評価が失格となった通年科目の秋学期の受講は、妨げない。
② 計画性が高い、または意図的な不正行為 <ul style="list-style-type: none"> a. 資料持込み不可の試験でカンニングペーパー使用 b. 机上等への書き込み c. 資料持込み不可の試験でテキスト・ノート等の閲覧 d. 資料等使用可の試験で許可されたもの以外の資料、携帯電話、その他の電子機器等の使用 e. 許可されていない機器（携帯電話・その他の電子機器等）の持込み、使用 f. 答案用紙の交換（行為の内容により③の受験依頼に該当） g. 組織的なカンニング行為 	<ul style="list-style-type: none"> ○停学1カ月以上3カ月未満及び ○当該科目の成績評価を失格（F 評価） ※春学期に行った不正行為により成績評価が失格となった通年科目の秋学期の受講は、妨げない。
③ 受験依頼（替え玉受験） <ul style="list-style-type: none"> a. 依頼された他人が本人になりすまして受験（本人の学生証使用） b. 答案提出直前に依頼した学生の氏名に書き換えて提出 	<ul style="list-style-type: none"> ○停学3カ月以上6カ月以下または無期停学及び ○当該学期全受講科目及び通年の全受講科目の成績評価を失格（F 評価） ※春学期に行った不正行為により成績評価が失格となった通年科目の秋学期の受講は、妨げない。

※上記③に関し、依頼を受けて受験行為を行った者が本学の学生の場合は、学則上の処分の対象となりうる。

2 論文（卒業論文・卒業研究・修士論文等を含む）、レポート、作品等の成績評価に関わる提出課題における不正行為

不正行為の内容	処分基準
① 剽窃（ひょうせつ）行為 <ul style="list-style-type: none"> a. 他人の論文、出版物、ウェブサイト、作品等から、適切な引用処理を行わずに限定的に流用した 	<ul style="list-style-type: none"> ○譴責または謹慎1カ月未満
② 悪質な剽窃（ひょうせつ）行為 <ul style="list-style-type: none"> a. 他人の論文、出版物、ウェブサイト、作品等から、適切な引用処理を行わずに流用した b. 生成 AI で作成し提出した c. 他人と示し合わせ、他人とほぼ同一の内容で課題を作成し提出した d. 他人が作成した論文等を、自己の氏名に書き換えて提出した e. 剽窃禁止の指導を受けたにもかかわらず繰り返し剽窃行為を行った 	<ul style="list-style-type: none"> ○停学1カ月以上3カ月未満及び ○当該科目の成績評価を失格（F 評価） ※春学期に行った不正行為により成績評価が失格となった通年科目の秋学期の受講は、妨げない。
③ 代筆依頼 <ul style="list-style-type: none"> a. 論文・レポート等の作成を代行する企業・個人等の他者に作成を請け負わせ、納品物を自己が作成したものとして提出した 	<ul style="list-style-type: none"> ○停学3カ月以上6カ月以下及び ○当該科目の成績評価を失格（F 評価） ※春学期に行った不正行為により成績評価が失格となった通年科目の秋学期の受講は、妨げない。
④ その他不正行為 <ul style="list-style-type: none"> a. 成績評価等に関わる提出課題等を偽造、データの捏造、改竄する行為 	<ul style="list-style-type: none"> ○停学1カ月以上3カ月未満及び ○当該科目の成績評価を失格（F 評価） ※春学期に行った不正行為により成績評価が失格となった通年科目の秋学期の受講は、妨げない。

※上記③に関し、依頼を受けて代筆行為を行った者も学則上の処分の対象となりうる。

3 授業・試験等の出席に関わる不正行為

不正行為の内容	処分基準
① 代返行為・虚偽申告 a. 他人に依頼し自己の出席報告を行わせた b. 他人から依頼を受け他人の出席報告を行った c. 出席報告書の偽造により提出した d. 欠席理由に係る証明書類（診断書等）を偽造または虚偽の内容により提出した ※出席報告には、口頭によるもの、紙面によるもの、学生証の情報を読み取るもの、各種システムを介して行うもの、いずれも含む。	○譴責、謹慎 1 カ月未満または 1 カ月の停学及び ○当該授業回の欠席

4 成績調査に関わる不正行為

不正行為の内容	処分基準
a. 成績調査における虚偽の申告（偽造、捏造、改竄された画像・データ等を含む）	○停学 1 カ月以上 3 カ月未満及び ○当該科目の成績評価を失格（F 評価） ※春学期に行った不正行為により成績評価が失格となった通年科目の秋学期の受講は、妨げない。

5 不正行為を複数回行った場合

過去、不正行為により処分を受けたことがある者が、在学中に再び前記 1～4 のいずれかの不正行為を行った場合には、処分を加重し、基準より重い処分を行うことがある。

6 本基準の適用日

令和 8 年 4 月 1 日から

以 上

マナー・モラル

個人情報の保護

本学では、『個人情報の保護に関する法律』に基づき、外部からの学生に関する情報の問い合わせにはお応えできません。

呼び出し・伝言

父母や友人からの電話等による呼び出しや伝言の依頼は受け付けません。

盗難

正課中や課外活動中において、貴重品等の盗難の連絡を受けることがあります。

盗難防止の為、学内を移動する際（トイレ等）には、手荷物を含め財布および貴重品を必ず携行するよう自己管理に努めてください。

万一、盗難が生じた場合は、最寄の警察に連絡し盗難届を提出してください。

郵便物

学生個人宛の郵便物は、受け付けません。

ロッカー

第1分館・第2分館のロッカーは、体育の授業・課外活動時に利用するもので、個人用のロッカーではありません。使用後は、その都度荷物等を持ち帰り、ほかの学生が使用できるようにしてください。

なお、不正使用している場合は、直ちに撤去します。

拾得物・遺失物

学内での落し物や忘れ物は、学生生活課に届けられ、一定期間（約2ヶ月間）保管しています。保管期間が過ぎると処分しますので、落し物・忘れ物をした時は、速やかに確認に来てください。

なお、引き取りの際は、学生証の提示が必要です。

スマートフォン・携帯電話

授業中のスマートフォン・携帯電話の使用は禁止しています。教員の指示がある場合（Kyoto Gaidai UNIPA の「出席登録」へログインする等）以外はスマートフォン・携帯電話の電源を切るかマナーモードに切り替える等しかるべき措置を講じたうえで、使用しないでください。図書館や自習室、保健室など教室以外の場所でも電源を切るかマナーモードに切り替えてください。

また、学内・学外を問わず「歩きスマホ」および自転車運転中の使用は大変危険ですので、絶対にしないでください。
なお、学内の施設で充電することは禁止です。

ゴミの分別

京都市では、更なるゴミの減量と分別・リサイクルに取り組むため、ゴミの半減をめざす「しまつのこころ条例」を施行し、リサイクルできる紙類（雑誌）をはじめとするゴミの分別が義務化されています。

キャンパス内でも、分別回収ゴミ箱を設置していますので、ルールを守り、ゴミを分別して捨ててください。

インターネットを通じたコミュニケーション(SNS等)

LINE・X（旧 Twitter）・Instagram 等の SNS は、コミュニケーション手段の多様化する現代において大変有益なサービスです。これらのサービスを利用して情報発信が容易になる一方で、情報の「受け手」への配慮を欠くと、思いも寄らない事態を招きます。軽い気持ちでの投稿が炎上や訴訟に発展し、「デジタルタトゥー」として将来に影響を及ぼすケースも少なくありません。

交流や連絡など利用目的を問わず、自分の意図が相手に正しく伝わるか、誰かを傷つけたり社会倫理に反したりしていないか、発信前には「セルフチェック」を徹底してください。

利用する自分自身や誰かの未来を壊すことがないように、学生の皆さんの責任ある行動を強く求めます。

通学

大学や駅周辺の通学路は公道です。

大声で騒いだり、横ならびになって通行すると近隣の住民や一般の人の迷惑になりますので、絶対にしないでください。

自転車やバイクで通学する場合は、歩行者に十分注意して走行してください。



電車やバスでのマナー

電車・バスの車内や多くの人が行き交う駅構内では、「友だちと大声で話す」「大きな音で音楽を聴く」「携帯電話で通話する」「大きな荷物を置いて座席を独占する」「足を広げて座る」といった身勝手な行為は、周囲の利用者にとって迷惑であり、大変不愉快なものです。特に混雑時のホームでスマートフォンを使いながら歩いたり、友だちとふざけ合ったりするのは、迷惑だけでなく電車と接触するなど大事故につながる場合もあるので絶対にやめましょう。電車を待つときは白線の内側できちんと列をつくり、高齢者や妊娠中の人などには率先して席を譲るなど、常に大学生としての自覚を持ち、社会のルールとマナーを守ってください。

自転車・バイクのマナー

①必ず本学指定の駐輪場に停めてください。指定場所以外に駐輪したり、長期間放置すると、大学側で撤去する場合があります。

※歩道・路上・店舗の長時間駐輪はもとより、大学周辺の商業施設等の駐輪場に目的外で駐輪することは近隣住民や施設管理者に大変迷惑になりますので、絶対にしないでください。

②鍵のかけ忘れに注意し、二重ロックにするなど各自で盗難防止に努めてください。

※不注意による盗難等に対し、本学は一切責任を負いません。

③交通ルールを遵守し、安全運転に努めてください。

※バイクに乗るときは、ヘルメットを着用し、万が一に備えて任意保険に加入してください。

※京都府では自転車保険の加入が義務化されていますので、自転車を利用する人は、必ず加入してください。

◆2026年4月1日より自転車の違反に交通反則通告制度「青切符」が導入されました◆

例) 携帯電話使用等(保持) : 12,000 円
信号無視 : 6,000 円
車道の右側通行 : 6,000 円
速度超過 : 6,000 円 ~ 12,000 円
一時不停止 : 5,000 円

等



自転車・バイク駐輪場 開門時間

月～土曜日	7 : 30 ~ 22 : 30
日曜日・祝日	8 : 00 ~ 20 : 00

本学は、学生の自動車での通学および構内乗り入れは禁止しています。大学周辺の違法駐車も厳禁です。

喫煙

本学では、指定した場所以外での喫煙は厳禁です。

学内・学外を問わず、タバコのポイ捨てや歩きタバコは絶対にしないでください。ゴミ箱に吸いがらを捨てないでください。

喫煙する人は、必ずマナーを守り、ほかの人の迷惑にならないよう心がけてください。

なお、20 歳未満の者の喫煙は法律で禁止されています。

喫煙指定場所

- 9 号館前南側
- 11 号館 1 階北側
- 第 1 分館体育館地下

飲酒

大学生になると、クラブやサークル、ゼミなどのコンパで、お酒を飲む機会が増えてきます。

20 歳未満の者の飲酒は法律で禁止されています。自ら飲酒すること、20 歳未満の者に飲酒を強制することは絶対にしないでください。

また、イッキ飲みや過度の飲酒で急性アルコール中毒になり、死に至ることもあります。(227 ページ参照)

飲酒マナーを守り、節度のある行動を心がけてください。

なお、本学は学内での飲酒は原則禁止しています。

下宿(ワンルームマンション等) [ひとり暮らしでの基本的マナー]

下宿生活では、些細なことでもトラブルになることがあります。ルールを守り、ほかの入居者や近隣に迷惑をかけないように心がけてください。

住まいのことで分からないことや困ったことは、管理人や管理会社に確認、相談してください。

共有スペース

- ポストの郵便物・チラシ等はすべて持ち帰り、不要なものはゴミ箱に捨てましょう。
- 廊下や階段は、たとえ部屋の前であっても私物を置いてはいけません。ベランダも共有スペースです。荷物を置くことで、災害時の避難経路を塞いでしまうことになります。
- 自転車やバイクは、決められた場所に駐輪してください。

ゴミ出し

ゴミを捨てる時は、各地域で定められている日時・場所や分別方法を守りましょう。

騒音

友達が遊びに来て騒いだり大声で話すことは騒音になります。また、夜遅くに掃除機をかけたり洗濯機を回すのもマナー違反です。テレビやスピーカー、電話の着信音にも注意しましょう。

III

京都外国語大学 単位修得要領



学修をすすめるために

単位

① 単位制

大学における学修は、大学設置基準に定められた単位制に基づいて行っています。開講している授業科目には、一定の単位数を定めており、これらの授業科目の履修登録を行い、教室内および教室外において所定の時間を学修し、試験などに合格することによって単位を修得することができます。

② 単位の考え方

単位とは、授業科目の修得に必要な学修量を時間で表すものです。1単位の学修時間は、授業時間とその授業のために準備（予習・復習）する教室外での自学自修時間を合わせて45時間となっています。したがって、単位の修得には単に授業を受けるだけでなく、予習・復習を行うことが単位を修得するための不可欠な要素であることを十分認識し、4年間の学修を進めてください。

【本学以外の教育施設等における学修】

1. 長期留学

長期留学に伴う認定科目は、授業時間15時間をもって1単位としますが、日本語教育実習に伴う認定科目は、授業時間30時間をもって1単位とします。

2. 短期留学

短期留学の認定科目は、授業時間15時間をもって1単位とします。

3. キャリア教育プログラム

- ・国内でのキャリア教育プログラムの認定科目は、授業時間45時間をもって1単位としますが、事前・事後学習については授業時間15時間をもって1単位とします。ただし、国内でのキャリア教育プログラムに講義・演習を伴うものについては、授業時間30時間をもって1単位とします。
- ・海外でのキャリア教育プログラムの認定科目は、授業時間30時間をもって1単位としますが、事前・事後学習については授業時間15時間をもって1単位とします。

4. 海外日本語教育実習

海外日本語教育実習の認定科目は、授業時間30時間をもって1単位としますが、事前・事後学習については授業時間15時間をもって1単位とします。

5. 教育支援活動

教育支援活動の認定科目は、授業時間30時間をもって1単位としますが、事前・事後学習については授業時間15時間をもって1単位とします。

【本学独自プログラム等における学修】

1. Community Engagement [国際貢献学部]

- ・国内でのCommunity Engagementの認定科目は、授業時間45時間をもって1単位としますが、事前・事後学習については授業時間15時間をもって1単位とします。
- ・海外でのCommunity Engagementの認定科目は、授業時間30時間をもって1単位としますが、事前・事後学習については授業時間15時間をもって1単位とします。

2. もっと京都プロジェクト

- ・もっと京都プロジェクトの認定科目は、授業時間45時間をもって1単位としますが、事前・事後学習については授業時間15時間をもって1単位とします。

授 業

1 学 期 (セメスター)

本学では、1年を春学期と秋学期の2学期に分けています。また、授業は学期毎に14週で完結する授業と春学期と秋学期を通して28週で完結する通年の授業があります。

●春学期：4月1日～9月19日 ●秋学期：9月20日～翌年3月31日

2 授業科目の開講形態

授業科目の開講形態は、「週1回授業」、「週複数回授業」の2つの形態があり、他に特定の期間に集中して行う「集中講義」があります。

3 授業時間

授業は1講時100分、1日6講時（土曜日は1日4講時）で実施しています。各講時の授業時間は下のとおりです。なお、定期試験期間中の試験時間は異なりますので、42ページを参照してください。

月曜日～金曜日		土曜日	
講時	時間	講時	時間
1 講時	9:10～10:50	1 講時	9:00～10:40
2 講時	11:00～12:40	2 講時	10:50～12:30
3 講時	13:50～15:30	3 講時	13:20～15:00
4 講時	15:40～17:20	4 講時	15:10～16:50
5 講時	17:50～19:30		
6 講時	19:40～21:20		

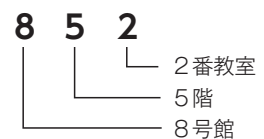
(注) 4 講時と 5 講時の間の休憩時間は 30 分間あります。

4 教 室

授業を行う教室には、教室番号を表示しています。

教室は試験などにより変更することがありますので、Kyoto Gaidai UNIPA で確認してください。

教室番号の仕組み



5 休 講

本学または担当教員のやむを得ない理由によって授業を行えない場合は休講とし、Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせしますので、こまめに確認するようにしてください。

なお、電話・メールでの問い合わせは受け付けません。

6 補 講

授業が休講となった場合、授業時間とは別に日時を定めて補講が行われます。補講は所定の補講日以外に、月～金曜日の 5・6 講時や土曜日の 1～4 講時等に行います。日時、教室等は Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせします。

7 交通機関の不通、暴風警報・特別警報発令時における授業・定期試験の取り扱い

(1) 交通機関が不通の場合

次の指定したいずれかの交通機関の区間（一部の区間の場合は対象外）が不通の場合は、休講とします。

なお、対象となる交通機関・区間および運行が再開された場合の授業・定期試験の取り扱いは、次のとおりとします。

対象となる交通機関・区間		
	JR	米原—西明石区間
	京都市バス・京都市営地下鉄	全区間
	京阪電車	淀屋橋（中之島）—出町柳区間
	阪急電車	神戸三宮—大阪梅田—京都河原町区間
	近鉄電車	京都—橿原神宮前区間
交通機関の運行が再開された場合の授業・定期試験の取り扱い		
授 業	午前 6 時 30 分までに運行再開の場合	1 講時(午前 9 時 10 分。土曜日は午前 9 時)から授業を行います。
	午前 11 時までに運行再開の場合	3 講時(午後 1 時 50 分。土曜日は午後 1 時 20 分)から授業を行います。
	午後 3 時までに運行再開の場合	5 講時(午後 5 時 50 分)から授業を行います。
	午後 3 時を過ぎても不通の場合	全講時休講とします。
定期試験	午前 6 時 30 分までに運行再開の場合	1 講時(午前 9 時 30 分)から定期試験を行います。
	午前 6 時 30 分を過ぎても不通の場合	定期試験は行いません。

(2) 暴風警報が発令された場合

予報 1 次細分区域における京都府南部、あるいは予報 2 次細分区域における南丹・京丹波、京都・亀岡、山城中部、山城南部のいずれかの地域に暴風警報が発令された場合は、休講とします。

なお、同警報が解除された場合の授業・定期試験の取り扱いは、次のとおりとします。

暴風警報が解除された場合の授業・定期試験の取り扱い		
授 業	午前 6 時 30 分までに解除の場合	1 講時(午前 9 時 10 分。土曜日は午前 9 時)から授業を行います。
	午前 11 時までに解除の場合	3 講時(午後 1 時 50 分。土曜日は午後 1 時 20 分)から授業を行います。
	午後 3 時までに解除の場合	5 講時(午後 5 時 50 分)から授業を行います。
	午後 3 時を過ぎても解除されない場合	全講時休講とします。
定期試験	午前 6 時 30 分までに解除の場合	1 講時(午前 9 時 30 分)から定期試験を行います。
	午前 6 時 30 分を過ぎても解除されない場合	定期試験は行いません。

(3) 特別警報が発令された場合

上記 (2) の暴風警報発令により休講とする地域に特別警報が発令された場合、発令された段階で休講とします。発令が授業中の場合も同様としますが、休講後の帰宅等については、周囲の状況を確認し、本学の危機管理マニュアルに基づき指示します。

(4) 上記の交通機関または地域以外で不通・暴風警報・特別警報の影響を受けた学生は、担当教員にその事情を申し出てください。

(5) 上記の取り扱いにかかわらず、自然災害等の状況によって、別途の措置を講ずる場合があります。

8 授業の出席



履修登録をした授業は毎回出席することが当然のことであり、成績評価において出席点というものはありません。授業にすべて出席したからといって単位修得は保証されませんが、実質授業回数の3分の2(10回)以上の出席を、その授業科目の単位修得に必要な最低限の要件とします。ただし、この3分の2(10回)以上の出席とは、忌引や病気等のやむを得ない理由による欠席を考慮してのことであり、3分の1(4回)まで欠席してもよいということではありません。日々の生活習慣・健康管理に気をつけて欠席しないようにしてください。

なお、本学では学期毎に必修科目について欠席の多い学生の調査を行い、当該の学生に対してアカデミック・アドバイザーが面談を行っています。

また、各授業における出欠は、学生各自のスマートフォンを使って確認します。スマートフォンを持っていない場合の確認方法は、担当教員の指示に従ってください。各授業の出欠状況は Kyoto Gaidai UNIPA の「学生出欠状況確認」で確認することができます。万一、出欠状況に誤りがある場合は、担当教員が修正しますので、当該学期の授業期間内に担当教員へ申し出てください。

※実技・実習の授業科目については、「出欠」の取り扱いに多少の差異がありますので、担当教員の指示に従ってください。

※Kyoto Gaidai UNIPAの「学生出欠状況確認」は、当該学期にのみ確認することができます。必要な場合は各自データ等で保存してください。

9 授業の欠席



本学には、欠席届(公欠届を含む。)がありません。忌引や病気等のやむを得ない理由で授業を欠席する場合は、事前または事後に学生本人が担当教員へ連絡してください。ただし、学生は講師控室への入室はできませんので、注意してください。

○学校感染症に罹患した場合の取り扱い

学校感染症(新型コロナウイルス、インフルエンザ等)と診断された場合は、学校保健安全法に基づき、授業の出席停止の措置を行いますので、速やかに保健室に報告し、指示を受けてください。提出書類として「診断書」もしくは「学校感染症罹患・治癒証明書」が必要です。※報告がないまま登校を再開するなど、事後での報告については、出席停止の措置は行いません。必ず発症時に連絡をしてください。

出席停止期間中の欠席については、履修上不利にならないよう配慮を依頼します。欠席した授業に関する対応は、各自で授業担当教員へ連絡し指示を確認してください。

※学校感染症による欠席は UNIPA「出席管理」上では「欠席」と表記されます。

なお、保健室への報告方法については 207 ページで確認してください。

○裁判員選任等に伴う授業の欠席の取り扱い

裁判員制度により、学生が裁判員候補者として裁判所に出向く場合および裁判員候補者として裁判所に出向き、裁判員または補充裁判員に選ばれた場合に授業を欠席する際は、事前に教育支援課で指示を受けてください。

10 教員への連絡等

授業担当教員への連絡・授業に関する質問は、授業期間内に学内、本学発行の Gmail でメールまたは Kyoto Gaidai UNIPA の「クラスプロファイル」等で行ってください。

なお、修学や学生生活に関する質問は、アカデミック・アドバイザー制度(専任教員)を利用してください。(27 ページ参照)

11 シラバス(講義概要)

各授業科目の内容は、シラバス(Kyoto Gaidai UNIPA の「シラバス照会」)に掲載しています。シラバスには、各授業科目の到達目標をはじめ、開講年度学期や担当教員名、単位数、週ごとの授業計画、評価方法(平常試験、定期試験等)、教科書・参考文献などが載っています。ただし、授業の進度や到達具合によってシラバスの内容と異なる場合がありますので、最終的な授業の進め方や内容については、授業担当教員の指示を受けてください。

12 TA制度・SA制度

授業内での学生に対するきめ細やかな指導の充実を図るため、授業担当教員の指導のもと大学院生(ティーチング・アシスタント [TA]) や学部生(スチューデント・アシスタント [SA]) が授業の補助をすることがあります。

試験

1 平常試験（オンライン試験を含む）

担当教員が授業時間内に行う試験で、小テスト、オーラルテストおよびレポート提出等が含まれています。実施日や時間、持ち込みの可否、遅刻者の取り扱い等は、担当教員の判断のもとに実施します。事前に一切の情報を与えずに授業時間内に実施することもありますので、普段から授業に出席して平常試験に対応できるようにしておいてください。

また、平常試験は、後載の「追試験」の対象とはなりませんので、忌引や病気等で平常試験が受験できない場合は、必ず事前または事後に学生本人がその事情を担当教員へ申し出て指示を受けてください。

なお、レポート等の提出物は必ず担当教員に直接渡してください。

2 定期試験

〔定期試験の試験時間〕

各学期終了後の本学が指定する期間に行う試験で、対象となる授業科目はシラバスで確認してください。試験時間は右のとおりで、時間割等の詳細は Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせします。

講 時	時 間	講 時	時 間
1 講時	9:30～10:30	5 講時	15:40～16:40
2 講時	10:50～11:50	6 講時	17:00～18:00
3 講時	13:00～14:00	7 講時	18:20～19:20
4 講時	14:20～15:20	8 講時	19:40～20:40



〔定期試験受験上の注意〕

1	当該学期の学費を納入していない人は、受験できません。
2	履修登録していない授業科目は、受験できません。
3	指定された試験場で受験してください。
4	学生証（科目等履修生・単位互換履修生は身分証）を机上に提示しなければ、受験できません。 学生証不携帯の人は、学生生活課で「仮学生証」の交付を受けてください。
5	遅刻者の受験は、試験開始後 20 分以内に限り認め、それ以後は認めません。 なお、遅刻して試験場に入室する際には、学生証を監督者に提示し、指示に従ってください。
6	重複科目は、必ず所定の手続きを行ってください。（下記参照）
7	試験場でスマートフォン・携帯電話・電子手帳等を時計あるいは情報機器として使用できませんので、持ち込んだ場合は電源を切り、机上には置かないでください。
8	試験場では監督者の指示に従ってください。
9	試験用紙が配布されたら、直ちに年次・学籍番号・氏名および授業の受講曜講時を記入してください。 なお、年次・学籍番号・氏名の記入がない場合は、当該科目の答案を無効とします。
10	答案の提出は、試験開始後 20 分以降とします。
11	以下の不正行為と疑われる行為を行った人が、教授会での審議の結果、当該不正行為を行ったと認められた場合、京都外国語大学試験に関する規程第 9 条第 2 項の規定（懲戒処分については京都外国語大学学則第 69 条第 1 項の規定、成績評価については京都外国語大学・京都外国語短期大学試験等における不正行為の処分基準）により処分します。 ①他の受験者の答案の覗き見をした人 ②問題・答案用紙配布後に話し合いをした人 ③答案を他の受験者に見せる、口伝えた人 ④使用可の資料、携帯電話、その他の電子機器等の貸借をした人 ⑤不審な挙動を注意した監督者の指示に従わない人 ⑥資料持込み不可の試験でカンニングペーパーを使用した人 ⑦机上への書き込みをした人 ⑧資料持込み不可の試験でテキスト・ノート等の閲覧をした人 ⑨資料等使用可の試験で許可されたもの以外の資料、携帯電話、その他の電子機器等の使用をした人 ⑩許可されていない機器（携帯電話・その他の電子機器等）の持込み、使用をした人 ⑪答案用紙の交換（行為の内容により⑬⑭に該当）をした人 ⑫組織的なカンニング行為をした人 ⑬依頼された他人が本人になりすまして受験（本人の学生証使用）をした人 ⑭答案提出直前に依頼した学生の氏名に書き換えて提出した人

※定期試験受験上の注意は、平常試験、追試験等他の試験にも適用します。

〔定期試験での重複科目の取り扱い〕

試験時間割の関係上、同一曜講時に受験科目が 2 科目以上重なった場合は、以下のとおり取り扱います。

- (1) 重複科目がある場合は、必ず定期試験開始日の前日までに教育支援課に願い出て所定の手続きを行ってください。
手続きを行わない場合は、いずれの科目も受験することができません。
- (2) 所定の手続きを行った人に対し、教育支援課から重複科目の受験順位および試験場を指示します。
- (3) 重複科目の受験手続きを行った人は、試験場でその旨を監督者に申し出て、指示に従ってください。
- (4) 重複科目の試験時間は、1 科目 60 分とします。

3 追試験

定期試験を次の7項目の理由で受験できなかった人を対象に行う試験で、本学が指定する日に行います。

	理由	提出書類
1	天 災	罹災証明書
2	交通事故	診断書または事故証明書
3	病 気	診断書
4	教育実習・博物館実習・介護等体験	証明できる書類
5	就職試験・会社訪問	受験証明書または訪問を証明する書類
6	裁判員選任等	裁判所発行証明書
7	忌引・その他やむを得ない事由	保証人またはこれに代わる人による理由書
		忌引の日数
		父母・配偶者
		子
		祖父母・兄弟姉妹
		曾祖父母・伯叔父母・甥・姪
		7日以内
		5日以内
		3日以内
		1日

※平常試験に対する追試験は行いません。

【受験申請方法】

所定の追試験受験願に必要事項を記入・押印し、証明書・診断書または理由書を添付して、定期試験開始日から定期試験終了日の翌日（翌日が日曜日・祝日の場合は翌々日）の午後5時までに別に定める受験料を添えて、教育支援課へ願い出てください。

ただし、理由の如何によっては追試験の願い出を受付けないことがあります。

4 学科総合試験 <外国語学部生対象>

ポルトガル語およびロシア語について1月に行う試験です。この試験で言語ごとに定められた基準（点数）を満たすことで、専門科目（選択）のインターミディエイト・アドバンスレベルの授業科目を履修できるようになります。ポルトガル語の学科総合試験は他学科の学生も受験することができますが、ロシア語の学科総合試験はロシア語学科生のみを対象としています。

ブラジルポルトガル語学科以外の外国語学部生が、ポルトガル語の学科総合試験を受験し、インターミディエイトまたはアドバンスの履修基準を満たした場合、ブラジルポルトガル語学科の専門科目（選択）の当該レベルの科目を履修できるようになります（修得した単位は自由選択に算入）。

成績評価および単位認定

1 成績評価の方法

成績評価は、担当教員がシラバス（講義概要）に記載している評価方法に基づいて行います。
なお、成績評価において出席点というものはありません。

2 成績評価の基準

成績評価は 100 点満点で評価し、60 点以上を合格、59 点以下を不合格とします。
なお、以下のいずれかに該当した場合は F（失格）評価とします。

F（失格）評価になる場合	
■	出席不足（原則として授業科目の実質授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要）で、かつ点数評価に不可欠なレポートの未提出または試験の未受験により、履修放棄とみなした場合
■	ゼミナール科目の受講者が卒業論文または卒業研究を提出しなかった場合、あるいは提出しても点数による評価が不可能な場合
■	教授会において不正行為を行ったと判定した場合（不正行為の内容に応じて当該科目または当該学期の全受講科目および通年の全受講科目）

3 通年科目（専門科目＜必修＞）の成績評価

- ・外国語学部（英米語学科および日本語学科を除く）の通年科目「総合〇〇語」（1・2 年次配当）は、当該言語の総合的な運用能力の修得を目標とする授業であるため、一部の言語運用能力が到達目標に達していない場合は、不合格とします。
- ・「総合〇〇語」（1・2 年次配当）の出席は、週〇回（回数は学科により異なる）全体ではなく、原則として、各学期の各曜講時の授業をそれぞれ 1 授業として取り扱います。したがって、特定の曜講時の授業において、出席不足（当該授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要：各学期の各曜講時の授業において 10 回以上の出席が必要）で、かつ、点数評価に不可欠なレポートの未提出または試験の未受験により、当該曜講時の授業の履修放棄とみなした場合、「総合〇〇語」全体の履修放棄とみなし「F（失格）」評価とします。
- ・秋学期に休学したことにより、通年科目（「総合〇〇語」、「〇〇語文法」など）を春学期しか履修できなかった場合は、当該春学期に履修したすべての通年科目の履修登録を取り消し、成績評価は行いません。
- ・ロシア語学科の「総合ロシア語Ⅰ」の単位修得には、秋学期末にロシア語学科が実施する試験（TORFL 検定試験初級レベル相当）に合格する必要があります。
また、「総合ロシア語Ⅱ」の単位修得には、秋学期末にロシア語学科が実施する試験（TORFL 検定試験基礎レベル相当）に合格する必要があります。

4 成績評価の表記

成績評価は、Kyoto Gaidai UNIPA には素点と評価記号で、「成績証明書」には右表の評価記号で表記します。

また、**本学では不合格科目も表記しますので、履修を中止する場合は、所定の期間に必ず取り消してください。**取り消した授業科目は登録が削除され、成績表および成績証明書には記載されません。

なお、本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修に対する成績評価の表記は、46 ページを参照してください。

成績評価（素点）	評価記号	
100 点～90 点	A+	合 格
89 点～80 点	A	
79 点～70 点	B	
69 点～60 点	C	
59 点～0 点	D	不 合 格
失 格	F	

5 成績の発表

成績評価は、Kyoto Gaidai UNIPA に累積して表示します。

春学期の成績は9月上旬に、秋学期の成績は2月下旬に Kyoto Gaidai UNIPA で発表します。各学期の成績発表日時は Kyoto Gaidai UNIPA 等でお知らせしますので、所定の時期に単位の修得状況を必ず確認してください。

なお、各学期に発表される成績を確認するためには、「学修振返り+学生アンケート」を Kyoto Gaidai UNIPA の「マイステップ登録」に入力する必要があります。「学修振返り+学生アンケート」が未入力の場合は、保証人も成績を確認することができません。

6 GPA (Grade Point Average)



GPA とは、単位あたりの成績評価の平均を数字で表したものであり、履修登録した全科目（資格課程に関する授業科目は除く）が対象となります。不合格科目（例えば、取消の手続きをせずに履修を放棄した科目など）がある場合は GPA が下がります。

なお、GPA の算出方法は、以下のとおりです。

$$\text{GPA} = \frac{(\text{A}^+ \text{科目の成績ポイント} \times \text{単位数}) + (\text{A 科目の} \dots) + (\text{B 科目の} \dots) + \dots}{\text{総登録単位数 (全科目の単位数の合計)}}$$

※単位認定 (N、T1、T2) の成績評価は、GPA の算出に含みません。

※通年科目の成績評価は秋学期に行われるため、春学期の成績発表後の GPA には通年科目を含みません。

Grade	Score	Point
A ⁺	100 ~ 90	4.0
A	89 ~ 80	3.0
B	79 ~ 70	2.0
C	69 ~ 60	1.0
D	59 ~ 0	0
F (失格)	—	0

7 単位修得不足および成績不振の学生に対する措置

外国語学部および国際貢献学部では、入学後の在学2学期間の卒業要件の GPA (通算) が 1.0 未満かつ卒業要件の修得単位数が 16 単位未満の学生、また、入学後の在学3学期間の卒業要件の GPA (通算) が 1.0 未満かつ卒業要件の修得単位数が 24 単位未満の学生に対して、所属学科が修学指導を行います。

なお、入学後の在学4学期間の卒業要件の GPA (通算) が 1.0 未満かつ卒業要件の修得単位数が 32 単位未満の学生は、学則第42条第1項第5号および第2項の定めにより、勉学継続の意欲がないものとして「除籍」します。ただし、特別な理由があり、所属学科が勉学継続の意欲があると判断した場合は、「除籍」の措置をとらない場合があります。

7 本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定

入学前に他の大学等で修得した単位、在学中に他の大学や大学以外の教育施設等で修得した単位および本学独自のプログラム等で修得した単位を、以下のとおり認定します。なお、単位認定の時期は、教授会で認められた学期・年度とし、成績表に記載します。

また、申請方法および単位認定の詳細については当該プログラムのページを参照してください。

1. 本学以外の教育施設等の学修成果に対する単位認定

評価 記号	項目	認定科目	科目区分	単位認定および卒業要件 に算入する単位数の上限	
N	本学に入学する前に本学及び他大学等の授業科目を履修し修得した単位 (新入生対象)	科目対科目の振替認定	認定した科目の科目区分	30	60
	派遣留学・認定留学・国内交換留学	一括認定および振替認定	認定した科目の科目区分	26(1学期間) 48(2学期間)	
	短期留学(本学主催プログラム)	短期留学		4	
	海外研修 (本学推奨プログラムを含む)				
	・本学主催のキャリア教育 プログラム(国内外) ・海外・国内フィールドワーク ・エアラインスタディプログラム ・大学コンソーシアム京都の 産学連携教育プログラム	キャリア形成支援プログラム ※	全学共通科目(教養科目)	4	
	海外日本語教育実習 [日本語学科]	海外日本語教育実習	専門科目(選択)[日本語学科]	4	
	・学校教育支援活動 ・日本語教育支援活動	教育支援活動	全学共通科目(教養科目)	2	
	京都外国語短期大学の 科目等履修科目	科目等履修科目		12	
	大学コンソーシアム京都の 単位互換制度	大学コンソーシアム京都科目		12	
	外国語技能検定試験	外国語技能検定試験(専攻語)	専門科目(選択)[外国語学部]	2	
		外国語技能検定試験(専攻語以外)	全学共通科目(教養科目)[外国語学部・国際貢献学部]	2	
	・ITパスポート試験 ・基本情報技術者試験	情報処理検定試験	全学共通科目(教養科目)	2	

※文部科学省・厚生労働省・経済産業省の合意による「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」におけるタイプ2(キャリア教育) およびタイプ3(汎用型能力・専門活用型インターンシップ) のプログラムを対象とする。

2. 本学独自プログラム等の学修成果に対する単位認定

評価 記号	項目	認定科目	科目区分	単位認定および卒業要件 に算入する単位数の上限	
T2	Community Engagement [国際貢献学部]	Community Engagement	専門科目(選択)[国際貢献学部]	4	
	もっと京都プロジェクト	もっと京都プロジェクトA	全学共通科目(教養科目)	4	
		もっと京都プロジェクトB			
	シーズンスポーツ	シーズンスポーツ		2 ※	
	E-Learning(Tutorial Studies)	E-Learning(Tutorial Studies)		1	
	教育実習 [外国語学部]	教育実習1	資格課程科目	2(卒業要件外)	
		教育実習2		2(卒業要件外)	

※全学共通科目(教養科目)のテクニカルスポーツA(2単位) およびテクニカルスポーツB(2単位)を既に修得している場合は、卒業要件外での単位認定とする。

3. 編入学・再入学に伴う単位認定

評価 記号	項目	認定科目	科目区分	単位認定および卒業要件 に算入する単位数の上限	
T1	編入学	一括認定および振替認定	認定した科目の科目区分	32または34(2年次編入) 62または64(3年次編入) ※	—
	再入学	退学・除籍前に合格した科目	認定した科目の科目区分 ※再入学の年次の教育課程による。		

※京都外国語短期大学および京都外国語専門学校からの編入学において、2年次編入については34単位を、3年次編入については64単位を、単位認定および卒業要件に算入する単位数の上限とする。

日本語非母語話者（日本語を母語としない学生）の履修登録等

国籍を問わず日本語の運用能力の向上が必要であると本学が判断する学生を対象にした「日本語非母語話者（以下、日本語を母語としない学生）」用の日本語科目等を設けています。日本語を母語としない学生が履修できる授業科目等については、以下のとおりです。

これらの授業科目を履修登録する方法については、毎年度本学ホームページに掲載する「履修の手引き」で確認してください。

1 日本語を母語としない学生

『入学手続きのしおり』で案内するオンライン手続により、ランゲージセンターが該当予定者に対して実施する「日本語能力診断テスト」の結果に基づき、入学後に日本語の運用能力の向上が必要であると本学が判断した人を「日本語を母語としない学生」とします。ただし、外国人留学生入学試験で入学した学生については、「日本語能力診断テスト」を受験していない場合でも「日本語を母語としない学生」と判断します。

<「日本語を母語としない学生」の確認方法>

日本語を母語としない学生と判断された場合は、Kyoto Gaidai UNIPA「学籍情報照会」の「留学生（留学生以外の日本語非母語話者含む）」欄に「留学生」と表示されます。

<入学前に日本語能力診断テストを受験しなかった人へ>

入学後にアカデミック・アドバイザーや所属学科から日本語学習を促された場合は、ランゲージセンターからの案内に基づき日本語能力診断テストを必ず受験してください。テストの結果、日本語運用能力の向上が必要であると本学が判断した場合は、翌学期から「日本語を母語としない学生」として取り扱います。

2 日本語を母語としない学生のための授業科目

日本語を母語としない学生と判断された人は、配当年次にしたがって、以下の授業科目を履修することができます。

<外国語学部>

科目区分	授業科目	科目の履修について
全学共通科目(外国語科目)	日本語A～J	学生の所属学科や日本語のレベルに応じて受講する授業科目を指定します。指定された授業科目は必ず履修してください。 ただし、所属学科の必修科目と重なった場合は、所属学科の必修を優先してください。
学部導入科目	基礎ゼミナール(日本語を母語としない学生用) ※日本語を母語としない学生用は春学期のみ開講	受講する授業科目を指定します。指定された授業科目は必ず履修してください。
全学共通科目(教養科目)「言語」領域	ビジネス日本語A・B 日本語能力試験N1対策A・B	授業のレベルなどシラバスの内容をよく確認し、履修を希望する場合は履修登録期間に登録してください。 ただし、所属学科の必修科目と重なった場合は、所属学科の必修科目を優先してください。
日本語学科・専門科目(選択)	ブラッシュアップ日本語A～F アカデミック日本語A～F ※日本語学科生以外も履修できます。 (修得単位は自由選択に算入)	<p>日本語学科生</p> 受講する授業科目を指定します。指定された授業科目は必ず履修してください。 ただし、所属学科の必修科目と重なった場合は、所属学科の必修科目を優先してください。 <p>日本語学科生以外</p> 受講を希望する場合は、履修登録期間に教育支援課に相談してください。 ただし、所属学科の必修科目と重なった場合は、所属学科の必修を優先してください。

<国際貢献学部>

科目区分	授業科目	科目の履修について
全学共通科目(外国語科目)	日本語A～H	学生の所属学科や日本語レベルに応じて受講する授業科目を指定します。指定された授業科目は必ず履修してください。 ただし、所属学科の必修科目と重なった場合は、所属学科の必修科目を優先してください。 ※グローバルスタディーズ学科生が履修を取り消したい場合は、履修登録期間または履修登録科目の取消期間中に教育支援課に相談してください。
全学共通科目(教養科目)「言語」領域	ビジネス日本語A・B 日本語能力試験N1対策A・B	授業のレベルなどシラバスの内容をよく確認し、履修を希望する場合は履修登録期間に登録してください。 ただし、所属学科の必修科目と重なった場合は、所属学科の必修科目を優先してください。
グローバル観光学科・専門科目(選択)	社会科学のための日本語A～D ※グローバルスタディーズ学科生も履修できます。 (修得単位は自由選択に算入)	

外国語学部

I 本学の概要

II 学修する前に知っておくべきこと

III 京都外国語大学単位修得要領

外国語学部

国際貢献学部

各種プログラム・制度等

資格課程



卒業要件

4年（8学期）在学し、以下の授業科目区分に従って、124単位を修得すれば卒業となり、学位を取得することができます。学生本人の責任において綿密な履修計画を立て、学期毎に単位修得状況を確認し、卒業要件を満たすようにしてください。

授 業 科 目 区 分		卒 業 要 件 単 位 数												
		英米語学科		スペイン語学 学 科	フランス語学 学 科	ドイツ語学 学 科	ブラジルポルトガル語学 学 科	中国語学科		日本語学 学 科	イタリア語学 学 科	ロシア語学科		
		通 常 コース	ダイヤモンド コース(注3)					通 常 コース	既修者 コース (注4)			通 常 コース	特 修 コース (注4)	
学部導入科目		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
専門科目	必修		54	74	56	68	64	68	56	40	24	58	62	42
	選択必修		4 ※											
	選択 (注1)	言語 (英米語学科はキャリア)	12 ※	20	24 ※	12 ※	16 ※	12 ※	24 ※	40 ※	56 ※	22 ※	18 ※	38 ※
		地域研究	10 ※											
ゼミナール科目		8		8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
全学共通 科目	外国語科目		4 ※	4	4 ※	4 ※	4 ※	4 ※	4 ※	4 ※	4 ※	4 ※	4 ※	4 ※
	教養科目		24 ※	22	24 ※	24 ※	24 ※	24 ※	24 ※	24 ※	24 ※	24 ※	24 ※	24 ※
自由選択 (注2)		4		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
合 計		124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124

(注1) 選択科目（英米語学科通常コースは選択科目〈キャリア〉領域）の卒業要件単位数には、所属学科配当のインターミディエイト以上の科目（単位認定科目を含む）の2単位を含めて修得する必要があります。したがって、エレメンタリーの授業科目の修得単位のみで卒業要件単位数を充足することはできませんので、充分注意してください。（英米語学科ダイヤモンドコース、日本語学科を除く。）

(注2) 自由選択は、※印を付した授業科目区分（専門科目（選択必修）、専門科目（選択）、全学共通科目）の中で卒業に必要な単位数を超えて修得した単位および外国語学部以外の学科の専門科目（選択）の授業科目を履修し修得した単位が算入されます。

(注3) 英米語学科ダイヤモンドコース（定員20名）は、1年次終了時に募集を行い、応募学生を選考のうえコース認定者を決定します。認定者は2年次春学期からコースに所属することになります。応募要件等は募集要項等でお知らせします。
なお、当該コースに所属した後は、通常コースに戻ることはできません。

(注4) 中国語学科既修者コースおよびロシア語学科特修コースは、1年次入学時に一定の当該言語の運用能力を備えた学生を対象としたコースで、入学時に事前に申請した人に対して当該学科が独自にテストを行い、その結果等によりコース認定者を決定します（2年次および3年次編入学生は申請できません）。認定者は1年次春学期から所属することになります。
なお、当該コースに所属した後は、通常コースに戻ることはできません。

卒業判定

4年次生を対象に、在学中に修得した単位数および在学年月数に基づき、年度末（3月卒業）および春学期末（9月卒業）に卒業判定を行います。

なお、4年（8学期）在学し、上記の「卒業要件」の表に定められた授業科目区分毎に所定の単位を修得し、合計124単位以上を修得した学生に対して卒業を認定します。

1. 3月卒業

判定結果は「卒業」または「留年」のいずれかとなります。

判定結果発表は2月下旬～3月上旬に Kyoto Gaidai UNIPA の「学籍情報照会」で行います。

「留年」と判定された人は、以降の学期で卒業要件単位数を満たすまで卒業ができず、在学を継続することになります。卒業を希望する学期の所定の期間に履修登録を行ってください。

2. 9月卒業

上記「1. 3月卒業」で「留年」になった人が対象となります。

判定結果は「卒業」または「留年」のいずれかとなります。

判定結果発表は9月上旬に Kyoto Gaidai UNIPA の「学籍情報照会」で行います。

「留年」と判定された人は、以降の学期で卒業要件単位数を満たすまで卒業ができず、在学を継続することになります。卒業を希望する学期の所定の期間に履修登録を行ってください。

※判定結果「留年」には、①在学年月数が4年（8学期）未満の学生で修業年限が不足している「留年」と、②在学年月数が4年（8学期）以上の学生で卒業要件単位数が不足している「留年（卒業延期）」の2種類があります。

履修登録

履修登録とは、**学生本人の責任において**自らが、履修する授業科目を決定し、所定の期間に行う手続きのことです。
履修登録の手続きを誤った場合は、履修しようと思っていた授業科目の受講や、試験を受けることができず、単位が修得できなくなりますので、履修登録は慎重に行ってください。

また、履修登録をする際には、**毎年度本学ホームページに掲載する「履修の手引き」**内の授業科目時間割および Kyoto Gaidai UNIPA の「シラバス照会」を大いに活用し、科目区分、単位数、開講学期、使用される言語、授業の内容、評価基準等をしっかり確認してください。

※履修登録を行うには、Kyoto Gaidai UNIPA の「マイステップ登録」で、学修目標等の入力が必要で、必ず所定の期間に必要な事項を入力してください。

<履修の手引き・履修登録日程・抽選科目リスト・Webシラバス>



1 履修登録の時期

春学期は 3 ～ 4 月（新入生は 4 月）、秋学期は 9 月の所定の期間に登録してください。

なお、通年科目の登録は春学期の所定の期間に限ります。

※年度により、春学期の履修登録を 3 月に行わない場合があります。

2 履修登録の方法

Kyoto Gaidai UNIPA の「履修登録」で行ってください。病気などのやむを得ない理由で所定の期間に登録できない場合は、必ず事前に学生本人が教育支援課へ連絡し、指示を受けてください。

3 履修登録できる単位数の上限

単位修得に必要な時間数および学修の質を確保するため、学期毎および年間に履修登録できる単位数の上限を以下のとおり定めています。学期毎の単位数が上限単位数内であっても年間の上限単位数を超えて履修登録をすることはできません。（例えば、卒業要件（通算）の GPA が 2.7 未満の人が春学期に 26 単位履修登録した場合、秋学期に履修登録できる上限の単位数は 22 単位となります。）

春学期	秋学期	年間	備考
26	26	48	<ul style="list-style-type: none"> 資格課程に関する授業科目は含みません。 卒業要件（通算）の GPA が 2.7 以上の場合は、上限を超えて履修登録することができます。 通年科目は、単位数の半分を春学期・秋学期それぞれの学期の履修登録単位としてカウントします。

4 全学共通科目（外国語科目）の登録

外国語科目の登録方法については、毎年度本学ホームページに掲載する「履修の手引き」で確認してください。

5 クラス（担当者）を指定する授業科目の登録

習熟度別クラスまたは指定クラスを Kyoto Gaidai UNIPA の「学籍情報照会」で確認のうえ、該当する授業科目を「履修登録」で登録してください。再履修等によりクラス（担当者）変更が必要な場合は、授業開始までに実施する「履修登録相談」で手続きを行ってください。

6 配当年次による登録

授業科目には配当年次がありますので、**配当年次に従って登録してください。**

ただし、履修条件を設けている授業科目を除き、下級年次配当の授業科目は登録することができます。

(例えば、1年次生は2年次配当の授業科目は登録できませんが、4年次生は1～3年次配当の授業科目を登録できます。)

7 抽選科目の登録

選択科目には、授業内容および教室設備等の関係で登録者数を制限するため、抽選を行う科目があります。履修を希望する場合は、自身の必修科目やゼミナール科目の曜講時を確認のうえ、所定の申請期間に Kyoto Gaidai UNIPA の「抽選希望登録」で申請してください。ただし、**当選した科目については、履修の取消を認めません**ので、注意してください。対象科目は、各学期の履修登録開始前に本学ホームページに掲載する「抽選科目一覧」を参照してください。

8 履修登録の相談等

履修登録の相談等は、教育支援課で行っていますので、学生証を持参し、相談に来てください。問い合わせ内容によっては、電話やメールではお答えできない場合があります。

また、履修登録期間に合わせて、対面での相談期間を設けていますので、利用してください。

なお、休学、留学をすることで履修計画に関する不明な点がある場合は、早めに相談してください。

9 履修登録の確認

誤った授業科目が登録されていたり、履修エラーにより登録ができていなかったりすることがあります。履修登録時には必ず履修エラーがない状態で登録を完了してください。

なお、履修登録を完了すると本学発行の Gmail に「完了メール」が届きますので、メールに記載されている登録内容等を確認し、保管しておいてください。また、**履修登録完了後に、Kyoto Gaidai UNIPA の「学生時間割表」に、登録した科目が間違いなく反映されているかを必ず確認してください。**

10 履修登録科目の取消

履修登録し授業に出席した後に履修を中止する場合は、**必修科目(ゼミナール科目を含む)および抽選科目を除き**、各学期の所定の期間に Kyoto Gaidai UNIPA の「履修登録」で、履修の取消をすることができます(卒業年次は卒業要件を満たす範囲内)。ただし、別の授業科目の追加や、履修を取り消した授業科目の再登録を当該の学期中に行うことはできません。

また、履修登録科目の取消が完了すると本学発行の Gmail に「完了メール」が届きますので、メールに記載されている登録内容等を確認し、保管するとともに、Kyoto Gaidai UNIPA の「学生時間割表」に、取消内容が間違いなく反映されているかを必ず確認してください。

なお、履修を取り消した授業科目は、GPA を算出する対象科目とはなりません。

11 その他の注意事項

- ・ 所定の期間以外に履修登録の追加や変更は認めません。
- ・ 履修登録を行っていない授業科目の受講・受験は認めません(履修エラーに該当する授業科目を含む)。
- ・ 同一学期の同一曜講時に複数科目の登録はできません。
- ・ 単位を修得済みの授業科目は登録できません。
- ・ 授業担当者が異なっても同一科目を複数登録することはできません。

科目区分毎の目標

英米語学科

学部導入科目			論理的思考能力とそれに基づく文章作成能力を身につけることを目標とします。また、言語と平和についての総合的な理解を深めることを目標とします。
専門科目	必修		専攻する言語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得することにより、その運用能力を高めることを目標とします。
	選択	キャリア	将来のキャリアを見据えて、特定の業種、職種で要求される技能を、語学力や専門知識を含めて高めるとともに、進路についてのビジョンを形成することを目標とします。
		地域研究	専攻する言語が用いられている地域に関して歴史、文化、社会、政治経済を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を身につけることを目標とします。
ゼミナール科目			所属学科のゼミまたは外国語学部共通科目のゼミを履修し、4年間の学修の集大成として卒業論文または卒業研究を完成させることを目標とします。
全学共通科目	外国語科目		専攻する言語以外の外国語を学ぶことにより、複言語運用能力を高めることを目標とします。また、多文化理解を深め、複文化的な視点を身につけることを目標とします。
	教養科目		地球規模の課題に取り組むための幅広い教養を身につけ、学問に裏付けられた実社会に対応できるスキルを獲得することを目標とします。

スペイン語・フランス語・ドイツ語・ブラジルポルトガル語・中国語・イタリア語・ロシア語学科

学部導入科目			論理的思考能力とそれに基づく文章作成能力を身につけることを目標とします。また、言語と平和についての総合的な理解を深めることを目標とします。
専門科目	必修		専攻する言語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得することにより、その運用能力を高めることを目標とします。
	選択	言語	専攻する言語について、4技能をさらに伸ばし、より実践的な運用能力を高めるとともに、ハイレベルな各種語学検定試験にも合格することを目標とします。
		地域研究	専攻する言語が用いられている地域に関して歴史、文化、社会、政治経済を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を身につけることを目標とします。
ゼミナール科目			所属学科のゼミまたは外国語学部共通科目のゼミを履修し、4年間の学修の集大成として卒業論文または卒業研究を完成させることを目標とします。
全学共通科目	外国語科目		専攻する言語以外の外国語を学ぶことにより、複言語運用能力を高めることを目標とします。また、多文化理解を深め、複文化的な視点を身につけることを目標とします。
	教養科目		地球規模の課題に取り組むための幅広い教養を身につけ、学問に裏付けられた実社会に対応できるスキルを獲得することを目標とします。

日本語学科

学部導入科目			論理的思考能力とそれに基づく文章作成能力を身につけることを目標とします。また、言語と平和についての総合的な理解を深めることを目標とします。
専門科目	必修		日本語を体系的に学び、「日本語学」「日本語教育」「日本文化」「日本文学」の4領域を総合的に修得することにより、日本語教員・国語教員・日本文化の紹介者等として活躍するための基礎的な知識の修得を目標とします。
	選択		日本語が用いられている地域や日本語学習者の存在する地域に関して文化、文学を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を身につけることを目標とします。
ゼミナール科目			所属学科のゼミまたは外国語学部共通科目のゼミを履修し、4年間の学修の集大成として卒業論文または卒業研究を完成させることを目標とします。
全学共通科目	外国語科目		外国語を学ぶことにより、その運用能力を高めることを目標とします。また、多文化理解を深め、複文化的な視点を身につけることを目標とします。
	教養科目		地球規模の課題に取り組むための幅広い教養を身につけ、学問に裏付けられた実社会に対応できるスキルを獲得することを目標とします。

外部の語学検定試験(アセスメント)の受験

〈英米語学科・日本語学科を除く〉

外国語学部(英米語学科・日本語学科を除く)の学生のみなさんは、専攻語の運用能力の到達度をはかるため、卒業するまでの間、必ず各年度に1回は本学が指定する外部の語学検定試験(一部、学科総合試験)を受験してください。

受験した外部の語学検定試験(各年度に1回)は、後援会の語学検定試験受験料助成(各年度に2回)とは別に、本学が受験料を助成します。各学科における助成対象の語学検定試験については、以下「2. 受験料の助成対象となる検定試験」のとおりですが、各学科において統一して一定の時期の到達度をはかるため、原則として、以下「1. 受験を義務付ける検定試験の種類および実施時期」の検定試験を受験してください。

なお、外部の語学検定試験の受験機会が少ない等の理由による対応については、「1. 受験を義務付ける検定試験の種類および実施時期」の欄外を確認してください。

また、検定試験の結果については、可否やスコアの高低にかかわらず、必ず Kyoto Gaidai UNIPA「Web 申請」から申請し、アカデミック・アドバイザーから承認を受けてください。

1. 受験を義務付ける検定試験の種類および実施時期

当該検定試験実施団体のホームページ等により試験日程や申込期間等を確認し受験してください。

学 科	検定試験の種類	実施時期 ※試験日程が変更される場合があります。
スペイン語学科	DELE	11 月
フランス語学科	【1 年次】実用フランス語技能検定	11 月
	【2～4 年次】DELF・DALF	6 月
ドイツ語学科	【1・2 年次】Goethe-Zertifikat	11 月下旬～12 月初旬
	【3・4 年次】ドイツ語技能検定	6 月
中国語学科	HSK (筆記)	9 月
イタリア語学科	実用イタリア語検定試験	10 月

※ブラジルポルトガル語学科生は、専攻語の外部の語学検定試験の受験機会が少ないため、年度末(1 月)にブラジルポルトガル語学科が実施する学科総合試験(無料/4 技能)を必ず受験してください。

また、できる限り助成対象となる外部の語学検定試験も受験するようにしてください。

※ロシア語学科生は、現在、TORFL 検定試験の受験機会が少ないため(現在、東京のみで受験者数を制限して実施)、年度末(1 月)にロシア語学科が実施する学科総合試験(無料/4 技能)を必ず受験してください。ただし、TORFL 検定試験を受験した場合は受験料を助成します。

※留学中あるいは休学中の受験は義務付けませんが、受験料の助成対象となる外部の語学検定試験を受験した場合は、受験料助成の対象とします。

※上記の内容については、諸事情により変更する場合があります。変更する場合は、Kyoto Gaidai UNIPA でお知らせします。

2. 受験料の助成対象となる検定試験

受験結果が当該年度 3 月 10 日（9 月卒業予定者は当該年度の 9 月 10 日）までに出ている試験に限り当該年度の助成対象とします。

学 科	検定試験の種類
スペイン語学科	DELE
	スペイン語技能検定試験
フランス語学科	実用フランス語技能検定
	DELFI・DALF
	TCF
ドイツ語学科	Goethe-Zertifikat
	ドイツ語技能検定
ブラジルポルトガル語学科	外国語としてのポルトガル語検定試験（CAPLE）
中国語学科	HSK（筆記）
イタリア語学科	実用イタリア語検定試験
	CILS
	CELI
ロシア語学科	TORFL 検定試験

3. 検定試験受験後の受験料助成申請

受験料助成の申請方法については、本学ホームページ「語学検定試験受験料助成（アセスメント）」を確認してください。

なお、検定試験の結果と支払金額のわかるもの（領収書・振込明細など）が受験料助成に必要ですので、必ず保管しておいてください。



詳細はこちら

4. 試験結果の申請（UNIPA「Web 申請」）

専門科目（選択）の履修基準の申請と同期間・方法で行います（88 ページ参照）。アセスメント試験については、不合格でも申請が必要です。不合格の場合は、「●●（不合格）」の選択肢を選んでください。

5. 申請受付担当部署

教育支援課（1 号館 1 階）
email: kyomu@kufs.ac.jp

英米語学科ダイヤモンドコース

〈英米語学科1年次生対象〉

英米語学科では、経営学・経済学やデータ科学といった VUCA※ 時代が求める素養を培う科目群に加え、海外の協定大学への学部留学も必修化した「ダイヤモンドコース」を開設しています。本コースは1年次終了時に選考を行い、2年次からスタートします。卒業後には、外資系を含む有名企業や外務省専門調査員・外交官、世界ランキング上位の国内外有名大学院など、世界が求める人材として社会に羽ばたいてもらうことを目的としています。

1年次生を対象としたダイヤモンドコースの説明会の日程については、Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせします。説明会では、ダイヤモンドコースの目的・進路、応募要件、カリキュラム内容、留学制度などを説明します。

ダイヤモンドコース 7つのポイント

京都外大が
長年の
思いを込めた
最高の教育

01

卒業後の進路は、 産・官・学のトップキャリア

このコース履修者は、外資系を含むグローバル企業、外務省専門調査員・外交官、国内有名社会科学系・学際系大学院、ビジネススクールなど、世界を舞台にした活躍を目指します。

02

社会が求める 4つの素養を 専門的に学ぶ！

複雑さが増す国際社会。その構造を理解するには、歴史・文化・理論から物事を正確に捉える必要があります。その上で、ビジネス、経済、データ科学、会計学の4素養を専門課程として学び、専門留学に備えます。

03

英語教育のノウハウを集結 留学や将来に必要な 英語力を磨く

外国語学部として76年間培った英語教育の経験を生かし、高度かつ実践的な英語教育を徹底。海外協定校での専門課程を履修するために必要な、英語力を身に付けます。また、正課外では、英語でのビジネスサークルなど実践的な活動も予定。

英米語学科

ダイヤモンドコース

Diamond Course



04

コース履修者全員 英語圏へ 1年間の専門留学へ

3年次秋から4年次春の1年間、海外協定校（英語圏）に全員が留学。高度な英語運用能力を活かし、留学先大学では興味のある専門分野の学びを深めます。また、留学先大学の授業料は免除されます（加えて、留学奨学金50万円の給付）。

05

「京都」で 伝統と革新の 精神を学ぶ

日本のDNAである「京都」の伝統と革新の精神を学び、「京都」を通じた日本の本質や精神を英語で説明できるようにし、アンバサダーとして世界に発信する素養を磨きます。

06

第一線で活躍する 特別講師を招いて 視野を広げる

留学前後には、産・官・学それぞれの現場で活躍するゲスト講師を迎え、国際社会の中で求められる、日本のビジネス戦略や産業などの政策について学びます。幅広い視野を獲得し、キャリアプランに役立てます。

07

2年次より、最大3年間の 学費を全額免除！

本コースは2年次よりスタート。1年次終了時に20名の選抜を行います。コース履修者は、毎年設定される条件を達成すると1年間の学費を免除。最大で3年間の学費が全額免除されます。

ダイヤモンドコース 4年間の流れ

外国語学部
英米語学科に
入学

通常コース → 選考

ダイヤモンドコース

1st year

2nd year

3rd year

4th year

英語圏専門留学

産（産業界）
官（官公庁）
学（学術機関）

※ダイヤモンドコースを履修する場合は、資格課程（教職・図書館司書・学校図書館司書教諭・博物館学芸員）および日本語教員養成プログラムの履修はできません。

※ VUCA とは、Volatility（変動性）・Uncertainty（不確実性）・Complexity（複雑性）・Ambiguity（曖昧性）の頭文字を取った造語で、「先行きが不透明で、将来の予測が困難な状態」を意味します。

学部導入科目・専門科目（必修・選択必修・選択）・ゼミナール科目

[英米語学科・通常コース]

科目区分				1年次		2年次		3年次		4年次		卒業要件										
				春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	各区分	合計									
学部導入科目	必修			基礎ゼミナール	2	言語と平和A	2											4	4			
専門科目	必修	言語		アカデミック・リーディングⅠ	2	アカデミック・リーディングⅡ	2	アカデミック・リーディングⅢ	2	アカデミック・リーディングⅣ	2	アカデミック・リーディングⅤ	2	アカデミック・リーディングⅥ	2	Integrated English Skills		2	54			
				アカデミック・ライティングⅠ	2	アカデミック・ライティングⅡ	2	アカデミック・ライティングⅢ	2	アカデミック・ライティングⅣ	2	アカデミック・ライティングⅤ	2	アカデミック・ライティングⅥ	2							
				オーラル・コミュニケーションⅠ (週2回授業)	4	オーラル・コミュニケーションⅡ (週2回授業)	4	オーラル・コミュニケーションⅢ	2	オーラル・コミュニケーションⅣ	2	リサーチ&プレゼンテーションⅢ	2	リサーチ&プレゼンテーションⅣ	2							
				コミュニケーション文法A	2	コミュニケーション文法B	2	リサーチ&プレゼンテーションⅠ	2	リサーチ&プレゼンテーションⅡ	2	リサーチ&プレゼンテーションⅢ	2	リサーチ&プレゼンテーションⅣ	2							
				TOEIC対策A	2																	
	選択必修	地域研究		英語圏研究の基礎	2															4		
				国際関係(IR)領域		英語圏地域・国際関係入門	2	英語圏地域・国際関係入門	2													
				比較文化(CCS)領域		英語圏比較文化入門	2	英語圏比較文化入門	2													
				言語習得(LA)領域		英語学・英語教育入門	2	英語学・英語教育入門	2													
	共通				国内・海外留学認定科目												1～4					
	選択	キャリア	留学	エレメンタリー	IELTS対策初級A	2	IELTS対策初級B	2												12		
					留学のための英語	2																
				インターメディアイト	英語発音演習	2	英語発音演習	2														
				アドバンスト	IELTS対策中級	2	IELTS対策中級	2	ディベート英語A	2	ディベート英語A	2	ディスカッション英語B	2								
			ビジネス一般	エレメンタリー		IELTS対策上級	2	IELTS対策上級	2	ディベート英語B	2	ディベート英語B	2								80	
						TOEICリスニング対策	2	TOEIC対策B	2	TOEIC対策C	2											
				インターメディアイト	TOEIC対策中級	2	TOEIC対策中級	2	オフィス英語A	2	オフィス英語B	2	パブリック・スピーキングA	2								
アドバンスト				TOEIC対策上級	2	TOEIC対策上級	2	パブリック・スピーキングA	2	パブリック・スピーキングA	2	パブリック・スピーキングB	2									
エアライン・ホスピタリティ			エレメンタリー	エアライン・ビジネスA	2	エアライン・ビジネスB	2														10	
			インターメディアイト				エアライン英語A	2	エアライン英語B	2												
		エンターテイメント	エレメンタリー	エンターテインメント・ビジネスA	2	エンターテインメント・ビジネスB	2	メディア英語A	2	メディア英語A	2											
		アドバンスト				映画英語A	2	映画英語B	2													
通訳・翻訳		インターメディアイト				通訳・ガイド英語A	2	通訳・ガイド英語A	2											10		
						日英翻訳A	2	日英翻訳A	2													
		アドバンスト				英日翻訳A	2	英日翻訳A	2													
						通訳・ガイド英語B	2	通訳・ガイド英語B	2													
共通						日英翻訳B	2	日英翻訳B	2										10			
						英日翻訳B	2	英日翻訳B	2													
						同時通訳A	2	同時通訳B	2													
共通		共通(インターメディアイト)			国内・海外留学認定科目											1～12						
		共通(アドバンスト)															1～8					
		共通															1～8					
																	1～12					
地域研究	国際関係(IR)領域				▲アメリカ社会と政治	2	▲日米関係論	2	国際関係特殊研究	2									10			
					▲イギリス社会と政治	2	▲日英関係論	2														
					▲移民国家と多文化社会	2	▲日英関係論	2														
					英米の国際関係とグローバルイシュー	2	▲アメリカ外交論	2														
	比較文化(CCS)領域				アメリカ社会と国際NGO	2	イギリス外交論	2											10			
				国際関係史	2	持続可能な開発と社会	2															
言語習得(LA)領域				英語圏文学と芸術A	2	▲英語圏文学と芸術B	2	比較文化特殊研究	2									10				
				▲英語圏社会概説A	2	▲英語圏社会概説B	2															
				▲英語圏地域概説A	2	▲英語圏地域概説B	2															
				現代社会の問題と動向	2	世界の文化と環境	2															
共通				英語圏の大衆文化	2	ポスト植民地主義の文化	2											10				
				英語圏の学習と指導論	2	英語の指導と評価	2	英文法指導法	2													
				▲英語教師論	2	▲小学校英語指導論	2	英語の指導と評価	2	英文法指導法	2											
				▲英語音声学・音韻論	2	▲応用言語学と第2言語習得論	2	リスニング・スピーキングと発音指導法	2													
共通					▲英語統語論A	2	▲英語意味論・語用論	2	英語教育特殊研究	2								10				
					▲英語統語論B	2	英語教育ゼミⅢ	2	英語学特殊研究	2												
					認知意味論	2	英語学ゼミⅢ	2														
					生成文法	2	英語学ゼミⅣ	2														
共通					▲編入学時認定科目													10				
共通					▲国内・海外留学認定科目													10				
共通																		10				
共通																		10				
共通																		10				
共通																		10				
共通																		10				
共通																		10				
共通																		10				



履修上の注意事項

学部導入科目(必修)

- ①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、4単位を修得してください。
- ②「基礎ゼミナール」は演習形式の授業で、クラス(担当者)を指定します。
- ③「言語と平和A」はリレー形式の授業で、クラスを指定します。

專門科目(必修)

- ①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、54単位を修得してください。
- ②「アカデミック・ライティングⅠ」を履修するには、「アカデミック・ライティングⅠ」の単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を、Ⅴを履修するにはⅣの単位を、Ⅵを履修するにはⅤの単位を修得しておく必要があります。
- ③「アカデミック・ライティングⅡ」を履修するには、「アカデミック・ライティングⅡ」の単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を、Ⅴを履修するにはⅣの単位を、Ⅵを履修するにはⅤの単位を修得しておく必要があります。
- ④「オーラル・コミュニケーションⅠ」を履修するには、「オーラル・コミュニケーションⅠ」の単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。
- ⑤「リサーチ&プレゼンテーションⅡ」を履修するには、「リサーチ&プレゼンテーションⅠ」

- の単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。
- ⑥習熟度別クラスで授業を行い、クラス(担当者)を指定します。
- ⑦(週2回授業)は必ず2回とも履修してください。

専門科目(選択必修)＜地域研究＞

- 配当年次に従い、選択して履修し、計4単位を修得してください。各授業科目は専門科目(選択)＜地域研究＞の3領域に対応しています。

専門科目(選択)＜キャリア＞

- ①配当年次に従い、選択して履修し、専攻語のインターミディエイト以上の授業科目(単位認定科目を含む)から2単位以上を含み、計12単位を修得してください。
- ②インターミディエイトおよびアドバンスの授業科目は、当該レベルの履修基準を満たした場合に履修できます。
- ③「TOEICリスニング対策」および「TOEICリーディング対策」については、履修対象者を英米語学科が指定します。
- ④上記③の授業科目以外は、英米語学科以外の外国語学部生も履修できますが、修得した単位は自由選択に算入されます。

専門科目(選択)＜地域研究＞

- ①配当年次に従い、選択して履修し、▲印を付した授業科目から4単位以上を含み、計10単位を修得してください。
- ②3領域の履修については、3年次から履修するゼミの分野を見据えて選択してください。
- ③英米語学科以外の外国語学部生も履修できますが、修得した単位は自由選択に算入されます。

ゼミナール科目

- ① 英語学語学履修は、上記のゼミおよび外国語学部共通科目のゼミ(86ページを参照)の中から1種類を履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、2年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。
- ② 選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、8単位を修得してください。
- ③ ゼミⅠを履修するには、基礎ゼミナールおよび所属学科の1年次配当のすべての専門科目(必修)の単位を修得しておく必要があります。

- ④ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。
- ⑤ゼミⅠ～Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。
- ⑥ゼミⅣでは、卒業選択（卒業論文または卒業研究）を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択（卒業論文または卒業研究）を含めて行います。

その他(ダイヤモンドコースに所属を変更する場合)

- ① 1年次に修得した「英語圏地域・国際関係入門」および「英語圏比較文化入門」の単位は、ダイヤモンドコースの専門科目(必修)の卒業要件単位に算入されます。また、「英語学・英語教育入門」の専門科目(選択)の卒業要件単位に算入されます。
- ② 英語学科目以外の専門科目(選択)の授業科目を履修し修得した単位は卒業要件単位(自由選択)ではなく、卒業要件外に算入されます。

[英米語学科・ダイヤモンドコース] (2 年次より)

科目区分				1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		卒業要件												
				春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	各区分	合計											
学部導入科目				授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	4	4									
専門科目	必修	言語		アカデミック・リーディングⅠ	2	アカデミック・リーディングⅡ	2	Advanced EnglishⅠ (週3回授業)	6	Advanced EnglishⅡ (週3回授業)	6	【海外留学 Study Abroad (必修)】				74								
				アカデミック・ライティングⅠ	2	アカデミック・ライティングⅡ	2																	
				オーラル・コミュニケーションⅠ (週2回授業)	4	オーラル・コミュニケーションⅡ (週2回授業)	4																	
				コミュニケーション文法A	2	コミュニケーション文法B	2																	
				TOEIC対策A	2																			
		地域研究		英語圏研究の基礎	2	英語圏地域・国際関係入門	2	International Relations A	2	International Relations B	2	International Relations C	2											
						英語圏比較文化入門	2	京都学A (集中講義)	2	Kyoto Studies B (集中講義)	2													
		キャリア						会計学A	2	経済学A	2	Economics B	2	Project Studies (週2回授業) 会計学B										
								経営学A	2	Business Administration B	2	Global Business in Practice	2											
								データサイエンスA	2	Data Science B	2	Data Science C	2											
	選択	キャリア	留学	エレメンタリー	IELTS対策初級A	2	IELTS対策初級B	2									94							
					留学のための英語	2																		
				インター ミディエイト	IELTS対策中級	2	IELTS対策中級	2																
				アドバンスト	IELTS対策上級	2	IELTS対策上級	2																
			ビジネス 一般	エレメンタリー			TOEICリスニング対策	2																
				インター ミディエイト	TOEIC対策中級	2	TOEIC対策中級	2																
				アドバンスト	TOEIC対策上級	2	TOEIC対策上級	2																
			エアライン・ ホスピタリ ティ	エレメンタリー	エアライン・ビジネスA	2	エアライン・ビジネスB	2																
				エンター テイメント	エレメンタリー	エンターテイメント・ビジネスA	2	エンターテイメント・ビジネスB	2															
			通訳・翻訳	アドバンスト					通訳・ガイド英語B	2	通訳・ガイド英語B	2												
									日英翻訳B	2	日英翻訳B	2												
									英日翻訳B	2	英日翻訳B	2												
									同時通訳A	2	同時通訳B	2												
			共通 (アドバンスト)																	外国語技能検定試験 (専攻語)	2	20		
		地域研究	国際関係 (IR) 領域					アメリカ社会と政治	2	日米関係論	2													
								イギリス社会と政治	2	日英関係論	2													
								移民国家と多文化社会	2	アメリカ外交論	2													
								英米の国際関係とグローバルイ シュー	2	イギリス外交論	2													
								国際関係史	2															
			比較文化 (CCS) 領域					英語圏文学と芸術A	2	英語圏文学と芸術B	2													
								英語圏社会概説A	2	英語圏社会概説B	2													
								英語圏地域概説A	2	英語圏地域概説B	2													
								英語圏の大衆文化	2															
		言語習得 (LA) 領域			英語学・英語教育入門	2	英語学・英語教育入門	2	応用言語学と第2言語習得論	2														
							英語音声学・音韻論	2	英語意味論・語用論	2														
							英語統語論A	2	英語統語論B	2														
							認知意味論	2	認知構文論	2														
							生成文法	2																
		共通											海外留学認定科目		1～20									



履修上の注意事項

学部導入科目 (必修)

- ①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、4 単位を修得してください。
- ②「基礎ゼミナール」は演習形式の授業で、クラス (担当者) を指定します。
- ③「言語と平和A」はリレー形式の授業で、クラスを指定します。

専門科目 (必修)

- ①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、74単位を修得してください。
- ②「アカデミック・リーディングⅡ」の単位は、通常コース所属時に修得しているため、ダイヤモンドコースでは履修できません。
- ③「アカデミック・ライティングⅡ」の単位は、通常コース所属時に修得しているため、ダイヤモンドコースでは履修できません。

- ④「オーラル・コミュニケーションⅡ」の単位は、通常コース所属時に修得しているため、ダイヤモンドコースでは履修できません。
- ⑤「Advanced English Ⅱ」を履修するには、「Advanced English Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
- ⑥「Project Studies」を履修するには、海外留学 (必修) を終了しておく必要があります。
- ⑦1 年次に通常コースの「専門科目 (選択必修) <地域研究>」で修得した「英語圏地域・国際関係入門」および「英語圏比較文化入門」の単位は、ダイヤモンドコースの専門科目 (必修) の卒業要件単位に算入されます。また、「英語学・英語教育入門」の修得単位は、「専門科目 (選択)」の卒業要件単位に算入されます。
- ⑧週 2 回以上の授業は必ずすべての回を履修してください。

海外留学 (必修)

- ①「交換留学プログラム [派遣留学A (学部留学)]」を利用して 3 年次秋学期から 4 年次春学期まで必ず留学してください。ただし、2 年次秋学期の派遣留学選考試験の出願資格を満たし、選考試験に合格する必要があります。

専門科目 (選択)

- ①配当年次に従い、選択して履修し、計20単位を修得してください。
- ②「キャリア」領域のエレメンタリーおよびインターミディエイトの授業科目 (1 年次配当) は、2 年次以降に履修することはできません。
- ③外国語学部の英米語学科ダイヤモンドコース以外の学科の専門科目 (選択) の授業科目も履修できますが、修得した単位は卒業要件に算入されません。

その他

- ①ダイヤモンドコースの学生は、ゼミナール科目を履修できません。

【スペイン語学科】

科目区分			1 年次				2 年次				3 年次				4 年次				卒業要件	
			春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期			
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	各区分	合計
学部導入科目	必修		基礎ゼミナール	2	言語と平和A	2													4	4
専門科目	必修	言語	総合スペイン語Ⅰ（通年 週4回授業）		16	総合スペイン語Ⅱ（通年 週4回授業）		16	コミュニケーション・スペイン語A（週2回授業）	4	コミュニケーション・スペイン語B（週2回授業）	4	コミュニケーション・スペイン語C	2	コミュニケーション・スペイン語D	2	56	80		
			スペイン語文法Ⅰ（通年）		4	スペイン語文法Ⅱ（通年）		4												
		地域研究	スペイン語圏の基礎知識A	2	スペイン語圏の基礎知識B	2														
	エレメンタリー	言語				オフィス・スペイン語	2	スペイン語リーディング初級	2								24			
								スペイン語学入門	2											
		地域研究			スペイン語圏歴史文化入門	2	スペイン語圏芸術入門	2	スペイン語圏文学入門	2										
					スペイン語圏社会学入門	2	スペイン語圏国際関係入門	2												
	選択	インタミディエイト	言語				実践スペイン語A	2	実践スペイン語B	2	スペイン語中級文法	2	スペイン語リーディング中級	2						
										スペイン語アカデミックライティング	2									
		地域研究				スペインの伝統文化	2	ラテンアメリカの伝統文化	2	報道にみるスペイン語圏	2	日本とスペイン語圏の関係	2							
		共通			国内・海外留学認定科目												1～24			
		アドバンス	言語							実践スペイン語C	2					外国語技能検定試験（専攻語）	2			
				地域研究									スペイン語圏の今	2						
	共通					編入学時認定科目												1～12		
		再入学時認定科目																1～24		
	ゼミナール科目											スペイン語学ゼミⅠ	2	スペイン語学ゼミⅡ	2	スペイン語学ゼミⅢ	2	スペイン語学ゼミⅣ	2	8
								スペイン語圏芸術ゼミⅠ	2	スペイン語圏芸術ゼミⅡ	2	スペイン語圏芸術ゼミⅢ	2	スペイン語圏芸術ゼミⅣ	2					
								スペイン語圏社会ゼミⅠ	2	スペイン語圏社会ゼミⅡ	2	スペイン語圏社会ゼミⅢ	2	スペイン語圏社会ゼミⅣ	2					
								スペイン語圏歴史ゼミⅠ	2	スペイン語圏歴史ゼミⅡ	2	スペイン語圏歴史ゼミⅢ	2	スペイン語圏歴史ゼミⅣ	2					
								スペイン語圏国際関係ゼミⅠ	2	スペイン語圏国際関係ゼミⅡ	2	スペイン語圏国際関係ゼミⅢ	2	スペイン語圏国際関係ゼミⅣ	2					

履修上の注意事項

学部導入科目（必修） ①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、4単位を修得してください。 ②「基礎ゼミナール」は演習形式の授業で、クラス（担当者）を指定します。 ③「言語と平和A」はリレー形式の授業で、クラスを指定します。	専門科目（必修） ①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、56単位を修得してください。 ②「総合スペイン語Ⅰ」「スペイン語文法Ⅰ」「総合スペイン語Ⅱ」「スペイン語文法Ⅱ」は通年科目で、成績評価は秋学期末に行います。 ※秋学期に休学した場合、当該春学期に履修した通年科目は取り消し、成績評価は行いません。次年度以降に、休学した年度に履修した通年科目を春学期から2学期間連続して履修してください。	専門科目（選択） ①配当年次に従い、選択して履修し、専攻語のインターミディエイト以上の授業科目（単位認定科目を含む）から2単位以上を含み、計24単位を修得してください。 ②インターミディエイトおよびアドバンストの授業科目を履修するには、当該レベルの履修基準を満たしておく必要があります。 ③スペイン語学科以外の外国語学部生も履修できますが、修得した単位は自由選択に算入されます。 ④できるだけ2年次終了までにエレメンタリー（地域研究）から2科目以上を履修し、ゼミを履修するようにしてください。（ゼミ履修に必須というわけではありません。）	指導の関係から受講者数の調整を行うため、2年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。 ②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、8単位を修得してください。 ③ゼミⅠを履修するには、基礎ゼミナールおよび所属学科の1年次配当のすべての専門科目（必修）の単位を修得しておく必要があります。 ④ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。 ⑤ゼミⅠ～Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。 ⑥ゼミⅣでは、卒業選択（卒業論文または卒業研究）を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択（卒業論文または卒業研究）を含めて行います。
ゼミナール科目 ①スペイン語学科生は、上記のゼミおよび外国語学部共通科目のゼミ（86ページを参照）の中から1種類を履修してください。ゼミは、研究			

【フランス語学科】

科目区分			1 年次				2 年次				3 年次				4 年次				卒業要件				
			春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期						
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	各区分	合計			
学部導入科目	必修		基礎ゼミナール	2	言語と平和A	2													4	4			
専門科目	必修	言語	総合フランス語Ⅰ (通年 週3回授業)			12	総合フランス語Ⅱ (通年 週4回授業)			16	フランス語スピーキング・ライティングA (週2回授業)	4	フランス語スピーキング・ライティングB (週2回授業)	4	フランス語スピーキング・ライティングC (週2回授業)	4	フランス語スピーキング・ライティングD (週2回授業)	4	68	80			
			フランス語文法Ⅰ (通年 週2回授業)			8	フランス語文法Ⅱ (通年)			4	フランス語リスニング・リーディングA	2	フランス語リスニング・リーディングB	2									
		地域研究	フランスの基礎知識A	2	フランスの基礎知識B	2	フランス語学の基礎知識	2	フランス文学の基礎知識	2													
	選択	エレメンタリー	言語		音読フランス語	2													12				
			地域研究	日仏交流史	2																		
		インターミディエイト	言語				観光フランス語A	2	観光フランス語B	2	翻訳通訳フランス語A	2											
					フランス語で学ぶ日本文化A	2	フランス語で学ぶ日本文化B	2	ビジネスフランス語	2													
							資格フランス語A	2	資格フランス語B	2	資格フランス語C	2											
									資格フランス語D	2	資格フランス語E	2											
		地域研究									フランス語圏の言語文化A	2	フランス語圏の言語文化B	2									
											フランス語圏の芸術A	2	フランス語圏の芸術B	2									
											フランス語圏の社会と文化A	2	フランス語圏の社会と文化B	2									
		共通			国内・海外留学認定科目																1～12		
		アドバンスト	言語	上級者のためのフランス語演習A	2	上級者のためのフランス語演習B	2	上級者のためのフランス語演習C	2	上級者のためのフランス語演習D	2			翻訳通訳フランス語B	2								
															外国語技能検定試験 (専攻語)	2							
		共通					編入学時認定科目														1～8		
			再入学時認定科目																		1～12		
ゼミナール科目											フランス語圏言語・文化ゼミⅠ	2	フランス語圏言語・文化ゼミⅡ	2	フランス語圏言語・文化ゼミⅢ	2	フランス語圏言語・文化ゼミⅣ	2	8	8			
											フランス語圏文学・文化ゼミⅠ	2	フランス語圏文学・文化ゼミⅡ	2	フランス語圏文学・文化ゼミⅢ	2	フランス語圏文学・文化ゼミⅣ	2					
											フランス語圏社会・文化ゼミⅠ	2	フランス語圏社会・文化ゼミⅡ	2	フランス語圏社会・文化ゼミⅢ	2	フランス語圏社会・文化ゼミⅣ	2					

 履修上の注意事項

学部導入科目 (必修) ①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、4単位を修得してください。 ②「基礎ゼミナール」は演習形式の授業で、クラス (担当者) を指定します。 ③「言語と平和A」はリレー形式の授業で、クラスを指定します。	専門科目 (必修) ①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、68単位を修得してください。 ②「総合フランス語Ⅰ」「フランス語文法Ⅰ」「総合フランス語Ⅱ」「フランス語文法Ⅱ」は通年科目で、成績評価は秋学期末に行います。 ※秋学期に休学した場合、当該春学期に履修した通年科目は取り消し、成績評価は行いません。次年度以降に、休学した年度に履修した通年科目を春学期から2学期間連続して履修してください。	③「総合フランス語Ⅱ」を履修するには、「総合フランス語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。 ④「フランス語文法Ⅱ」を履修するには、「フランス語文法Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。 ⑤「フランス語スピーキング・ライティングA」「フランス語リスニング・リーディングA」「フランス語スピーキング・ライティングB」「フランス語リスニング・リーディングB」「フランス語スピーキング・ライティングC」「フランス語スピーキング・ライティングD」を履修するには、「総合フランス語Ⅱ」の単位を修得しておく必要があります。 ⑥1年次配当の授業科目は、クラス (担当者) を指定します。 ⑦2年次・3年次・4年次配当の授業科目は、習熟度別クラスで授業を行い、クラス (担当者) を指定します。 ⑧週2回以上の授業は必ずすべての回を履修してください。	専門科目 (選択) ①配当年次に従い、選択して履修し、専攻語のインターミディエイト以上の授業科目 (単位認定科目を含む) から2単位以上を含み、計12単位を修得してください。 ②インターミディエイトおよびアドバンストの授業科目を履修するには、当該レベルの履修基準を満たしておく必要があります。 ③フランス語学科以外の外国語学部生も履修できますが、修得した単位は自由選択に算入されます。	ゼミナール科目 ①フランス語学科生は、上記のゼミおよび外国語学部共通科目のゼミ (86ページを参照) の中から1種類を履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、2年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。	②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、8単位を修得してください。 ③ゼミⅠを履修するには、基礎ゼミナールおよび所属学科の1年次配当のすべての専門科目 (必修) の単位を修得しておく必要があります。 ④ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。 ⑤ゼミⅠ～Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。 ⑥ゼミⅣでは、卒業選択 (卒業論文または卒業研究) を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択 (卒業論文または卒業研究) を含めて行います。
--	---	--	--	--	--

【ドイツ語学科】

科目区分			1 年次				2 年次				3 年次				4 年次				卒業要件			
			春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期					
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	各区分	合計		
学部導入科目	必修		基礎ゼミナール	2	言語と平和A	2														4	4	
専門科目	必修	言語	総合ドイツ語Ⅰ (通年 週4回授業)		16	総合ドイツ語Ⅱ (通年 週4回授業)		16	ドイツ語コミュニケーションA	2	ドイツ語コミュニケーションB	2	ドイツ語コミュニケーションC	2	ドイツ語コミュニケーションD	2	64	80				
			ドイツ語文法Ⅰ (通年)		4	ドイツ語文法Ⅱ (通年)		4	ドイツ語ライティングA	2	ドイツ語ライティングB	2	ドイツ語ワークショップA	2	ドイツ語ワークショップB	2						
						国際ドイツ語検定対策A2 (通年)		4														
		地域研究	世界の中の日本とドイツ語圏	2	ドイツ語圏の基礎知識	2																
	選択	エレメンタリー	言語		独検対策初級	2	中級ドイツ語文法A	2	中級ドイツ語文法B	2							16					
			地域研究	ドイツ語圏の歴史	2	ドイツ語圏の文学	2	文化と社会から見るドイツ語圏A	2	文化と社会から見るドイツ語圏B	2											
							文学から見るドイツ語圏	2	ドイツ語学概論	2												
							ドイツ語圏ランデスクンデA	2														
		インターミディエイト	言語				独検対策中級	2	国際ドイツ語検定対策 (B1) A	2	翻訳通訳ドイツ語A	2										
										ドイツ語学研究A	2	ドイツ語学研究B	2									
										ドイツ語原書講読A	2	ドイツ語原書講読B	2									
			地域研究				ドイツ語圏ランデスクンデB	2	ドイツ語圏ランデスクンデC	2												
		共通			国内・海外留学認定科目														1～16			
		アドバンスト	言語						独検対策上級	2	国際ドイツ語検定対策 (B1) B	2	国際ドイツ語検定対策 (B2)	2								
													翻訳通訳ドイツ語B	2								
														外国語技能検定試験 (専攻語)	2							
			地域研究							ドイツ語圏ランデスクンデD	2											
		共通					編入学時認定科目													1～8		
			再入学時認定科目																1～16			
		ゼミナール科目									ドイツ語圏の文化と社会ゼミⅠ	2	ドイツ語圏の文化と社会ゼミⅡ	2	ドイツ語圏の文化と社会ゼミⅢ	2			ドイツ語圏の文化と社会ゼミⅣ	2	8	8
						ドイツ語圏のことばと文化ゼミⅠ	2	ドイツ語圏のことばと文化ゼミⅡ	2	ドイツ語圏のことばと文化ゼミⅢ	2	ドイツ語圏のことばと文化ゼミⅣ	2									
						ドイツ語圏の文学と文化ゼミⅠ	2	ドイツ語圏の文学と文化ゼミⅡ	2	ドイツ語圏の文学と文化ゼミⅢ	2	ドイツ語圏の文学と文化ゼミⅣ	2									
						ドイツ語学ゼミⅠ	2	ドイツ語学ゼミⅡ	2	ドイツ語学ゼミⅢ	2	ドイツ語学ゼミⅣ	2									

 履修上の注意事項

- 学部導入科目(必修)**

 - ①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、4単位を修得してください。
 - ②「基礎ゼミナール」は演習形式の授業で、クラス(担当者)を指定します。
 - ③「言語と平和A」はリレー形式の授業で、クラスを指定します。
- 専門科目(必修)**

 - ①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、64単位を修得してください。
 - ②「総合ドイツ語Ⅰ」「ドイツ語文法Ⅰ」「総合ドイツ語Ⅱ」「ドイツ語文法Ⅱ」「国際ドイツ語検定対策A2」は通年科目で、成績評価は秋学期末に行います。

※秋学期に休学した場合、当該春学期に履修した通年科目は取り消し、成績評価は行いません。次年度以降に、休学した年度に履修した通年科目を春学期から2学期間連続して履修してください。
- ③「総合ドイツ語Ⅱ」を履修するには、「総合ドイツ語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
 - ④「ドイツ語文法Ⅱ」を履修するには、「ドイツ語文法Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
 - ⑤「ドイツ語コミュニケーションA」「ドイツ語ライティングA」「ドイツ語コミュニケーションB」「ドイツ語ライティングB」「ドイツ語コミュニケーションC」「ドイツ語ワークショップA」「ドイツ語コミュニケーションD」「ドイツ語ワークショップB」を履修するには、「総合ドイツ語Ⅱ」の単位を修得しておく必要があります。
 - ⑥1年次配当の授業科目は、クラス(担当者)を指定します。
 - ⑦2年次・3年次・4年次配当の授業科目は、習熟度別クラスで授業を行い、クラス(担当者)を指定します。
 - ⑧週2回以上の授業は必ずすべての回を履修してください。
- 専門科目(選択)**

 - ①配当年次に従い、選択して履修し、専攻語のインターミディエイト以上の授業科目(単位認定科目を含む)から2単位以上を含み、計16単位を修得してください。
 - ②インターミディエイトおよびアドバンストの授業科目を履修するには、当該レベルの履修基準を満たしておく必要があります。
 - ③ドイツ語学科以外の外国語学部生も履修できますが、修得した単位は自由選択に算入されます。
- ゼミナール科目**

 - ①ドイツ語学科生は、上記のゼミおよび外国語学部共通科目のゼミ(86ページを参照)の中から1種類を履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、2年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。
- ②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、8単位を修得してください。
 - ③ゼミⅠを履修するには、基礎ゼミナールおよび所属学科の1年次配当のすべての専門科目(必修)の単位を修得しておく必要があります。
 - ④ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。
 - ⑤ゼミⅠ～Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。
 - ⑥ゼミⅣでは、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を含めて行います。

【ブラジルポルトガル語学科】

科目区分			1 年次				2 年次				3 年次				4 年次				卒業要件							
			春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期									
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	各区分	合計						
学部導入科目	必修		基礎ゼミナール	2	言語と平和A	2														4	4					
専門科目	必修	言 語	総合ポルトガル語Ⅰ (通年 週 3 回授業)		12	総合ポルトガル語Ⅱ (通年 週 3 回授業)		12	応用ポルトガル語A		2	応用ポルトガル語B		2	実践ポルトガル語A		2	実践ポルトガル語B		2	68	80				
			ポルトガル語文法Ⅰ (通年 週 2 回授業)		8	ポルトガル語文法Ⅱ (通年 週 2 回授業)		8	上級ポルトガル語コミュニケーションA		2	上級ポルトガル語コミュニケーションB		2												
						ポルトガル語初級検定対策A		2	ポルトガル語初級検定対策B		2	ポルトガル語中級検定対策A		2	ポルトガル語中級検定対策B		2									
		地域研究	ポルトガル語圏語学の基礎		2	ポルトガル語圏文学の基礎		2																		
			ポルトガル語圏文化の基礎		2	ポルトガル語圏社会の基礎		2																		
	選択	エレメンタリー	地域研究				ポルトガルの歴史と地理		2	現代ポルトガル事情		2											12			
							ブラジルの歴史と地理		2	現代ブラジル事情		2														
							ポルトガル語圏語学入門A		2	ポルトガル語圏語学入門B		2														
							ポルトガル語圏文学入門A		2	ポルトガル語圏文学入門B		2														
		インターミディエイト	言 語				映像と音楽のポルトガル語		2	スポーツメディアのポルトガル語		2	現代文学作品翻訳演習A		2	現代文学作品翻訳演習B		2								
							食文化のポルトガル語		2	観光文化のポルトガル語		2	ジャーナリズム翻訳演習A		2	ジャーナリズム翻訳演習B		2								
			地域研究										ポルトガル語圏歴史文化研究		2	ポルトガル語圏アフリカ文化研究		2								
											日本ポルトガル語圏交流史		2													
		共通				国内・海外留学認定科目																		1～12		
		アドバンスト	言 語										ビジネス表現のポルトガル語		2	プレゼンテーション時事ポルトガル語		2								
																外国語技能検定試験 (専攻語)		2								
		共通						編入学時認定科目																1～4		
			再入学時認定科目																1～12							
		ゼミナール科目									ポルトガル語圏語学ゼミⅠ		2	ポルトガル語圏語学ゼミⅡ		2	ポルトガル語圏語学ゼミⅢ		2	ポルトガル語圏語学ゼミⅣ				2	8	8
						ポルトガル語圏文学ゼミⅠ		2	ポルトガル語圏文学ゼミⅡ		2	ポルトガル語圏文学ゼミⅢ		2	ポルトガル語圏文学ゼミⅣ		2									
						ポルトガル語圏歴史文化ゼミⅠ		2	ポルトガル語圏歴史文化ゼミⅡ		2	ポルトガル語圏歴史文化ゼミⅢ		2	ポルトガル語圏歴史文化ゼミⅣ		2									
						ポルトガル語圏社会ゼミⅠ		2	ポルトガル語圏社会ゼミⅡ		2	ポルトガル語圏社会ゼミⅢ		2	ポルトガル語圏社会ゼミⅣ		2									

履修上の注意事項

- 学部導入科目（必修）**
①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、4単位を修得してください。
②「基礎ゼミナール」は演習形式の授業で、クラス（担当者）を指定します。
③「言語と平和A」はリレー形式の授業で、クラスを指定します。

専門科目（必修）
①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、68単位を修得してください。
②「総合ポルトガル語Ⅰ」「ポルトガル語文法Ⅰ」「総合ポルトガル語Ⅱ」「ポルトガル語文法Ⅱ」は通年科目で、成績評価は秋学期末に行います。
※秋学期に休学した場合、当該春学期に履修した通年科目は取り消し、成績評価は行いません。次年度以降に、休学した年度に履修した通年科目を春学期から2学期間連続して履修してください。

③「総合ポルトガル語Ⅱ」を履修するには、「総合ポルトガル語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
④「ポルトガル語文法Ⅱ」を履修するには、「ポルトガル語文法Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
⑤「応用ポルトガル語A」「上級ポルトガル語コミュニケーションA」「ポルトガル語中級検定対策A」「応用ポルトガル語B」「上級ポルトガル語コミュニケーションB」「ポルトガル語中級検定対策B」「実践ポルトガル語A」「実践ポルトガル語B」を履修するには、「総合ポルトガル語Ⅱ」の単位を修得しておく必要があります。
⑥1年次配当の授業科目は、クラス（担当者）を指定します。
⑦2年次・3年次・4年次配当の授業科目は、習熟度別クラスで授業を行い、クラス（担当者）を指定します。
⑧週2回以上の授業は必ずすべての回を履修してください。
- 専門科目（選択）**
①配当年次に従い、選択して履修し、専攻語のインターミディエイト以上の授業科目（単位認定科目を含む）から2単位以上を含み、計12単位を修得してください。
②インターミディエイトおよびアドバンストの授業科目を履修するには、当該レベルの履修基準を満たしておく必要があります。
③ブラジルポルトガル語学科以外の外国語学部生も履修できますが、修得した単位は自由選択に算入されます。

ゼミナール科目
①ブラジルポルトガル語学科生は、上記のゼミおよび外国語学部共通科目のゼミ（86ページを参照）の中から1種類を履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、2年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。

②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、8単位を修得してください。
③ゼミⅠを履修するには、基礎ゼミナールおよび所属学科の1年次配当のすべての専門科目（必修）の単位を修得しておく必要があります。
④ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。
⑤ゼミⅠ～Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。
⑥ゼミⅣでは、卒業選択（卒業論文または卒業研究）を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択（卒業論文または卒業研究）を含めて行います。

【中国語学科・通常コース】

科目区分		1 年次				2 年次				3 年次				4 年次				卒業要件			
		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期					
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	各区分	合計		
学部導入科目	必修	基礎ゼミナール	2	言語と平和A	2													4	4		
専門科目	必修	言語	総合中国語Ⅰ (通年 週5回授業)		20	総合中国語Ⅱ (通年 週5回授業)		20	中国語リサーチプレゼンA	2	中国語リサーチプレゼンC	2	中国語リサーチプレゼンE	2	中国語リサーチプレゼンF	2	56	80			
									中国語リサーチプレゼンB	2	中国語リサーチプレゼンD	2									
		地域研究	世界の中の日本と中国A	2	世界の中の日本と中国B	2															
	選択	エレメンタリー	言語	資格中国語A	2	資格中国語B	2												24		
						中国語通訳基礎	2														
		インターミディエイト	言語				資格中国語C	2	資格中国語D	2											
							ビジネス中国語基礎A	2	ビジネス中国語基礎B	2											
							中国語観光通訳A	2	中国語観光通訳B	2											
			地域研究				中国語学概論A	2	中国語学概論B	2	現代中国と社会A	2	現代中国と社会B	2							
							中国の伝統と歴史	2	中国の地域文化と言語 (広東語)	2	中国の地域文化と言語 (上海語)	2	現代中国と経済	2							
								中国文学への招待	2	アジアの言語と文化A	2	アジアの言語と文化B	2								
		共通			国内・海外留学認定科目															1～24	
		アドバンスト	言語							中国語リスニング応用A	2	中国語リスニング応用B	2	中国語リスニング発展A	2	中国語リスニング発展B	2				
										中国語リーディング応用A	2	中国語リーディング応用B	2	中国語リーディング発展A	2	中国語リーディング発展B	2				
										ビジネス中国語応用A	2	ビジネス中国語応用B	2	中国語通訳発展A (実務)	2	中国語通訳発展B (実務)	2				
										ビジネスライティング中国語A	2	ビジネスライティング中国語B	2								
													外国語技能検定試験 (専攻語)	2							
		地域研究												中国の芸術と文化	2	中国の社会と文化	2				
														現代中国事情A	2	現代中国事情B	2				
		共通					編入学時認定科目													1～12	
	再入学時認定科目														1～24						
	ゼミナール科目									中国語圏ゼミⅠ	2	中国語圏ゼミⅡ	2	中国語圏ゼミⅢ	2	中国語圏ゼミⅣ	2		8	8	

 履修上の注意事項

- 学部導入科目 (必修)**

①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、4単位を修得してください。

②「基礎ゼミナール」は演習形式の授業で、クラス (担当者) を指定します。

③「言語と平和A」はリレー形式の授業で、クラスを指定します。
- 専門科目 (必修)**

①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、56単位を修得してください。

②「総合中国語Ⅰ」「総合中国語Ⅱ」は通年科目で、成績評価は秋学期末に行います。

※秋学期に休学した場合、当該春学期に履修した通年科目は取り消し、成績評価は行いません。次年度以降に、休学した年度に履修した通年科目を春学期から2学期間連続して履修してください。
- ③「総合中国語Ⅱ」を履修するには、「総合中国語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

④「中国語リサーチプレゼンA」「中国語リサーチプレゼンB」「中国語リサーチプレゼンC」「中国語リサーチプレゼンD」「中国語リサーチプレゼンE」「中国語リサーチプレゼンF」を履修するには、「総合中国語Ⅱ」の単位を修得しておく必要があります。

⑤1年次配当の授業科目は、クラス (担当者) を指定します。

⑥2年次・3年次・4年次配当の授業科目は、習熟度別クラスで授業を行い、クラス (担当者) を指定します。

⑦週2回以上の授業は必ずすべての回を履修してください。
- 専門科目 (選択)**

①配当年次に従い、選択して履修し、専攻語のインターミディエイト以上の授業科目 (単位認定科目を含む) から2単位以上を含み、計24単位を修得してください。

②インターミディエイトおよびアドバンストの授業科目を履修するには、当該レベルの履修基準を満たしておく必要があります。

③中国語学科以外の外国語学部生も履修できますが、修得した単位は自由選択に算入されます。
- ゼミナール科目**

①中国語学科生は、上記のゼミおよび外国語学部共通科目のゼミ (86ページを参照)の中から1種類を履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、2年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。
- ②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、8単位を修得してください。

③ゼミⅠを履修するには、基礎ゼミナールおよび所属学科の1年次配当のすべての専門科目 (必修)の単位を修得しておく必要があります。

④ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。

⑤ゼミⅠ～Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。

⑥ゼミⅣでは、卒業選択 (卒業論文または卒業研究) を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択 (卒業論文または卒業研究)を含めて行います。

[中国語学科・既修者コース]

科目区分			1 年次				2 年次				3 年次				4 年次				卒業要件	
			春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期			
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	各区分	合計
学部導入科目	必修		基礎ゼミナール	2	言語と平和A	2													4	4
専門科目	必修	言 語	総合中国語Ⅱ (通年 週5 回授業)		20	中国語リサーチプレゼンA	2	中国語リサーチプレゼンC	2	中国語リサーチプレゼンE	2	中国語リサーチプレゼンF	2	中国語通訳発展A(実務)	2	中国語通訳発展B(実務)	2	40	80	
						中国語リサーチプレゼンB	2	中国語リサーチプレゼンD	2											
		地域研究	世界の中の日本と中国A	2	世界の中の日本と中国B	2														
	選択	インターミディエイト	言 語	資格中国語C	2	資格中国語D	2											40		
				ビジネス中国語基礎A	2	ビジネス中国語基礎B	2													
				中国語観光通訳A	2	中国語観光通訳B	2													
			地域研究	中国語学概論A	2	中国語学概論B	2	現代中国と社会A	2	現代中国と社会B	2									
				中国の伝統と歴史	2	中国の地域文化と言語(広東語)	2	中国の地域文化と言語(上海語)	2	現代中国と経済	2									
						中国文学への招待	2	アジアの言語と文化A	2	アジアの言語と文化B	2									
			共通		国内・海外留学認定科目															1～40
		アドバンスト	言 語				中国語リスニング応用A	2	中国語リスニング応用B	2	中国語リスニング発展A	2	中国語リスニング発展B	2						
							中国語リーディング応用A	2	中国語リーディング応用B	2	中国語リーディング発展A	2	中国語リーディング発展B	2						
							ビジネス中国語応用A	2	ビジネス中国語応用B	2										
							ビジネスライティング中国語A	2	ビジネスライティング中国語B	2										
			地域研究								中国の芸術と文化	2	中国の社会と文化	2						
											現代中国事情A	2	現代中国事情B	2						
ゼミナール科目											中国語圏ゼミⅠ	2	中国語圏ゼミⅡ	2	中国語圏ゼミⅢ	2	中国語圏ゼミⅣ	2	8	8

履修上の注意事項

学部導入科目 (必修) ①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、4単位を修得してください。 ②「基礎ゼミナール」は演習形式の授業で、クラス (担当者) を指定します。 ③「言語と平和A」はリレー形式の授業で、クラスを指定します。	専門科目 (必修) ①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、40単位を修得してください。 ②「総合中国語Ⅱ」は通年科目で、成績評価は秋学期末に行います。 ※秋学期に休学した場合、当該春学期に履修した通年科目は取り消し、成績評価は行いません。次年度以降に、休学した年度に履修した通年科目を春学期から2学期間連続して履修してください。	専門科目 (選択) ①配当年次に従い、選択して履修し、専攻語のインターミディエイト以上の授業科目 (単位認定科目を含む) から2単位以上を含み、計40単位を修得してください。 ②アドバンストの授業科目は、当該レベルの履修基準を満たした場合に履修できます。なお、インターミディエイトの授業科目については、履修基準を満たしていなくても履修することができます。 ③インターミディエイトの授業科目の修得単位のみで卒業要件単位 (40単位) を満たすことはできません。 ④中国語学科以外の外国語学部生が履修を希望する場合は、「通常コース」の配当年次を参照し、履修してください。ただし、修得した単位は自由選択に算入されます。	ゼミナール科目 ①中国語学科生は、上記のゼミおよび外国語学部共通科目のゼミ (86ページを参照) の中から1種類を履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、2年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。 ②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、8単位を修得してください。 ③ゼミⅠを履修するには、基礎ゼミナールおよび所属学科の1年次配当のすべての専門科目 (必修) の単位を修得しておく必要があります。 ④ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。 ⑤ゼミⅠ～Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。 ⑥ゼミⅣでは、卒業選択 (卒業論文または卒業研究) を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択 (卒業論文または卒業研究) を含めて行います。
--	---	---	--

【日本語学科】

科目区分		1 年次				2 年次				3 年次				4 年次				卒業要件		
		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期				
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	各区分	合計	
学部導入科目	必修	基礎ゼミナール	2	言語と平和A	2														4	4
専門科目	必修	日本語学の基礎知識A	2	日本語学の基礎知識B	2	日本語の歴史A	2	日本語の歴史B	2								24	80		
		日本文化の基礎知識A	2	日本文化の基礎知識B	2	言語学概論A	2	言語学概論B	2											
		日本語教育の基礎知識A	2	日本語教育の基礎知識B	2	日本近代文学A	2	日本近代文学B	2											
	日本文化領域	日本の伝統文化A	2	日本の伝統文化B	2	漢字文化論A	2	漢字文化論B	2	日本文化特論A	2	日本文化特論B	2				56			
		漢文学A	2	漢文学B	2	和漢比較文学A	2	和漢比較文学B	2	日本文学特論A	2	日本文学特論B	2							
						日本文学史A	2	日本文学史B	2											
						日本古典文学A	2	日本古典文学B	2											
				書道A	2	書道B	2													
	日本語教育領域	日本語音声学概論	2	日本語音声表現法	2	日本語表記法	2			日本語学特論A	2	日本語学特論B	2				56			
		意味論・語用論入門	2			日本語教育文法A	2	日本語教育文法B	2	日本語教育と異文化理解A	2	日本語教育と異文化理解B	2							
		資格日本語教育	2					日本語教授法	2			日本語教育とICT	2							
								日本語教育評価法	2											
				日本語教育実習入門Ⅰ	2	日本語教育実習入門Ⅰ	2							日本語教育実習	2	日本語教育実習			2	
						日本語教育実習入門Ⅱ	2	日本語教育実習入門Ⅱ	2											
	日本語を母語としない学生用	ブラッシュアップ日本語A	2	ブラッシュアップ日本語D	2	アカデミック日本語A	2	アカデミック日本語D	2								56			
		ブラッシュアップ日本語B	2	ブラッシュアップ日本語E	2	アカデミック日本語B	2	アカデミック日本語E	2											
		ブラッシュアップ日本語C	2	ブラッシュアップ日本語F	2	アカデミック日本語C	2	アカデミック日本語F	2											
	共通			国内・海外留学認定科目													1～48			
								海外日本語教育実習											1～4	
						編入学時認定科目													1～24	
															外国語技能検定試験(専攻語)	2				
																1～56				
ゼミナール科目										日本語教育研究ゼミⅠ	2	日本語教育研究ゼミⅡ	2	日本語教育研究ゼミⅢ	2	日本語教育研究ゼミⅣ	2	8	8	
										日本文学研究ゼミⅠ	2	日本文学研究ゼミⅡ	2	日本文学研究ゼミⅢ	2	日本文学研究ゼミⅣ	2			
										日本文化研究ゼミⅠ	2	日本文化研究ゼミⅡ	2	日本文化研究ゼミⅢ	2	日本文化研究ゼミⅣ	2			
										対照研究ゼミⅠ	2	対照研究ゼミⅡ	2	対照研究ゼミⅢ	2	対照研究ゼミⅣ	2			
										現代日本語研究ゼミⅠ	2	現代日本語研究ゼミⅡ	2	現代日本語研究ゼミⅢ	2	現代日本語研究ゼミⅣ	2			
										国語教育研究ゼミⅠ	2	国語教育研究ゼミⅡ	2	国語教育研究ゼミⅢ	2	国語教育研究ゼミⅣ	2			



履修上の注意事項

- 学部導入科目(必修)**

①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、4単位を修得してください。

②「基礎ゼミナール」は演習形式の授業で、クラス(担当者)を指定します。

③「言語と平和A」はリレー形式の授業で、クラスを指定します。

専門科目(必修)

①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、24単位を修得してください。

②クラス(担当者)を指定します。
- 専門科目(選択)**

①配当年次に従い、選択して履修し、計56単位を修得してください。

②「日本語教育実習入門Ⅱ」を履修するには、「日本語教育実習入門Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

③「日本語教育実習」を履修するには、日本語教員養成課程を登録し、かつ、3年次秋学期(在学6学期)終了までに当該課程における「養成課程」のすべての単位(17科目34単位)を修得しておく必要があります。

④「アカデミック日本語」および「ブラッシュアップ日本語」は、本学が指定する「日本語能力診断テスト」の結果により、日本語運用能力の向上が必要であると本学が判断した外国語学部「日本語を母語としない学生」を履修対象者とします。

⑤「日本語教育領域」の授業科目以外は、日本語学科以外の外国語学部生も履修できますが、修得した単位は自由選択に算入されます。
- ゼミナール科目**

①日本語学科生は、上記のゼミおよび外国語学部共通科目のゼミ(86ページを参照)の中から1種類を履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、2年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。

②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、8単位を修得してください。

③ゼミⅠを履修するには、基礎ゼミナールおよび所属学科の1年次配当のすべての専門科目(必修)の単位を修得しておく必要があります。

④ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。

⑤ゼミⅠ～Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。

⑥ゼミⅣでは、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を含めて行います。

【イタリア語学科】

科目区分			1 年次				2 年次				3 年次				4 年次				卒業要件	
			春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期			
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	各区分	合計
学部導入科目	必修		基礎ゼミナール	2	言語と平和A	2													4	4
専門科目	必修	言語	総合イタリア語Ⅰ (通年 週4回授業)		16	総合イタリア語Ⅱ (通年 週4回授業)		16	イタリア語コミュニケーションA (週2回授業)	4	イタリア語コミュニケーションB (週2回授業)	4	イタリア語コミュニケーションC	2	イタリア語コミュニケーションD	2	58	80		
			イタリア語初級文法 (通年)		4	イタリア語中級文法 (通年)		4												
		地域研究	イタリア語圏の基礎知識	2	日伊比較文化	2	イタリア地域比較概論	2												
	選択	エレメンタリー	言語	資格イタリア語 (基礎入門)		2	資格イタリア語 (初級)		2								22			
				イタリア語聴解・読解 (基礎入門)		2	イタリア語聴解・読解 (初級)	2	イタリア語作文 (初級)	2										
			地域研究				イタリア歴史研究	2	イタリア美術研究	2	イタリア文学概論	2	イタリア言語研究	2						
							イタリアポピュラーカルチャー研究A (食文化)	2	イタリアポピュラーカルチャー研究B (ファッション)	2	イタリアポピュラーカルチャー研究C (スポーツ)	2								
					イタリア社会研究A (観光)	2	イタリア社会研究B (社会問題)	2												
		インターミディエイト	言語							イタリア語作文 (中級)	2	資格イタリア語 (中級)	2							
										イタリア語聴解・読解 (初中級)	2	イタリア語聴解・読解 (中級)	2							
										イタリア語翻訳	2									
										情報イタリア語	2									
		地域研究								イタリア社会研究C (産業)	2	イタリアポピュラーカルチャー研究D (映画・音楽)	2							
		共通			国内・海外留学認定科目												1～22			
		アドバンスト	言語								イタリア語上級会話	2	イタリア語通訳	2						
												イタリア語プレゼンテーション	2							
													外国語技能検定試験 (専攻語)	2						
			地域研究										イタリア社会研究D (地域文化)	2						
		共通					編入学時認定科目												1～10	
			再入学時認定科目																1～22	
		ゼミナール科目									イタリア文化ゼミⅠ	2	イタリア文化ゼミⅡ	2	イタリア文化ゼミⅢ	2	イタリア文化ゼミⅣ		2	8

 履修上の注意事項

- 学部導入科目 (必修)**

 - ①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、4 単位を修得してください。
 - ②「基礎ゼミナール」は演習形式の授業で、クラス (担当者) を指定します。
 - ③「言語と平和A」はリレー形式の授業で、クラスを指定します。
- 専門科目 (必修)**

 - ①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、58単位を修得してください。
 - ②「総合イタリア語Ⅰ」「イタリア語初級文法」「総合イタリア語Ⅱ」「イタリア語中級文法」は通年科目で、成績評価は秋学期末に行います。
※秋学期に休学した場合、当該春学期に履修した通年科目は取り消し、成績評価は行いません。次年度以降に、休学した年度に履修した通年科目を春学期から2学期間連続して履修してください。
- ③「総合イタリア語Ⅱ」を履修するには、「総合イタリア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

④「イタリア語コミュニケーションA」「イタリア語コミュニケーションB」「イタリア語コミュニケーションC」「イタリア語コミュニケーションD」を履修するには、「総合イタリア語Ⅱ」の単位を修得しておく必要があります。

⑤1 年次配当の授業科目は、クラス (担当者) を指定します。

⑥2 年次・3 年次・4 年次配当の授業科目は、習熟度別クラスで授業を行い、クラス (担当者) を指定します。

⑦週2 回以上の授業は必ずすべての回を履修してください。
- 専門科目 (選択)**

 - ①配当年次に従い、選択して履修し、専攻語のインターミディエイト以上の授業科目 (単位認定科目を含む) から2 単位以上を含み、計22 単位を修得してください。
 - ②インターミディエイトおよびアドバンストの授業科目を履修するには、当該レベルの履修基準を満たしておく必要があります。
 - ③イタリア語学科以外の外国語学部生も履修できますが、修得した単位は自由選択に算入されます。
- ゼミナール科目**

 - ①イタリア語学科生は、上記のゼミおよび外国語学部共通科目のゼミ (86ページを参照) の中から1 種類を履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、2 年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。
- ②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、8 単位を修得してください。
 - ③ゼミⅠを履修するには、基礎ゼミナールおよび所属学科の1 年次配当のすべての専門科目 (必修) の単位を修得しておく必要があります。
 - ④ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。
 - ⑤ゼミⅠ～Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。
 - ⑥ゼミⅣでは、卒業選択 (卒業論文または卒業研究) を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択 (卒業論文または卒業研究) を含めて行います。

【ロシア語学科・通常コース】

科目区分			1 年次				2 年次				3 年次				4 年次				卒業要件		
			春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期				
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	各区分	合計	
学部導入科目	必修		基礎ゼミナール	2	言語と平和A	2													4	4	
専門科目	必修	言語	総合ロシア語Ⅰ (通年 週 4 回授業)			16	総合ロシア語Ⅱ (通年 週 4 回授業)			16	ロシア語コミュニケーションA (週 2 回授業)	4	ロシア語コミュニケーションB (週 2 回授業)	4	ロシア語コミュニケーションC (週 2 回授業)	4	ロシア語コミュニケーションD (週 2 回授業)	4	62	80	
			ロシア語文法A	2	ロシア語文法B	2	ロシア語文法C	2	ロシア語文法D	2											
		地域研究	ロシア語圏の基礎知識A	2	ロシア語圏の基礎知識B	2	日露の交流	2													
	選択	エレメンタリー	言語		TORFL検定初級・基礎レベル対策	2	ロシア語学概論A	2	ロシア語学概論B	2								18			
					ユーラシアの言語	2															
		地域研究				ロシア語圏の政治経済	2	ロシア語圏の文学と芸術A	2												
						ロシア語圏の社会と文化A	2	ロシア語圏の社会と文化B	2												
							ロシア語圏の大衆文化A	2													
		インターミディエイト	言語							ロシア語翻訳演習A	2	ロシア語翻訳演習B	2								
												ロシア語通訳演習A	2	ロシア語通訳演習B	2						
												TORFL検定第1・2レベル対策	2								
		地域研究								ロシア語圏の文学と芸術B	2										
										ロシア語圏の大衆文化B	2										
		共通			国内・海外留学認定科目														1～18		
	アドバンスト	言語									ロシア語医療通訳演習	2	ロシア語司法通訳演習	2							
											高度ロシア語通訳演習A	2	高度ロシア語通訳演習B	2							
											高度ロシア語翻訳演習A	2	高度ロシア語翻訳演習B	2							
														外国語技能検定試験 (専攻語)	2						
	共通					編入学時認定科目															1～8
		再入学時認定科目																1～18			
ゼミナール科目											ロシア言語社会研究ゼミⅠ	2	ロシア言語社会研究ゼミⅡ	2	ロシア言語社会研究ゼミⅢ	2	ロシア言語社会研究ゼミⅣ	2	8	8	

履修上の注意事項

学部導入科目 (必修) ①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、4 単位を修得してください。 ②「基礎ゼミナール」は演習形式の授業で、クラス (担当者) を指定します。 ③「言語と平和A」はリレー形式の授業で、クラスを指定します。	専門科目 (必修) ①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、62単位を修得してください。 ②「総合ロシア語Ⅰ」「総合ロシア語Ⅱ」は通年科目で、成績評価は秋学期末に行います。また、「総合ロシア語Ⅰ」の単位を修得するためには、秋学期末の学科総合試験 (TORFL検定試験初級レベル相当) に合格する必要があります。「総合ロシア語Ⅱ」の単位を修得するためには、秋学期末の学科総合試験 (TORFL検定試験基礎レベル相当) に合格する必要があります。	※秋学期に休学した場合、当該春学期に履修した通年科目は取り消し、成績評価は行いません。次年度以降に、休学した年度に履修した通年科目を春学期から 2 学期間連続して履修してください。 ③「総合ロシア語Ⅱ」を履修するには、「総合ロシア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。 ④「ロシア語コミュニケーションA」「ロシア語コミュニケーションB」「ロシア語コミュニケーションC」「ロシア語コミュニケーションD」を履修するには、「総合ロシア語Ⅱ」の単位を修得しておく必要があります。 ⑤週 2 回以上の授業は必ずすべての回を履修してください。	<ロシア語短期留学> 「ロシア語短期留学 (必修)」に参加し、所定の課程を終了することを「総合ロシア語Ⅱ」の単位修得の要件の 1 つとします。留学に参加 (修了) しない場合は、「総合ロシア語Ⅱ」の単位を修得できません。	専門科目 (選択) ①配当年次に従い、選択して履修し、専攻語のインターミディエイト以上の授業科目 (単位認定科目を含む) から 2 単位以上を含み、計18単位を修得してください。 ②インターミディエイトおよびアドバンストの授業科目を履修するには、当該レベルの履修基準を満たしておく必要があります。 ③ロシア語学科以外の外国語学部生も履修できますが、修得した単位は自由選択に算入されます。	ゼミナール科目 ①ロシア語学科生は、上記のゼミおよび外国語学部共通科目のゼミ (86 ページを参照) の中から 1 種類を履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、2 年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。	②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、8 単位を修得してください。 ③ゼミⅠを履修するには、基礎ゼミナールおよび所属学科の 1 年次配当のすべての専門科目 (必修) の単位を修得しておく必要があります。 ④ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。 ⑤ゼミⅠ～Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。 ⑥ゼミⅣでは、卒業選択 (卒業論文または卒業研究) を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択 (卒業論文または卒業研究) を含めて行います。
---	--	--	--	---	---	---

【ロシア語学科・特修コース】

科目区分		1 年次				2 年次				3 年次				4 年次				卒業要件		
		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期				
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	各区分	合計	
学部導入科目	必修	基礎ゼミナール	2	言語と平和A	2														4	4
専門科目	必修	言語	総合ロシア語Ⅱ (通年 週 4 回授業)		16	ロシア語コミュニケーションA (週 2 回授業)	4	ロシア語コミュニケーションB (週 2 回授業)	4	ロシア語コミュニケーションC (週 2 回授業)	4	ロシア語コミュニケーションD (週 2 回授業)	4					42	80	
			ロシア語文法C	2	ロシア語文法D	2														
		地域研究	ロシア語圏の基礎知識A	2	ロシア語圏の基礎知識B	2	日露の交流	2												
	選択	エレメンタリー	言語	ロシア語学概論A	2	ロシア語学概論B	2											38		
						ユーラシアの言語	2													
		地域研究				ロシア語圏の政治経済	2	ロシア語圏の文学と芸術A	2											
						ロシア語圏の社会と文化A	2	ロシア語圏の社会と文化B	2											
								ロシア語圏の大衆文化A	2											
		インターミディエイト	言語			ロシア語翻訳演習A	2	ロシア語翻訳演習B	2											
						ロシア語通訳演習A	2	ロシア語通訳演習B	2											
						TORFL検定第1・2レベル対策	2													
		地域研究								ロシア語圏の文学と芸術B	2									
										ロシア語圏の大衆文化B	2									
		共通			国内・海外留学認定科目														1～38	
	アドバンスト	言語								ロシア語医療通訳演習	2	ロシア語司法通訳演習	2							
										高度ロシア語通訳演習A	2	高度ロシア語通訳演習B	2							
										高度ロシア語翻訳演習A	2	高度ロシア語翻訳演習B	2							
																			外国語技能検定試験 (専攻語)	2
ゼミナール科目										ロシア言語社会研究ゼミⅠ	2	ロシア言語社会研究ゼミⅡ	2	ロシア言語社会研究ゼミⅢ	2	ロシア言語社会研究ゼミⅣ	2	8	8	



履修上の注意事項

学部導入科目 (必修)
①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、4単位を修得してください。
②「基礎ゼミナール」は演習形式の授業で、クラス (担当者) を指定します。
③「言語と平和A」はリレー形式の授業で、クラスを指定します。

専門科目 (必修)
①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、42単位を修得してください。
②「総合ロシア語Ⅱ」は通年科目で、成績評価は秋学期末に行います。「総合ロシア語Ⅱ」の単位を修得するためには、秋学期末の学科総合試験 (TORFL検定試験基礎レベル相当) に合格する必要があります。
※秋学期に休学した場合、当該春学期に履修した通年科目は取り消し、成績評価は行いません。次年度以降に、休学した年度に履修した通年科目を春学期から2学期間連続して履修してください。

③「ロシア語コミュニケーションA」「ロシア語コミュニケーションB」「ロシア語コミュニケーションC」「ロシア語コミュニケーションD」を履修するには、「総合ロシア語Ⅱ」の単位を修得しておく必要があります。
④週2回以上の授業は必ずすべての回を履修してください。

<ロシア語短期留学>
「ロシア語短期留学 (必修)」に参加し、所定の課程を終了することを「総合ロシア語Ⅱ」の単位修得の要件の1つとします。留学に参加 (修了) しない場合は、「総合ロシア語Ⅱ」の単位を修得できません。

専門科目 (選択)
①配当年次に従い、選択して履修し、専攻語のインターミディエイト以上の授業科目 (単位認定科目を含む) から2単位以上を含み、計38単位を修得してください。
②インターミディエイトおよびアドバンストの授業科目を履修するには、当該レベルの履修基準を満たしておく必要があります。
③エレメンタリーおよびインターミディエイトの授業科目の修得単位のみで卒業要件単位 (38単位) を満たすことはできません。
④ロシア語学科以外の外国語学部生が履修を希望する場合は、「通常コース」の配当年次を参照し、履修してください。ただし、修得した単位は自由選択に算入されます。

ゼミナール科目
①ロシア語学科生は、上記のゼミおよび外国語学部共通科目のゼミ (86ページを参照) の中から1種類を履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、2年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。

②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、8単位を修得してください。
③ゼミⅠを履修するには、基礎ゼミナールおよび所属学科の1年次配当のすべての専門科目 (必修) の単位を修得しておく必要があります。
④ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。
⑤ゼミⅠ～Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。
⑥ゼミⅣでは、卒業選択 (卒業論文または卒業研究) を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択 (卒業論文または卒業研究) を含めて行います。

全学共通科目 (外国語科目)

[外国語学部・国際貢献学部 共通]

科目区分	1 年次				2 年次				3 年次				4 年次				卒業要件
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		合計
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
全学共通科目 (外国語科目)			英語Ⅰ (週2回授業)	4	英語Ⅰ (週2回授業)	4	英語Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2					4
					英語Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2							
			スペイン語Ⅰ (週2回授業)	4	スペイン語Ⅰ (週2回授業)	4	スペイン語Ⅱ	2									
					スペイン語Ⅱ	2											
			フランス語Ⅰ (週2回授業)	4	フランス語Ⅰ (週2回授業)	4	フランス語Ⅱ	2									
					フランス語Ⅱ	2											
			ドイツ語Ⅰ (週2回授業)	4	ドイツ語Ⅰ (週2回授業)	4	ドイツ語Ⅱ	2									
					ドイツ語Ⅱ	2											
			ポルトガル語Ⅰ (週2回授業)	4	ポルトガル語Ⅰ (週2回授業)	4	ポルトガル語Ⅱ	2									
					ポルトガル語Ⅱ	2											
			中国語Ⅰ (週2回授業)	4	中国語Ⅰ (週2回授業)	4	中国語Ⅱ	2									
					中国語Ⅱ	2											
			イタリア語Ⅰ (週2回授業)	4	イタリア語Ⅰ (週2回授業)	4	イタリア語Ⅱ	2									
					イタリア語Ⅱ	2											
			ロシア語Ⅰ (週2回授業)	4	ロシア語Ⅰ (週2回授業)	4	ロシア語Ⅱ	2									
					ロシア語Ⅱ	2											
			コリア語Ⅰ (週2回授業)	4	コリア語Ⅰ (週2回授業)	4	コリア語Ⅱ	2									
					コリア語Ⅱ	2											
	日本語を母語としない学生用	日本語A (週2回授業)	4	日本語A (週2回授業)	4												
		日本語B (週2回授業)	4	日本語B (週2回授業)	4												
		日本語C (週2回授業)	4	日本語C (週2回授業)	4												
		日本語D (週2回授業)	4	日本語D (週2回授業)	4												
		日本語E (週2回授業)	4	日本語E (週2回授業)	4												
		日本語F (週2回授業)	4	日本語F (週2回授業)	4												
		日本語G (週2回授業)	4	日本語H (週2回授業)	4												
		日本語J (週2回授業)	4														



履修上の注意事項

- ①専攻する言語および母語以外の言語を選択し、配当年次に従い、4 単位を修得してください。
ただし、「日本語A～J」は、本学が指定する「日本語能力診断テスト」の結果により、日本語運用能力の向上が必要であると本学が判断した「日本語を母語としない学生」を履修対象者とします。また、「日本語J」は日本語学科生のみを履修対象者とします。
- ②1 年次生は所定の期間に履修を希望する言語の申請を行ってください。抽選のうえ、クラス (担当者) を指定します。2 年次以降も、学期ごとに異なる言語の履修希望を申請することもできます。ただし、「日本

- 語A～J」については、左記①の学生を対象に、レベルに応じて、1 年次春学期に履修するクラス (担当者) を指定しますので、指定された人は必ず履修してください。
- ③「週2 回授業」は必ず2 回とも履修してください。
- ④「英語Ⅱ」を履修するには、「英語Ⅰ」の単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。

- ⑤「スペイン語Ⅱ」を履修するには、「スペイン語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
- ⑥「フランス語Ⅱ」を履修するには、「フランス語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
- ⑦「ドイツ語Ⅱ」を履修するには、「ドイツ語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
- ⑧「ポルトガル語Ⅱ」を履修するには、「ポルトガル語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
- ⑨「中国語Ⅱ」を履修するには、「中国語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

- ⑩「イタリア語Ⅱ」を履修するには、「イタリア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
- ⑪「ロシア語Ⅱ」を履修するには、「ロシア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
- ⑫「コリア語Ⅱ」を履修するには、「コリア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
- ⑬「日本語G」「日本語H」「日本語J」を除く授業科目はすべて春・秋学期に開講します。

全学共通科目 (教養科目)

[外国語学部・国際貢献学部 共通]

科目区分		1 年次				2 年次				3 年次				4 年次			
		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期	
	領域	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
全学共通科目 (教養科目)	ビジネス・ キャリア	キャリアベーシック	2			キャリア形成A	2	キャリア形成B	2	コミュニティ通訳特論Ⅰ	2	コミュニティ通訳特論Ⅱ (英語)	2				
				経営学入門	2	経営学応用A	2	経営学応用B	2			コミュニティ通訳特論Ⅱ (スペイン語)	2				
				経済学入門	2	経済学応用	2					コミュニティ通訳特論Ⅱ (ポルトガル語)	2				
				会計学入門	2	特殊研究B (企業からの寄付講座)	2					コミュニティ通訳特論Ⅱ (中国語)	2				
				Basic Business Administration	2	Applied Business Administration	2					コミュニティ通訳特論Ⅱ (ロシア語)	2				
				Basic Economics	2	Applied Economics	2										
	サイエンス・ テクノロジー			環境論A	2	環境論B	2										
				メディア論	2	メディアリテラシー論	2										
				情報技術の実践	2	防災の科学	2										
				キャリアのための数学入門	2	数的理解	2										
				データ科学入門	2	データ科学応用	2										
						Environmental Issues	2	Media in Japan	2	Advanced Topics in Emerging Technology	2						
	教育	生涯学習概論	2	青少年の行動と心理	2	コミュニケーションの心理	2	臨床心理学	2								
		多文化理解と人権	2	多文化理解と人権	2	コーチングの理論	2	コーチングの実践	2								
		人権と教育	2	人権と教育	2	リーダーシップ概論	2	教育の課題	2								
	政治・平和			国際関係論入門	2	国際関係論応用	2	国際平和協力論	2								
				政治学入門	2	政治学応用	2	国際法	2								
				法学入門	2	言語政策	2	平和・安全保障論	2								
				日本国憲法	2	国際連合論	2										
						模擬国連会議 (PBL)	2										
				言語と平和B	2	グローバル化とジェンダー	2										
	京都・日本			多文化間コミュニケーション	2	比較文化論	2	特殊研究C (地域連携研究)	2								
		京都文化論A	2	京都文化論B	2	京都の伝統文化A	2	京都の伝統文化B	2								
		Japanese Geography	2	Japanese History and Culture	2	Current Kyoto and Tradition	2	Destination Kyoto	2								
						Japanese Philosophy	2	Religions in Japan	2								
						Japan Pop Cultures	2	Japan seen through Animations	2								
						もっと京都プロジェクトA	2	もっと京都プロジェクトB	2								
	国際社会	世界の歴史と文化A-1 (日本、アジア、アフリカ、オセアニア)	2	世界の歴史と文化A-2 (日本、アジア、アフリカ、オセアニア)	2	世界の歴史と文化B-1 (ヨーロッパ、南北アメリカ)	2	世界の歴史と文化B-2 (ヨーロッパ、南北アメリカ)	2								
				特殊研究A (異文化理解研究)	2	特殊研究D (グローバル研究)	2	世界文化と多様性	2								
						Intercultural Communication in Practice A	2	Intercultural Communication in Practice B	2								

科目区分		1 年次				2 年次				3 年次				4 年次				
		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		
	領域	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
全学共通科目 (教養科目)	言語	言語の仕組み	2	言語の成り立ち	2			日英対照言語学	2									
				音声学入門	2			日中対照言語学	2									
		日本語学入門A	2	日本語学入門B	2			バイリンガルの言語形成	2									
		日本語教育入門A	2	日本語教育入門B	2	2言語同時学習 (ES) A	2	2言語同時学習 (ES) B	2									
						2言語同時学習 (EF) A	2	2言語同時学習 (EF) B	2									
						2言語同時学習 (EG) A	2	2言語同時学習 (EG) B	2									
						2言語同時学習 (EP) A	2	2言語同時学習 (EP) B	2									
						2言語同時学習 (EC) A	2	2言語同時学習 (EC) B	2									
						2言語同時学習 (EI) A	2	2言語同時学習 (EI) B	2									
						2言語同時学習 (ER) A	2	2言語同時学習 (ER) B	2									
						アラビア語Ⅰ	2	アラビア語Ⅱ	2									
						インド語Ⅰ	2	インド語Ⅱ	2									
						インドネシア語Ⅰ	2	インドネシア語Ⅱ	2									
						オランダ語Ⅰ	2	オランダ語Ⅱ	2									
						ギリシア語Ⅰ	2	ギリシア語Ⅱ	2									
						スワヒリ語Ⅰ	2	スワヒリ語Ⅱ	2									
						タイ語Ⅰ	2	タイ語Ⅱ	2									
						トルコ語Ⅰ	2	トルコ語Ⅱ	2									
						ベトナム語Ⅰ	2	ベトナム語Ⅱ	2									
						ラテン語Ⅰ	2	ラテン語Ⅱ	2									
						日本語のスキルA	2	日本語のスキルE	2									
						日本語のスキルB	2	日本語のスキルF	2									
						日本語のスキルC	2	日本語のスキルG	2									
						日本語のスキルD	2	日本語のスキルH	2									
		日本語を 母語としない 学生用					ビジネス日本語A	2	ビジネス日本語B	2								
							日本語能力試験N1対策A	2	日本語能力試験N1対策B	2								
		人文	現代社会の見方	2	現代文化論	2	哲学A	2	哲学B	2								
	地理学入門		2	宗教学入門	2	美学芸術学	2	倫理学	2									
						考古学	2	ミュージアムマネジメント (PBL)	2									
						人類学	2	美術史	2									
		スポーツ	健康科学の実践と理論	2	健康科学の実践と理論	2	テクニカルスポーツA	2	テクニカルスポーツB	2								
						スポーツと国際交流	2	スポーツ政策	2	スポーツとまちづくり (PBL)	2							
						シーズンスポーツ	2	シーズンスポーツ	2									
		共通	科目等履修科目															1～12
					国内・海外留学認定科目 (英米語学科通常コース、スペイン語学科、フランス語学科、ドイツ語学科、ブラジルポルトガル語学科、中国語学科、日本語学科、イタリア語学科、ロシア語学科、グローバルスタディーズ学科、グローバル観光学科)												1～48	
														国内・海外留学認定科目 (英米語学科ダイヤモンドコース)			1～48	
						編入学時認定科目												1～28
						短期留学												1～4
						キャリア形成支援プログラム												1～4
						E-Learning (Tutorial Studies)												1
						大学コンソーシアム京都科目												1～12
								教育支援活動										1～2
															外国語技能検定試験 (専攻語以外)	2		
															情報処理検定試験	2		
				世界一周！異文化体験のススメ												2		
			再入学時認定科目															1～28

履修上の注意事項

①「コミュニティ通訳特論Ⅱ」を履修するには、「コミュニティ通訳特論Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。また、「コミュニティ通訳特論Ⅱ (英語)」を履修するには英米語学科の選択科目におけるアドバンスト科目の履修基準を、「コミュニティ通訳特論Ⅱ (スペイン語)」を履修するにはスペイン語学科の選択科目におけるインターミディエイト科目の履修基準を、「コミュニティ通訳特論Ⅱ (ポルトガル語)」を履修するにはブラジルポルトガル語学科の選択科目におけるインターミディエイト科目の履修基準を、「コミュニティ通訳特論Ⅱ (中国語)」を履修するには中国語学科の選択科目におけるインターミディエイト科目の履修基準を、それぞれ満たしておく必要があります。「コミュニティ通訳特論Ⅱ (ロシア語)」については、ロシア語学科生は「総合ロシア語Ⅱ」の単位修得、ロシア語学科以外の学科の学生は「ロシア

語能力検定試験 3級」を取得し、ロシア語学科の選択科目におけるインターミディエイト科目の履修基準を満たしておく必要があります。
②「アラビア語Ⅱ」を履修するには、「アラビア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
③「インド語Ⅱ」を履修するには、「インド語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
④「インドネシア語Ⅱ」を履修するには、「インドネシア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
⑤「オランダ語Ⅱ」を履修するには、「オランダ語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑥「ギリシア語Ⅱ」を履修するには、「ギリシア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
⑦「スワヒリ語Ⅱ」を履修するには、「スワヒリ語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
⑧「タイ語Ⅱ」を履修するには、「タイ語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
⑨「トルコ語Ⅱ」を履修するには、「トルコ語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
⑩「ベトナム語Ⅱ」を履修するには、「ベトナム語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
⑪「ラテン語Ⅱ」を履修するには、「ラテン語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑫「ビジネス日本語A」「ビジネス日本語B」「日本語能力試験N1対策A」「日本語能力試験N1対策B」は、本学が指定する「日本語能力診断テスト」の結果により、日本語運用能力の向上が必要であると本学が判断した「日本語を母語としない学生」を履修対象者としてします。
⑬「テクニカルスポーツA・B」「シーズンスポーツ (有料:認定科目)」で修得した単位は、合わせて 4 単位までを全学共通科目の卒業に必要な単位に算入します。
⑭「テクニカルスポーツA・B」「シーズンスポーツ (有料:認定科目)」を履修するには、「健康科学の実践と理論」の単位を修得しておく必要があります。

学部共通科目（ゼミナール科目）

科目区分	1 年次				2 年次				3 年次				4 年次			
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期	
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
ゼミナール科目									ビジネス・マネジメント研究ゼミⅠ	2	ビジネス・マネジメント研究ゼミⅡ	2	ビジネス・マネジメント研究ゼミⅢ	2	ビジネス・マネジメント研究ゼミⅣ	2
									サービス・ホスピタリティ研究ゼミⅠ	2	サービス・ホスピタリティ研究ゼミⅡ	2	サービス・ホスピタリティ研究ゼミⅢ	2	サービス・ホスピタリティ研究ゼミⅣ	2
									公共政策研究ゼミⅠ	2	公共政策研究ゼミⅡ	2	公共政策研究ゼミⅢ	2	公共政策研究ゼミⅣ	2
									生活・環境研究ゼミⅠ	2	生活・環境研究ゼミⅡ	2	生活・環境研究ゼミⅢ	2	生活・環境研究ゼミⅣ	2
									情報・メディア研究ゼミⅠ	2	情報・メディア研究ゼミⅡ	2	情報・メディア研究ゼミⅢ	2	情報・メディア研究ゼミⅣ	2
									教育研究ゼミⅠ	2	教育研究ゼミⅡ	2	教育研究ゼミⅢ	2	教育研究ゼミⅣ	2
									言語教育ゼミⅠ	2	言語教育ゼミⅡ	2	言語教育ゼミⅢ	2	言語教育ゼミⅣ	2
									グローバル研究ゼミⅠ	2	グローバル研究ゼミⅡ	2	グローバル研究ゼミⅢ	2	グローバル研究ゼミⅣ	2
									国際教養ゼミⅠ	2	国際教養ゼミⅡ	2	国際教養ゼミⅢ	2	国際教養ゼミⅣ	2

 履修上の注意事項

- ゼミナール科目**

①外国語学部生（英米語学科ダイヤモンドコースを除く）は、所属学科のゼミおよび上記のゼミの中から1種類を履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、2年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。

②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、8単位を修得してください。

③ゼミⅠを履修するには、基礎ゼミナールおよび所属学科の1年次配当のすべての専門科目（必修）の単位を修得しておく必要があります。
- ④ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。

⑤ゼミⅠ～Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。

⑥ゼミⅣでは、卒業選択（卒業論文または卒業研究）を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択（卒業論文または卒業研究）を含めて行います。

⑦「言語教育ゼミ」は、英米語学科生が履修することはできません。

専門科目（選択）の履修

配当年次に従い、卒業に必要な単位を修得してください（49 ページ参照）。

専門科目（選択）（英米語学科＜地域研究＞領域および日本語学科を除く）には、エレメンタリー、インターミディエイト、アドバンストの3つのレベルがあり、それぞれの言語およびレベルごとに履修基準を設けています。履修基準を満たしていなければ、インターミディエイト以上の授業科目を履修することはできません。

履修上の注意点

- ・選択科目（英米語学科通常コースは選択科目＜キャリア＞領域）の卒業要件単位数には、所属学科配当のインターミディエイト以上の授業科目（単位認定科目を含む）の2単位を含めて修得する必要があります。したがって、エレメンタリーの授業科目の修得単位のみで卒業要件単位を満たしても卒業することはできませんので、充分注意してください（英米語学科ダイヤモンドコース、日本語学科を除く）。
- ・英米語学科通常コースの学生は、「＜キャリア＞領域」、「＜地域研究＞領域」のそれぞれの領域より配当年次に従い、卒業に必要な単位数を修得してください。
- ・英米語学科ダイヤモンドコースの学生は、同コース専門科目（選択）＜キャリア＞領域のエレメンタリーおよびインターミディエイト科目（1年次配当）を2年次以降に履修することはできません。
- ・中国語学科既修者コースおよびロシア語学科特修コースの専門科目（選択）の卒業要件単位数を充足するには、所属学科・コース配当のアドバンストの授業科目（単位認定科目を含む）の単位を含めて修得する必要があります。
- ・所属学科以外の学科の専門科目（選択）の授業科目（日本語学科の選択科目＜日本語領域＞を除く）も履修できますが、修得した単位は自由選択に算入します（英米語学科ダイヤモンドコースを除く）。
- ・英米語学科通常コースの選択科目＜キャリア＞領域に配当している「TOEIC リスニング対策」、「TOEIC リーディング対策」は英米語学科で指定された人のみが履修できる授業科目です。

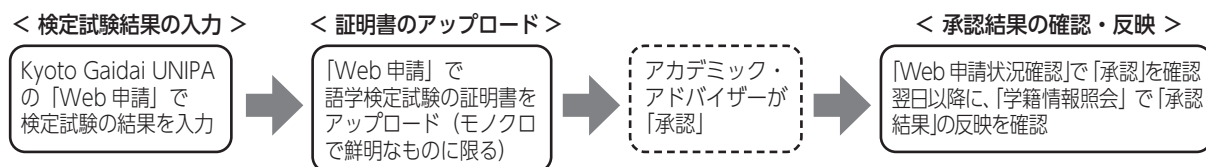
■ 履修基準を満たした場合の申請手続き

履修基準を満たした場合はそれを証明する手続きが必要となりますので、以下のとおり手続きを行ってください。

インターミディエイトまたはアドバンストの履修基準を満たした場合は、以下の要領で申請手続きを行ってください。原則として、各学期の所定の期間にアカデミック・アドバイザーに証明書を提出し承認を受けられれば、次の学期から承認を受けた言語のレベルの授業科目を履修することができます。

ただし、学内で実施する「TOEIC L&R (IP)」、「GTEC Academic 4 技能 (LRWS)」および「学科総合試験（ブラジルポルトガル語学科およびロシア語学科）」については、本学が Kyoto Gaidai UNIPA の「学籍情報照会」に結果を反映しますので、申請手続きは不要です。履修基準を満たしていれば、次の学期から当該レベルの授業科目を履修することができます。

【申請方法】



※申請内容に不備がある場合は、「差戻し」または「却下」となりますので、申請後は定期的に「Web 申請状況確認」で申請結果のステータスを確認してください。申請期間終了後に「差戻し」となった履修基準の申請を当該学期に再度申請することはできません。

【申請期間】

申請期間は Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせします。語学検定試験の日程の関係で、申請期間内に語学検定試験の証明書の取得ができない場合は、申請することができませんので、計画的に語学検定試験を受験してください。

注 外国語技能検定試験の単位認定については、別途手続きが必要です（123 ページ）。

【専門科目（選択）履修基準】

言語	エレメンタリー	インターミディエイト	アドバンスト
英語	—	① TOEIC L&R (IP を含む) 550 点以上	① TOEIC L&R (IP を含む) 650 点以上
		② TOEFL iBT57 点以上 ※ 2026 年 1 月 20 日以前実施分	② TOEFL iBT68 点以上 ※ 2026 年 1 月 20 日以前実施分
		③ TOEFL iBT3.5 以上 ※ 2026 年 1 月 21 日以降実施分	③ TOEFL iBT4 以上 ※ 2026 年 1 月 21 日以降実施分
		④ IELTS (アカデミック・モジュール) 4.5 以上	④ IELTS (アカデミック・モジュール) 5 以上
		⑤ GTEC Academic 2 技能 (LR) 230 点以上	⑤ 実用英語技能検定 (S-CBT を含む) 準 1 級以上
		⑥ GTEC Academic 4 技能 (LRWS) 480 点以上	⑥ GTEC Academic 2 技能 (LR) 260 点以上
スペイン語	—	⑦ GTEC Academic 4 技能 (LRWS) 530 点以上	⑦ GTEC Academic 4 技能 (LRWS) 530 点以上
		① スペイン語技能検定試験 5 級以上	① スペイン語技能検定試験 4 級以上
フランス語	—	② DELE A1 以上	② DELE A2 以上
		① 実用フランス語技能検定 3 級以上	① 実用フランス語技能検定 準 2 級以上
		② DELF・DALF A1 以上	② DELF・DALF A2 以上
ドイツ語	—	③ TCF 100 以上	③ TCF 200 以上
		① ドイツ語技能検定 4 級以上	① ドイツ語技能検定 3 級以上
ポルトガル語	—	② Goethe-Zertifikat A1 以上	② Goethe-Zertifikat A2 以上
		① 外国語としてのポルトガル語検定試験準初級以上	① 外国語としてのポルトガル語検定試験初級以上
中国語	—	② 学科総合試験 55 点以上	② 学科総合試験 80 点以上
		① HSK3 級以上	① HSK (下のいずれか 1 つ) 4 級合格 5 級到達 (合計 180 点以上) 6 級到達 (合計 180 点以上) 7 級到達 (合計 315 ~ 349 点) 8 級到達 (合計 350 ~ 389 点) 9 級到達 (合計 390 点以上) ※ 7・8・9 級は共通問題
		② 中国語検定試験 4 級以上	② 中国語検定試験 3 級以上
イタリア語	—	③ 実用中国語技能検定試験 4 級以上	③ 実用中国語技能検定試験 3 級以上
		① 実用イタリア語検定試験および実用イタリア語検定 IBT4 級以上	① 実用イタリア語検定試験および実用イタリア語検定 IBT3 級以上
		② CILS A1 以上	② CILS A2 以上
ロシア語	—	③ CELI - Impatto 以上	③ CELI - 1 以上
		① TORFL 検定試験基礎レベル	① TORFL 検定試験第 1 レベル
		② 学科総合試験 60 点以上 (ロシア語学科生) (注 1)	② 学科総合試験 60 点以上 (ロシア語学科生) (注 1)
		③ ロシア語能力検定試験 3 級以上 (ロシア語学科生以外)	③ ロシア語能力検定試験 2 級以上 (ロシア語学科生以外)

(注 1) ロシア語の②学科総合試験の受験対象者はロシア語学科生のみで、インターミディエイトの試験問題は TORFL 検定試験基礎レベル相当、アドバンストは TORFL 検定試験第 1 レベル相当です。

■編入学時の専門科目（選択）の専攻語の履修基準について

編入学時の各所属学科（日本語学科を除く）における専門科目（選択）の専攻語の履修基準のレベルについては、以下のとおりです。

(1) 英米語学科

2 年次および 3 年次編入学ともエレメンタリーを基本とします。ただし、編入学時に受験を義務付けている TOEIC(IP)/GTEC の結果または個人で受験した英語の検定試験（本学指定の語学検定試験に限る）のインターミディエイト以上の結果を提出することで、専攻語の当該レベルの授業科目の履修を可能とします。

(2) スペイン語、フランス語、ドイツ語、ブラジルポルトガル語、中国語、イタリア語、ロシア語学科

- ・ 2 年次編入学はエレメンタリーを基本とします。ただし、編入学時に専攻語の語学検定試験（本学指定の語学検定試験に限る）のインターミディエイト以上の結果を提出することで、専攻語の当該レベルの授業科目の履修を可能とします。

- ・ 3 年次編入学はインターミディエイトの履修基準を満たしていない場合でも、インターミディエイトを満たしたものとし、専攻語のインターミディエイトの授業科目の履修を可能とします。

また、編入学時に専攻語の語学検定試験（本学指定の語学検定試験に限る）のアドバンストの結果を提出することで、専攻語のアドバンストの授業科目の履修を可能とします。

【ゼミナール科目とは】

外国語学部では、ディプロマポリシーに掲げる「高度な語学力、地域や文化について専門的知識および国際社会で活躍するにふさわしい高い見識並びに豊かな教養を身に付け、世界の平和に貢献する人材を育成」という理念のもと、4年間の学修の集大成としてゼミナール科目（必修）を設置しています。

ゼミナール科目では、3年次から2年間、担当教員の指導およびゼミ生同士の共同作業を通じて、自らの関心がある学問分野における専門知識や研究方法等の理解を深め、最終的には自ら設定した研究テーマにもとづく卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）を完成させます。具体的には、文献講読や資料の精読、情報収集、調査、分析、フィールドワーク等を行い、研究報告や他のゼミ生との討論を重ねるなど、より質の高い卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）を目指します。

したがって、1年次から、いずれどのようなゼミに入り、いかなる研究テーマを設定するかをイメージしつつ、4年間の学びの計画を立てることが重要です。そして、積極的にゼミの活動に参加していく姿勢が強く求められます。

これらのゼミでの活動を通じて、ディプロマポリシーに掲げる①構想するために必要な力（問題発見力・解決力、思考力・判断力、創造力・企画力）、②実践するために必要な力（主体的に取り組む力、情報収集力・分析力、計画力・実行力）、③共同するために必要な力（プレゼンテーション力、コミュニケーション力、多文化共生力）など、社会で活躍するうえで役立つ様々な能力を養い、将来豊かな人生を送るための糧とします。

なお、卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）は、「〇〇ゼミⅣ」の授業と一体的に評価をします。

【履修するゼミの選考・登録の流れ】

外国語学部（英米語学科ダイヤモンドコースを除く）を卒業するためには、所属学科のゼミナール科目または学部共通のゼミナール科目のゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを履修して単位を修得し、卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の作成に必要な研究指導を受け、卒業論文または卒業研究を提出し、合格しなければなりません。

ゼミナール科目は3年次から登録しますが、研究指導に適正な人数を保つために選考を行いますので、以下のとおり手続きを行ってください。

※ゼミナール科目は3年次から配当されているため、選考は2年次秋学期に行います。

選考の対象は、休学・留学中の学生を含むすべての2年次生です。

2年次	9～11月	各ゼミの内容を Kyoto Gaidai UNIPA の「ゼミ申請システム」で確認し、所定の期間に志望ゼミを申請してください。志望者が多いゼミについては、志望理由の内容や面談等により選考を行います。 ※ゼミ選考のスケジュール等の詳細は、Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせします。
	12～1月	選考結果を Kyoto Gaidai UNIPA の「ゼミ申請システム」で発表します。
3年次	4月	発表内容に従いゼミを履修登録してください。

ゼミナール科目履修上の注意

- ・学部共通ゼミナール科目のうち、「言語教育ゼミ」は、英米語学科生が履修することはできません。
- ・ゼミⅠを受講するには、基礎ゼミナールおよび所属学科の1年次配当のすべての専門科目（必修）（英米語学科の選択必修を除く）の単位を修得しておく必要があります。
- ・選考後はゼミの変更はできません。ゼミはⅠ→Ⅱ→Ⅲ→Ⅳの順に履修し、単位を修得してください。Ⅱを履修するにはⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。
- ・なお、ゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳは、春学期・秋学期の各学期に開講します。
- ・所定のゼミ申請を行わずゼミが決まっていない人は、履修登録開始日までに教育支援課へ申し出てください。

【卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の提出資格】

ゼミⅣを履修している場合は、当該学期の卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の提出資格がありますので、所定の期間に提出してください。

< 留学（派遣留学・認定留学・国内交換留学）の場合 >

ゼミⅣを履修する学期に留学（派遣留学・認定留学・国内交換留学）をする場合においても、留学中に担当教員から指導を受けたうえで、所定の期間に卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）を提出することができます。

なお、ゼミⅣの単位については、担当教員が提出された卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の評価を「合格」とした場合に限り認定します。

したがって、留学中も必ずゼミ担当者と連絡をとり指導を受けてください。

【卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の提出期間】

3月卒業	12月13日～20日
9月卒業	7月 1日～20日

※提出期限が日・祝日の場合は翌日を期限とします。

※提出期限に遅れた場合は受け付けません。ただし、特別な理由（追試験に相当する理由）がある場合は、以下のとおり期限を延長する場合があります。なお、手続きは追試験に準じます。

（延長が認められた場合の提出期日）

3月卒業	翌年の1月15日
9月卒業	8月5日

【卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の提出方法】

Kyoto Gaidai UNIPA の「マイステップ登録」で、成果物ファイルをアップロードしてください。詳細は、3月卒業予定者へは11月に、9月卒業予定者へは6月に、Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせします。

【卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）作成にあたっての注意事項】

(1) 提出期日等を厳守すること

所定の期日までに所定の提出方法により提出しなければなりません。表紙等の体裁や文字数等は、学生便覧記載の「様式」を参照してください。

(2) 提出前にゼミ担当教員の指導を受けること

卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）のテーマは、担当教員と相談のうえ決定し、変更する場合も事前に相談しなければなりません。また、担当教員の指示にもとづき、研究計画書の提出や中間・完成報告等が必要となります。

ゼミ担当教員の指導を経ずに提出された卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）は評価の対象となりません。また、ゼミの欠席が著しく多い人や担当教員の指導や指示に従わない人が提出した場合も評価の対象とならない可能性があります。

なお、卒業論文は論文形式をとる成果物、卒業研究は論文形式をとらない成果物ですが、それぞれの様式にしたがって作成してください。

(3) 剽窃行為はしないこと

剽窃（盗用）行為が判明し、教授会において不正行為を行ったと判定した場合、不正行為の内容によっては当該科目（ゼミⅣ）の成績評価を失格とします。そのほか、参考文献の引用方法等については、担当教員の指示にしたがってください。

(4) 卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）を提出しても必ず合格とはならないこと

卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）は提出すれば必ず単位を修得できるというわけではありません。合格の水準に達していなければ不合格になります。

【卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の評価・評価基準】

卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の評価・評価基準は以下のとおりとします。

(1) 卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の評価

① 卒業論文の評価

論文審査および口述試問により評価します。

② 卒業研究の評価

中間報告（発表）、卒業研究および口頭発表により評価します。

(2) 評価基準

卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の評価にあたっては、以下の項目を基準とします。

① テーマの設定および研究方法が先行研究を踏まえている。

② 研究資料およびデータが的確に収集・処理されている。

③ 研究資料およびデータの分析・解釈が的確であり、かつ、表現・表記が論理的に展開し、論旨に明確性と一貫性がある。

1 卒業論文【様式】

1. 本文の使用言語

専攻する外国語（日本語学科は日本語）。ただし、担当教員が許可した場合は、日本語の使用を認めます。

2. 本文の書式

パソコンを使用し、以下のとおり設定してください。専攻語は 20 枚以上（中国語は 7 枚以上）とします。
また、日本語の場合は 16,000 字以上とします。

判の大きさ	A4 判
1 枚あたりの 文字数等	外国語では、1 枚につき上下左右のマージンは、3cm を目安にし、Times New Roman の 12 ポイント 26 行に設定。 日本語（中国語を含む）では、10.5 または 11 ポイントの文字の大きさと、1 枚につき一行 40 字（アルファベットは半角 80 字）30 行で、横書きに設定。

3. ファイルの順序

以下の順序で一つのファイルにして提出してください。

①卒業論文題目

②内題・検索用キーワード

③論文要旨

パソコンを使用し、日本語（A4 用紙 1～2 枚・800～1,200 字）で作成してください。

④目次

⑤本文

⑥文献リスト・資料

2 卒業研究【様式】

1. 本文の使用言語

専攻する外国語（日本語学科は日本語）。ただし、担当教員が許可した場合は、日本語の使用を認めます。

2. 本文の書式

パソコンを使用し、以下のとおり設定してください。専攻語は 5 枚以上（中国語は 3 枚以上、日本語は 7 枚以上）とします。

また、例外的にレポート形式以外で卒業研究を提出する場合は、事前に担当教員に相談し許可を得てください。

判の大きさ	A4 判
1 枚あたりの 文字数等	外国語では、1 枚につき上下左右のマージンは、3cm を目安にし、Times New Roman の 12 ポイント 26 行に設定。 日本語（中国語を含む）では、10.5 または 11 ポイントの文字の大きさと、1 枚につき一行 40 字（アルファベットは半角 80 字）30 行で、横書きに設定。 ※図表や写真を組み入れる場合は、図表に記述される文字を、本文と同一ポイント程度に設定。

3. ファイルの順序

以下の順序で一つのファイルにして提出してください。

①卒業研究表題

②卒業研究タイトル・概要

パソコンを使用し、日本語（タイトルは 40 字以内、概要は 400 字以内）で作成してください。

③本文

全学共通科目(教養科目)のスポーツ

健康科学の実践と理論



スポーツの実践と講義をととして身体運動能力や協調性を養い、健康の保持・増進に関する諸問題を学ぶことにより、良好な社会生活を営む力を身につけることを目標としています。授業は、実技種目・講義を行い、1週目の授業は武道体育館アリーナ(第2分館)にて授業概要説明を行いますので、写真(3×4cm)1枚と筆記用具を持参して必ず出席してください。詳しくは、シラバスを参照してください。

① 実技種目	バレーボール、バスケットボール、テニス、卓球、バドミントン、サッカー、フットサル、ニュースポーツ(9週実施)
② 講義	「講義概要説明」・「競技種目の理解」・「障害、外傷」・「スポーツ社会学」・「スポーツ生理学」・「測定と評価」・「まとめ」(5週実施)

※ニュースポーツについて

ペタンク、モルック、ユニホック、グラウンドゴルフ、キンボール、シャフルボード、スカットボール等のルール理解と実践を行います。

- ・「健康科学の実践と理論」は、教育職員免許状取得に必要な「体育に関する科目(2単位)」です。
- ・本学が行う定期健康診断は、授業の一環として扱いますので、必ず受診してください。



テクニカルスポーツ

「健康科学の実践と理論」の単位修得者を対象に、より高いスポーツ技術の習得、戦術の理解、ゲームの運営や分析について学び、試合や大会の企画・運営ができる能力を各学習段階に応じて習得するコースです。1週目の授業は武道体育館アリーナ(第2分館)にて授業概要説明を行いますので、写真(3×4cm)1枚と筆記用具を持参して必ず出席してください。また、種目の詳細はシラバスで確認してください。

なお、「テクニカルスポーツA・B」「シーズンスポーツ(有料:認定科目)」で修得した単位は、合わせて4単位までを全学共通科目の卒業に必要な単位に算入します。

※ユニバーサルスポーツについて

ペタンク、モルック、ターゲットバードゴルフ、グラウンドゴルフ、ソフトバレーボール、ファミリーバドミントン、ユニホック、ゴールボール、卓球バレー、サウンドテーブルテニス、車いすバスケットボール等のルール理解と実践を行います。



シーズンスポーツ

「健康科学の実践と理論」の単位修得者を対象に、学外施設を使用した野外活動(集中実技授業)を実施する認定科目です(有料)。

なお、UNIPAの「掲示板」等でオリエンテーションの日時と場所をお知らせしますので、参加希望者は必ず出席してください。

種目名	時期	場所	期間	費用
マリンスポーツ	8月下旬	沖縄県恩納村	4日間	85,800円(予定) ※別途、交通費が必要
スノースポーツ	2月上旬	長野県栂池高原	5日間	57,000円(予定) ※別途、交通費が必要

※シーズンスポーツは単位認定科目です。

※テクニカルスポーツA(2単位)およびテクニカルスポーツB(2単位)の単位を既に修得している場合は、卒業要件外での単位認定となります。

外国語学部他学科の授業科目の履修

外国語学部の所属学科以外の学科で開講する授業科目のうち、専門科目(選択)(日本語学科の専門科目(選択)<日本語教育領域>を除く)を配当年次に従って履修することができ、修得した単位は自由選択に算入されます。ただし、履修基準や履修条件が定められている授業科目を履修するには、当該履修基準等を満たしておかなければなりません。

また、抽選等で登録者数を制限する場合は、当該授業科目が配当されている学科生を優先します。

なお、国際貢献学部に配当している授業科目は履修できません。

国際貢献学部

I 本学の概要

II 学修する前に知っておくべきこと

III 京都外国語大学単位修得要領

外国語学部

国際貢献学部

各種プログラム・制度等

資格課程

卒業要件

4年（8学期）在学し、以下の授業科目区分に従って、124単位を修得すれば卒業となり、学位を取得することができます。学生本人の責任において綿密な履修計画を立て、学期毎に単位修得状況を確認し、卒業要件を満たすようにしてください。

授業科目区分		グローバルスタディーズ学科	グローバル観光学科
学部基幹科目		16	16
専門科目	必修	22	28
	展開		28 ※
	選択	48 ※	14 ※
ゼミナール科目		8	8
全学共通科目	外国語科目	4 ※	4 ※
	教養科目	8 ※	16 ※
自由選択（注1）		18	10
合計		124	124

（注1）自由選択は、※印を付した授業科目区分（専門科目（展開）、専門科目（選択）、全学共通科目）の中で卒業に必要な単位数を超えて修得した単位および国際貢献学部（※）の所属学科以外の学科の専門科目（展開）、専門科目（選択）の授業科目を履修し修得した単位が算入されます。

卒業判定

4年次生を対象に、在学中に修得した単位数および在学年月数に基づき、年度末（3月卒業）および春学期末（9月卒業）に卒業判定を行います。

なお、4年（8学期）在学し、上記の「卒業要件」の表に定められた授業科目区分毎に所定の単位を修得し、合計124単位以上を修得した学生に対して卒業を認定します。

1. 3月卒業

判定結果は「卒業」または「留年」のいずれかとなります。

判定結果発表は2月下旬～3月上旬に Kyoto Gaidai UNIPA の「学籍情報照会」で行います。

「留年」と判定された人は、以降の学期で卒業要件単位数を満たすまで卒業ができず、在学を継続することになります。卒業を希望する学期の所定の期間に履修登録を行ってください。

2. 9月卒業

グローバルスタディーズ学科の9月入学の4年次生と「1. 3月卒業」で「留年」になった人が対象となります。

判定結果は「卒業」または「留年」のいずれかとなります。

判定結果発表は9月上旬に Kyoto Gaidai UNIPA の「学籍情報照会」で行います。

「留年」と判定された人は、以降の学期で卒業要件単位数を満たすまで卒業ができず、在学を継続することになります。卒業を希望する学期の所定の期間に履修登録を行ってください。

※判定結果「留年」には、①在学年月数が4年（8学期）未満の学生で修業年限が不足している「留年」と、②在学年月数が4年（8学期）以上の学生で卒業要件単位数が不足している「留年（卒業延期）」の2種類があります。

履修登録

履修登録とは、**学生本人の責任において**自らが、履修する授業科目を決定し、所定の期間内に行う手続きのことです。履修登録の手続きを誤った場合は、履修しようと思っていた授業科目の受講や、試験を受けることができず、単位が修得できなくなりますので、履修登録は慎重に行ってください。

また、履修登録をする際には、**毎年度本学ホームページに掲載する「履修の手引き」**内の授業科目時間割および Kyoto Gaidai UNIPA の「シラバス照会」を大いに活用し、科目区分、単位数、開講学期、使用される言語、評価基準等をしっかり確認してください。

※履修登録を行うには、Kyoto Gaidai UNIPA の「マイステップ登録」で、学修目標等の入力が必要で、必ず所定の期間に必要な事項を入力してください。

<履修の手引き・履修登録日程・抽選科目リスト・Webシラバス>



1 履修登録の時期

春学期は 3 ～ 4 月（新入生は 4 月）、秋学期は 9 月の所定の期間に登録してください。
※年度により、春学期の履修登録を 3 月に行わない場合があります。

2 履修登録の方法

Kyoto Gaidai UNIPA の「履修登録」で行ってください。病気などのやむを得ない理由で所定の期間に登録できない場合は、必ず事前に学生本人が教育支援課へ連絡し、指示を受けてください。

3 履修登録できる単位数の上限

単位修得に必要な時間数および学修の質を確保するため、学期毎および年間に履修登録できる単位数の上限を以下のとおり定めています。学期毎の単位数が上限単位数内であっても年間の上限単位数を超えて履修登録をすることはできません。（例えば、卒業要件（通算）の GPA が 2.7 未満の人が春学期に 26 単位履修登録した場合、秋学期に履修登録できる上限の単位数は 22 単位となります。）

春学期	秋学期	年間	備考
26	26	48	・資格課程に関する授業科目は含みません。 ・卒業要件（通算）の GPA が 2.7 以上の場合は、上限を超えて履修登録することができます。

4 全学共通科目（外国語科目）の登録

外国語科目の登録方法については、毎年度本学ホームページに掲載する「履修の手引き」で確認してください。

5 クラス（担当者）を指定する授業科目の登録

指定クラスを Kyoto Gaidai UNIPA の「学籍情報照会」で確認のうえ、該当する授業科目を「履修登録」で登録してください。再履修等によりクラス（担当者）変更が必要な場合は、授業開始までに実施する「履修登録相談」で手続きを行ってください。

6 配当年次による登録

授業科目には配当年次がありますので、**配当年次に従って登録してください。**

ただし、履修条件を設けている授業科目を除き、下級年次配当の授業科目は登録することができます。

（例えば、1 年次生は 2 年次配当の授業科目は登録できませんが、4 年次生は 1 ～ 3 年次配当の授業科目を登録できます。）

7 抽選科目の登録

選択科目には、授業内容および教室設備等の関係で登録者数を制限するため、抽選を行う科目があります。履修を希望する場合は、自身の必修科目やゼミナール科目の曜講時を確認のうえ、所定の申請期間に Kyoto Gaidai UNIPA の「抽選希望登録」で申請してください。ただし、**当選した科目については、履修の取消を認めません**ので、注意してください。対象科目は、各学期の履修登録開始前に本学ホームページに掲載する「抽選科目一覧」を参照してください。

8 履修登録の相談等

履修登録の相談等は、教育支援課で行っていますので、学生証を持参し、相談に来てください。問い合わせ内容によっては、電話やメールではお答えできない場合があります。

また、履修登録期間に合わせて、対面での相談期間を設けていますので、利用してください。

なお、休学、留学することで履修計画に関する不明な点がある場合は、早めに相談してください。

9 履修登録の確認

誤った授業科目が登録されていたり、履修エラーにより登録ができていなかったりすることがあります。履修登録時には必ず履修エラーがない状態で登録を完了してください。

なお、履修登録を完了すると本学発行の Gmail に「完了メール」が届きますので、メールに記載されている登録内容等を確認し、保管しておいてください。また、**履修登録完了後に、Kyoto Gaidai UNIPA の「学生時間割表」に、登録した科目が間違いなく反映されているかを必ず確認してください。**

10 履修登録科目の取消

履修登録し授業に出席した後に履修を中止する場合は、**必修科目（ゼミナール科目を含む）および抽選科目を除き**、各学期の所定の期間に Kyoto Gaidai UNIPA の「履修登録」で、履修の取消をすることができます（卒業年次は卒業要件を満たす範囲内）。ただし、別の授業科目の追加や、履修を取り消した授業科目の再登録を当該の学期中に行うことはできません。

また、履修登録科目の取消が完了すると本学発行の Gmail に「完了メール」が届きますので、メールに記載されている登録内容等を確認し、保管するとともに、Kyoto Gaidai UNIPA の「学生時間表」に、取消内容が間違いなく反映されているかを必ず確認してください。

なお、履修を取り消した授業科目は、GPA を算出する対象科目とはなりません。

11 その他の注意事項

- ・所定の期間以外に履修登録の追加や変更は認めません。
- ・履修登録を行っていない授業科目の受講・受験は認めません（履修エラーに該当する授業科目を含む）。
- ・同一学期の同一曜講時に複数科目の登録はできません。
- ・単位を修得済みの授業科目は登録できません。
- ・授業担当者が異なっても同一科目を複数登録することはできません。

科目区分毎の目標

グローバルスタディーズ学科

学部基幹科目		「PAX MUNDI（世界の平和）」が直面する課題を理解し、科学としての「多文化共生実現力」の基礎を身につけることを目標とします。
専門科目	必修	持続可能な「PAX MUNDI（世界の平和）」の構造を理解するための社会科学の理論と実践及びデータ科学の基礎を修得することを目標とします。
	選択	卒業後の進路を見据えた3つの領域を軸に、多文化共生実現力を支える社会科学への深い理解と最新のデジタル技術の修得を目標とします。
ゼミナール科目		「PAX MUNDI（世界の平和）」が直面する課題に、一人ひとりが社会科学の理論と実践に裏付けられた解決策を複言語・デジタル技術というツールを用いて京都から世界に発信することを目標とします。
全学共通科目	外国語科目	英語以外の外国語を学ぶことにより、グローバルに活動するための複言語運用能力を育成し、多文化への理解を深め、複文化主義にもとづく多様性を養うことを目標とします。
	教養科目	広くグローバルな舞台で活躍し得る幅広い知識と公正で的確な判断力を身につけることを目標とします。

グローバル観光学科

学部基幹科目		「PAX MUNDI（世界の平和）」が直面する課題を理解し、科学としての「多文化共生実現力」の基礎を身につけることを目標とします。
専門科目	必修	持続可能な「PAX MUNDI（世界の平和）」の構造を理解するための社会科学の理論と実践及びデータ科学の基礎を修得することを目標とします。
	展開	学際的な観光学の幅広い素養を育むことを目標とします。また、卒業後の進路を見据えて、データ科学を基礎とする自分と社会の利益を両立させるビジネスや最新のデジタル技術、京都の本質について、体系的に学修することを目標とします。
	選択	世界平和の構造とそれに向けた協力のあり方、まちづくりの実践や新しい観光について、科学的に学ぶことを目標とします。
ゼミナール科目		「PAX MUNDI（世界の平和）」が直面する課題に、一人ひとりが社会科学の理論と実践に裏付けられた解決策を複言語・デジタル技術というツールを用いて京都から世界に発信することを目標とします。
全学共通科目	外国語科目	外国語を学ぶことにより、グローバルに活動するための複言語運用能力を育成し、多文化への理解を深め、複文化主義にもとづく多様性を養うことを目標とします。
	教養科目	広くグローバルな舞台で活躍し得る幅広い知識と公正で的確な判断力を身につけることを目標とします。

学部基幹科目・専門科目（必修・展開・選択）・ゼミナール科目

【グローバルスタディーズ学科・4月入学者用】

科目区分				1 年次				2 年次				3 年次				4 年次				卒業要件		
				春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期				
				授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	各区分
学部基幹科目				Global Engagement	2	Global Engagement and Peace	2	Community Engagement Workshop A	2	Community Engagement Workshop B	2									16	86	
				Introductory Seminar A	2	Introductory Seminar B	2															
				Digital Literacy	2	Digital Citizenship and Engagement	2															
必修				Model United Nations	2	Introduction to Economics	2	Statistics	2										22			
				Academic Writing I	2	Academic Writing II	2	Writing for Research	2													
				Global Communication A (週 2 回授業)	4	Global Communication B (週 2 回授業)	4	Contemporary Global History	2													
専門科目	選択領域	Sustainability and International Cooperation	Extensive Reading for World Knowledge	2	Gender and Society	2	Global Diplomacy Simulation	2	International Organizations	2	Human Migration and Displacement	2	Japan-US Relations	2					48			
			International Relations	2	Sustainable Development	2	Conflict Resolution	2	Political Philosophy	2	Security Studies	2	International Politics and East Asia	2								
							Energy Systems and Climate Change	2	Energy Transition for Sustainability	2	International Development Cooperation	2	International Human Rights and Humanitarian Law	2								
							Environmental Policy	2	Urban Policy	2	Topics in Sustainability and International Cooperation C	2										
		Global Business and Economics				Topics in Sustainability and International Cooperation A	2	Topics in Sustainability and International Cooperation B	2													
			Global Business Management	2	Financial Accounting	2	Corporate Social Responsibility	2	Business Finance	2	Global Negotiation	2	Labor, Management and Technology	2								
			Mathematics for Economics and Business	2	Business Practicum	2	Marketing	2	Organizational Management	2	International Trade	2	Economics of Development	2								
							Microeconomics	2	Macroeconomics	2	Topics in Business and Economics B	2	Topics in Business and Economics C	2								
		Digital Transformation and Change Leadership				Topics in Business and Economics A	2	Japanese Companies and the Global Business Environment	2													
			Presentation and Digital Storytelling	2	Presentation Design	2	Design Thinking	2	Video Production Workshop	2	Kyoto Video Game Industry	2	Digital Business Strategy	2								
			Digital Communication	2	Digital Design and Publishing	2	Law in the Digital Age	2	Creativity and Innovation	2	Future Technologies	2	Brand Communications	2								
							Gender and Leadership	2	Values Based Leadership	2	Topics in Digital Transformation and Leadership B	2	Topics in Digital Transformation and Leadership C	2								
							Immersive Technology Workshop	2	Game, Interaction, and Experience Design	2												
		共通																				
		再入学時認定科目																		4		
																				1~20		
																				1~48		
ゼミナール科目										Global Studies Seminar I	2	Global Studies Seminar II	2	Global Studies Seminar III	2	Global Studies Seminar IV	2	8	8			

履修上の注意事項

- 学部基幹科目（必修）**

①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、16単位を修得してください。
- 専門科目（必修）**

①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、22単位を修得してください。

②「Academic Writing II」を履修するには、「Academic Writing I」の単位を修得しておく必要があります。

③「週 2 回授業」は必ず 2 回とも履修してください。
- 専門科目（選択）**

①配当年次に従い、3 つの領域から選択して履修し、計48単位を修得してください。

②「Community Engagement」は、グローバルスタディーズ学科が認めた活動を行った場合に単位認定する科目です。「Community Engagement」の種類・内容等については、119ページを参照してください。

③グローバル観光学科生も履修できますが、修得した単位は自由選択に算入されます。
- ゼミナール科目**

①グローバルスタディーズ学科生は、上記のゼミを履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、2 年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。

②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、8 単位を修得してください。

③ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。
- ④ゼミⅠ～Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。

⑤ゼミⅣでは、卒業選択（卒業論文または卒業研究）を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択（卒業論文または卒業研究）を含めて行います。

【グローバルスタディーズ学科・9月入学者用】※秋学期から始まります。

科目区分				1 年次				2 年次				3 年次				4 年次				卒業要件	
				秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期			
				授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
学部基幹科目				Global Engagement and Peace	2	Global Engagement	2	Community Engagement Workshop B	2	Community Engagement Workshop A	2									16	86
				Introductory Seminar B	2	Introductory Seminar A	2														
				Digital Citizenship and Engagement	2	Digital Literacy	2														
専門科目	必修			Introduction to Economics	2	Model United Nations	2			Statistics	2								22		
				Academic Writing I	2	Academic Writing II	2	Writing for Research	2												
				Global Communication B (週 2 回授業)	4	Global Communication A (週 2 回授業)	4			Contemporary Global History	2										
	選択	領域	Sustainability and International Cooperation	Gender and Society	2	Extensive Reading for World Knowledge	2	International Organizations	2	Global Diplomacy Simulation	2	Japan-US Relations	2	Human Migration and Displacement	2				48		
				Sustainable Development	2	International Relations	2	Political Philosophy	2	Conflict Resolution	2	International Politics and East Asia	2	Security Studies	2						
								Energy Transition for Sustainability	2	Energy Systems and Climate Change	2	International Human Rights and Humanitarian Law	2	International Development Cooperation	2						
								Urban Policy	2	Environmental Policy	2			Topics in Sustainability and International Cooperation C	2						
								Topics in Sustainability and International Cooperation B	2	Topics in Sustainability and International Cooperation A	2										
		Global Business and Economics	Financial Accounting	2	Global Business Management	2	Business Finance	2	Corporate Social Responsibility	2	Labor, Management and Technology	2	Global Negotiation	2							
			Business Practicum	2	Mathematics for Economics and Business	2	Organizational Management	2	Marketing	2	Economics of Development	2	International Trade	2							
							Macroeconomics	2	Microeconomics	2	Topics in Business and Economics C	2	Topics in Business and Economics B	2							
							Japanese Companies and the Global Business Environment	2	Topics in Business and Economics A	2											
		Digital Transformation and Change Leadership	Presentation Design	2	Presentation and Digital Storytelling	2	Video Production Workshop	2	Design Thinking	2	Digital Business Strategy	2	Kyoto Video Game Industry	2							
			Digital Design and Publishing	2	Digital Communication	2	Creativity and Innovation	2	Law in the Digital Age	2	Brand Communications	2	Future Technologies	2							
							Values Based Leadership	2	Gender and Leadership	2	Topics in Digital Transformation and Leadership C	2	Topics in Digital Transformation and Leadership B	2							
							Game, Interaction, and Experience Design	2	Immersive Technology Workshop	2											
									Topics in Digital Transformation and Leadership A	2											
	共通					Community Engagement														4	
		再入学時認定科目																		1～48	
ゼミナール科目												Global Studies Seminar I	2	Global Studies Seminar II	2	Global Studies Seminar III	2	Global Studies Seminar IV	2	8	8

 履修上の注意事項

- 学部基幹科目(必修)**

①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、16単位を修得してください。
- 専門科目(必修)**

①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、22単位を修得してください。

②「Academic Writing II」を履修するには、「Academic Writing I」の単位を修得しておく必要があります。

※「Academic Writing I」「Academic Writing II」「Writing for Research」は、9月入学者用の科目を履修してください。

③「週 2 回授業」は必ず 2 回とも履修してください。
- 専門科目(選択)**

①配当年次に従い、3 つの領域から選択して履修し、計48単位を修得してください。

②「Community Engagement」は、グローバルスタディーズ学科が認めた活動を行った場合に単位認定する科目です。「Community Engagement」の種類・内容等については、119ページを参照してください。

③グローバル観光学科生が履修を希望する場合は、「4月入学者用」の配当年次を参照し、履修してください。ただし、修得した単位は自由選択に算入されます。
- ゼミナール科目**

①グローバルスタディーズ学科生は、上記のゼミを履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、2 年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。

②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、8 単位を修得してください。

③ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。
- ④ゼミⅠ～Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。

⑤ゼミⅣでは、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を含めて行います。

【グローバル観光学科】

科目区分		1 年次				2 年次				3 年次				4 年次				卒業要件	
		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期			
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	各区分	合計
学部基幹科目		Global Engagement	2	Global Engagement and Peace	2	Community Engagement Workshop A	2	Community Engagement Workshop B	2								16	86	
		Introductory Seminar A	2	Introductory Seminar B	2														
		Digital Literacy	2	Digital Citizenship and Engagement	2														
専門科目	必修	社会学	2	フィールドワーク論	2	観光関連法規概論	2										28		
		データ科学Ⅰ	2	データ科学Ⅱ	2	観光メディア概論	2												
		京都の文化と歴史Ⅰ	2	京都の文化と歴史Ⅱ	2	観光経営概論	2												
		経営学	2	会計学	2	行動科学	2												
		観光学A	2	経済学	2														
	展開	歴史学	2	観光学B	2	京都文化特論Ⅰ	2	京都文化特論Ⅱ	2	京都実地踏査論	2	京都世相研究 (PBL)	2				28		
		地理学	2	社会情報学	2	ジェンダー論	2	観光マーケティング論	2	デジタルアーカイブ論	2	現代京都論	2						
				文化人類学	2	Immersive Technology Workshop	2	観光行政学	2	観光組織行動論	2								
				哲学	2			Game, Interaction, and Experience Design	2	グローバルツーリズム論	2								
										サスティナブルツーリズム	2								
										観光ビジネス心理	2								
																			1～14
		再入学時認定科目																	1～28
	選択					公共政策論	2	国際貢献論	2	旅行事業論	2	宿泊事業論	2				14		
								観光まちづくり論	2	観光まちづくり実践 (PBL)	2	ニューツーリズムB	2						
										ニューツーリズムA	2								
										Presentation Skills for Tourism	2								
		Community Engagement																	4
																			1～4
		再入学時認定科目																	1～14
	ゼミナール科目	日本語を母語とする学生用	Basic English for Tourism	2	Reading for Tourism	2	Business Writing for Tourism	2	Communication Skills for Tourism	2									
		日本語を母語としない学生用					社会科学のための日本語A	2	社会科学のための日本語B	2	社会科学のための日本語C	2	社会科学のための日本語D	2					
									専門ゼミⅠ	2	専門ゼミⅡ	2	専門ゼミⅢ	2	専門ゼミⅣ	2	8	8	

 履修上の注意事項

- 学部基幹科目(必修)**

①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、16単位を修得してください。
- 専門科目(必修)**

①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、28単位を修得してください。

②「データ科学Ⅱ」を履修するには、「データ科学Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

③「京都の文化と歴史Ⅱ」を履修するには、「京都の文化と歴史Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
- 専門科目(展開)**

①配当年次に従い、選択して履修し、計28単位を修得してください。

②「京都文化特論Ⅱ」を履修するには、「京都文化特論Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

③グローバルスタディーズ学科生も履修できますが、修得した単位は自由選択に算入されます。
- 専門科目(選択)**

①配当年次に従い、選択して履修し、計14単位を修得してください。

②「Basic English for Tourism」「Reading for Tourism」「Business Writing for Tourism」「Communication Skills for Tourism」は、日本語を母語とする人を履修対象者とし、クラス(担当者)を指定します。

③「社会科学のための日本語A」「社会科学のための日本語B」「社会科学のための日本語C」「社会科学のための日本語D」は、本学が指定する「日本語能力診断テスト」の結果により、日本語運用能力の向上が必要であると本学が判断した国際貢献学部の「日本語を母語としない学生」を履修対象者とします。

④「Presentaion Skills for Tourism」を履修するには、GTEC(LR)270点以上、または、TOEIC(L&R)480点以上が必要です。

⑤「Community Engagement」は、グローバル観光学科が認めた活動を行った場合に単位認定する科目です。「Community Engagement」の種類・内容等については、119ページを参照してください。
- ⑥グローバルスタディーズ学科生も履修できますが、修得した単位は自由選択に算入されます。
- ゼミナール科目**

①グローバル観光学科生は、上記のゼミを履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、2年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。

②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、8単位を修得してください。

③ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。

④ゼミⅠ～Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。

⑤ゼミⅣでは、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を含めて行います。

全学共通科目 (外国語科目)

[外国語学部・国際貢献学部 共通]

科目区分	1 年次				2 年次				3 年次				4 年次				卒業要件
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		合計
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
全学共通科目 (外国語科目)			英語Ⅰ (週2回授業)	4	英語Ⅰ (週2回授業)	4	英語Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2					4
					英語Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2							
			スペイン語Ⅰ (週2回授業)	4	スペイン語Ⅰ (週2回授業)	4	スペイン語Ⅱ	2									
					スペイン語Ⅱ	2											
			フランス語Ⅰ (週2回授業)	4	フランス語Ⅰ (週2回授業)	4	フランス語Ⅱ	2									
					フランス語Ⅱ	2											
			ドイツ語Ⅰ (週2回授業)	4	ドイツ語Ⅰ (週2回授業)	4	ドイツ語Ⅱ	2									
					ドイツ語Ⅱ	2											
			ポルトガル語Ⅰ (週2回授業)	4	ポルトガル語Ⅰ (週2回授業)	4	ポルトガル語Ⅱ	2									
					ポルトガル語Ⅱ	2											
			中国語Ⅰ (週2回授業)	4	中国語Ⅰ (週2回授業)	4	中国語Ⅱ	2									
					中国語Ⅱ	2											
			イタリア語Ⅰ (週2回授業)	4	イタリア語Ⅰ (週2回授業)	4	イタリア語Ⅱ	2									
					イタリア語Ⅱ	2											
			ロシア語Ⅰ (週2回授業)	4	ロシア語Ⅰ (週2回授業)	4	ロシア語Ⅱ	2									
					ロシア語Ⅱ	2											
			コリア語Ⅰ (週2回授業)	4	コリア語Ⅰ (週2回授業)	4	コリア語Ⅱ	2									
					コリア語Ⅱ	2											
	日本語を母語としない学生用		日本語A (週2回授業)	4	日本語A (週2回授業)	4											
			日本語B (週2回授業)	4	日本語B (週2回授業)	4											
			日本語C (週2回授業)	4	日本語C (週2回授業)	4											
			日本語D (週2回授業)	4	日本語D (週2回授業)	4											
			日本語E (週2回授業)	4	日本語E (週2回授業)	4											
			日本語F (週2回授業)	4	日本語F (週2回授業)	4											
			日本語G (週2回授業)	4	日本語H (週2回授業)	4											
			日本語J (週2回授業)	4													



履修上の注意事項

①グローバルスタディーズ学科生は「英語」および母語以外の言語を選択し、また、グローバル観光学科生は母語以外の言語を選択し、配当年次に従い、4単位を修得してください。ただし、「日本語A～J」は、本学が指定する「日本語能力診断テスト」の結果により、日本語運用能力の向上が必要であると本学が判断した「日本語を母語としない学生」を履修対象者としします。また、「日本語J」は日本語学科生のみを履修対象者としします。

②1年次生は春学期の所定の期間に履修を希望する言語の申請を行ってください。抽選のうえ、クラス(担当者)を指定します。2年次以降も、学期ごとに異なる言語の履修希望を申請することもできます。ただし、「日本語A～J」については、上記①の学生を対象に、レベルに応じて、1年次春学期に履修するクラス(担当者)を指定しますので、指定された人は必ず履修してください。

なお、グローバルスタディーズ学科の9月入学者は上記春学期を秋学期に置き換えてください。

③「週2回授業」は必ず2回とも履修してください。

④「英語Ⅱ」を履修するには、「英語Ⅰ」の単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。

⑤「スペイン語Ⅱ」を履修するには、「スペイン語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑥「フランス語Ⅱ」を履修するには、「フランス語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑦「ドイツ語Ⅱ」を履修するには、「ドイツ語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑧「ポルトガル語Ⅱ」を履修するには、「ポルトガル語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑨「中国語Ⅱ」を履修するには、「中国語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑩「イタリア語Ⅱ」を履修するには、「イタリア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑪「ロシア語Ⅱ」を履修するには、「ロシア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑫「コリア語Ⅱ」を履修するには、「コリア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑬「日本語G」「日本語H」「日本語J」を除く授業科目はすべて春・秋学期に開講します。

全学共通科目 (教養科目)

[外国語学部・国際貢献学部 共通]

科目区分		1 年次				2 年次				3 年次				4 年次			
		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期	
	領域	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
全学共通科目 (教養科目)	ビジネス・ キャリア	キャリアベーシック	2			キャリア形成A	2	キャリア形成B	2	コミュニティ通訳特論Ⅰ	2	コミュニティ通訳特論Ⅱ (英語)	2				
				経営学入門	2	経営学応用A	2	経営学応用B	2			コミュニティ通訳特論Ⅱ (スペイン語)	2				
				経済学入門	2	経済学応用	2					コミュニティ通訳特論Ⅱ (ポルトガル語)	2				
				会計学入門	2	特殊研究B (企業からの寄付講座)	2					コミュニティ通訳特論Ⅱ (中国語)	2				
				Basic Business Administration	2	Applied Business Administration	2					コミュニティ通訳特論Ⅱ (ロシア語)	2				
				Basic Economics	2	Applied Economics	2										
	サイエンス・ テクノロジー			環境論A	2	環境論B	2										
				メディア論	2	メディアリテラシー論	2										
				情報技術の実践	2	防災の科学	2										
				キャリアのための数学入門	2	数的理解	2										
				データ科学入門	2	データ科学応用	2										
						Environmental Issues	2	Media in Japan	2	Advanced Topics in Emerging Technology	2						
								eSports Fundamentals	2								
	教育	生涯学習概論	2	青少年の行動と心理	2	コミュニケーションの心理	2	臨床心理学	2								
		多文化理解と人権	2	多文化理解と人権	2	コーチングの理論	2	コーチングの実践	2								
		人権と教育	2	人権と教育	2	リーダーシップ概論	2	教育の課題	2								
	政治・平和			国際関係論入門	2	国際関係論応用	2	国際平和協力論	2								
				政治学入門	2	政治学応用	2	国際法	2								
				法学入門	2	言語政策	2	平和・安全保障論	2								
				日本国憲法	2	国際連合論	2										
						模擬国連会議 (PBL)	2										
				言語と平和B	2	グローバル化とジェンダー	2										
	京都・日本			多文化間コミュニケーション	2	比較文化論	2	特殊研究C (地域連携研究)	2								
		京都文化論A	2	京都文化論B	2	京都の伝統文化A	2	京都の伝統文化B	2								
		Japanese Geography	2	Japanese History and Culture	2	Current Kyoto and Tradition	2	Destination Kyoto	2								
						Japanese Philosophy	2	Religions in Japan	2								
						Japan Pop Cultures	2	Japan seen through Animations	2								
						もっと京都プロジェクトA	2	もっと京都プロジェクトB	2								
	国際社会	世界の歴史と文化A-1 (日本、アジア、アフリカ、オセアニア)	2	世界の歴史と文化A-2 (日本、アジア、アフリカ、オセアニア)	2	世界の歴史と文化B-1 (ヨーロッパ、南北アメリカ)	2	世界の歴史と文化B-2 (ヨーロッパ、南北アメリカ)	2								
				特殊研究A (異文化理解研究)	2	特殊研究D (グローバル研究)	2	世界文化と多様性	2								
						Intercultural Communication in Practice A	2	Intercultural Communication in Practice B	2								

科目区分		1 年次				2 年次				3 年次				4 年次					
		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期			
	領域	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位		
全学共通科目 (教養科目)	言語	言語の仕組み	2	言語の成り立ち	2			日英対照言語学	2										
				音声学入門	2			日中対照言語学	2										
		日本語学入門A	2	日本語学入門B	2			バイリンガルの言語形成	2										
		日本語教育入門A	2	日本語教育入門B	2	2言語同時学習 (ES) A	2	2言語同時学習 (ES) B	2										
						2言語同時学習 (EF) A	2	2言語同時学習 (EF) B	2										
						2言語同時学習 (EG) A	2	2言語同時学習 (EG) B	2										
						2言語同時学習 (EP) A	2	2言語同時学習 (EP) B	2										
						2言語同時学習 (EC) A	2	2言語同時学習 (EC) B	2										
						2言語同時学習 (EI) A	2	2言語同時学習 (EI) B	2										
						2言語同時学習 (ER) A	2	2言語同時学習 (ER) B	2										
						アラビア語Ⅰ	2	アラビア語Ⅱ	2										
						インド語Ⅰ	2	インド語Ⅱ	2										
						インドネシア語Ⅰ	2	インドネシア語Ⅱ	2										
						オランダ語Ⅰ	2	オランダ語Ⅱ	2										
						ギリシア語Ⅰ	2	ギリシア語Ⅱ	2										
						スワヒリ語Ⅰ	2	スワヒリ語Ⅱ	2										
						タイ語Ⅰ	2	タイ語Ⅱ	2										
						トルコ語Ⅰ	2	トルコ語Ⅱ	2										
						ベトナム語Ⅰ	2	ベトナム語Ⅱ	2										
						ラテン語Ⅰ	2	ラテン語Ⅱ	2										
						日本語のスキルA	2	日本語のスキルE	2										
						日本語のスキルB	2	日本語のスキルF	2										
						日本語のスキルC	2	日本語のスキルG	2										
						日本語のスキルD	2	日本語のスキルH	2										
		日本語を 母語としない 学生用					ビジネス日本語A	2	ビジネス日本語B	2									
							日本語能力試験N1対策A	2	日本語能力試験N1対策B	2									
		人文	現代社会の見方	2	現代文化論	2	哲学A	2	哲学B	2									
	地理学入門		2	宗教学入門	2	美学芸術学	2	倫理学	2										
						考古学	2	ミュージアムマネジメント (PBL)	2										
						人類学	2	美術史	2										
		スポーツ	健康科学の実践と理論	2	健康科学の実践と理論	2	テクニカルスポーツA	2	テクニカルスポーツB	2									
						スポーツと国際交流	2	スポーツ政策	2	スポーツとまちづくり (PBL)	2								
						シーズンスポーツ	2	シーズンスポーツ	2										
		共通	科目等履修科目															1～12	
					国内・海外留学認定科目 (英米語学科通常コース、スペイン語学科、フランス語学科、ドイツ語学科、ブラジルポルトガル語学科、中国語学科、日本語学科、イタリア語学科、ロシア語学科、グローバルスタディーズ学科、グローバル観光学科)													1～48	
														国内・海外留学認定科目 (英米語学科ダイヤモンドコース)			1～48		
						編入学時認定科目													1～28
						短期留学													1～4
						キャリア形成支援プログラム													1～4
						E-Learning (Tutorial Studies)													1
								大学コンソーシアム京都科目											1～12
										教育支援活動								1～2	
																外国語技能検定試験 (専攻語以外)	2		
																情報処理検定試験	2		
				世界一周！異文化体験のススメ													2		
				再入学時認定科目															1～28

履修上の注意事項

- ①「コミュニティ通訳特論Ⅱ」を履修するには、「コミュニティ通訳特論Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。また、「コミュニティ通訳特論Ⅱ (英語)」を履修するには英米語学科の選択科目におけるアドバンスト科目の履修基準を、「コミュニティ通訳特論Ⅱ (スペイン語)」を履修するにはスペイン語学科の選択科目におけるインターミディエイト科目の履修基準を、「コミュニティ通訳特論Ⅱ (ポルトガル語)」を履修するにはブラジルポルトガル語学科の選択科目におけるインターミディエイト科目の履修基準を、「コミュニティ通訳特論Ⅱ (中国語)」を履修するには中国語学科の選択科目におけるインターミディエイト科目の履修基準を、それぞれ満たしておく必要があります。「コミュニティ通訳特論Ⅱ (ロシア語)」については、ロシア語学科生は「総合ロシア語Ⅱ」の単位修得、ロシア語学科以外の学科の学生は「ロシア語能力検定試験 3級」を取得し、ロシア語学科の選択科目におけるインターミディエイト科目の履修基準を満たしておく必要があります。

②「アラビア語Ⅱ」を履修するには、「アラビア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

③「インド語Ⅱ」を履修するには、「インド語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

④「インドネシア語Ⅱ」を履修するには、「インドネシア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑤「オランダ語Ⅱ」を履修するには、「オランダ語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑥「ギリシア語Ⅱ」を履修するには、「ギリシア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑦「スワヒリ語Ⅱ」を履修するには、「スワヒリ語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑧「タイ語Ⅱ」を履修するには、「タイ語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑨「トルコ語Ⅱ」を履修するには、「トルコ語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑩「ベトナム語Ⅱ」を履修するには、「ベトナム語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑪「ラテン語Ⅱ」を履修するには、「ラテン語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

⑫「ビジネス日本語A」「ビジネス日本語B」「日本語能力試験N1対策A」「日本語能力試験N1対策B」は、本学が指定する「日本語能力診断テスト」の結果により、日本語運用能力の向上が必要であると本学が判断した「日本語を母語としない学生」を履修対象者としています。

⑬「テクニカルスポーツA・B」「シーズンスポーツ (有料:認定科目)」で修得した単位は、合わせて4単位までを全学共通科目の卒業に必要な単位に算入します。

⑭「テクニカルスポーツA・B」「シーズンスポーツ (有料:認定科目)」を履修するには、「健康科学の実践と理論」の単位を修得しておく必要があります。

ゼミナール科目

【ゼミナール科目とは】

国際貢献学部では、ディプロマポリシーに掲げる「多様な言語及びデジタル技術の高度な運用能力を身につけ、グローバル社会で活躍するにふさわしい見識、幅広い視野並びに長期的な洞察に基づいて意思決定と行動ができる能力を身につけ、世界の平和に貢献できる素地を備えた人材を育成」という理念のもと、4年間での学修の集大成としてゼミナール科目（必修）を設置しています。

ゼミナール科目では、3年次から2年間、担当教員の指導およびゼミ生同士の共同作業を通じて、自らの関心がある学問分野における専門知識や研究方法等の理解を深め、最終的には自ら設定した研究テーマにもとづく卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）を完成させます。具体的には、文献講読や資料の精読、情報収集、調査、分析、フィールドワーク等を行い、研究報告や他のゼミ生との討論を重ねるなど、より質の高い卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）を目指します。

したがって、1年次から、いずれどのようなゼミに入り、いかなる研究テーマを設定するかをイメージしつつ、4年間の学びの計画を立てることが重要です。そして、積極的にゼミの活動に参加していく姿勢が強く求められます。

これらのゼミでの活動を通じて、ディプロマポリシーに掲げる①社会科学の素養に基づく、高度な語学力とデジタル技術運用能力、②社会性、対人関係の向上に資するコミュニケーション力、③京都を中心とした日本及び世界各国の社会と文化の理解に基づく多文化共生実現力など、社会で活躍するうえで役立つ様々な能力を養い、将来豊かな人生を送るための糧とします。

なお、卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）は、「〇〇ゼミⅣ」の授業と一体的に評価をします。

【履修するゼミの選考・登録の流れ】

国際貢献学部を卒業するためには、所属学科のゼミナール科目のⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを履修して単位を修得し、卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）作成に必要な研究指導を受け、卒業論文または卒業研究を提出し、合格しなければなりません。

ゼミナール科目は3年次から登録しますが、研究指導に適正な人数を保つために選考を行いますので、以下のとおり手続きを行ってください。

※ゼミナール科目は3年次から配当されているため、選考は2年次秋学期に行います。

選考の対象は、休学・留学中の学生を含むすべての2年次生です。

2年次	9～11月	各ゼミの内容を Kyoto Gaidai UNIPA の「ゼミ申請システム」で確認し、所定の期間に志望ゼミを申請してください。志望者が多いゼミについては、志望理由の内容や面談等により選考を行います。 ※ゼミ選考のスケジュール等の詳細については、Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせします。
	12～1月	選考結果を Kyoto Gaidai UNIPA の「ゼミ申請システム」で発表します。
3年次	4月	発表内容に従いゼミを履修登録してください。

ゼミナール科目履修上の注意

- ・選考後はゼミの変更はできません。ゼミはⅠ→Ⅱ→Ⅲ→Ⅳの順に履修し、単位を修得してください。Ⅱを履修するにはⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。
- ・なお、ゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳは、春学期・秋学期の各学期に開講します。
- ・所定のゼミ申請を行わずゼミが決まっていない人は、履修登録開始日までに教育支援課へ申し出てください。

【卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の提出資格】

ゼミⅣを履修している場合は、当該学期の卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の提出資格がありますので、所定の期間に提出してください。

＜留学（派遣留学・認定留学・国内交換留学）の場合＞

ゼミⅣを履修する学期に留学（派遣留学・認定留学・国内交換留学）をする場合においても、留学中に担当教員から指導を受けたうえで、所定の期間に卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）を提出することができます。

なお、ゼミⅣの単位については、担当教員が提出された卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の評価を「合格」とした場合に限り認定します。

したがって、留学中も必ずゼミ担当者と連絡をとり指導を受けてください。

【卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の提出期間】

3月卒業	12月13日～20日
9月卒業	7月 1日～20日

※提出期限が日・祝日の場合は翌日を期限とします。

※提出期限に遅れた場合は受け付けません。ただし、特別な理由（追試験に相当する理由）がある場合は、以下のとおり期限を延長する場合があります。なお、手続きは追試験に準じます。

（延長が認められた場合の提出期日）

3月卒業	翌年の1月15日
9月卒業	8月5日

【卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の提出方法】

Kyoto Gaidai UNIPA の「マイステップ登録」で、成果物ファイルをアップロードしてください。詳細は、3月卒業予定者へは11月に、9月卒業予定者へは6月に、Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせします。

【卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）作成にあたっての注意事項】

(1) 提出期日等を厳守すること

所定の期日までに所定の提出方法により提出しなければなりません。表紙等の体裁や文字数等は、学生便覧記載の「様式」を参照してください。

(2) 提出前にゼミ担当教員の指導を受けること

卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）のテーマは、担当教員と相談のうえ決定し、変更する場合も事前に相談しなければなりません。また、担当教員の指示にもとづき、研究計画書の提出や中間・完成報告等が必要となります。

ゼミ担当教員の指導を経ずに提出された卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）は評価の対象となりません。また、ゼミの欠席が著しく多い人や担当教員の指導や指示に従わない人が提出した場合も評価の対象とならない可能性があります。

なお、卒業論文は論文形式をとる成果物、卒業研究は論文形式をとらない成果物ですが、それぞれの様式にしたがって作成してください。

(3) 剽窃行為はしないこと

剽窃（盗用）行為が判明し、教授会において不正行為を行ったと判定した場合、不正行為の内容によっては当該科目（ゼミⅣ）の成績評価を失格とします。そのほか、参考文献の引用方法等については、担当教員の指示にしたがってください。

(4) 卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）を提出しても必ず合格とはならないこと

卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）は提出すれば必ず単位を修得できるというわけではありません。合格の水準に達していなければ不合格になります。

【卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の評価・評価基準】

卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の評価・評価基準は以下のとおりとします。

(1) 卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の評価

①卒業論文の評価

論文審査および口述試問により評価します。

②卒業研究の評価

中間報告（発表）、卒業研究および口頭発表により評価します。

(2) 評価基準

卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の評価にあたっては、以下の項目を基準とします。

①テーマの設定および研究方法が先行研究を踏まえている。

②研究資料およびデータが的確に収集・処理されている。

③研究資料およびデータの分析・解釈が的確であり、かつ、表現・表記が論理的に展開し、論旨に明確性と一貫性がある。

グローバルスタディーズ学科

① 卒業論文【様式】

1. 本文の使用言語
英語

2. 本文の書式
パソコンを使用し、以下のとおり設定してください。20 枚以上とします。

判の大きさ	A4判
1 枚あたりの 文字数等	1 枚につき上下左右のマージンは、3cm を目安にし、 Times New Roman の 12 ポイント 26 行に設定。

3. ファイルの順序
以下の順序で一つのファイルにして提出してください。

- ①卒業論文題目
30 ワード以内での作成してください。
- ②内題・検索用キーワード
内題は 250 ワード以内、キーワードを5つ記載してください。
- ③論文要旨
担当教員の指示に従ってください。
- ④目次
担当教員の指示に従ってください。
- ⑤本文
- ⑥文献リスト・資料

② 卒業研究【様式】

1. 本文の使用言語
英語

2. 本文の書式
パソコンを使用し、以下のとおり設定してください。5 枚以上とします。
また、例外的にリポート形式以外で卒業研究を提出する場合は、事前に担当教員に相談し許可を得てください。

判の大きさ	A4判
1 枚あたりの 文字数等	1 枚につき上下左右のマージンは、3cm を目安にし、 Times New Roman の 12 ポイント 26 行に設定。 *図表や写真を組み入れる場合は、図表に記述される文字を、本文と同一ポイ ント程度に設定。

3. ファイルの順序
以下の順序で一つのファイルにして提出してください。

- ①卒業研究表紙（授業科目名、担当教員名、氏名、学籍番号）
- ②卒業研究タイトル・概要・キーワード
パソコンを使用し、英語（タイトルは 30 ワード以内、概要は 250 ワード以内、キーワードは5つ）で作成してください。
- ③本文

グローバル観光学科

1 卒業論文【様式】

1. 本文の使用言語

日本語または英語

2. 本文の書式

パソコンを使用し、以下のとおり設定してください。文字数は担当教員の指示にしたがってください。

判の大きさ	A4判
1枚あたりの 文字数等	英語では、1枚につき上下左右のマージンは、3cmを目安にし、 Times New Roman の 12 ポイント 26 行に設定。 日本語では、10.5 または 11 ポイントの文字の大きさを、 1枚につき 1 行 40 字（アルファベットは半角 80 字）30 行で、横書きに設定。

3. ファイルの順序

以下の順序で一つのファイルにして提出してください。

①卒業論文題目

②内題・検索用キーワード

③論文要旨

パソコンを使用し、日本語（A4用紙1～2枚・800～1,200字）で作成してください。

④目次

⑤本文

⑥文献リスト・資料

2 卒業研究【様式】

1. 本文の使用言語

日本語または英語

2. 本文の書式

パソコンを使用し、以下のとおり設定してください。文字数は担当教員の指示にしたがってください。

また、例外的にレポート形式以外で卒業研究を提出する場合は、事前に担当教員に相談し許可を得てください。

判の大きさ	A4判
1枚あたりの 文字数等	日本語では、10.5 または 11 ポイントの文字の大きさを、 1枚につき 1 行 40 字（アルファベットは半角 80 字）30 行で、横書きに設定。 英語では、1枚につき上下左右のマージンは、3cmを目安にし、 Times New Roman の 12 ポイント 26 行に設定。 *図表や写真を組み入れる場合は、図表に記述される文字を、本文と同一ポイント程度に設定。

3. ファイルの順序

以下の順序で一つのファイルにして提出してください。

①卒業研究表紙（授業科目名、担当教員名、氏名、学籍番号）

②卒業研究タイトル・概要・キーワード

パソコンを使用し、日本語（タイトルは 40 字以内、概要は 400 字以内、キーワードは 5 つ）で作成してください。

③本文

全学共通科目(教養科目)のスポーツ

健康科学の実践と理論



スポーツの実践と講義をととして身体運動能力や協調性を養い、健康の保持・増進に関する諸問題を学ぶことにより、良好な社会生活を営む力を身につけることを目標としています。授業は、実技種目・講義を行い、1週目の授業は武道体育館アリーナ（第2分館）にて授業概要説明を行いますので、写真（3×4cm）1枚と筆記用具を持参して必ず出席してください。詳しくは、シラバスを参照してください。

① 実技種目	バレーボール、バスケットボール、テニス、卓球、バドミントン、サッカー、フットサル、ニュースポーツ（9週実施）
② 講義	「講義概要説明」・「競技種目の理解」・「障害、外傷」・「スポーツ社会学」・「スポーツ生理学」・「測定と評価」・「まとめ」（5週実施）

※ニュースポーツについて

ペタンク、モルック、ユニホック、グラウンドゴルフ、キンボール、シャフルボード、スカットボール等のルール理解と実践を行います。

・本学が行う定期健康診断は、授業の一環として扱いますので、必ず受診してください。



テクニカルスポーツ

「健康科学の実践と理論」の単位修得者を対象に、より高いスポーツ技術の習得、戦術の理解、ゲームの運営や分析について学び、試合や大会の企画・運営ができる能力を各学習段階に応じて習得するコースです。1週目の授業は武道体育館アリーナ（第2分館）にて授業概要説明を行いますので、写真（3×4cm）1枚と筆記用具を持参して必ず出席してください。また、種目の詳細はシラバスで確認してください。

なお、「テクニカルスポーツA・B」「シーズンスポーツ（有料：認定科目）」で修得した単位は、合わせて4単位までを全学共通科目の卒業に必要な単位に算入します。

※ユニバーサルスポーツについて

ペタンク、モルック、ターゲットボードゴルフ、グラウンドゴルフ、ソフトバレーボール、ファミリーバドミントン、ユニホック、ゴールボール、卓球バレー、サウンドテーブルテニス、車いすバスケットボール等のルール理解と実践を行います。



シーズンスポーツ

「健康科学の実践と理論」の単位修得者を対象に、学外施設を使用した野外活動（集中実技授業）を実施する認定科目です（有料）。

なお、UNIPAの「掲示板」等でオリエンテーションの日時と場所をお知らせしますので、参加希望者は必ず出席してください。

種目名	時期	場所	期間	費用
マリンスポーツ	8月下旬	沖縄県恩納村	4日間	85,800円(予定) ※別途、交通費が必要
スノースポーツ	2月上旬	長野県桐池高原	5日間	57,000円(予定) ※別途、交通費が必要

※シーズンスポーツは単位認定科目です。

※テクニカルスポーツA（2単位）およびテクニカルスポーツB（2単位）の単位を既に修得している場合は、卒業要件外での単位認定となります。

国際貢献学部他学科の授業科目の履修

グローバルスタディーズ学科の人はグローバル観光学科の専門科目（展開および選択）を、グローバル観光学科の人はグローバルスタディーズ学科の専門科目（選択）を配当年次に従って履修することができ、修得した単位は自由選択に算入されます。ただし、履修条件が定められている授業科目を履修するには、当該履修条件を満たしておかなければなりません。

また、抽選等で登録者数を制限する場合は、当該授業科目が配当されている学科生を優先します。

なお、外国語学部に配当している授業科目は履修できません。

各種プログラム・ 制度等

I 本学の概要

II 学修する前に知っておくべきこと

III 京都外国語大学単位修得要領

外国語学部

国際貢献学部

各種プログラム・制度等

資格課程



コミュニティ通訳者育成プログラム

＜英米語学科ダイヤモンドコースを除く学部生対象＞

本学では、コミュニティ通訳に関する専門科目（英語・スペイン語・ポルトガル語・中国語・ロシア語）を設置しており、一定の条件を満たした場合、国際規格『ISO13611：2024 通訳－コミュニティ通訳のためのガイドライン』認証書を卒業時に授与します。

なお、このプログラムに参加する場合は、所定の登録手続きが必要です。



＜ コミュニティ通訳者育成プログラム ＞

〔コミュニティ通訳者とは〕

「コミュニティ通訳者」は、言語の障壁によって医療、教育、社会福祉、行政、司法などの公的サービスにアクセスできない人に対して通訳者として支援します。

国際規格では「コミュニティ利用の目的で、コミュニケーションの場面において異なる言語の話者間で起こる双方向の通訳」と定義され、観光客や被災者への通訳行為も含まれています。

主な活動としては、国内で医療、教育、社会福祉、行政、司法などの公的なサービスを提供する専門家と移民（外国人住民）を対象に、通訳者としてその間に入り、二者間で行われる対話コミュニケーションを互いの言語へ変換します。国際会議などで演説やスピーチを対象言語に変換する会議通訳とは異なります。

〔国際規格『ISO13611：2024 通訳－コミュニティ通訳のためのガイドライン』認証書とは〕

この認証書は世界中のISO加盟国で通用するもので、国際的な人材登録制度を利用する場合はボーダーレスなグローバルコールにも対応できる人材であるとの証明となります。

※本認証は個人が取得する認証です。また、有効期限は3年で、継続するには更新審査を必要とします。

登録言語	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語-英語 ・日本語-スペイン語 ・日本語-ポルトガル語 ・日本語-中国語 ・日本語-ロシア語
募集定員	入学年度・言語ごとに各25名 ※複数の言語に登録できます。 ※定員を超えた言語については選考（GPA（通算）の高ポイント順）
登録期間	2年次秋学期（3年次編入生は3年次秋学期）の所定の期間に登録してください。 ※登録に関する詳細は、Kyoto Gaidai UNIPAの「掲示板」でお知らせします。
登録資格	次の①～⑤のすべてに該当する者 ①正規の学部2年次生（2年次編入生は2年次生、3年次編入生は3年次生）であること ②本プログラム登録時から認定書授与まで本学の正規生として学部在学していること ③本プログラムの趣旨を理解し、積極的にプログラム完成を志す意思のあるもの ④誓約書のすべての内容を理解・了承していること ⑤登録言語が以下のレベルに達していること 英 語：アドバンスト スペイン語：インターミディエイト ポルトガル語：インターミディエイト 中 国 語：インターミディエイト ロ シ ア 語：インターミディエイト ※各言語レベルの履修基準については89ページを確認してください。
登録書類	①登録用紙（本学所定フォーム） ②登録する言語が上記「登録資格」に記載のレベルに達していることを証明する語学検定試験結果のスコア等のコピー ③誓約書（本学所定用紙）
修了要件	次の①～④のすべてを満たすこと ①「コミュニティ通訳特論Ⅰ（2単位：3年次春学期配当）」および「登録言語のコミュニティ通訳特論Ⅱ（2単位：3年次秋学期配当）」の単位を修得すること ②適正テスト（オンライン・90分）に合格（言語能力合格証：総合評価A（CEFR:B2相当）以上）すること ③本学が認める通訳業務等に伴う証明書を提出すること ④認定書交付申請書のためのオリエンテーションに参加すること
認証書	上記の修了要件を満たした学生を対象に、国際規格『ISO13611：2024通訳－コミュニティ通訳のためのガイドライン』認証書を卒業時に授与します。 ※認証書の取得は在学中に限るため、在学中に認証書を取得できなかった場合、卒業後に取得することはできません。

※プログラムの詳細は、オリエンテーションで説明します。

もっと京都プロジェクト

このプロジェクトは、本学の建学の精神“PAX MUNDI PER LINGUAS”（言語を通して世界の平和を）及び「異なる」を愛せる世界をつくるという理念の下、以下の目的を基軸として実施します。

※プロジェクトの詳細は、4月および10月に実施する説明会でお知らせします。説明会の日時・場所については、Kyoto Gaidai UNIPAの「掲示板」でお知らせします。

目的	<p>(1) 京都には日本の様々な伝統文化や芸術が数多く存在している。それらの座学を通しての知識だけでなく、「もっと京都プロジェクト」では、実際にそれらが行われている場所に出向き、体験をすることで、日本人学生は自文化への理解を深め、また、外国人留学生は異文化としての日本文化への理解を深める。</p> <p>(2) 「もっと京都プロジェクト」では、単なる体験だけで終わるのではなく、各自が学修している言語運用能力や経済学・経営学等の社会科学の知見を活用しつつ、様々なメディア（ウェブサイト、YouTube、SNS等）を通して発信することで、日本文化や京都文化に関する世界各国の人々の理解の促進に実践的に貢献する。</p>
内容	<p>(1) 京都の様々な伝統文化や芸術に関わるフィールドに出向き、実際に体験し、事業者や職人の方に、適切に取材や調査を行う能力を身につける。</p> <p>(2) フィールドでの取材や調査の成果を様々なメディアを用いて発信する能力を身につける。</p>
実施時期	春学期および秋学期
対象者	<p>参加申込時からプロジェクト終了まで、正規生として本学の学部に進学している2～4年次生</p> <p>※単位認定の関係上、卒業を予定している学期での参加は認めません。</p> <p>※選考を行います。</p>
単位認定	<p>所定の課程を修了した学生を対象に、全学共通科目（教養科目）「もっと京都プロジェクトA・B（2年次配当 / 各2単位）」として単位を認定し、卒業要件に算入します。</p>

Community Engagement

<国際貢献学部生対象>

Community Engagement は、国内・海外の地域社会（コミュニティ）との関わりの中から課題を発見して解決を試みる活動です。

まずは自分で問題を発見し、テーマを決めて調査・研究するための「活動計画書」を作成します。活動は計画書に基づき、所属学科の教員の指導のもと主体的に行います。事前事後学習も含めた活動を完遂することで、専門科目（選択）「Community Engagement」として単位を申請することができます。

対 象	国際貢献学部の2～4年次生 ※卒業を予定している学期での単位認定は行いません。	
開始から 単位認定 までの流れ	①事前学習 / 活動計画書作成（所属学科） ②活動計画届提出（国際部） ③活動 ④事後学習 / 報告会等（所属学科） ⑤単位認定申請書提出（国際部） ⑥単位認定 [専門科目（選択）Community Engagement 4単位]	
単位の認定	本人の申請に基づき、学習・活動時間に応じて、専門科目（選択）「Community Engagement」として4単位を上限に単位認定します。活動時間は任意としますが、事前事後学習も含めて4単位相当以上の活動時間を完遂する必要があります。 ※ Community Engagement 活動を留学中（派遣留学・認定留学・国内交換留学、短期留学、海外研修）に行った場合、各留学の単位認定の上限に含めず、別に単位認定を行います。 ※本学および本学以外の教育施設等で行われる授業科目やその他単位認定を伴うプログラムに組み込まれた活動は Community Engagement 活動時間に含めることはできません。 ※休学期間中の活動については、単位の認定を受けることができません。	
単位認定の申請	提出書類	単位認定申請書
	提出時期	各学期1回（6月頃、12月頃） ※提出時期の詳細は Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせします。 ※事後学習 / 報告会等まで全ての活動を完遂してから直近の提出時期に提出してください。
	提出場所	国際部

< CEについて >



< 申請に関する詳細 >

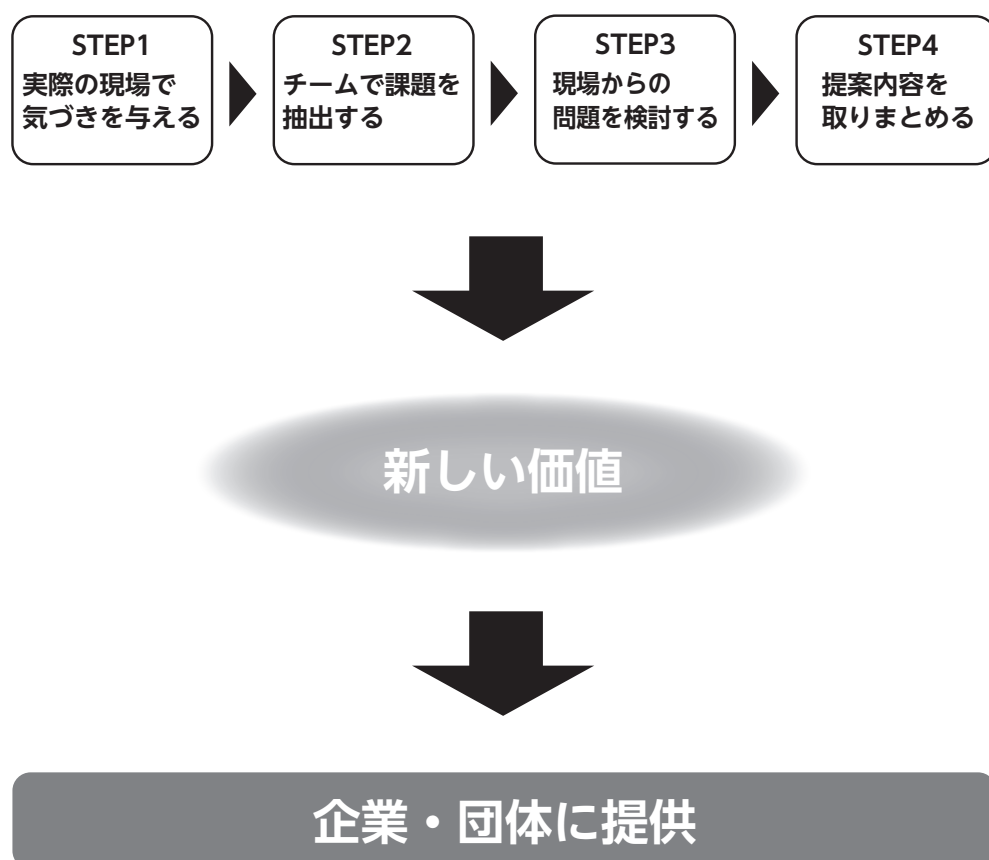
所定様式ダウンロードなど



PBL科目

PBL (Project-Based Learning) とは、「実社会の課題」を生きた教材として取り入れ、課題解決に取り組む学びのスタイルです。本学の PBL では、企業や団体等から与えられた課題に対し、学生各自が主体的に解決方法を考えることで、マーケティング力やプレゼンテーション力などを培います。授業は、グループワークを中心に進め、自己をアピールする力とともに協調性も養成し、将来社会で必要とされる多様な能力を身につけることができます。また、国際社会で活躍できるグローバル人材を育成するため、留学生と協働する体験型の科目を開講しているのも本学の特徴の一つです。本学で開講する PBL は科目名称の後に (PBL) を付記しています。

課題解決型学習プロセス



国内交換留学

<英米語学科ダイヤモンドコースを除く学部生対象>

国内交換留学とは、本学と国内交換留学協定を締結している神田外語大学と長崎外国語大学へ学内選考のうえ、学生を春学期から1学期間または2学期間派遣する制度です。

出願資格等の選考試験についての詳細は、本学ホームページで確認してください。

なお、留学先大学で修得した単位は、1学期間の場合26単位、2学期間の場合48単位を上限として本学の科目区分に準じて認定します。

単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」(46ページ)を参照してください。

科目等履修生制度

科目等履修生制度とは、以下のとおり所属している学部学科の正規課程以外の授業科目を履修できる制度です。

科目等履修生制度で修得した単位は、本人の申請に基づき以下のとおり認定します。単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」(46 ページ) を参照してください。

なお、出願の時期や履修可能な授業科目等の詳細は、学期初めに行うオリエンテーションや、Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」等で説明します。

内 容		単位認定	選考料	登録料	履修料
①	京都外国語短期大学の授業科目が履修できる制度	全学共通科目(教養科目)「科目等履修科目」として 12 単位を上限に単位を認定し、卒業要件に算入(ただし、グローバルスタディーズ学科は、全学共通科目(教養科目)の卒業要件単位(8 単位)を超えて修得した単位数を自由選択に算入)	—	1,000 円	週 1 回授業 1 科目 2,000 円
					週 2 回授業 1 科目 4,000 円
②	本学の大学院への進学希望者 4 年次生を対象に、大学院の授業科目が履修できる制度	博士前期課程進学後に、10 単位を上限に入学前の既修得単位として認定	10,000 円	10,000 円	1 単位 16,500 円

大学コンソーシアム京都の単位互換制度

「大学コンソーシアム京都」の単位互換制度とは、加盟している約 45 の大学・短期大学が単位互換協定を締結し、相互に授業を履修できる制度です。ただし、本学の学生がこの制度を利用して、本学が提供する授業科目を履修することはできません。

この制度で修得した単位は、本人の申請に基づき、全学共通科目(教養科目)「大学コンソーシアム京都科目」として 12 単位を上限に単位を認定し、卒業要件に算入します(ただし、グローバルスタディーズ学科は、全学共通科目(教養科目)の卒業要件単位(8 単位)を超えて修得した単位数を自由選択に算入)。単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」(46 ページ) を参照してください。

また、当該学期に卒業を予定している 4 年次生はこの単位互換制度により修得した単位の認定が卒業判定に間に合わない可能性があるため、卒業要件単位に含めないように履修登録を行ってください。

出願資格	出願時から履修許可を受けた科目の開講学期まで、学部 2～4 年次として在学する正規生
出願方法	<p>大学コンソーシアム京都のホームページ (https://www.consortium.or.jp/) から各自で出願してください。</p> <p>【出願にあたっての注意事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 開講科目には開講期間が前期・春学期、後期・秋学期、通年、集中等の科目がありますが、所定の期間内(年 1 回)に出願してください。 当該大学の開講期間や通学時間などを考慮して出願してください。 科目によっては書類選考により希望する科目を履修できない場合があります。 また、原則として履修許可後の辞退は認めません。履修許可を受けた科目に一度も出席しない等の行為は、授業を開講する大学に迷惑がかかりますので、十分に履修計画を立てて出願してください。 出願は自己責任で行ってください。
開講科目	大学コンソーシアム京都のホームページを確認してください。
出願期間	所定の期間(Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせ)に大学コンソーシアム京都のホームページから出願してください。
履修の可否等の連絡	4 月中旬以降に科目を開講する大学より履修の可否について、出願時に登録したメールアドレス宛に連絡があります。連絡があるまでは「仮受講」として出願した科目を受講してください。
履修科目の単位認定	合格した科目については、所定の手続きを経て、学期毎に単位認定を行います。 なお、単位認定の申請手続きについては、履修の可否決定後、履修許可者のみに Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせします。

教育支援活動

この制度は「自己の資質向上」を図ることを目的とし、本学が指定している教育支援活動（ボランティア）に登録し、依頼のあった学校（小・中・高等学校）・幼稚園へ出向き活動を行うものです。

※オリエンテーションの日程は、Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせします。

1. 学校教育支援活動		対象年次：2～4年次生
<p>神戸市教育委員会が行っている「学生スクールサポーター制度」、京都市教育委員会が行っている「学生ボランティア」学校サポート事業や、京都府教育委員会が行っている「大学生教育ボランティア」で募集や依頼のあった学校（小・中・高等学校）・幼稚園へ放課後に出向き、一人ひとりの子どもに対して教科や部活動の指導補助等きめ細かな支援を行うものです。</p> <p>「学生ボランティア」学校サポート事業や「大学生教育ボランティア」の内容等については各教育委員会のホームページを参照してください。特に教職課程に登録している学生は積極的に参加してください。</p>		
登録資格	2～4年次生	
派遣から単位認定までの流れ	希望者はホームページで該当する活動に申し込む→教育支援課で登録・教育支援活動日誌を受け取る→活動開始→提出時期に書類を提出・単位認定申請→単位認定	
単位認定	<p>本人の申請に基づき、日本語教育支援活動で修得した単位とあわせて、全学共通科目（教養科目）「教育支援活動」として2単位を上限に単位を認定し、卒業要件に算入します。</p> <p>単位認定の申請は、教育支援活動日誌等を提出する際に行います。単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」（46ページ）を参照してください。</p>	
単位認定の申請	提出書類	単位認定願、教育支援活動日誌、報告書
	提出時期	Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせします。
	提出場所	教育支援課

2. 日本語教育支援活動		対象年次：2～4年次生
<p>日本語能力が不十分な外国人児童・生徒等に対し日本語能力向上のサポートを行います。原則として児童・生徒が属する学校へ放課後に出向き支援を行います。</p>		
登録資格	日本語学科2～4年次生	
派遣から単位認定までの流れ	日本語学科から活動の依頼を受ける、または、ホームページ等で該当する活動を自分で探す→日本語学科で派遣学生と派遣先などを認定→事前打ち合わせ→教育支援課に学校名と活動時期を登録→指導開始→指導終了→教育支援活動日誌等提出・単位認定申請→単位認定	
単位認定	<p>本人の申請に基づき、学校教育支援活動で修得した単位とあわせて、全学共通科目（教養科目）「教育支援活動」として2単位を上限に単位を認定し、卒業要件に算入します。</p> <p>単位認定の申請は、教育支援活動日誌等を提出した際に行います。単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」（46ページ）を参照してください。</p>	
単位認定の申請	提出書類	単位認定願、教育支援活動日誌
	提出時期	Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせします。
	提出場所	教育支援課

資格検定試験の単位認定

在籍中に資格検定試験等を受験し、本学の定める基準に達した場合は、本学において修得した単位として認定します。

単位認定	4年次の7月に本人申請に基づき、それぞれの科目区分の中で認定し、卒業要件に算入する単位数は、各2単位を上限とします。
申請書類	証明書（スコアレポート・合格証書等）のコピーを提出してください。 単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」（46ページ）を参照してください。
申請期間	本学が指定する期間（7月） Kyoto Gaidai UNIPAの「掲示板」でお知らせします。

1 外国語技能検定試験の単位認定

専攻語の場合（外国語学部）

言語	専門科目（選択）（英米語学科は専門科目（選択）＜キャリア＞） 「外国語技能検定試験（専攻語）」（2単位）	
英語	TOEIC L&R（IPを除く）	850点以上
	TOEFL iBT	83点以上 ※ 2026年1月20日以前実施分 4以上 ※ 2026年1月21日以降実施分
	IELTS（アカデミック・モジュール）	6.0以上
	実用英語技能検定（S-CBTを含む）	1級
スペイン語	スペイン語技能検定	3級以上
	DELE	B1以上
フランス語	実用フランス語技能検定試験	2級以上
	DELFS・DALF	B1以上
	TCF	300以上
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験	2級以上
	Goethe-Zertifikat （ゲーテ・インスティトゥートのドイツ語検定試験）	B1以上
ポルトガル語	外国語としてのポルトガル語検定試験	初級以上
	外国人のためのポルトガル語検定試験	中級以上
中国語	HSK	5級到達（合計180点以上） 6級到達（合計180点以上） 7級到達（合計315～349点） 8級到達（合計350～389点） 9級到達（合計390点以上） ※ 7・8・9級は共通問題
	中国語検定試験	2級以上
	実用中国語技能検定試験	2級以上
日本語	日本漢字能力検定試験	準1級以上
イタリア語	実用イタリア語検定試験および実用イタリア語検定 IBT	3級以上
	CILS	UNO-B1以上
	CELI	2以上
ロシア語	TORFL 検定試験	第1レベル以上
	ロシア語能力検定試験	2級以上

専攻語以外の場合（外国語学部、国際貢献学部）

言語	全学共通科目（教養科目） 「外国語技能検定試験（専攻語以外）」（2単位）	
英語	TOEIC L&R（IPを除く）	670点以上
	TOEFL iBT	57点以上 ※ 2026年1月20日以前実施分 3.5以上 ※ 2026年1月21日以降実施分
	IELTS（アカデミック・モジュール）	4.5以上
	実用英語技能検定（S-CBTを含む）	準1級以上
スペイン語	スペイン語技能検定	4級以上
	DELE	A2以上
フランス語	実用フランス語技能検定試験	準2級以上
	DELFI・DALF	A2以上
	TCF	200以上
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験	3級以上
	Goethe-Zertifikat （ゲーテ・インスティテュートのドイツ語検定試験）	A2以上
ポルトガル語	外国語としてのポルトガル語検定試験	準初級以上
	外国人のためのポルトガル語検定試験	中級以上
中国語	HSK	4級合格 5級到達（合計180点以上） 6級到達（合計180点以上） 7級到達（合計315～349点） 8級到達（合計350～389点） 9級到達（合計390点以上） ※ 7・8・9級は共通問題
	中国語検定試験	3級以上
	実用中国語技能検定試験	3級以上
日本語	—	—
イタリア語	実用イタリア語検定試験および実用イタリア語検定 IBT	4級以上
	CILS	A2以上
	CELI	1以上
ロシア語	TORFL 検定試験	基礎レベル以上
	ロシア語能力検定試験	3級以上
韓国語	韓国語能力試験	3級以上
	ハングル能力試験	3級以上

2 情報処理検定試験の単位認定

種類	全学共通科目（教養科目） 「情報処理検定試験」（2単位）
・ITパスポート試験 ・基本情報技術者試験	合格

語学検定試験受験料の助成（後援会）申請方法

1 申請が可能な対象者

本学の学部在学する正規生で、後援会費を納入している人

2 対象となる検定試験の種類

英 語	● TOEIC Listening & Reading Test ● IELTS ● 観光英語検定試験	● TOEFL iBT ● 実用英語技能検定
スペイン語	● スペイン語技能検定 ● DELE	
フランス語	● 実用フランス語技能検定試験 ● TEF	● TCF ● DELF・DALF
ドイツ語	● ドイツ語技能検定試験 ● Goethe-Zertifikat (ゲーテ・インスティトゥートのドイツ語検定試験)	● Test DaF
ポルトガル語	● 外国語としてのポルトガル語検定試験 (CAPLE) ● 外国人のためのポルトガル語検定試験 (Celpe-Bras)	
中国語	● HSK ● 実用中国語技能検定試験 ● 中国語検定試験	
日本語	● 日本語教育能力検定試験 ● 日本漢字能力検定 ● 日本語能力試験 (JLPT)	
イタリア語	● 実用イタリア語検定試験 ● CILS ● CELI	
ロシア語	● ロシア語検定試験 (ТРКИ-テ・エル・カ・イ、TORFL) ● ロシア語能力検定試験	
コリア語 (韓国語)	● 韓国語能力試験 (TOPIK) ● ハングル能力検定試験	

※語学検定試験受験料助成（アセスメント）とは異なります。外国語学部生（英米語学科・日本語学科を除く）を対象とした語学検定試験受験料助成（アセスメント）に関する不明な点は、教育支援課（1号館1階）に問い合わせてください。

3 申請方法

申請期間内に Kyoto Gaidai UNIPA の「語学検定試験受験料助成金申請システム」から必要な情報を入力し、以下の内容を確認できる書類の画像をアップロードしてください。

【申請に必要な画像】

1. 氏名、受験日などが記載されている合格証・結果通知書スコア
2. 支払った金額が分かる領収書（クレジットカードの明細可）
3. 振込先が確認できる通帳・口座詳細のオンラインページ など

4 申請期間

申請期間は、ランゲージセンターの語学検定試験受験料助成 Web ページを確認してください。



詳細はこちら

5 申請受付担当部署

ランゲージセンター（4号館3階）
e-mail : i-lang@kufs.ac.jp

GTEC Academic (4技能) およびTOEIC L&R (IP) の団体受験

現在、日本で実施されている英語力を判定する検定試験は、英検（実用英語技能検定）をはじめとして、その種類は35 種以上になります。本学では、実用的な英語コミュニケーション能力を測定する GTEC Academic (4 技能) を実施しており、学部生は入学時および入学後の毎年度 12 月～ 1 月に全員が受験しなければなりません。また、英米語学科の1～4年次生全員は 7 月および 1 月に実施する TOEIC L&R (IP) を必ず受験しなければなりません。英米語学科以外の学生は、1 月に実施する TOEIC L&R (IP) を受験することができます（希望者のみ）。試験結果は、客観的な数値として授業内容の検討や演習科目のクラス分け、専門科目（選択）の履修基準（英語）に活用しますが、自らの英語の運用能力を把握することで明確な努力目標を設定して授業や将来の進路に取り組んでください。

なお、受験日時・方法等については Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせします。

外国語学部

GTEC または TOEIC L&R (IP) のスコアにより履修者を決定する授業科目	
英米語学科	「英語圏研究の基礎」を除くすべての専門科目（必修）

国際貢献学部

GTEC または TOEIC L&R (IP) のスコアにより履修者を決定する授業科目	
グローバルスタディーズ学科	Introductory Seminar A・B
	Academic Writing I・II
	Global Communication A・B
	Writing for Research
グローバル観光学科	Community Engagement Workshop A・B
	Basic English for Tourism
	Reading for Tourism
	Business Writing for Tourism
	Communication Skills for Tourism

本学大学院への進学

本学大学院への進学は、以下を参照してください。

<本学大学院への進学>

本学の大学院には、外国語学研究科異言語・文化専攻に、標準修業年限2年の博士前期課程（修士）、標準修業年限3年の博士後期課程（博士）が設置されています。

専門分野の研究能力を身につけ、研究者、教育者のみならず、広く国際社会に貢献することができる人材を育成します。

異言語・文化専攻 博士前期課程

言語研究領域、文学・芸術研究領域、歴史・文化・社会研究領域、国際関係領域、観光学領域、実践英語教育領域、実践日本語教育領域

異言語・文化専攻 博士後期課程

言語文化領域
言語教育領域

入学試験

博士前期課程の入学試験は「学内推薦（9月）」、「一般Ⅰ期（9月）」、「一般Ⅱ期（2月）」があります。出願時に関する入試制度の詳細は、大学院ホームページで確認してください。

一般Ⅱ期の入学試験については、3年次終了時に卒業要件単位数93単位以上を修得し、特に成績優秀であるとして学科長から推薦を得た学生は飛び級として出願することができます。

本学学生対象の進学説明会は5月中旬および10月上旬に行います。（日時・場所は後日 Kyoto Gaidai UNIPA でお知らせします。）

大学院科目の科目等履修

本学の大学院進学を前提に、成績優秀な4年次生は科目等履修生制度により博士前期課程の授業科目を履修することができます。修得した単位は、本学の大学院に進学した場合、入学前の既修得単位として10単位を上限に認定します。

【本学大学院に関する問い合わせ先】

大学院事務室（5号館1階）
TEL：075-322-6603
e-mail：daigakuin@kufs.ac.jp

資格課程

I 本学の概要

II 学修する前に知っておくべきこと

III 京都外国語大学単位修得要領

外国語学部

国際貢献学部

各種プログラム・制度等

資格課程



本学が開設する資格課程

本学が開設している資格課程は、教職課程、図書館司書課程、学校図書館司書教諭課程、博物館学芸員課程、日本語教員養成課程です。

また、中学校または高等学校教諭一種免許状取得のために修得した単位を利用し、佛教大学の科目等履修生（別途費用が必要）として小学校教諭免許状を取得することができます。

■ 資格課程一覧

学 科	免許状・資 格	教職課程									学校図書館司書教諭課程	図書館司書課程	博物館学芸員課程	小学校教諭免許状取得支援プログラム	日本語教員養成課程
		中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状		高等学校教諭一種免許状											
		外国語	国 語	外国語											
		英 語		スペイン語	フランス語	ドイツ語	ポルトガル語	中国語	イタリア語	ロシア語					
英米語学科	●	△									注1	注2	注2	注3	注4
日本語学科	△	●													
スペイン語学科	△	△	●												
フランス語学科	△	△		●											
ドイツ語学科	△	△			●										
ブラジルポルトガル語学科	△	△				●									
中国語学科	△	△					●								
イタリア語学科	△	△						●							
ロシア語学科	△	△							●						
グローバルスタディーズ学科															
グローバル観光学科															



資格課程についての注意事項

●	英語と国語の教科については中学校教諭一種免許状（以下、「中一種」という。）と高等学校教諭一種免許状（以下、「高一種」という。）を同時に取得しますが、それ以外の教科については、高一種のみ取得が可能です。
△	専攻語以外の免許状の取得 専攻語以外の免許教科（英語または国語）の免許状を取得することができます。
注 1	教職課程を登録していることが履修条件です。
注 2	課程で定められた科目を履修し、必要な単位を修得すれば修了証書を交付します。
注 3	小学校の免許状のみを取得することはできません。必ず本学で中一種または高一種の免許状を取得する必要があります。なお、プログラムの詳細についてはオリエンテーションで説明します。
注 4	日本語学科生（編入学生を除く）のみの登録となります。
注 5	英米語学科ダイヤモンドコースの学生は、資格課程（教職・学校図書館司書教諭・図書館司書・博物館学芸員）を登録することはできません。

資格課程を登録している人で、派遣留学・認定留学・休学をする場合、および課程の履修を辞退する場合は、必ず事前に教育支援課へ届け出てください。

教師を目指す皆さんへ

「教育職員免許状」を取得するためには、皆さんが所属している学科の授業だけではなく、多くの教職科目を履修しなければなりません。皆さんの中には「必ず教員になるぞ」という人もいれば、「在学中に免許状が取れるのであれば取っておこう」という人もいるでしょう。どのような動機であれ、「教育職員免許状」を取得しようと決めた以上は、しっかりとした目標を持ち、真剣に履修してください。

1 教職課程の登録

(1) 課程登録

教職課程は、2年次春学期（休学・留学中の学生を含む）のみの登録となります。3年次・4年次から登録することはできません。希望者は教職課程オリエンテーションに必ず参加してください。

課程を登録するにあたっては、登録履修費として10,000円（予定）を納入する必要があります。

なお、課程を途中で辞退しても返金できませんので、注意してください。

また、登録履修費のほか、介護等体験（対象者のみ）や教育実習において費用（実習費）が発生する場合があります。金額や納入時期は、体験受入先や実習校によって異なります。

※時間割、履修登録、留学等の状況により、課程を修了できない場合があります。

(2) 1年次からの履修

在学中に派遣・認定留学等を検討している人を対象に、1年次の秋学期（在学2学期目）に「教育の基礎的理解に関する科目」の一部を登録することができます。希望する場合は、下記の注意事項を参照し、1年次対象の「資格課程秋学期開講科目の登録オリエンテーション」（日時・場所は毎年度本学ホームページに掲載する「履修の手引き」参照）に参加してください。



1年次生が登録する場合の注意事項

履修登録できる科目は以下の4科目です。ただし、1年次の春学期（在学1学期目）終了時点でGPAが2.0未満の場合は科目を登録することはできません。

教育の基礎的理解に関する科目：「教師論」「教育原理」「学校教育心理学」「特別な教育的ニーズの理解と支援」（132ページ参照）

登録できる科目は、1年次に履修登録できる単位数の上限（年間48単位）を超えて登録することができます。（単位数の上限については133ページ参照）

(3) オリエンテーションへの参加

免許状取得に必要な単位、注意事項等を、「教職課程オリエンテーション（新規登録者対象）」で説明しますので、必ず参加してください。

なお、教職課程に関する各オリエンテーションを無断で欠席した場合は、課程の登録および継続を認めないことがありますので、十分注意してください。

(4) 留学・休学する場合

派遣留学・認定留学・休学をする場合は、必ず事前に教育支援課まで申し出てください。

免許状取得にかかわる介護等体験および教育実習等のスケジュールについて、個別に説明します。

(5) 教職課程の辞退

進路変更などにより途中で課程を辞退する場合は、必ず教育支援課へ「辞退届」を提出してください。一度、課程を辞退すると、在学中に再度登録することはできません。

よくある質問

Q

留学と教職課程は両立できますか。

A

留学と教職課程の両立はできますが、留学の方法や時期により、4年間の在学期間で免許状を取得できない場合もありますので、必ず事前に教育支援課で相談してください。特に派遣留学の場合は、学内の選考試験を受ける前に相談してください。

2 教育職員免許状取得に必要な科目・単位数

教育職員免許状を取得するためには、卒業に必要な単位のほかに、以下の授業科目を履修し、単位を修得する必要があります。

免許状取得に必要な科目		本学で修得が必要な単位数		本学における授業科目	備 考
		中一種	高一種		
教科及び教科の指導法に関する科目 (134 ページ)		28 単位	24 単位		注 1
教育の基礎的理解に関する科目 (132 ページ)		11 単位	11 単位		注 2
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 (132 ページ)		11 単位	9 単位		
教育実践に関する科目 (132 ページ)		7 単位	5 単位		
大学が独自に設定する科目 (139 ページ)		4 単位	12 単位		注 3
教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目	日本国憲法に関する科目	2 単位	2 単位	教養科目 「日本国憲法」	
	体育に関する科目	2 単位	2 単位	教養科目 「健康科学の実践と理論」	
	外国語コミュニケーションに関する科目	4 単位	4 単位	外国語科目	注 4
	情報機器の操作に関する科目	2 単位	2 単位	教養科目 「情報技術の実践」	



免許状取得に必要な科目の単位修得上の注意事項

本学で修得が必要な単位数と免許法で修得が必要な単位数は異なります。中一種と高一種の免許状を同時に取得する場合（英語・国語に限る）は、上表の最低修得単位数の内、多い方の単位数を充足する必要があります。

注 1	教科に関する科目は（教科の指導法に関する科目を除く）、卒業要件の単位に含みます。教育職員免許状取得のための教科に関する科目として必修となっているため、卒業までに必ず単位を修得してください。
注 2	卒業要件単位には含みませんが、本学で定めた教育職員免許状取得のための必修科目となっています。また、本学における教育実習参加資格の要件でもあります。
注 3	卒業要件の単位に含む科目と含まない科目があります。
注 4	全学共通科目（外国語科目）の履修上の注意事項も確認してください（80 ページ）。

2-1 教育の基礎的理解に関する科目等

教育職員免許法施行規則に定める科目		本学における授業科目	配当 年次	本学で 修得が必要な 単位数		備考
				中一種	高一種	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	1～3	2	2	★
	教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)	教師論	1～3	2	2	★
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	学校教育心理学	1～3	2	2	★
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別な教育的ニーズの理解と支援 (集中講義)	1～3	1	1	★
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育行政学	2・3	2	2	
	教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2・3	2	2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳の理論と指導	2・3	2	—	注1
	・総合的な学習の時間の指導法	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2・3	2	2	
	・特別活動の指導法					
	教育の方法及び技術	教育の方法及び技術	2・3	2	2	
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育とICT活用 (集中講義)	2・3	1	1	
	・生徒指導の理論及び方法	生徒指導・進路指導論	2・3	2	2	
	・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法					
	教育相談 (カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。) の理論及び方法	教育相談	2・3	2	2	
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習 1	4	2	—	注2
		教育実習 2	4	2	2	
		教育実習指導	4	1	1	注3
	教職実践演習	教職実践演習 (中・高)	4	2	2	注4
※「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」は、教育実習参加資格科目です。(141 ページ参照)						



履修上の注意事項

【教育の基礎的理解に関する科目等の履修登録】

教育の基礎的理解に関する科目等は、履修登録できる単位数の上限（年間48単位）を超えて登録することができます。また、履修登録できる単位数の上限はありませんが、配当年次に従って履修計画をしっかりと立て、負担のないように履修してください。

【教育実習参加資格】

教育の基礎的理解に関する科目等および、各教科の指導法に関する科目は、教育実習参加資格の要件の一つです。

3年次春学期（在学5学期目）もしくは秋学期（在学6学期目）から1年間の派遣・認定留学する人で、教育実習参加資格の授業科目をすべて履修登録できない場合は、必ず事前に教育支援課へ申し出てください。

【修得単位】

★	★印の科目を1年次生が履修する場合は、秋学期に登録してください。（1年次4月の履修登録時には登録できません。）						
注1	中一種免許状を取得する場合は、必ず履修する必要があります。						
注2	履修登録は必要ありません。教育実習終了後、合格となった場合に本学で単位を認定します。						
注3	<p>教育実習を行う年度に「教育実習指導」の履修登録を行います。教育実習の期間により、履修登録する学期が異なりますので、以下の期間を参考に履修登録してください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教育実習期間</th><th>履修登録する学期</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月1日～8月31日の期間に 教育実習が完了する場合</td><td>春学期</td></tr> <tr> <td>9月1日以降に教育実習を行う場合</td><td>秋学期</td></tr> </tbody> </table> <p>※【秋学期の「教育実習指導」授業について】 14回の授業を春・秋学期に分けて行います。秋実習の学生は春学期に「教育実習指導聴講願」を提出する必要があります。</p>	教育実習期間	履修登録する学期	4月1日～8月31日の期間に 教育実習が完了する場合	春学期	9月1日以降に教育実習を行う場合	秋学期
教育実習期間	履修登録する学期						
4月1日～8月31日の期間に 教育実習が完了する場合	春学期						
9月1日以降に教育実習を行う場合	秋学期						
注4	<p>教職課程としての総まとめの授業科目として位置づけているため、4年次の秋学期（在学8学期目）に履修します。したがって、<u>4年次の秋学期に留学（派遣・認定）する場合は、4年間の在学期間で免許状を取得することができませんので、注意してください。</u>また、「教職実践演習（中・高）」の履修には、『教職履修カルテ』の作成および提出を義務付けています。授業開始までに準備が整わない場合は、授業を履修することができませんので、注意してください。</p> <p>※「教職実践演習（中・高）」の履修登録 クラスを指定します。結果はKyoto Gaidai UNIPAの「学生時間割表」でお知らせしますので、各自確認してください。</p>						

2-2 教科及び教科の指導法に関する科目



履修上の注意事項

①	教科に関する科目は、教育実習参加資格ではありませんので、卒業までに単位を修得してください。
②	「各教科の指導法」は 教育実習参加資格科目 です。(141 ページ参照)

免許教科 外国語（英語）

教科に関する科目の必修科目は、一般的包括的内容を含む科目です。

施行規則に定める 科目区分等		本学における授業科目	単位数	配当 年次	備考
			必修		
教科に関する専門的事項	英語学	英語学・英語教育入門	2	1	専門科目・選択必修 (地域研究/言語習得領域)
		英語音声学・音韻論	2	2	専門科目・選択 (地域研究/言語習得領域)
		英語意味論・語用論	2	2	
	英語文学	英語圏文学と芸術A	2	2	専門科目・選択 (地域研究/比較文化領域)
		英語圏文学と芸術B	2	2	
	英語 コミュニケーション	オーラル・コミュニケーションⅢ	2	2	専門科目・必修 (言語)
		オーラル・コミュニケーションⅣ	2	2	
	異文化理解	英語圏比較文化入門	2	1	専門科目・選択必修 (地域研究/比較文化領域)
		英語圏地域概説A	2	2	専門科目・選択 (地域研究/比較文化領域)
		英語圏地域概説B	2	2	
各教科の指導法 (情報通信技術の活用 を含む。)	英語教育法A	2	2		
	英語教育法B	2	2		
	英語教育法C	2	3		
	英語教育法D	2	3		
必要単位数			28		

※中一種・高一種免許状を同時に取得します。どちらか一方のみの取得はできません。

免許教科 国語

教科に関する科目の必修科目は、一般的包括的内容を含む科目です。

施行規則に定める 科目区分等		本学における授業科目	単位数	配当 年次	備考
			必修		
教科に関する専門的事項	国語学 (音声言語学および 文章表現に関する ものを含む)	日本語学の基礎知識 A	2	1	専門科目・必修
		日本語学の基礎知識 B	2	1	
		日本語音声学概論	2	1	専門科目・選択（日本語教育領域）
		日本語表記法	2	2	
	国文学 (国文学史を含む)	日本近代文学 A	2	2	専門科目・必修
		日本近代文学 B	2	2	
		日本文学史 A	2	2	専門科目・選択（日本文化領域）
		日本文学史 B	2	2	
	漢文学	漢文学 A	2	1	専門科目・選択（日本文化領域）
		漢文学 B	2	1	
	書道 (書写を中心とする)	書道 A	2	1	専門科目・選択（日本文化領域） (中一種のみ)
		書道 B	2	2	
各教科の指導法 (情報通信技術の活用 を含む。)		国語教育法 A	2	2	
		国語教育法 B	2	2	
		国語教育法 C	2	3	
		国語教育法 D	2	3	
必要単位数			32		

※中一種・高一種免許状を同時に取得します。どちらか一方のみの取得はできません。

◎免許教科(国語)で教育実習を行う場合

・教科に関する科目の一般的包括的科目(必修科目)を3年次(在学6学期目)終了までにすべて履修済みであること。

免許教科 外国語(スペイン語)

教科に関する科目の必修科目は、一般的包括的内容を含む科目です。

施行規則に定める 科目区分等		本学における授業科目	単位数 必修	配当 年次	備考
教科に関する専門的事項	スペイン語学	スペイン語文法Ⅱ	4	2	専門科目・必修(言語)
		スペイン語学入門	2	2	専門科目・選択(言語)
	スペイン語文学	スペイン語圏文学入門	2	2	専門科目・選択(地域研究)
	スペイン語 コミュニケーション	コミュニケーション・スペイン語A	4	3	専門科目・必修(言語)
		コミュニケーション・スペイン語B	4	3	
	異文化理解	スペイン語圏の基礎知識A	2	1	専門科目・必修(地域研究)
		スペイン語圏の基礎知識B	2	1	
	各教科の指導法 (情報通信技術の活用 を含む。)	スペイン語教育法A	2	3	
スペイン語教育法B		2	3		
必要単位数			24		

※高一種免許状を取得します。

※英語で教育実習を行う場合、英語教育法 A・B は必ず単位を修得してください。英語教育法 C・D は可能な限り単位を修得してください。

免許教科 外国語（フランス語）

教科に関する科目の必修科目は、一般的包括的内容を含む科目です。

施行規則に定める 科目区分等		本学における授業科目	単位数 必修	配当 年次	備考
教科に関する専門的事項	フランス語学	フランス語文法Ⅱ	4	2	専門科目・必修(言語)
		フランス語学の基礎知識	2	2	専門科目・必修(地域研究)
	フランス語文学	フランス文学の基礎知識	2	2	専門科目・必修(地域研究)
	フランス語 コミュニケーション	フランス語スピーキング・ライティングA	4	3	専門科目・必修(言語)
		フランス語スピーキング・ライティングB	4	3	
	異文化理解	フランスの基礎知識A	2	1	専門科目・必修(地域研究)
		フランスの基礎知識B	2	1	
	各教科の指導法 (情報通信技術の活用 を含む。)	フランス語教育法A	2	3	
フランス語教育法B		2	3		
必要単位数			24		

※高一種免許状を取得します。

※英語で教育実習を行う場合、英語教育法A・Bは必ず単位を修得してください。英語教育法C・Dは可能な限り単位を修得してください。

免許教科 外国語（ドイツ語）

教科に関する科目の必修科目は、一般的包括的内容を含む科目です。

施行規則に定める 科目区分等		本学における授業科目	単位数 必修	配当 年次	備考
教科に関する専門的事項	ドイツ語学	ドイツ語文法Ⅱ	4	2	専門科目・必修(言語)
		ドイツ語学概論	2	2	専門科目・選択(地域研究)
	ドイツ語文学	ドイツ語圏の文学	2	1	専門科目・選択(地域研究)
	ドイツ語 コミュニケーション	ドイツ語コミュニケーションA	2	3	専門科目・必修(言語)
		ドイツ語コミュニケーションB	2	3	
		ドイツ語ライティングA	2	3	
		ドイツ語ライティングB	2	3	
	異文化理解	世界の中の日本とドイツ語圏	2	1	専門科目・必修(地域研究)
		ドイツ語圏の基礎知識	2	1	
各教科の指導法 (情報通信技術の活用 を含む。)	ドイツ語教育法A	2	3		
	ドイツ語教育法B	2	3		
必要単位数			24		

※高一種免許状を取得します。

※英語で教育実習を行う場合、英語教育法A・Bは必ず単位を修得してください。英語教育法C・Dは可能な限り単位を修得してください。

免許教科 外国語（ポルトガル語）

教科に関する科目の必修科目は、一般的包括的内容を含む科目です。

施行規則に定める 科目区分等		本学における授業科目	単位数	配当 年次	備考
			必修		
教科に関する専門的事項	ポルトガル語学	ポルトガル語圏語学の基礎	2	1	専門科目・必修(地域研究)
		ポルトガル語圏語学入門A	2	2	専門科目・選択(地域研究)
		ポルトガル語圏語学入門B	2	2	
	ポルトガル語文学	ポルトガル語圏文学の基礎	2	1	専門科目・必修(地域研究)
		ポルトガル語圏文学入門A	2	2	専門科目・選択(地域研究)
		ポルトガル語圏文学入門B	2	2	
	ポルトガル語 コミュニケーション	上級ポルトガル語コミュニケーションA	2	3	専門科目・必修(言語)
		上級ポルトガル語コミュニケーションB	2	3	
	異文化理解	ポルトガル語圏文化の基礎	2	1	専門科目・必修(地域研究)
		ポルトガル語圏社会の基礎	2	1	
各教科の指導法 (情報通信技術の活用 を含む。)		ポルトガル語教育法A	2	3	
		ポルトガル語教育法B	2	3	
必要単位数			24		

※高一種免許状を取得します。

※英語で教育実習を行う場合、英語教育法A・Bは必ず単位を修得してください。英語教育法C・Dは可能な限り単位を修得してください。

免許教科 外国語（中国語）

教科に関する科目の必修科目は、一般的包括的内容を含む科目です。

施行規則に定める 科目区分等		本学における授業科目	単位数	配当 年次	備考
			必修		
教科に関する専門的事項	中国語学	中国語学概論A	2	2	専門科目・選択(地域研究)
		中国語学概論B	2	2	
	中国語文学	中国文学への招待	2	2	専門科目・選択(地域研究)
	中国語 コミュニケーション	中国語リサーチプレゼンA	2	3	専門科目・必修(言語)
		中国語リサーチプレゼンB	2	3	
		中国語リサーチプレゼンC	2	3	
		中国語リサーチプレゼンD	2	3	
	異文化理解	世界の中の日本と中国A	2	1	専門科目・必修(地域研究)
		世界の中の日本と中国B	2	1	
		中国の伝統と歴史	2	2	専門科目・選択(地域研究)
各教科の指導法 (情報通信技術の活用 を含む。)	中国語教育法A	2	3		
	中国語教育法B	2	3		
必要単位数			24		

※高一種免許状を取得します。

※英語で教育実習を行う場合、英語教育法A・Bは必ず単位を修得してください。英語教育法C・Dは可能な限り単位を修得してください。

免許教科 外国語（イタリア語）

教科に関する科目の必修科目は、一般的包括的内容を含む科目です。

施行規則に定める 科目区分等		本学における授業科目	単位数 必修	配当 年次	備考
教科に関する専門的事項	イタリア語学	イタリア語中級文法	4	2	専門科目・必修(言語)
	イタリア語文学	イタリア文学概論	2	3	専門科目・選択(地域研究)
	イタリア語 コミュニケーション	イタリア語コミュニケーションA	4	3	専門科目・必修(言語)
		イタリア語コミュニケーションB	4	3	
	異文化理解	イタリア語圏の基礎知識	2	1	専門科目・必修(地域研究)
		日伊比較文化	2	1	
		イタリア地域比較概論	2	2	
	各教科の指導法 (情報通信技術の活用 を含む。)	イタリア語教育法A	2	3	
イタリア語教育法B		2	3		
必要単位数			24		

※高一種免許状を取得します。

※英語で教育実習を行う場合、英語教育法A・Bは必ず単位を修得してください。英語教育法C・Dは可能な限り単位を修得してください。

免許教科 外国語（ロシア語）

教科に関する科目の必修科目は、一般的包括的内容を含む科目です。

施行規則に定める 科目区分等		本学における授業科目	単位数 必修	配当 年次	備考
教科に関する専門的事項	ロシア語学	ロシア語学概論 A	2	2	専門科目・選択(言語)
		ロシア語学概論 B	2	2	
	ロシア語文学	ロシア語圏の文学と芸術 A	2	2	専門科目・選択(地域研究)
		ロシア語圏の文学と芸術 B	2	3	
	ロシア語 コミュニケーション	ロシア語コミュニケーション A	4	3	専門科目・必修(言語)
		ロシア語コミュニケーション B	4	3	
	異文化理解	ロシア語圏の基礎知識 A	2	1	専門科目・必修(地域研究)
		ロシア語圏の基礎知識 B	2	1	
各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)		ロシア語教育法 A	2	3	
		ロシア語教育法 B	2	3	
必要単位数			24		

※高一種免許状を取得します。

※英語で教育実習を行う場合、英語教育法A・Bは必ず単位を修得してください。英語教育法C・Dは可能な限り単位を修得してください。

2-3 大学が独自に設定する科目 (131ページ参照)

教職課程

本学における授業科目	単位	配当 年次	備 考
道徳の理論と指導 ※ 1	2	2・3	卒業要件に含まない 教職課程科目
人権と教育 ※ 2	2	1	卒業要件科目 全学共通科目 (教養科目)
多文化理解と人権 ※ 2	2	1	
教育の課題	2	2	
コミュニケーションの心理	2	2	
臨床心理学	2	2	
青少年の行動と心理	2	1	
グローバル化とジェンダー	2	2	
コーチングの理論	2	2	
学校経営と学校図書館	2	3	卒業要件に含まない 学校図書館司書教諭課程科目 ※ 3
学校図書館メディアの構成	2	2	
学習指導と学校図書館	2	3	
読書と豊かな人間性	2	3	
情報メディアの活用	2	2	
必要単位数 「中一種」：4 単位、「高一種」：12 単位			



履修上の注意事項

注 1	※ 1 の「道徳の理論と指導」は、「中一種」免許状を取得する場合、必ず履修しなければなりません。
注 2	※ 2 の「人権と教育」「多文化理解と人権」は、履修することが望ましい授業科目です。いずれも教養科目の授業科目で、卒業要件の単位に含めることができます。
注 3	※ 3 の科目は、学校図書館司書教諭の専門科目でもあります。卒業要件の単位には含みません。(145 ページ参照)

よくある質問

Q

免許状を取得する場合、1 年次生から履修すべき科目はありますか。

A

大学が独自に設定する科目の中で、1 年次生が履修できる「人権と教育」「多文化理解と人権」は、履修することが望ましい科目です。また、「健康科学の実践と理論」「日本国憲法」「情報技術の実践」は、免許状を取得するために必要な科目です。

3 介護等体験

※中一種免（英語・国語）の取得を希望する人は、「介護等体験」が義務づけられています。

介護等体験は、教育職員を志す人が、障害者や高齢者等に対する介護や介助、交流等の体験を通じて「個人の尊厳と社会連帯の理念」を深めることを目指すとともに、教育を担う人に求められる幅広い社会観・人生観がもてるよう、人間的に成長できるきっかけを得るために行うものです。

介護等体験は、以下の実習要領に基づいて行います。

介護等体験実習要領	
①	本学における授業科目「特別な教育的ニーズの理解と支援」（132 ページ参照）の単位を修得後に体験を行います。
②	原則として、3 年次（在学 5 学期目）に行います。 教職課程を辞退した場合でも、それまでに介護等体験の申込みをした人は体験を辞退できませんので、十分注意してください。
③	体験期間は 7 日間（特別支援学校 2 日間、社会福祉施設等 5 日間）とします。 体験先や時期は、都道府県により希望できる場合とできない場合があります。申込み後は、決定通知で体験日時を確認し、スケジュール管理には十分注意してください。 なお、体験を行うにあたり、体験費用の納入が必要となります。金額や納入時期は受入先の学校や施設によって異なります。
④	体験は本学より一括して、各都道府県教育委員会（特別支援学校）および各都道府県社会福祉協議会（社会福祉施設）に受け入れを依頼します。 <体験までの流れ> 1. 春学期または秋学期に、「特別な教育的ニーズの理解と支援」を履修し、単位を修得する。 2. 春学期または秋学期に開催する「介護等体験に関するオリエンテーション」に参加する。 3. 6 月または 10 月中旬から開催する都道府県別の「介護等体験申込みオリエンテーション」に参加する。 ※ 2 および 3 は同時に実施する場合があります。また、対象者には Gmail で連絡します。 4. 3 年次（在学 5 学期目）の 5 月下旬から特別支援学校および社会福祉施設等の計 2 カ所で体験を行う。
⑤	体験後、体験校・施設において「 介護等の体験に関する証明書 」が発行されますので、卒業年次の免許状申請時まで大切に保管してください。紛失した場合、再発行されませんので、注意してください。

介護等体験先の連絡について

Gmail で連絡します。

体験場所・体験日・体験先への持ち物など重要なお知らせは、個別に Gmail で連絡しますので、転送設定をするなどして、必ずメールをチェックしてください。

介護等体験と留学について

留学（派遣・認定・休学）を検討している人は、体験先・体験時期の変更が可能です。準備の段階から教育支援課へ相談してください。

4 教育実習

教育実習は、教育職員を志す人が、学校教育の現場をあらかじめ体験および研究する唯一の機会といえます。大学で学んだ知識や理論を生かして、教師という職務の重大さ、社会における使命感を十分に自覚して実習に臨んでください。

教育実習は以下の要領に基づいて行います。また、本学では、実習に参加するためには、3 年次の秋学期（在学 6 学期目）終了までに教育実習参加資格を満たす必要があります。

①	原則として、 4 年次（在学 7 学期または 8 学期目） に実習を行います。
②	教科は日本語学科が「国語」、それ以外の学科は原則として「英語」で実習を行います。※英語または国語以外の言語（専攻語）で実習を予定している学生は、必ず事前に教育支援課へ申し出てください。
③	実習期間は原則 3 週間以上とします。「高一種」のみの場合は 2 週間以上とします。
④	実習校については、原則として自己開拓による母校実習としています。実習を行う前年度に、出身中学校または出身高等学校に交渉して各自で実習の内諾を得てください。手続きについては、3 年次（在学 5 学期目）の 4 月下旬に開催する「教育実習内諾オリエンテーション」で説明します。 ただし、一部の地域では教育委員会が実習校を配当校制により決定しますので、学生が実習の内諾を得ることはできません。 配当校制度の詳細は、教育支援課で確認してください。

教育実習参加資格

教育実習を行うためには、以下の④、⑥両方の条件を満たす必要があります。

④教育の基礎的理解に関する科目等（各教科の指導法を含む）（132 ページ参照）

以下の授業科目の単位を 3 年次の秋学期（在学 6 学期目）終了時までに修得してください。

- 「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」
- 免許教科（英語）の人は「英語教育法 A～D」
免許教科（国語）の人は「国語教育法 A～D」
免許教科（英語・国語）以外の人は、専攻語の「〇〇語教育法 A・B」
ただし、免許教科（英語・国語）以外の人が、英語で教育実習を行う場合は、専攻語の〇〇語教育法の他、英語教育法の単位を修得してください。

注：派遣・認定留学等にとまない教育実習を行う前年度末（3 月 31 日）までに、教育実習参加資格の単位が修得できない場合は、事前に教育支援課へ申し出てください。

⑥教育実習を行う場合の語学力の基準

教育実習を行う場合の語学力の基準を 3 年次（在学 6 学期目）終了時（3 月 31 日）までに取得してください。語学力の基準は、専門科目（選択）のアドバンストの履修基準と同じです。（89 ページ参照）
なお、UNIPA に表示している以外のスコアを取得している場合は、3 年次終了までに取得したスコアの証明書を教育支援課に提出してください。

取得する免許教科で教育実習を行う場合

免許教科のアドバンストの履修基準を 3 年次（在学 6 学期目）終了時までに取得してください。
なお、**免許教科が国語の人は**、教科に関する専門的事項の授業科目（必修）の単位（135 ページ参照）を 3 年次終了時までに修得してください。

専攻語で教育実習を行わない場合（英語で教育実習を行う場合）

スペイン語・フランス語・ドイツ語・ポルトガル語・中国語・イタリア語・ロシア語学科の人が英語で教育実習を行う場合は、所属する学科が指定する専門科目（選択）のアドバンストの履修基準、および英語の専門科目（選択）のアドバンストの履修基準の両方を取得してください（89 ページ参照）。

※教育実習参加資格を満たせなかった場合

参加資格を満たせなかった場合は、実習校に対して教育実習辞退の手続きが必要です。教育実習辞退と同時に教職課程辞退の手続きを行いますので、必ず教育支援課へ連絡してください。

5 専攻語以外の免許状取得

専攻語以外の免許教科（英語または国語）の免許状を取得することができます。

英米語学科以外の人が英語の免許状を、日本語学科以外の人が国語の免許状を取得するためには、下表の条件を満たす必要があります。

申請および詳細の説明は、「専攻語以外の教員免許状取得オリエンテーション」（日時・場所は毎年度本学ホームページに掲載する「履修の手引き」参照）で行いますので必ず参加してください。

なお、時間割、履修登録、留学等の状況により、免許状が取得できない場合があります。

※教職課程の登録は、2 年次春学期のみです（130 ページ参照）。

対象：英米語学科以外の人

外国語（英語）の免許状を取得する場合	
2 年次から履修する場合 1 年次（在学 2 学期目）終了までに以下の基準を満たすことが必要です。	
①	教職につくことを強く希望し、教員採用試験を受験予定の人。
②	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 年次配当の専門科目（必修）の単位をすべて修得済みであること。 ・ 1 年次配当の全学共通科目（外国語科目）の単位をすべて修得済みであること。 （1 年次配当の全学共通科目（外国語科目）は、英語の単位を修得することが望ましい。） ・ 専門科目（選択）4 単位以上を修得済みであること。 ※ブラジルポルトガル語学科生を除く
③	3 年次（在学 6 学期目）終了までに 141 ページ記載の免許教科（英語）の教育実習参加資格を満たすこと。

対象：日本語学科以外の人

国語の免許状を取得する場合	
2 年次から履修する場合 1 年次（在学 2 学期目）終了までに以下の基準を満たすことが必要です。	
①	教職につくことを強く希望し、教員採用試験を受験する予定の人。
②	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 年次配当の専門科目（必修）の単位をすべて修得済みであること。 ・ 1 年次配当の全学共通科目（外国語科目）の単位をすべて修得済みであること。 ・ 専門科目（選択）4 単位以上を修得済みであること。 ※ブラジルポルトガル語学科生を除く
③	3 年次（在学 6 学期目）終了までに 141 ページ記載の免許教科（国語）の教育実習参加資格を満たすこと。

6 教育職員免許状申請の手続き

免許状は、都道府県の教育委員会が授与します。授与された免許状は、すべての都道府県において効力を有します。

(1) 卒業時に免許状の取得を希望する場合

4年次（在学8学期目）の課程履修者は「本籍地確認及び介護等体験証明書提出オリエンテーション」と「教育職員免許状申請オリエンテーション」（日時・場所は毎年度本学ホームページに掲載する「履修の手引き」参照）に参加し、必要な書類を提出してください。申請にあたり、授与手数料の納付が必要となります。

本学が一括して京都府教育委員会に免許状の申請を行い、学位記授与式当日に免許状を授与します。

なお、所定期間に書類を提出できない場合は、その旨を教育支援課へ連絡してください。

(2) 個人申請

「教育職員免許状申請オリエンテーション」を無断で欠席した場合や書類の提出を怠った場合は、卒業後に個人で申請することになります。申請手続きについては、各都道府県で申請様式が異なり、かつ申請から交付まで相当の日数（最長数ヵ月）がかかります。詳しくは、申請する教育委員会へ直接問い合わせてください。

7 教職課程履修についての注意事項

教職課程を履修するうえで重要なのは、4年間の履修計画です。

1年次の秋学期から教職課程の一部の科目を履修することができますが、2年次・3年次と複数年計画で実習参加資格の科目を履修するようにしてください。卒業要件の単位も充足させながら、教職課程の履修を進めてください。

また、教育職員を目指すうえで必要な教育支援活動（教育現場でのボランティア活動）などの時間も必要となりますので、時間を調整して活動してください。

小学校教諭免許状取得支援プログラム <外国語学部生対象>

このプログラムの目的は、キャリア支援の一環として、在学中に小学校教諭免許の取得に必要な科目の単位修得を支援することにあります。

このプログラムは、佛教大学通信教育課程が提供する小学校教諭免許状（一種または二種）の取得に必要な科目を科目等履修生として履修することで、本学卒業後に小学校教諭免許状（一種または二種）を取得することができます。ただし、本学の教職課程で中学校または高等学校教諭一種免許状を取得し、小学校教諭免許状取得に必要な単位を修得する必要があります。

1 出願資格

募集人員は 20 名 面接および GPA 評価により選考します。

出願時に次の 1～4 のすべてに該当する 1 年次生

1	教職課程を登録している人または、登録予定の人
2	通算の GPA が、2.0 以上の人
3	教職に就くことを強く希望し、教員採用試験の受験を誓約できる人
4	在学中は、1 年以上の留学（派遣・認定）をしないことに同意できる人

このプログラムに参加する人は、年度ごとに教育支援課による履修指導を受ける必要があります。

※各自の履修状況によっては卒業時に免許状を取得できない場合もあります。

2 受講料等

	佛教大学	
取得できる免許状	一種免許状	二種免許状
修得単位数	47 単位	29 単位
履修費（予定） （スクーリング参加のための 交通費・宿泊費は除く）	約 500,000 円（※） （別途テキスト代約 40,000 円）	約 350,000 円（※） （別途テキスト代約 22,000 円）
スクーリング科目	4 科目	3 科目
スクーリング会場	佛教大学	
修了試験会場	佛教大学 その他全国で開催	
所在地	〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町 96	

（※）一旦納入した受講料などは返金できませんので、注意してください。

3 オリエンテーションの開催

小学校教諭免許状取得プログラムオリエンテーション（日時・場所は毎年度本学ホームページに掲載する「履修の手引き」参照）で、プログラムの内容および出願方法について詳しく説明します。

※介護等体験の申込手続きは本学で行います。

4 教員免許状の申請

小学校教諭免許状については、本学卒業後、出身の都道府県教育委員会へ個人申請することにより免許状が授与されます。なお、申請方法については、4 年次秋学期（在学 8 学期目）に行う「小学校教諭免許状申請オリエンテーション」（日時・場所は毎年度本学ホームページに掲載する「履修の手引き」参照）で説明します。

学校図書館司書教諭課程

<外国語学部生対象>

小学校・中学校・高等学校の図書館で専門的職務を行うのが「学校図書館司書教諭」です。司書教諭は、教諭をもって充て、さらに司書教諭の講習を修了した人でなければなりません。本学で、司書教諭の資格を取得するために開設しているのが、学校図書館司書教諭課程です。

※学校図書館司書教諭課程の科目の単位を修得するだけでは、学校図書館司書教諭課程に必要な資格条件を満たしたことはありません。必ず教育職員免許状も同時に取得する必要があります（130 ページ参照）。

1 学校図書館司書教諭課程の登録

(1) 課程登録

学校図書館司書教諭課程は、2～4 年次春学期（休学・留学中の学生を含む）のみの登録となります。

※時間割、履修登録、留学等の状況により、課程を修了できない場合があります。

(2) オリエンテーションへの参加

「学校図書館司書教諭課程オリエンテーション（新規登録者対象）」に必ず参加してください。

オリエンテーションを無断で欠席した場合は、課程の登録を認めないことがありますので、十分注意してください。

(3) 留学・休学をする場合

派遣留学・認定留学・休学をする場合は、必ず事前に教育支援課へ申し出てください。

(4) 学校図書館司書教諭課程の辞退

学校図書館司書教諭課程を進路変更などにより辞退する場合は、必ず教育支援課へ「辞退届」を提出してください。

※一度辞退すると、在学中に再度登録することはできません。

2 学校図書館司書教諭課程の科目

下表の本学における授業科目を全て履修し、10 単位を修得してください。

	学校図書館司書教諭講習規程に定める科目	単位	本学における授業科目	単位	配当年次
必修科目	学校経営と学校図書館	2	学校経営と学校図書館	2	3
	学校図書館メディアの構成	2	学校図書館メディアの構成	2	2
	学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	2	3
	読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性	2	3
	情報メディアの活用	2	情報メディアの活用	2	2
	合 計	10	合 計	10	



登録上の注意事項

学校図書館司書教諭課程の必修科目は、2～4 年次に登録できる単位数の上限（年間 48 単位）を超えて履修登録することができます。

3 修了証書の交付

教育職員免許状を授与された学生が、「学校図書館司書教諭課程」で定められた科目の単位を修得し、4 年次（在学 7・8 学期目）に学校図書館司書教諭講習修了証申請オリエンテーションで所定の申請手続を行った場合、学校図書館法に基づき文部科学省から卒業の約 1 年後に学校図書館司書教諭講習修了証書が交付されます。

公立または私立図書館で職員として専門業務を行うためには、図書館法で定める「司書」の資格が必要です。本学で司書の資格を取得するために開講しているのが、図書館司書課程です。

1 図書館司書課程の登録

(1) 課程登録

司書課程は、2 年次春学期または 3 年次春学期（休学・留学中の学生を含む）の登録となります。

※時間割、履修登録、留学等の状況により、課程を修了できない場合があります。

(2) 1 年次からの履修

1 年次の秋学期（在学 2 学期目）に一部の図書館司書課程の科目を登録することができます。希望する場合は、下記の注意事項を参照し、1 年次対象の「資格課程秋学期開講科目の登録オリエンテーション」（日時・場所は毎年度本学ホームページに掲載する「履修の手引き」参照）に参加してください。



1 年次生が登録する場合の注意事項

履修登録できる授業科目は「図書館情報技術論」の 1 科目ですが、1 年次の春学期（在学 1 学期目）終了時点で通算の GPA が 2.0 未満の場合は、図書館司書課程の必修科目「図書館情報技術論」を、登録することはできません。

(3) オリエンテーションへの参加

「図書館司書課程オリエンテーション（新規登録者対象）」に必ず参加してください。

図書館司書課程オリエンテーションを無断で欠席した場合は、課程登録を認めないことがありますので十分注意してください。

(4) 留学・休学する場合

派遣留学・認定留学・休学する場合は、必ず事前に教育支援課へ申し出てください。

(5) 図書館司書課程の辞退

図書館司書課程に登録した人が、途中で進路変更などにより辞退する場合は、必ず教育支援課へ「辞退届」を提出してください。

※一度辞退すると、在学中に再度登録することはできません。

2 図書館司書課程の科目

下表の大学における授業科目から必修科目を 22 単位、選択科目から 2 科目以上を選択して 4 単位以上、あわせて 26 単位以上を修得してください。

外国語学部・国際貢献学部共通

	図書館法施行規則に定める科目	単位	大学における授業科目	単位	配当年次	備考
甲群（必修科目）	生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	1	全学共通科目（教養科目）
	図書館概論	2	図書館概論	2	2	
	図書館制度・経営論	2	図書館制度・経営論	2	2	
	図書館情報技術論	2	図書館情報技術論	2	1	
	図書館サービス概論	2	図書館サービス概論	2	2	
	情報サービス論	2	情報サービス論	2	2	
	児童サービス論	2	児童サービス論	2	3	
	情報サービス演習	2	情報サービス演習	2	2	※ 1
	図書館情報資源概論	2	図書館情報資源概論	2	2	
	情報資源組織論	2	情報資源組織論	2	3	
	情報資源組織演習	2	情報資源組織演習	2	3	※ 2
乙群（選択科目）	図書館基礎特論	1	図書館基礎特論	2	2	
	図書館サービス特論	1	図書館サービス特論	2	3	
	図書館施設論	1	図書館施設論	2	2	
	図書・図書館史	1	図書・図書館史	2	3	
	合計	24	必要単位数	26		



履修上の注意事項

注 1	図書館司書課程の必修科目の「生涯学習概論」以外は、1 年間に登録できる単位数の上限 48 単位を超えて履修登録することができません。
注 2	2・3 年次で必修科目と重複した場合は、必修科目を履修してください。
注 3	※ 1 の科目を履修するには、「情報サービス論」を履修していること。 ※ 2 の科目を履修するには、「情報資源組織論」を履修していること。

3 図書館司書課程修了証書の交付

図書館司書課程で定められた科目の単位を修得すれば、学位記授与式当日に「図書館司書課程修了証書」を交付します。

博物館学芸員課程

<学部生対象>

公立または私立の博物館に専門的職員として従事するためには、博物館法により「学芸員」の資格を取得しなければなりません。本学で学芸員の資格を取得するために開講しているのが、博物館学芸員課程です。

1 博物館学芸員課程の登録

(1) 課程登録

博物館学芸員課程は、2 年次春学期または 3 年次春学期（休学・留学中の学生を含む）の登録となります。

博物館学芸員課程を登録するにあたって、課程登録を行った年次に登録履修費として 10,000 円（予定）を納入する必要がありますが、登録履修費は課程を途中で辞退しても返金できませんので、注意してください。

登録履修費のほか、博物館実習（館園実習）において、実習館によっては費用（実習費）が発生する場合があります。
※時間割、履修登録、留学等の状況により、課程を修了できない場合があります。

(2) 1 年次からの履修

1 年次の秋学期（在学 2 学期目）に一部の博物館学芸員課程科目を登録することができます。希望する場合は、下記の注意事項を参照し、1 年次対象の「資格課程秋学期開講科目の登録オリエンテーション」（日時・場所は毎年度本学ホームページに掲載する「履修の手引き」参照）に参加してください。



1 年次生が登録する場合の注意事項

履修登録できる科目は「博物館概論」の 1 科目ですが、1 年次の春学期（在学 1 学期目）終了時点で、GPA が 2.0 未満の場合は、博物館学芸員課程の必修科目「博物館概論」を、登録することはできません。

(3) オリエンテーションへの参加

「博物館学芸員課程オリエンテーション（新規登録者対象）」に必ず参加してください。

博物館学芸員課程に関する各オリエンテーションを無断で欠席した場合は、課程登録および継続を認めないことがありますので十分注意してください。

(4) 留学・休学する場合

派遣留学・認定留学・休学をする場合は、必ず事前に教育支援課へ申し出てください。

(5) 博物館学芸員課程の辞退

博物館学芸員課程を進路変更などにより辞退する場合は、必ず教育支援課へ「辞退届」を提出してください。

※一度辞退すると、在学中に再度登録することはできません。

2 博物館学芸員課程の科目

下表の本校における授業科目から必修科目 20 単位、選択科目 8 単位を修得してください。

外国語学部・国際貢献学部共通

	博物館法施行規則に定める科目	単位	本校における授業科目	単位	配当年次	備考
必修科目	生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	1	全学共通科目(教養科目)
	博物館概論	2	博物館概論	2	1	
	博物館経営論	2	博物館経営論	2	3	
	博物館資料論	2	博物館資料論	2	2	
	博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2	3	
	博物館展示論	2	博物館展示論	2	2	
	博物館教育論	2	博物館教育論	2	2	
	博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2	3	
	博物館実習	3	博物館実習Ⅰ	2	2	
			博物館実習Ⅱ	1	3	
			博物館実習Ⅲ	1	3	注3
	合計	19	必要単位数(必修科目)	20		
選択科目			京都文化論A	2	1	全学共通科目(教養科目)
			京都文化論B	2	1	
			京都の伝統文化A	2	2	
			京都の伝統文化B	2	2	
			考古学	2	2	
			人類学	2	2	
			ミュージアムマネジメント(PBL)	2	2	
			美術史	2	2	
			必要単位数(選択科目)	8		
			必要単位数合計	28		



履修上の注意事項

注1	博物館学芸員課程の必修科目の「生涯学習概論」以外は、1年間に登録できる単位数の上限48単位を超えて履修登録することができます。
注2	2・3年次で必修科目と重複した場合は、必修科目を履修してください。
注3	「博物館実習Ⅰ」「博物館実習Ⅱ」を履修していること。

3 博物館実習

博物館実習は、受入れ側の博物館等と本学との綿密な計画のもとに実施しますので、所定の手続きや指導事項および書類の提出期限を厳守してください。また、本学では実習に参加するために、実習時期に応じて実習参加資格を満たす必要があります。

詳細は「博物館実習内諾オリエンテーション」（日時・場所は毎年度本学ホームページに掲載する「履修の手引き」参照）で説明します。

博物館実習参加資格		
実習期間	参加資格を満たす時期	参加資格
春学期（4月1日～8月31日）	前年度終了時まで	「博物館概論」「博物館資料論」「博物館教育論」「博物館展示論」「博物館実習Ⅰ」の単位を修得済みで、選択科目の4科目8単位以上を修得済みであること。
秋学期（9月1日～翌年3月31日）	当該年度の春学期終了時まで	

4 実習館の選択

実習館は下表の「A 本学指定の実習館」「B 出身地等に所在する博物館等（個人交渉）」のいずれかを選択しなければなりません。

なお、「A 本学指定の実習館」では、受入れ人数に制限がありますので、実習を希望する人が多い場合は、選考を行うことがあります。

また、本学指定の実習館であっても、年度によっては受入れがない場合があります。

【注】A・Bいずれの場合も内諾を得た後に、博物館実習を辞退することはできません。

A 本学指定の実習館			
都道府県	実習館	住所	
京都府	京都府立山城郷土資料館	〒619-0204	相楽郡山城町上狛千両岩
	霊山歴史館	〒605-0861	京都市東山区清閑寺霊山町1
	京都市考古資料館	〒602-8435	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1
	京都清宗根付館	〒604-8811	京都市中京区壬生賀陽御所町46-1
滋賀県	滋賀県立陶芸の森陶芸館	〒529-1804	甲賀市信楽町勅旨2188-7
兵庫県	神戸市立博物館 〔神戸市出身の学生に限る〕	〒650-0034	神戸市中央区京町24
	芦屋市立美術博物館	〒659-0052	芦屋市伊勢町12-25
大阪府	堺市博物館〔堺市在住の学生に限る〕	〒590-0802	堺市堺区百舌鳥夕雲町2丁目
静岡県	伊豆シャボテン動物公園	〒413-0231	伊東市富戸1317-13
長野県	小さな絵本美術館	〒394-0081	岡谷市長地権現4-6-13

B 出身地等に所在する博物館等

学生が出身地等に所在する博物館等で実習することができますが、その場合は、本人がホームページ等で申請期間等を確認のうえで、内諾交渉を行う必要があります。ただし、内諾交渉や実習のために定期試験を欠席した場合は、追試験を認めませんので、十分注意してください。

5 博物館実習の評価

博物館実習の評価は、実習館から報告される「博物館実習成績報告票」の評価と「博物館実習Ⅲ」の成績に基づき総合的に評価します。実習を行う年度に留学する場合は、事前に教育支援課で相談のうえ、履修登録してください。

春学期（4月10日から7月31日）に実習を行った場合は、「博物館実習Ⅱ」の成績も評価の対象となります。

6 国際文化資料館の利用

国際文化資料館（10号館4F）は、通常の博物館業務とともに博物館学芸員課程における生きた実習の場として日常的に活用してください。

7 博物館学芸員課程修了証書の交付

博物館学芸員課程で定められた科目の単位を修得すれば、学位記授与式当日に「博物館学芸員課程修了証書」を交付します。

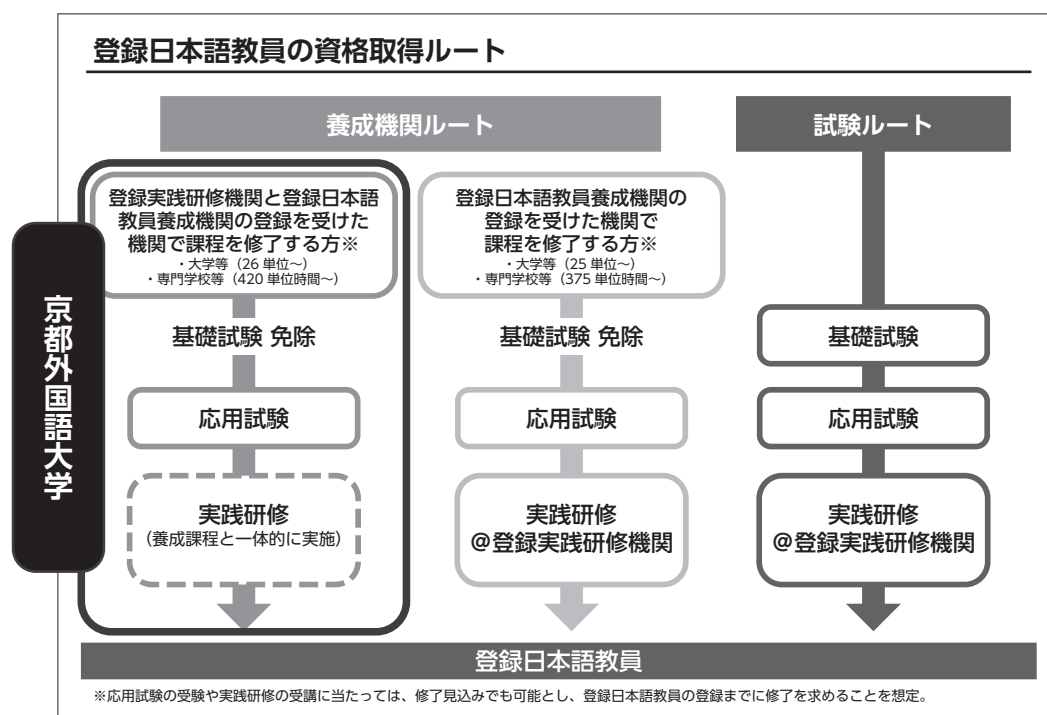
日本語教員養成課程

<日本語学科生対象（編入学生を除く）>

「登録日本語教員」として登録を受けるためには、「日本語教員試験」（国家試験）に合格するとともに登録実践研修機関で実践研修を修了する必要があります。本学の日本語教員養成課程を修了した人は、文部科学省への申請により日本語教員試験の基礎試験が免除されます。この申請により日本語教員試験の基礎試験を免除されたうえで応用試験を受験し合格した人は、試験出願時に登録されたマイページ内から合格証書のダウンロードが可能です。登録日本語教員の登録申請については、文部科学省ホームページより「登録日本語教員の登録申請の手引き」を確認してください。

<文部科学省 登録日本語教員の登録等に関すること>

https://www.mext.go.jp/a_menu/nihongo_kyoiku/mext_02668.html



引用：文化庁 登録日本語教員の資格取得ルート

1 日本語教員養成課程の登録

(1) 課程登録

日本語教員養成課程は、2年次春学期のみの登録（休学・留学中の学生を含む）となります。登録希望者は「日本語教員養成課程オリエンテーション」に必ず参加し、所定の手続きを行ってください。

課程を登録するにあたっては、登録履修費として 10,000 円を納入する必要があります。

なお、課程を途中で辞退しても返金できませんので、注意してください。

また、時間割、履修登録、留学等の状況により、課程を修了できない場合があります。

(2) オリエンテーションへの参加

登録日本語教員の制度概要、課程を修了するために必要な単位などの注意事項を「日本語教員養成課程オリエンテーション」で説明しますので、必ず参加してください。

(3) 留学・休学する場合

派遣留学・認定留学・休学を希望している場合は、必ず事前に教育支援課へ申し出てください。課程の履修計画（教壇実習を含む）について、個別に説明します。

なお、課程登録者が派遣留学・認定留学に伴い、単位の認定を希望する場合は、「派遣留学・認定留学に伴う単位認定」の188ページに記載の内容を必ず事前に確認してください。

(4) 日本語教員養成課程の辞退

進路変更などにより途中で課程を辞退する場合は、必ず教育支援課へ「辞退届」を提出してください。一度、登録を辞退すると、在学中に再度登録することはできません。

2 日本語教員養成課程に関する科目・単位数

課程を修了するためには、以下の授業科目（計36単位）をすべて修得する必要があります。

	授業科目名	単位数	配当年次	備考
養成課程	日本語教育の基礎知識 A	2	1	専門科目・必修
	日本語教育の基礎知識 B	2	1	専門科目・必修
	日本語学の基礎知識 A	2	1	専門科目・必修
	日本語学の基礎知識 B	2	1	専門科目・必修
	日本語音声表現法	2	1	専門科目・選択（日本語教育領域）
	日本語教育実習入門 I	2	1	専門科目・選択（日本語教育領域）
	言語学概論 A	2	2	専門科目・必修
	言語学概論 B	2	2	専門科目・必修
	日本語教育文法 A	2	2	専門科目・選択（日本語教育領域）
	社会言語学	2	2	専門科目・選択（日本語教育領域）
	日本語教授法	2	2	専門科目・選択（日本語教育領域）
	第二言語習得論	2	2	専門科目・選択（日本語教育領域）
	日本語教育と異文化理解 A	2	3	専門科目・選択（日本語教育領域）
	日本語教育と異文化理解 B	2	3	専門科目・選択（日本語教育領域）
	日本語学特論 B	2	3	専門科目・選択（日本語教育領域）
	日本語教育の心理学	2	3	専門科目・選択（日本語教育領域）
	日本語教育と ICT	2	3	専門科目・選択（日本語教育領域）
実践研修	日本語教育実習（教壇実習を含む）	2	4	専門科目・選択（日本語教育領域）
	合 計	36		



単位修得上の注意事項

注 1	原則として、実践研修科目「日本語教育実習」を履修するには、3年次秋学期（在学6学期）終了までに、すべての養成課程科目（17科目34単位）を修得しておく必要があります。
注 2	実践研修科目「日本語教育実習」は、春・秋学期に開講しますが、履修はいずれかの学期に限ります。従って、4年次春学期（在学7学期目）の「日本語教育実習」が不合格になった場合は、4年次秋学期（在学8学期目）の「日本語教育実習」を再履修することはできません。

3 教壇実習（実践研修科目「日本語教育実習」内で実施）

① 実習参加資格

実習に参加するためには、3年次秋学期（在学6学期）終了までに、本学が指定する養成課程科目 17科目 34単位をすべて修得しておく必要があります。上記の資格を満たせない場合は、実践研修科目「日本語教育実習」を履修することができないため、在学時には実習を行うことができません。

② 実習は4年次の春学期（在学7学期目）または秋学期（在学8学期目）に行います。

③ 実習は45分×2回とします。

④ 実習先は、以下のとおりです。

⑤ 登録履修費（10,000円）とは別に、教壇実習費を納入する必要があります。

実習機関名	教壇実習費
京都民際日本語学校（本学提携機関）	70,000円

※実習参加資格を満たせなかった場合

原則として日本語教員養成課程の辞退手続きを行いますので、必ず教育支援課へ連絡してください。

なお、特別な理由（留学等）があり、日本語学科が課程継続の意欲があると判断した場合は、継続の措置をとることがあります。

ただし、在学中に「日本語教育実習（4年次春・秋学期配当）」を履修できない場合があります

4 修了証の発行（養成課程・実践研修）

日本語教員養成課程の修了者を対象に「養成課程修了証書」および「実践研修修了証書」を学位記授与式当日に交付します。

なお、日本語教員養成課程を修了見込みであり、本学を卒業見込みの状況で日本語教員試験を受験し合格した場合は、試験が実施された翌年の4月までに養成課程修了証書（写）を文部科学省へ提出する必要があります。期限までに当該証書を提出しなければ合格は取り消されますので、注意してください。

5 日本語教員養成推進

日本語教員養成推進室（6号館1階）には、日本語教員養成課程を履修する人のために、アドバイザーを配置し、書籍や教材・素材などを用意しています。主に、次のような学生への支援・アドバイスをを行います。

- ・日本語教育全般に関するアドバイス
- ・日本語教育関連の授業活動支援（模擬授業準備・教材作成など）
- ・学内外での日本語教育ボランティア活動支援
- ・国内外の日本語教育実習プログラムへの支援
- ・各種行事の開催（学習会、日本文化紹介のための研修会など）
- ・グループ学習・活動のための環境提供（日本語教育関連図書、PC、プリンターなど設置）

日本語教員養成推進室は同志の集いの場であり、相互に学び合う場でもあります。日本語教育分野専門科目での学びと共に、多文化共生時代に対応できる日本語教員を目指すみなさんを支援します。

IV

京都外国語短期大学 単位修得要領

IV
京都外国語短期大学 単位修得要領

V
海外での学び

VI
就職・キャリア支援
キャリア教育プログラム
エデュケーションデザインプログラム

VII
学生生活の手引き



学修をすすめるために

単 位

1 単 位 制

短期大学における学修は、短期大学設置基準に定められた単位制に基づいて行っています。開講している授業科目には、一定の単位数を定めており、これらの授業科目の履修登録を行い、教室内および教室外において所定の時間を学修し、試験などに合格することによって単位を修得することができます。

2 単位の考え方

単位とは、授業科目の修得に必要な学修量を時間で表すものです。1単位の学修時間は、授業時間とその授業のために準備（予習・復習）する教室外での自学自修時間を合わせて45時間となっています。したがって、単位の修得には単に授業を受けるだけでなく、予習・復習を行うことが単位を修得するための不可欠な要素であることを十分認識し、2年間の学修を進めてください。

〔本学以外の教育施設等における学修〕

1. 長期留学

長期留学に伴う認定科目は、授業時間15時間をもって1単位とします。

2. 短期留学

短期留学の認定科目は、授業時間15時間をもって1単位とします。

3. キャリア教育プログラム

- ・国内でのキャリア教育プログラムの認定科目は、授業時間45時間をもって1単位としますが、事前・事後学習については授業時間15時間をもって1単位とします。ただし、国内でのキャリア教育プログラムに講義・演習を伴うものについては、授業時間30時間をもって1単位とします。
- ・海外でのキャリア教育プログラムの認定科目は、授業時間30時間をもって1単位としますが、事前・事後学習については授業時間15時間をもって1単位とします。

授 業

1 学 期 (セメスター)

本学では、1年を春学期と秋学期の2学期に分けています。また、授業は学期毎に14週で完結します。

●春学期：4月1日～9月19日 ●秋学期：9月20日～翌年3月31日

2 授業科目の開講形態

授業科目の開講形態は、「週1回授業」と「週2回授業」です。

3 授業時間

授業は1講時100分で行い、各講時の授業時間は次のとおりです。

ただし、月～金曜日の1～3講時および土曜日は授業を行いません。

なお、定期試験期間中の試験時間は異なりますので、160ページを参照してください。

月曜日～金曜日		土曜日	
講時	時間	講時	時間
1 講時	9:10～10:50	1 講時	9:00～10:40
2 講時	11:00～12:40	2 講時	10:50～12:30
3 講時	13:50～15:30	3 講時	13:20～15:00
4 講時	15:40～17:20	4 講時	15:10～16:50
5 講時	17:50～19:30		
6 講時	19:40～21:20		

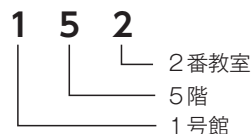
(注) 4 講時と 5 講時の間の休憩時間は 30 分間あります。

4 教 室

授業を行う教室には、教室番号を表示しています。

教室は試験などにより変更することがありますので、Kyoto Gaidai UNIPA で確認するようにしてください。

教室番号の仕組み



5 休 講

本学または担当教員のやむを得ない理由によって授業を行えない場合は休講とし、Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせしますので、こまめに確認するようにしてください。

なお、電話・メールでの問い合わせは受け付けません。

6 補 講

授業が休講となった場合、授業時間とは別に日時を定めて補講が行われます。補講は所定の補講日以外に、月～金曜日の 5・6 講時や土曜日の 1～4 講時等に行います。日時、教室等は Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせします。

7 交通機関の不通、暴風警報・特別警報発令時における授業の取り扱い

(1) 交通機関が不通の場合

次の指定したいずれかの交通機関の区間（一部の区間の場合は対象外）が不通の場合は、休講とします。
 なお、対象となる交通機関・区間および運行が再開された場合の授業・定期試験の取り扱いは、次のとおりとします。

対象となる交通機関・区間		
	JR	米原—西明石区間
	京都市バス・京都市営地下鉄	全区間
	京阪電車	淀屋橋（中之島）—出町柳区間
	阪急電車	神戸三宮—大阪梅田—京都河原町区間
	近鉄電車	京都—橿原神宮前区間
交通機関の運行が再開された場合の授業・定期試験の取り扱い		
授 業	午前 6 時 30 分までに運行再開の場合	1 講時 (午前 9 時 10 分。土曜日は午前 9 時) から授業を行います。
	午前 11 時までに運行再開の場合	3 講時 (午後 1 時 50 分。土曜日は午後 1 時 20 分) から授業を行います。
	午後 3 時までに運行再開の場合	5 講時 (午後 5 時 50 分) から授業を行います。
	午後 3 時を過ぎても不通の場合	全講時休講とします。
定期試験	午後 2 時までに運行再開の場合	6 講時 (午後 5 時) から定期試験を行います。
	午後 2 時を過ぎても不通の場合	定期試験は行いません。

(2) 暴風警報が発令された場合

予報 1 次細分区域における京都府南部、あるいは予報 2 次細分区域における南丹・京丹波、京都・亀岡、山城中部、山城南部のいずれかの地域に暴風警報が発令された場合は、休講とします。
 なお、同警報が解除された場合の授業・定期試験の取り扱いは、次のとおりとします。

暴風警報が解除された場合の授業・定期試験の取り扱い		
授 業	午前 6 時 30 分までに解除の場合	1 講時 (午前 9 時 10 分。土曜日は午前 9 時) から授業を行います。
	午前 11 時までに解除の場合	3 講時 (午後 1 時 50 分。土曜日は午後 1 時 20 分) から授業を行います。
	午後 3 時までに解除の場合	5 講時 (午後 5 時 50 分) から授業を行います。
	午後 3 時を過ぎても解除されない場合	全講時休講とします。
定期試験	午後 2 時までに解除の場合	6 講時 (午後 5 時) から定期試験を行います。
	午後 2 時を過ぎても解除されない場合	定期試験は行いません。

(3) 特別警報が発令された場合

上記(2)の暴風警報発令により休講とする地域に特別警報が発令された場合、発令された段階で休講とします。
 発令が授業中の場合も同様としますが、休講後の帰宅等については、周囲の状況を確認し、本学の危機管理マニュアルに基づき指示します。

- (4) 上記の交通機関または地域以外で不通・暴風警報・特別警報の影響を受けた学生は、担当教員にその事情を申し出てください。
- (5) 上記の取り扱いにかかわらず、自然災害等の状況によって、別途の措置を講ずる場合があります。

8 授業の出席



履修登録をした授業は毎回出席することが当然のことであり、成績評価において出席点というものはありません。授業にすべて出席したからといって単位修得は保証されませんが、実質授業回数の3分の2(10回)以上の出席を、その授業科目の単位修得に必要な最低限の要件とします。ただし、この3分の2(10回)以上の出席とは、忌引や病気等のやむを得ない理由による欠席を考慮してのことであり、3分の1(4回)まで欠席してもよいということではありません。日々の生活習慣・健康管理に気をつけて欠席しないようにしてください。

なお、本学では学期毎に必修科目について欠席の多い学生の調査を行い、当該の学生に対してアカデミック・アドバイザーが面談を行っています。

また、各授業における出欠は、学生各自のスマートフォンを使って確認します。スマートフォンを持っていない場合の確認方法は、担当教員の指示に従ってください。各授業の出欠状況は Kyoto Gaidai UNIPA の「学生出欠状況確認」で確認することができます。万一、出欠状況に誤りがある場合は、担当教員が修正しますので、当該学期の授業期間内に担当教員へ申し出てください。

※実技・実習の授業科目については、「出欠」の取り扱いに多少の差異がありますので、担当教員の指示に従ってください。

※Kyoto Gaidai UNIPAの「学生出欠状況確認」は、当該学期にのみ確認することができます。必要場合は各自データ等で保存してください。

9 授業の欠席



本学には、欠席届(公欠届を含む。)がありません。忌引や病気等のやむを得ない理由で授業を欠席する場合は、事前または事後に学生本人が担当教員へ連絡してください。ただし、学生は講師控室への入室はできませんので、注意してください。

○学校感染症に罹患した場合の処置

学校感染症(新型コロナウイルス、インフルエンザ等)と診断された場合は、学校保健安全法に基づき、授業の出席停止の措置を行いますので、速やかに保健室に報告し、指示を受けてください。提出書類として「診断書」もしくは「学校感染症罹患・治癒証明書」が必要です。※報告がないまま登校を再開するなど、事後での報告については、出席停止の措置は行いません。必ず発症時に連絡をしてください。

出席停止期間中の欠席については、履修上不利にならないよう配慮を依頼します。欠席した授業に関する対応は、各自で授業担当教員へ連絡し指示を確認してください。

※学校感染症による欠席は UNIPA「出席管理」上では「欠席」と表記されます。

なお、保健室への報告方法については 207 ページで確認してください。

○裁判員選任等に伴う授業の欠席の取り扱い

裁判員制度により、学生が裁判員候補者として裁判所に出向く場合および裁判員候補者として裁判所に出向き、裁判員または補充裁判員に選ばれた場合に授業を欠席する際は、事前に教育支援課で指示を受けてください。

10 教員への連絡等

授業担当教員への連絡・授業に関する質問は、授業期間内に学内、本学発行の Gmail でメールまたは Kyoto Gaidai UNIPA の「クラスプロファイル」等で行ってください。

なお、修学や学生生活に関する質問は、アカデミック・アドバイザー制度(専任教員)を利用してください。(27 ページ参照)

11 シラバス(講義概要)

各授業科目の内容は、シラバス(Kyoto Gaidai UNIPA の「シラバス照会」)に掲載しています。シラバスには、各授業科目の到達目標をはじめ、開講年度学期や担当教員名、単位数、週ごとの授業計画、評価方法(平常試験、定期試験等)、教科書・参考文献などが載っています。ただし、授業の進度や到達具合によってシラバスの内容と異なる場合がありますので、最終的な授業の進め方や内容については、授業担当教員の指示を受けてください。

12 SA制度

授業内での学生に対するきめ細やかな指導の充実を図るため、授業担当教員の指導のもと学部生(スチューデント・アシスタント[SA])が授業の補助をすることがあります。

試験

1 平常試験（オンライン試験を含む）

担当教員が授業時間内に行う試験で、小テスト、オーラルテストおよびレポート提出等が含まれています。実施日や時間、持ち込みの可否、遅刻者の取り扱い等は、担当教員の判断のもとに実施します。事前に一切の情報を与えずに授業時間内に実施することもありますので、普段から授業に出席して平常試験に対応できるようにしておいてください。

また、平常試験は、後載の「追試験」の対象とはなりませんので、忌引や病気等で平常試験が受験できない場合は、必ず事前または事後に学生本人がその事情を担当教員へ申し出て指示を受けてください。

なお、レポート等の提出物は必ず担当教員に直接渡してください。

2 定期試験

各学期終了後の本学が指定する期間に行う試験で、対象となる授業科目はシラバスで確認してください。

試験時間は右のとおりで、時間割等の詳細は Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせします。

【定期試験の試験時間】

講時	時間
6 講時	17:00 ~ 18:00
7 講時	18:20 ~ 19:20
8 講時	19:40 ~ 20:40



【定期試験受験上の注意】

1	当該学期の学費を納入していない人は、受験できません。
2	履修登録していない授業科目は、受験できません。
3	指定された試験場で受験してください。
4	学生証（科目等履修生・単位互換履修生は身分証）を机の上に提示しなければ、受験できません。 学生証不携帯の人は、学生生活課で「仮学生証」の交付を受けてください。
5	遅刻者の受験は、試験開始後 20 分以内に限り認め、それ以後は認めません。 なお、遅刻して試験場に入室する際には、学生証を監督者に提示し、指示に従ってください。
6	重複科目は、必ず所定の手続きを行ってください。（下記参照）
7	試験場でスマートフォン・携帯電話・電子手帳等を時計あるいは情報機器として使用できませんので、持ち込んだ場合は電源を切り、机には置かないでください。
8	試験場では監督者の指示に従ってください。
9	試験用紙が配布されたら、直ちに年次・学籍番号・氏名および授業の受講曜講時を記入してください。 なお、年次・学籍番号・氏名の記入がない場合は、当該科目の答案を無効とします。
10	答案の提出は、試験開始後 20 分以降とします。
11	以下の不正行為と疑われる行為を行った人が、教授会での審議の結果、当該不正行為を行ったと認められた場合、京都外国語短期大学試験に関する規程第 9 条第 2 項の規定（懲戒処分については京都外国語短期大学学則第 58 条第 1 項の規定、成績評価については京都外国語大学・京都外国語短期大学試験等における不正行為の処分基準）により処分します。 ①他の受験者の答案の覗き見をした人 ②問題・答案用紙配布後に話し合いをした人 ③答案を他の受験者に見せる、口伝えた人 ④使用可の資料、携帯電話、その他の電子機器等の貸借をした人 ⑤不審な挙動を注意した監督者の指示に従わない人 ⑥資料持込み不可の試験でカンニングペーパーを使用した人 ⑦机上への書き込みをした人 ⑧資料持込み不可の試験でテキスト・ノート等の閲覧をした人 ⑨資料等使用可の試験で許可されたもの以外の資料、携帯電話、その他の電子機器等の使用をした人 ⑩許可されていない機器（携帯電話・その他の電子機器等）の持込み、使用をした人 ⑪答案用紙の交換（行為の内容により⑬⑭に該当）をした人 ⑫組織的なカンニング行為をした人 ⑬依頼された他人が本人になりすまして受験（本人の学生証使用）をした人 ⑭答案提出直前に依頼した学生の氏名に書き換えて提出した人

※定期試験受験上の注意は、平常試験、追試験等他の試験にも適用します。

【定期試験での重複科目の取り扱い】

試験時間割の関係上、同一曜講時に受験科目が 2 科目以上重なった場合は、以下のとおり取り扱います。

- (1) 重複科目がある場合は、必ず定期試験開始日の前日までに教育支援課に願い出て所定の手続きを行ってください。手続きを行わない場合は、いずれの科目も受験することができません。
- (2) 所定の手続きを行った人に対し、教育支援課から重複科目の受験順位および試験場を指示します。
- (3) 重複科目の受験手続きを行った人は、試験場でその旨を監督者に申し出て、指示に従ってください。
- (4) 重複科目の試験時間は、1 科目 60 分とします。

3 追試験

定期試験を次の6項目の理由で受験できなかった人を対象に行う試験で、本学が指定する日に行います。

	理由	提出書類	
1	天 災	罹災証明書	
2	交通事故	診断書または事故証明書	
3	病 気	診断書	
4	就職試験・会社訪問	受験証明書または訪問を証明する書類	
5	裁判員選任等	裁判所発行証明書	
6	忌引・その他やむを得ない事由	保証人またはこれに代わる人による理由書	
		父母・配偶者	7日以内
		子	5日以内
		祖父母・兄弟姉妹	3日以内
		曾祖父母・伯叔父母・甥・姪	1日

※平常試験に対する追試験は行いません。

【受験申請方法】

所定の追試験受験願に必要事項を記入・押印し、証明書・診断書または理由書を添付して、定期試験開始日から定期試験終了日の翌日（翌日が日曜日・祝日の場合は翌々日）の午後5時までに別に定める受験料を添えて、教育支援課へ願い出てください。

ただし、理由の如何によっては追試験の願い出を受付けないことがあります。

成績評価および単位認定

1 成績評価の方法

成績評価は、担当教員がシラバス（講義概要）に記載している評価方法に基づいて行います。
なお、成績評価において出席点というものはありません。

2 成績評価の基準

成績評価は 100 点満点で評価し、60 点以上を合格、59 点以下を不合格とします。
なお、以下のいずれかに該当した場合は F（失格）評価とします。

F（失格）評価になる場合	
■	出席不足（原則として授業科目の実質授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要）で、かつ点数評価に不可欠なレポートの未提出または試験の未受験により履修放棄とみなした場合
■	Graduation Project II の受講者が最終課題（レポート）を提出せず口頭発表を行わなかった場合、あるいは最終課題（レポート）を提出し口頭発表を行っても点数による評価が不可能な場合
■	教授会において不正行為を行ったと判定した場合（不正行為の内容に応じて当該科目または当該学期の全受講科目）

3 成績評価の表記

成績評価は、Kyoto Gaidai UNIPA には素点と評価記号で、「成績証明書」には右表の評価記号で表記します。

また、本学では不合格科目も表記しますので、履修を中止する場合は、所定の期間に必ず取り消してください。取り消した授業科目は登録が削除され、成績表および成績証明書には記載されません。

なお、本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修に対する成績評価の表記は、163 ページを参照してください。

成績評価（素点）	評価記号	
100 点～90 点	A+	合 格
89 点～80 点	A	
79 点～70 点	B	
69 点～60 点	C	
59 点～0 点	D	不 合 格
失 格	F	

4 成績の発表

成績評価は、Kyoto Gaidai UNIPA に累積して表示します。

春学期の成績は 9 月上旬に、秋学期の成績は 2 月下旬に Kyoto Gaidai UNIPA で発表します。各学期の成績発表日時は Kyoto Gaidai UNIPA 等でお知らせしますので、必ず所定の時期に単位の修得状況を必ず確認してください。

なお、各学期に発表される成績を確認するためには、「学修振り返り+学生アンケート」を Kyoto Gaidai UNIPA の「マイステップ登録」に入力する必要があります。「学修振り返り+学生アンケート」が未入力の場合は、保証人も成績を確認することができません。

5 GPA (Grade Point Average)



GPA とは、単位あたりの成績評価の平均を数字で表したものであり、履修登録した全科目が対象となります。不合格科目（例えば、取消の手続きをせずに履修を放棄した科目など）がある場合は GPA が下がります。

なお、GPA の算出方法は、以下のとおりです。

$$\text{GPA} = \frac{(\text{A}^+ \text{科目の成績ポイント} \times \text{単位数}) + (\text{A 科目の} \cdots) + (\text{B 科目の} \cdots) + \cdots}{\text{総登録単位数 (全科目の単位数の合計)}}$$

単位認定 (N、T1、T2) の成績評価は、GPA の算出に含みません。

Grade	Score	Point
A+	100～90	4.0
A	89～80	3.0
B	79～70	2.0
C	69～60	1.0
D	59～0	0
F (失格)	—	0

6 単位修得不足および成績不振の学生に対する措置

入学後の在学1学期間の卒業要件のGPA(通算)が1.0未満かつ卒業要件の修得単位数が8単位未満の学生に対して、キャリア英語科が修学指導を行います。

なお、入学後の在学2学期間の卒業要件のGPA(通算)が1.0未満かつ卒業要件の修得単位数が16単位未満の学生は、学則第36条第1項第5号および第2項の定めにより、勉学継続の意欲がないものとして「除籍」します。ただし、特別な理由があり、キャリア英語科が勉学継続の意欲があると判断した場合は、「除籍」の措置をとらない場合があります。

7 本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定

入学前に他の大学等で修得した単位、在学中に他の大学や大学以外の教育施設等で修得した単位および本学独自のプログラム等で修得した単位を、以下のとおり認定します。なお、単位認定の時期は、教授会で認められた学期・年度とし、成績表に記載します。

また、申請方法および単位認定の詳細については当該プログラムのページを参照してください。

1. 本学以外の教育施設等の学修成果に対する単位認定

評価 記号	項目	認定科目	科目区分	単位認定および卒業要件 に算入する単位数の上限	
N	本学に入学する前に本学及び他大学等の授業科目を履修し修得した単位(新生対象)	科目対科目の振替認定	認定した科目の科目区分	15	45 ※1
	派遣留学・認定留学	一括認定および振替認定	認定した科目の科目区分	24(1学期間)	
	短期留学(本学主催プログラム)	短期留学	教養科目	4	
	・本学主催のキャリア教育プログラム(国内外) ・エデュケーションデザインプログラム ・大学コンソーシアム京都の産学連携教育プログラム	キャリア形成支援プログラム ※2		4	
	京都外国語大学の科目等履修科目	科目等履修科目		12	
	大学コンソーシアム京都の単位互換制度	大学コンソーシアム京都科目		12	
	外国語技能検定試験	外国語技能検定試験(英語)	専門科目(選択)	2	
		外国語技能検定試験(英語以外)		2	
	・ITパスポート試験 ・基本情報技術者試験	情報処理検定試験	教養科目	2	

※1「派遣留学・認定留学」の単位認定がない場合、卒業要件に算入する単位数の上限は、45単位ではなく30単位とする。

※2文部科学省・厚生労働省・経済産業省の合意による「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」におけるタイプ2(キャリア教育)およびタイプ3(汎用型能力・専門活用型インターンシップ)のプログラムを対象とする。

2. 本学独自プログラム等の学修成果に対する単位認定

評価 記号	項目	認定科目	科目区分	単位認定および卒業要件 に算入する単位数の上限
T2	E-Learning(Tutorial Studies)	E-Learning(Tutorial Studies)	専門科目(選択)	1

3. 再入学に伴う単位認定

評価 記号	項目	認定科目	科目区分	単位認定および卒業要件 に算入する単位数の上限
T1	再入学	退学・除籍前に合格した科目	認定した科目の科目区分 ※再入学の年次の教育課程による。	—

教育課程

卒業要件

2年(4学期)在学し、以下の授業科目区分に従って、62単位を修得すれば卒業となり、学位を取得することができます。学生本人の責任において綿密な履修計画を立て、学期毎に単位修得状況を確認し、卒業要件を満たすようにしてください。

授業科目区分		卒業要件単位数	〔注1〕専門科目(選択必修)の卒業要件単位は「Graduation Project II」の2単位を含めて単位を修得してください。
総合科目		4	
専門科目	選択必修〔注1〕	28	
	選択	18	
教養科目		12	
合 計		62	

卒業判定

2年次生を対象に、在学中に修得した単位数および在学年月数に基づき、年度末(3月卒業)および春学期末(9月卒業)に卒業判定を行います。

なお、2年(4学期)在学し、上記の「卒業要件」の表に定められた授業科目区分毎に所定の単位を修得し、合計62単位以上を修得した学生に対して卒業を認定します。

1. 3月卒業

判定結果は「卒業」または「留年」のいずれかとなります。

判定結果発表は2月下旬～3月上旬に Kyoto Gaidai UNIPA の「学籍情報照会」で行います。

「留年」と判定された人は、以降の学期で卒業要件単位数を満たすまで卒業ができず、在学を継続することになります。卒業を希望する学期の所定の期間に履修登録を行ってください。

2. 9月卒業

上記「1. 3月卒業」で「留年」になった人が対象となります。

判定結果は「卒業」または「留年」のいずれかとなります。

判定結果発表は9月上旬に Kyoto Gaidai UNIPA の「学籍情報照会」で行います。

「留年」と判定された人は、以降の学期で卒業要件単位数を満たすまで卒業ができず、在学を継続することになります。卒業を希望する学期の所定の期間に履修登録を行ってください。

※判定結果「留年」には、①在学年月数が2年(4学期)未満の学生で修業年限が不足している「留年」と、②在学年月数が2年(4学期)以上の学生で卒業要件単位数が不足している「留年(卒業延期)」の2種類があります。

履修登録

履修登録とは、**学生本人の責任において**自らが、履修する授業科目を決定し、所定の期間に行う手続きのことです。
履修登録の手続きを誤った場合は、履修しようと思っていた授業科目の受講や、試験を受けることができず、単位が修得できなくなりますので、履修登録は慎重に行ってください。

また、履修登録をする際には、毎年度本学ホームページに掲載する「履修の手引き」内の授業科目時間割および Kyoto Gaidai UNIPA の「シラバス照会」を大いに活用し、科目区分、単位数、開講学期、使用される言語、評価基準等をしっかり確認してください。

※履修登録を行うには、Kyoto Gaidai UNIPA の「マイステップ登録」で、学修目標等の入力が必要で、必ず所定の期間に必要な事項を入力してください。

<履修の手引き・履修登録日程・抽選科目リスト・Webシラバス>



1 履修登録の時期

春学期は 3 ～ 4 月（新入生は 4 月）、秋学期は 9 月の所定の期間に登録してください。
※年度により、春学期の履修登録を 3 月に行わない場合があります。

2 履修登録の方法

Kyoto Gaidai UNIPA の「履修登録」で行ってください。病気などのやむを得ない理由で所定の期間に登録できない場合は、必ず事前に学生本人が教育支援課へ連絡し、指示を受けてください。

3 履修登録できる単位数の上限

単位修得に必要な時間数および学修の質を確保するため、学期毎に履修登録できる単位数の上限を以下のとおり定めています。

春学期	秋学期	備考
24	24	卒業要件（通算）の GPA が 2.7 以上の場合は、上限を超えて履修登録することができます。

4 クラス（担当者）を指定する授業科目の登録

習熟度別クラスを Kyoto Gaidai UNIPA の「学籍情報照会」で確認のうえ、該当する授業科目を「履修登録」で登録してください。再履修等によりクラス（担当者）変更が必要な場合は、授業開始までに実施する「履修登録相談」で手続きを行ってください。

5 配当年次による登録

授業科目には配当年次がありますので、**配当年次に従って登録してください。**
ただし、下級年次配当の授業科目は登録することができます。
（例えば、1 年次生は 2 年次配当の授業科目は登録できませんが、2 年次生は 1 年次配当の授業科目を登録できます。）

6 履修登録の相談等

履修登録の相談等は、教育支援課で行っていますので、学生証を持参し、相談に来てください。問い合わせ内容によっては、電話やメールではお答えできない場合があります。

また、履修登録期間に合わせて、対面での相談期間を設けていますので、利用してください。
なお、休学、留学することで履修計画に関する不明な点がある場合は、早めに相談してください。

7 履修登録の確認

誤った授業科目が登録されていたり、履修エラーにより登録ができていなかったりすることがあります。履修登録時には必ず履修エラーがない状態で登録を完了してください。

なお、履修登録を完了すると本学発行の Gmail に「完了メール」が届きますので、メールに記載されている登録内容等を確認し、保管しておいてください。また、履修登録完了後に、Kyoto Gaidai UNIPA の「学生時間割表」に、登録した科目が間違いなく反映されているかを必ず確認してください。

8 履修登録科目の取消

履修登録し授業に出席した後に履修を中止する場合は、**必修科目を除き**、各学期の所定の期間に Kyoto Gaidai UNIPA の「履修登録」で、履修の取消をすることができます(卒業年次は卒業要件を満たす範囲内)。ただし、別の授業科目の追加や、履修を取り消した授業科目の再登録を当該の学期中に行うことはできません。

また、履修登録科目の取消が完了すると本学発行の Gmail に「完了メール」が届きますので、メールに記載されている登録内容等を確認し、保管するとともに、Kyoto Gaidai UNIPA の「学生時間割表」に、取消内容が間違いなく反映されているかを必ず確認してください。

なお、履修を取り消した授業科目は、GPA を算出する対象科目とはなりません。

9 その他の注意事項

- ・ 所定の期間以外に履修登録の追加や変更は認めません。
- ・ 履修登録を行っていない授業科目の受講・受験は認めません(履修エラーに該当する授業科目を含む)。
- ・ 同一学期の同一曜講時に複数科目の登録はできません。
- ・ 単位を修得済みの授業科目は登録できません。
- ・ 授業担当者が異なっても同一科目を複数登録することはできません。

科目区分毎の目標

総合科目	短期大学におけるレポート作成に必要な論理的思考能力とそれに基づく文章作成能力を身につけることを目標とします。また、言語と平和についての総合的な理解を深めることを目標とします。
専門科目（選択必修）	英語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得することにより、その運用能力を高めることを目標とします。また、「Graduation Project II」では身につけた内容を英語で発表し意見を交換することを目標とします。
専門科目（選択）	英語が用いられている地域に関して歴史、文化、社会、政治経済を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を身につけることを目標とします。
教養科目	地球規模の課題に取り組むための幅広い教養を身につけ、実社会に対応できるスキルを獲得することを目標とします。

教育課程一覽表

科目区分		1 年次				2 年次				卒業要件	
		春学期		秋学期		春学期		秋学期			
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	各区分	合計
総合科目		基礎ゼミナール	2	言語と平和	2					4	
専門科目	選択必修	Reading and Writing I	2	Reading and Writing II	2	Reading and Writing III	2		28		
		Listening and Speaking I	2	Listening and Speaking II	2	Listening and Speaking III	2				
		Research and Presentation I	2	Research and Presentation II	2	Graduation Project I	2	Graduation Project II		2	
		Test Preparation I	2	Test Preparation II	2	Studies in English Speaking Countries	2	Integrated English Practice A		2	
		Communicative Grammar	2		Graduation Project II (再履修用)	2	Integrated English Practice B	2			
					Integrated English Practice C	2					
	選択	英日翻訳入門	2	Public Speaking I	2	Academic Writing	2	Academic Reading	2	18	
		英語学・英語教育入門	2	通訳入門	2	Discussion Skills	2	児童英語教育	2		
			国際関係論入門	2	Public Speaking II	2		TOEIC対策Ⅱ	2		
			時事英語	2	TOEIC対策Ⅰ	2					
			編入学対策英語Ⅰ	2	編入学対策英語Ⅱ	2					
			ビジネス英語Ⅰ (ホテル実務)	2	ビジネス英語Ⅲ (エアライン実務)	2					
			ビジネス英語Ⅱ (旅行実務)	2	ビジネス英語Ⅳ (貿易実務)	2					
					オフィス英会話 (秘書英語)	2					
					日米コミュニケーション	2					
					比較文化入門	2					
		E-Learning (Tutorial Studies)							1		
					海外留学認定科目				1～18		
						外国語技能検定試験 (英語)	2				
		再入学時認定科目							1～18		
教養科目	外国語領域	スペイン語 (週 2 回授業)	4						12	62	
		フランス語 (週 2 回授業)	4								
		ドイツ語 (週 2 回授業)	4								
		ポルトガル語 (週 2 回授業)	4								
		中国語 (週 2 回授業)	4								
		イタリア語 (週 2 回授業)	4								
		ロシア語	2								
		コリア語	2								
		日本語Ⅰ	2	日本語Ⅱ	2						
	地域文化領域	日本の歴史と文化	2	日本文化への視点	2	自然・環境を考える	2				
		国内観光で活きる地理	2								
	国際関係領域	国際観光都市・京都を知る	2	海外観光で活きる地理	2		国際政治と社会	2			
	現代社会領域	健康科学の理論と実践	2	数的理解	2	現代社会と情報	2	生活の中の法律	2		
		情報技術の実践	2								
	キャリア形成領域	キャリアプランニング	2	キャリアベーシック	2						
		ビジネス教養 (マナーと表現力)	2	コミュニケーションと仕事 (PBL)	2						
	共通	科目等履修科目							1～12		
		大学コンソーシアム京都科目							1～12		
				海外留学認定科目					1～24		
				短期留学					1～4		
			キャリア形成支援プログラム					1～4			
					外国語技能検定試験 (英語以外)	2					
再入学時認定科目							1～12				



履修上の注意事項

- 総合科目 (必修)

①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、4 単位を修得してください。

②「基礎ゼミナール」はクラス (担当者) を指定します。

③「言語と平和」はリレー形式の授業科目です。
- 専門科目 (選択必修)

①配当年次に従って、すべて履修し、「Graduation Project II」の 2 単位を含み、計 28 単位を修得してください。(2 年次秋学期配当の Integrated English Practice A/B/C を除く)
- ただし、2 年次春学期終了時での単位修得状況によっては、専門科目 (選択必修) の卒業要件単位を満たすために、2 年次秋学期配当の「Integrated English Practice A/B/C (各 2 単位、合計 6 単位)」の一部またはすべてを履修する必要があります。

①なお、専門科目 (選択必修) については、各年次・学期にしたがって、計画的に履修し単位を修得しなければ、2 年 (在学 4 学期間) での卒業が難しくなる場合があります。

②Graduation Project II では、最終課題 (リポート) を提出し、口頭発表を行わなければなりません。Graduation Project II の成績評価は、最終課題 (リポート) および口頭発表を含めて行います。
- ③習熟度別クラスで授業を行い、クラス (担当者) を指定します。
- 専門科目 (選択)

①配当年次に従い、選択して履修し、計 18 単位を修得してください。
- 教養科目

①配当年次に従い、選択して履修し、計 12 単位を修得してください。

②「週 2 回授業」は必ず 2 回とも履修してください。
- 【京都外国語大学・英米語学科への編入学を目指す場合の注意点】

・専門科目 (選択必修) では、英語圏への基礎的理解のため、「Studies in English Speaking Countries」を履修し単位を修得するようにしてください。

・専門科目 (選択) では、編入学後の英米語学科ゼミナール科目履修のため、「英語学・英語教育入門」「国際関係論入門」「比較文化入門」の 3 科目のうち、2 科目以上を履修し単位を修得するようにしてください。

Graduation Project II

キャリア英語科を卒業するには、専門科目（選択必修）の「Graduation Project II」（2単位）の単位修得が必須です。「Graduation Project II」の単位を修得するには、以下のとおり、最終課題（レポート）の提出および口頭発表を行い合格する必要があります。

1 最終課題（レポート）の提出

授業を履修し、各自で世界の諸問題に関するテーマを設定し、読書や議論、実践を通じて理解を深める中で、担当教員の指導に基づいて最終課題（レポート）を作成し、提出してください。

(1) 提出期限・提出方法・提出先

担当教員が指定する期限までに、担当教員が指定する方法により、担当教員に提出してください。

(2) 本文の使用言語

英語

(3) 本文の構成

5 パラグラフ以上のエッセイとします。詳細は授業担当者の指示に従ってください。

2 口頭発表

世界の諸問題に関する 5 分以上の口頭発表を行ってください。詳細は授業担当者の指示に従ってください。

各種制度等

帰国生・渡日生教育支援プログラム

帰国生・渡日生を対象に京都外国語大学の科目等履修生制度により、日本語力の補強や母語・母国文化の学習継続などの支援を行い、社会的および職業的自立に必要な能力等を育成するプログラムです。

1. プログラムの適用時期および履修可能単位数

1 年次生春学期から適用し、以降の各学期での適用も可とします。履修できる上限単位数は各学期 6 単位までとし、修得した単位は短期大学の単位として認定しますが、卒業要件に算入する単位数は 4 単位（以下に記載の日本語を母語としない学生用「基礎ゼミナール」を除く）を上限とします。

2. プログラム登録学生が履修可能な授業科目

①日本語運用能力の向上に関する授業科目

プログラム登録学生で、日本語を母語としない人は日本語能力に応じて、以下の科目を履修できます。（「日本語を母語としない人」については以下の「日本語を母語としない学生について」を参照してください。）

- ・全学共通科目（外国語科目）「日本語 A ～ H」
- ・全学共通科目（教養科目）「ビジネス日本語 A・B」「日本語能力試験 N1 対策 A・B」

②母語・母国文化の学習継続に関する授業科目

プログラム登録学生の母語・母国文化に係る外国語学部の当該学科の専門科目（選択）の授業科目を履修できます。ただし、インターメディエイトおよびアドバンストの授業科目を履修するには、当該レベルの履修基準を満たしておくことを条件とします。

③その他

プログラム登録学生で、日本語を母語としない人は、外国語学部で春学期に開講されている日本語を母語としない学生用の「基礎ゼミナール」を履修（各学期の上限単位数 6 単位に含む）できます。単位を修得した場合は短期大学の「基礎ゼミナール」の単位として振り替えます。ただし、この場合、プログラムとして卒業要件に算入する上限単位数 4 単位には含めません。短期大学で開講されている「基礎ゼミナール」の曜日・講時とは異なりますので、注意してください。

3. プログラムの登録

プログラムの登録を希望する学生は、本学ホームページおよび Kyoto Gaidai UNIPA 等でお知らせする各学期授業開始前に実施する帰国生・渡日生教育支援プログラムのオリエンテーションに参加してください。

※プログラム登録は各学期ごとに行います。継続して登録を希望する場合も、各学期授業開始前に実施するオリエンテーションへの参加が必要です。

4. 費用

科目等履修生で受講する授業科目（帰国生・渡日生教育支援プログラムで適用された科目に限る）の履修料は免除します。

日本語を母語としない学生について

『入学手続きのしおり』で案内するオンライン手続により、ランゲージセンターが該当予定者に対して実施する「日本語能力診断テスト」の結果に基づき、入学後に日本語の運用能力の向上が必要であると本学が判断した人を「日本語を母語としない学生」とします。

<「日本語を母語としない学生」の確認方法>

日本語を母語としない学生と判断された場合は、Kyoto Gaidai UNIPA「学籍情報照会」の「留学生（留学生以外の日本語非母語話者含む）」欄に「留学生」と表示されます。

<入学前に日本語能力診断テストを受験しなかった人へ>

入学後にアカデミック・アドバイザーやキャリア英語科から日本語学習を促された場合は、ランゲージセンターからの案内に基づき日本語能力診断テストを必ず受験してください。テストの結果、日本語運用能力の向上が必要であると本学が判断した場合は、翌学期から「日本語を母語としない学生」として取り扱います。

科目等履修生制度

科目等履修生制度とは、以下のとおりキャリア英語科の正規課程以外の授業科目が履修できる制度です。

科目等履修生制度で修得した単位は、本人の申請に基づき以下のとおり認定します。単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」（163 ページ）を参照してください。

なお、出願の時期や履修可能な授業科目等の詳細は、学期初めに行うオリエンテーションや Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」等で説明します。

内 容		単位認定	登録料	履修料
①	学部の一部の授業科目が履修できる制度	教養科目「科目等履修科目」として12単位を上限に単位を認定し、卒業要件に算入。また、②で修得した単位は、編入学後に当該学科の一部の専門科目の単位として認定	1,000円	週1回授業 1科目 2,000円
②	外国語学部（英米語学科以外）・国際貢献学部への編入学希望者を対象に、希望する学科の専門科目の一部が履修できる制度		1,000円	週2回授業 1科目 4,000円
③	学部への編入学希望者で、編入学後の資格取得希望者を対象に、資格課程に関する科目が履修できる制度（1年次秋学期以降に履修が可能）	編入学後に、資格取得に必要な単位として認定	1,000円	週1回授業 1科目 2,000円
				週2回授業 1科目 4,000円
④	帰国生・渡日生教育支援プログラム参加者を対象に、学部の母語に関する授業科目や日本語に関する授業科目が履修できる制度	履修できる上限単位は各学期6単位までとし、教養科目「科目等履修科目」の単位として認定しますが、卒業要件に算入する単位は4単位を上限として認定（日本語を母語としない学生用の「基礎ゼミナール」を除く）	免除	免除

大学コンソーシアム京都の単位互換制度

「大学コンソーシアム京都」の単位互換制度とは、加盟している約 45 の大学・短期大学が単位互換協定を締結し、相互に授業を履修できる制度です。ただし、本学の学生が**この制度を利用して本学が提供する授業科目を履修することはできません。**

この制度で修得した単位は、本人の申請に基づき、教養科目「大学コンソーシアム京都科目」として 12 単位を上限に単位を認定し、卒業要件に算入します。単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」（163 ページ）を参照してください。また、**当該学期に卒業を予定している 2 年次生はこの単位互換制度により修得した単位の認定が卒業判定に間に合わない可能性があるため、履修する科目の単位を本学の卒業要件単位に含めないよう履修登録を行ってください。**

出願資格	出願時から履修許可を受けた科目の開講学期まで、短期大学に在学する正規生
出願方法	<p>大学コンソーシアム京都のホームページ（https://www.consortium.or.jp/）から各自で出願してください。</p> <p>【出願にあたっての注意事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開講科目には開講期間が前期・春学期、後期・秋学期、通年、集中等の科目がありますが、所定の期間内（年 1 回）に出願してください。 2. 当該大学の開講期間や通学時間などを考慮して出願してください。 3. 科目によっては書類選考により希望する科目を履修できない場合があります。 また、原則として履修許可後の辞退は認めません。<u>履修許可を受けた科目に一度も出席しない等の行為は、授業を開講する大学に迷惑がかかりますので、十分に履修計画を立てて出願してください。</u> 4. 出願は自己責任で行ってください。
開講科目	大学コンソーシアム京都のホームページを確認してください。
出願期間	所定の期間（Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせ）に大学コンソーシアム京都のホームページから出願してください。
履修の可否等の連絡	4 月中旬以降に科目を開講する大学より履修の可否について、出願時に登録したメールアドレス宛に連絡があります。連絡があるまでは「仮受講」として出願した科目を受講してください。
履修科目の単位認定	<p>合格した科目については、所定の手続きを経て、学期毎に単位認定を行います。</p> <p>なお、単位認定の申請手続きについては、履修の可否決定後、履修許可者のみに Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせします。</p>

資格検定試験の単位認定

在籍中に資格検定試験等を受験し、本学の定める基準に達した場合は、本学において修得した単位として認定します。

単位認定	2 年次の 7 月に本人申請に基づき、それぞれの科目区分の中で認定し、卒業要件に算入する単位数は、各 2 単位を上限とします。
申請書類	証明書（スコアレポート・合格証書等）のコピーを提出してください。 単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」（163 ページ）を参照してください。
申請期間	本学が指定する期間（7 月） Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせします。

1 外国語技能検定試験の単位認定

英語の場合

言語	専門科目（選択） 「外国語技能検定試験（英語）」（2 単位）	
英語	TOEIC L&R（IP を除く）	670 点以上
	TOEFL iBT	57 点以上 ※ 2026 年 1 月 20 日以前実施分 3.5 以上 ※ 2026 年 1 月 21 日以降実施分
	IELTS（アカデミック・モジュール）	4.5 以上
	実用英語技能検定（S-CBT を含む）	準 1 級以上

英語以外の場合

言語	教養科目「外国語技能検定試験（英語以外）」（2 単位）	
スペイン語	スペイン語技能検定	4 級以上
	DELE	A2 以上
フランス語	実用フランス語技能検定試験	準 2 級以上
	DELFI・DALF	A2 以上
	TCF	200 以上
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験	3 級以上
	Goethe-Zertifikat (ゲーテ・インスティテュートのドイツ語検定試験)	A2 以上
ポルトガル語	外国語としてのポルトガル語検定試験	準初級以上
	外国人のためのポルトガル語検定試験	中級以上
中国語	HSK ※右のいずれか 1 つ	4 級合格 5 級到達 (合計 180 点以上) 6 級到達 (合計 180 点以上) 7 級到達 (合計 315 ～ 349 点) 8 級到達 (合計 350 ～ 389 点) 9 級到達 (合計 390 点以上) ※ 7・8・9 級は共通問題
	中国語検定試験	3 級以上
	実用中国語技能検定試験	3 級以上
イタリア語	実用イタリア語検定試験および実用イタリア語検定 IBT	4 級以上
	CILS	A2 以上
	CELI	1 以上
ロシア語	TORFL 検定試験	基礎レベル以上
	ロシア語能力検定試験	3 級以上
コリア語	韓国語能力試験	3 級以上
	ハングル能力試験	3 級以上

2 情報処理検定試験の単位認定

種類	教養科目「情報処理検定試験」（2 単位）
・ IT パスポート試験 ・ 基本情報技術者試験	合格

語学検定試験受験料の助成（後援会）申請方法

1 助成申請が可能な対象者

後援会費を納入している人

2 助成対象となる検定試験

英 語	● TOEIC Listening & Reading Test ● IELTS ● 観光英語検定試験	● TOEFL iBT ● 実用英語技能検定
スペイン語	● スペイン語技能検定 ● DELE	
フランス語	● 実用フランス語技能検定試験 ● TEF	● TCF ● DELF・DALF
ドイツ語	● ドイツ語技能検定試験 ● Goethe-Zertifikat（ゲーテ・インスティトゥートのドイツ語検定試験）	● Test DaF
ポルトガル語	● 外国語としてのポルトガル語検定試験（CAPLE） ● 外国人のためのポルトガル語検定試験（Celpe-Bras）	
中国語	● HSK ● 実用中国語技能検定試験 ● 中国語検定試験	
日本語	● 日本語教育能力検定試験 ● 日本漢字能力検定 ● 日本語能力試験（JLPT）	
イタリア語	● 実用イタリア語検定試験 ● CILS ● CELI	
ロシア語	● ロシア語検定試験（TPKI-テ・エル・カ・イ、TORFL）	● ロシア語能力検定試験
コリア語 （韓国語）	● 韓国語能力試験（TOPIK） ● ハングル能力検定試験	

3 申請方法

申請期間内に Kyoto Gaidai UNIPA の「語学検定試験受験料助成金申請システム」から必要な情報を入力し、以下の内容を確認できる画像をアップロードしてください。

【申請に必要な画像】

1. 氏名、受験日などが記載されている合格证・結果通知書スコア
2. 支払った金額が分かる領収書（クレジットカードの明細可）
3. 振込先が確認できる通帳・口座詳細のオンラインページ など

4 申請期間

申請期間は、ランゲージセンターの語学検定試験受験料助成 Web ページを確認してください。



詳細はこちら

5 申請受付担当部署

ランゲージセンター（4号館3階）
e-mail : i-lang@kufs.ac.jp

GTEC Academic (4技能) およびTOEIC L&R (IP) の団体受験

現在、日本で実施されている英語力を判定する検定試験は、英検（実用英語技能検定）をはじめ約35種類あります。本学では、実用的な英語コミュニケーション能力を測定するために GTEC Academic (4 技能) を入学時および入学後の毎年度 12 月～1 月に全員が受験しなければなりません。また毎年度 7 月および 1 月に実施する TOEIC L&R (IP) も全員が受験しなければなりません。

試験結果は、客観的な数値として授業内容の検討や選択必修科目のクラス分けに活用しますが、自らの英語の運用能力を把握することで明確な努力目標を設定して授業や将来の目標に取り組んでください。

なお、受験日・方法等については Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせします。

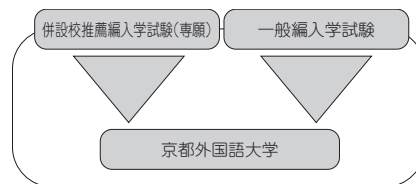
GTEC または TOEIC L&R (IP) のスコアによりクラス編成する専門科目（選択必修）			
Reading and Writing I	Reading and Writing II	Reading and Writing III	Graduation Project II
Listening and Speaking I	Listening and Speaking II	Listening and Speaking III	
Research and Presentation I	Research and Presentation II	Graduation Project I	
Test Preparation I	Test Preparation II		
Communicative Grammar			

進学等

短期大学を卒業した学生には、大学への「編入学」の道が拓かれています。原則として、学生各自が志望する大学の編入学試験に直接出願しなければなりません。本学を「指定校」としている特定の大学については、本学の推薦を得た学生が出願できる入学試験制度（専願）があります。

詳細については、Kyoto Gaidai UNIPA、KUFS Web Career 等を通して、情報配信します。

1 京都外国語大学への編入学



(1) 併設校推薦編入学試験（専願）

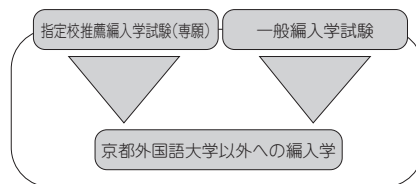
京都外国語大学では、建学の精神に賛同し、短期大学での基礎学力を基に、更なる学業研究を目指す優秀な人材を併設校の京都外国語短期大学から募るため、学力審査を免除した推薦編入学試験を実施しています。この入試制度では、本学は受験希望学生に対して学内選考基準に基づき選考し、学生を推薦します。受験希望の学生は、Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせする学内選考の申込方法を確認し、申込期間内にキャリア支援部へ申し込んでください。

学内選考を通過した学生には、インターネット出願に必要な ID およびパスワードが付与されます。インターネット出願サイトから各自で「募集要項」をダウンロードして、要項に記載の内容に従って手続きを行います。

(2) 一般編入学試験

京都外国語大学は、本学の学生（卒業生含む）および他の大学・短期大学等の学生を対象とし、学力審査で選考する「一般編入学試験」を 11 月と 2 月に実施する予定です。京都外国語大学は編入学合格者の単位を包括的に認定する制度となっていますので、全学科に出願することが可能です。出願期間や試験科目等は、インターネット出願サイトから各自でダウンロードできる「募集要項」で確認してください。

2 京都外国語大学以外への編入学



(1) 指定校推薦編入学試験（専願）

他大学から本学に在学する学生を対象として指定される入試制度です。この試験を受験するためには、各大学・学部等が指定する推薦条件を満たし、本学の学内選考に合格しなければなりません。推薦を希望する場合は、Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせする条件等を確認し、学内選考の申込方法に従い、キャリア支援部へ申し込んでください。

なお、この指定校推薦編入学試験は専願制の入試です。

(2) 一般編入学試験

短期大学で学んだ学生に対し、編入学の定員設定等を行い専門的な教育を受けられるよう編入学制度を拡充する大学が増えてきています。秋に編入学試験を実施したり、また 6 月に出願期間を定めている大学もあります。各大学の編入学試験制度に関する詳細については、各自、志望大学のホームページや「募集要項」で確認してください。

V

海外での学び



IV
国際公開講座
単位修得要領

V
海外での学び

VI
就職・キャリア支援
キャリア教育プログラム
インターンシッププログラム

VII
学生生活の手引き

期間や目的、国や地域で選べる 多彩な留学プログラム

※キャリア教育プログラムの詳細は、「Ⅵ．就職・キャリア支援・キャリア教育プログラム・エアラインスタディプログラム」で確認してください。

短期留学

- First-Step Abroad Program [FAP] (学部・短期大学生対象) 181
- ロシア語短期留学 (学部・短期大学生対象) 182
- 夏期英語研修 (短期大学生対象) 183
- 海外での語学研修等に伴う単位認定 (短期留学) (学部生対象) 183
- 海外日本語教育実習プログラム (日本語学科生対象) 184

長期留学

- 交換留学プログラム [派遣留学 A] (学部・短期大学生対象) 185
- セメスター・アブロード・プログラム [派遣留学 B : 英語留学] (学部生対象) 186
- ブリッジ・プログラム [派遣留学 C : 英語留学] (学部生対象) 186
- 認定留学 (学部・短期大学生対象) 186
- 派遣留学・認定留学に伴う単位認定 187
- SAF (スタディ・アブロード・ファウンデーション) 留学/休学留学 (学部・短期大学生対象) 191

リーダーシップ・チャレンジ

- リーダーシップ・チャレンジ (学部・短期大学生対象) 192
 - APSSA 学生カンファレンス
 - リーダーシップ・チャレンジ in 台湾
 - リーダーシップ・チャレンジ in サイパン
 - その他

留学サポート

- 留学サポート 193
 - 国際部 (4 号館 2 階)
 - 留学情報室 (4 号館 2 階)
 - 国際部 Student Ambassador (S.A.)
 - SAF (スタディ・アブロード・ファウンデーション) 日本事務局 関西オフィス
 - 留学月間報告書閲覧システム
 - 留学フェア
 - 各種プログラムの担当部署
- 海外渡航をする場合の留意事項 195
- 留学生との学内交流 196

短期留学

各プログラムの詳細および説明会の日程については本学ホームページ・Kyoto Gaidai UNIPA で確認してください。

First-Step Abroad Program [FAP] (学部・短期大学生対象)

春期休暇を利用して、海外の協定大学で数週間の語学留学を行います。留学プログラムの内容はフィールドトリップもあって盛りだくさんです。

POINT

- ★留学中はホームステイや学生寮などに滞在予定
- ★日本出発から帰国まで本学の教員が引率
- ★留学中の成果は、卒業に必要な単位として 2 単位を認定
- ★参加者全員に、大学校友会から奨学金を支給！

< 留学期間 (予定) >

2 月～ 3 月 [3 週間]

< コース [留学先大学] (予定) >

- スペインコース (サラマンカ大学)
- フランスコース (アンジェ・カトリック大学／ブルゴーニュ大学 ※隔年実施)
- ポルトガルコース (コインブラ大学)
- イタリアコース (シエナ外国人大学)

< 単位認定 >

【学部生】

全学共通科目 (教養科目) 「短期留学」として 2 単位を認定しますが、卒業要件に算入する単位数は、他の短期留学 (本学主催プログラム) および海外研修 (本学推奨プログラムを含む) で修得した単位とあわせて 4 単位を上限とします。

【短期大学生】

教養科目「短期留学」として 2 単位を認定しますが、卒業要件に算入する単位数は、他の短期留学 (本学主催プログラム) で修得した単位とあわせて 4 単位を上限とします。

※単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」(学部 46 ページ、短期大学 163 ページ) を参照してください。

※当該学期に卒業を予定している学部 4 年次生および短期大学 2 年次生が、卒業を予定する学期の休暇中に参加した場合は単位認定を受けられませんので、卒業要件単位に含めないようにしてください。

ロシア語短期留学

(学部・短期大学生対象)

夏期休暇を利用して、海外の協定大学で数週間のロシア語留学を行います。ロシア語学科通常コース2年次生および特修コース1年次生の必修留学プログラムですが、学部生の場合は全学共通科目(外国語科目)、短期大学生の場合は教養科目(外国語領域)でロシア語を履修している学生も参加することができます。

POINT

- ★留学中は学生寮に滞在予定
- ★日本出発から帰国まで本学の教員が引率
- ★留学中の成果は、卒業に必要な単位として2単位を認定

< 留学期間 (予定) >

8月[3週間]

< 留学先大学 (予定) >

カザフ国立大学 (カザフスタン)

< 単位認定 >

【学部生】

全学共通科目(教養科目)「短期留学」として2単位を認定しますが、卒業要件に算入する単位数は、他の短期留学(本学主催プログラム)および海外研修(本学推奨プログラムを含む)で修得した単位とあわせて4単位を上限とします。

【短期大学生】

教養科目「短期留学」として2単位を認定しますが、卒業要件に算入する単位数は、他の短期留学(本学主催プログラム)で修得した単位とあわせて4単位を上限とします。

※単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」(学部46ページ、短期大学163ページ)を参照してください。

※当該学期に卒業を予定している学部4年次生および短期大学2年次生が、卒業を予定する学期の休暇中に参加した場合は単位認定を受けられませんので、卒業要件単位に含めないようにしてください。

夏期英語研修

(短期大学生対象)

夏期休暇を利用して、オーストラリアの協定大学で5週間の英語研修を行います。選考試験により学生を選抜し、選抜された学生には、本学から奨学金を支給します。

POINT

- ★研修中はホームステイで生活体験
- ★研修中の成果は、本学の卒業に必要な単位として認定
- ★本学から奨学金を支給

< 研修期間(予定) >

8月～9月 [5週間]

< 研修先大学(予定) >

グリフィス大学 (オーストラリア)

< 単位認定 >

教養科目「短期留学」として2単位を認定しますが、卒業要件に算入する単位数は、他の短期留学（本学主催プログラム）で修得した単位とあわせて4単位を上限とします。

※単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」（163ページ）を参照してください。

海外での語学研修等に伴う単位認定(短期留学) (学部生対象)

夏期・春期休暇中に海外の教育施設で語学研修等を行い、一定の成果をあげ、本学が教育上有益と認めた場合、活動時間や内容に応じて本学の卒業要件として単位の認定を行います。認定を受けるには、教育施設の発行する証明書と研修期間・総学習時間数・内容が分かる証明書等が必要です。また、単位認定の申請できる期間が、活動を行った時期によって異なりますので注意してください。

対 象	1～4年次生	
単位認定	<p>本人の申請に基づき、他の短期留学（本学主催プログラム）および海外研修（本学推奨プログラムを含む）で修得した単位とあわせて、全学共通科目（教養科目）「短期留学」として4単位を上限に単位を認定し、卒業要件に算入します。</p> <p>※単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」（46ページ）を参照してください。</p> <p>※当該学期に卒業を予定している4年次生が卒業する学期に活動を行った場合は単位認定を受けられませんので、卒業要件単位に含めないようにしてください。</p>	
単位認定の申請	提出書類	<p>①単位認定願</p> <p>②教育施設が発行した証明書</p> <p>③研修時間が明記されている書類（証明書に記載のない場合）</p> <p>④研修（学習）内容がわかる書類</p>
	申請時期	<p>本学が指定する期間（7月上旬（2月～6月研修分）、1月上旬（7月～1月研修分））</p> <p>※ Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせします。</p> <p>※研修した年度（2月・3月は翌年度）に申請してください。</p>
	提出場所	Kyoto Gaidai UNIPA 「Web 申請」

※授業時間15時間（900分）をもって1単位とします。

※研修は授業に支障をきたさないように、授業期間外に行うようにしてください。

※休学期間中の活動については、単位の認定を受けることができません。

※本学が実施する短期留学（本学主催プログラム）は申請の対象外となります。

海外日本語教育実習プログラム

(日本語学科生対象)

本学で日本語教師を目指している学生を、海外の協定大学に派遣し、日本語教育の現場を経験することにより、本学の日本語教師志願者および海外での日本語学習者への支援ならびに日本語・日本文化等を普及することを目的としています。

POINT

- ★日本語教育の現場を経験
- ★事前・事後学習でトータルサポート
- ★実習中の成果は、実習時間に応じて、本学の卒業に必要な単位として認定！

< 実習時期(予定) >

夏期：8月～9月[2～3週間] 春期：2月～3月[2～3週間]

< 実習先大学(予定) >

- ・釜山外国語大学校 (韓国)
- ・東呉大学 (台湾)

< 単位認定 >

時間数に応じて専門科目(選択)「海外日本語教育実習」として4単位を上限に単位を認定し、卒業要件に算入します。

※単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」(46ページ)を参照してください。

※当該学期に卒業を予定している日本語学科4年次生が、卒業を予定する学期の休暇中に参加した場合は単位認定を受けられませんので、卒業要件単位に含めないようにしてください。

長期留学

各プログラムの詳細および説明会の日程については本学ホームページ・Kyoto Gaidai UNIPA で確認してください。

【派遣留学・認定留学計画】

①派遣留学計画サンプル

Case1:春学期出発(1学期間の場合)

20年4月

(春学期)

9月

(秋学期)

20年3月

1年次

選考試験・語学能力試験などの準備

20年4月

9月

20年3月

2年次

出願・合格

留学の準備

20年4月

9月

20年3月

3年次

留 学

20年4月

9月

20年3月

4年次

Case2:秋学期出発(2学期間の場合)

20年4月

(春学期)

9月

(秋学期)

20年3月

1年次

選考試験・語学能力試験などの準備

20年4月

9月

20年3月

2年次

準備継続

出願・合格

留学の準備

20年4月

9月

20年3月

3年次

留学の準備

留 学

20年4月

9月

20年3月

4年次

留 学

②認定留学計画サンプル

Case1:春学期出発(1学期間の場合)

20年4月

(春学期)

9月

(秋学期)

20年3月

1年次

留学先の情報収集

20年4月

9月

20年3月

2年次

留学先大学への出願

学内申請

許可

留学の準備

20年4月

9月

20年3月

3年次

留 学

20年4月

9月

20年3月

4年次

Case2:秋学期出発(2学期間の場合)

20年4月

(春学期)

9月

(秋学期)

20年3月

1年次

留学先の情報収集

留学先大学への出願

20年4月

9月

20年3月

2年次

学内申請

許可

留学の準備

留 学

20年4月

9月

20年3月

3年次

留 学

20年4月

9月

20年3月

4年次

交換留学プログラム [派遣留学A]

(学部・短期大学生対象)

本学が協定を結んでいる海外の大学へ1学期間または2学期間留学ができる制度です。奨学金などのサポート制度を最大限に生かした留学で、学部生は4年間、短期大学生は2年間で卒業することが可能です。

なお、留学期間中の本学への学費は全額納入することになります。

■ 学部

選考試験により選抜した学生を1学期間または2学期間、海外の協定大学に派遣する制度です。留学先大学の授業料が免除されるほか、本学から奨学金を支給します。

■ 短期大学

選考試験により選抜した学生を1学期間、カナダのダグラスカレッジに派遣する制度です。ダグラスカレッジの授業料が免除されるほか、本学から奨学金を支給します。

POINT

- ★派遣留学生全員に、本学から奨学金を支給！
- ★留学先大学の授業料は免除
- ★単位認定の制度有

※単位認定については187～191ページを参照してください。

セメスター・アブロード・プログラム [派遣留学B:英語留学] (学部生対象)

本学が協定を結んでいる海外の大学の英語コースへ1学期間留学ができる制度です。選考試験により選抜します。
なお、留学期間中の本学への学費および留学先大学の授業料は全額納入することになります。

POINT

- ★派遣留学生全員に、本学から奨学金を支給!
- ★留学中は学生寮やホームステイで生活体験
- ★単位認定の制度有

※単位認定については187～191ページを参照してください。

ブリッジ・プログラム [派遣留学C:英語留学] (学部生対象)

本学が協定を結んでいる海外の大学の英語コース1学期間+学部1学期間の合計2学期間留学ができる制度です。
選考試験により選抜します。

なお、留学期間中の本学への学費および留学先大学の授業料は全額納入することになります。

POINT

- ★派遣留学生全員に、本学から奨学金を支給!
- ★留学中は学生寮やホームステイで生活体験
- ★単位認定の制度有

※単位認定については187～191ページを参照してください。

認定留学 (学部・短期大学生対象)

自分の興味や目的に合った留学先大学を決め、本学の許可を得て私費で留学する制度です。留学に伴う経費や日程などは、自分で綿密に計画を立てなければなりません。留学期間は1学期間または2学期間です。

また、学内申請にあたり、各学部・学科が独自の条件を定めている場合がありますので、学部生はアカデミック・アドバイザーおよび学科長と、短期大学生はアカデミック・アドバイザーおよびキャリア英語科長と十分に相談してください。

なお、留学期間中の本学への学費は全額納入することになる他、留学先大学の授業料を含む留学にかかる経費は、すべて自己負担です。

POINT

- ★時間的余裕をもって、申請に必要な学内手続を進めること
- ★短期大学生の留学先は、本学協定大学のダグラスカレッジ(カナダ)とし、留学期間は1学期間のみ
- ★単位認定の制度有

※単位認定については187～191ページを参照してください。

派遣留学・認定留学に伴う単位認定

< 単位換算の方法・認定方式 >

単位認定は、原則として、留学先大学で履修したすべての授業時間数を、次の計算式によって本学の単位に換算し、授業科目の区分毎に本学の卒業に必要な単位として認定します。

なお、認定方式は、留学先大学で履修した授業内容に関係なく認定する「一括認定」と、本学の授業科目に類似した授業科目を留学先大学で履修した場合に振り替えて認定する「振替認定」で行います。

※外国語学部の通年科目（「総合〇〇語」など）については、単位認定ではなく「成績評価」により単位を認定します。

詳細については、【通年科目（「総合〇〇語」など）の取り扱いについて】を参照してください。

【単位換算の計算式】

$$\frac{\text{留学先大学で履修したすべての授業時間数（分）}}{900 \text{ 分（本学で 1 単位を修得するために必要な基準時間数）}} = \text{本学での単位数}$$

※日本語教育実習の単位数は、授業時間 30 時間（1800 分）をもって 1 単位とします。

< 認定単位数等 >

留学期間	単位認定の上限		申請から認定まで
	学 部	短期大学	
1 学期間	26 単位	24 単位	本人の申請に基づき所属学科会議を経て教授会で審議のうえ、その可否を決定します。したがって、留学すれば必ず単位が認定されるというものではありません。留学を計画した時点でアカデミック・アドバイザーおよび授業科目担当者（短期大学はキャリア英語科長）・国際部・教育支援課へ相談し、指導を受け、帰国後の単位認定申請に備えてください。
2 学期間	48 単位	—	

※単位認定全体の上限等については、「本学以外での学修成果に対する単位認定」（学部 46 ページ、短期大学 163 ページ）を参照してください。

※留学先大学で履修した実技に関する科目は、単位認定の対象となりませんので注意してください。

外国語学部

1 専攻語留学（留学先大学の授業での主たる使用言語が専攻語）の単位認定の方法

- ・留学先大学で修得した単位の認定方法は、原則として包括的な「一括認定」とします。ただし、全学共通科目（外国語科目）は科目対科目の「振替認定」とします。
- ・学部導入科目（基礎ゼミナール、言語と平和 A）および資格課程に関する科目の認定は行いません。
- ・ゼミナール科目Ⅰ～Ⅲは、留学中に担当教員から指導を受けていた場合に認定します。
なお、ゼミナール科目Ⅳは、担当教員から指導を受けたうえで、所定の期間に卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）を提出し、担当教員が合格と評価した場合に限り認定します。
- ・成績表等への表記は、「一括認定」の場合は海外留学認定科目（ただし、専門科目（必修）およびゼミナール科目は本学の授業科目名）、「振替認定」の場合は本学の授業科目名とします。

【単位認定の対象になる授業科目と優先順位】

単位認定の対象になる授業科目は次表のとおりで、各学科の授業科目区分に応じて単位認定を行います。

単位認定の申請は、次表の優先順位に基づいて本人が行ってください。

専門科目（必修〔英米語学科（通常コース）を含む〕）については、専攻語留学の場合にのみ、留学期間中に本学で履修可能な授業科目は、再履修科目を含め、単位認定の申請ができます。ただし、通年科目については、次の「通年科目（「総合〇〇語」など）の取り扱いについて」に従ってください。

優先 順位	授業科目区分	認定方法	認定結果の成績表 （証明書）への表記方法	備 考
①	専門科目（必修）	一括認定	授業科目名で表記	留学期間中に本学で履修可能な授業科目で、卒業要件単位数を上限として認定 ※通年科目は単位認定の上限に含まない
②	ゼミナール科目	一括認定	授業科目名で表記	留学期間中に本学で履修可能な授業科目で、卒業要件単位数を上限として認定
③	専門科目（選択必修） ※英米語学科通常コース	一括認定	海外留学認定科目で表記	卒業要件単位数を上限として認定
④	専門科目（選択）＜キャリア＞ ※英米語学科	一括認定	海外留学認定科目で表記	卒業要件単位数を上限として認定
⑤	専門科目（選択）＜地域研究＞ ※英米語学科	一括認定	海外留学認定科目で表記	卒業要件単位数を上限として認定
⑥	専門科目（選択） ※英米語学科以外	一括認定	海外留学認定科目で表記	卒業要件単位数を上限として認定
⑦	全学共通科目（外国語科目）	振替認定	授業科目名で表記	留学期間中に本学で履修可能な授業科目で卒業要件単位数を上限として認定
⑧	全学共通科目（教養科目）	一括認定	海外留学認定科目で表記	上記①～⑦を含めて留学期間に応じた単位数を上限として認定 ※全学共通科目（教養科目）の卒業要件単位数を超過して修得した単位数を自由選択に算入（英米語学科ダイヤモンドコースを除く）

※「学部導入科目（基礎ゼミナール、言語と平和 A）」は認定しません。

※ゼミナール科目Ⅰ～Ⅲの認定は、留学中に担当教員から指導を受けていることを前提とします。

ゼミナール科目Ⅳは、担当教員から指導を受けたうえで、所定の期間に卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）を提出し、担当教員が合格と評価した場合に限り認定します。

※資格課程に関する科目は認定しません。

日本語教員養成課程に関する科目はすべて卒業要件に算入される科目であるため、当該課程登録者の単位認定は以下のとおり取り扱います。

- ①専門科目（必修）については、留学先大学での授業の内容が、日本語教員養成課程のシラバス（文部科学省が認めたもの）と同一の内容ではないため、単位認定は行いません。
- ②専門科目（必修）の単位認定を希望する場合は、当該課程を辞退することを条件に単位認定を行います。ただし、一度登録を辞退すると、在学中に再度登録することはできません。
- ③専門科目（選択）については、包括的な「一括認定」（認定科目名：「海外留学認定科目」）とするため、課程の継続に影響はありません。
- ④専門科目（選択）の「日本語教育実習」は、本学および本学指定の機関（文部科学省が認めた機関）での実習が必要であるため、長期留学・短期留学にかかわらず、留学中に日本語教育実習を行った場合でも同科目の単位認定は行いません。

※留学先大学で履修した実技に関する科目は、単位認定の対象としません。

【通年科目（「総合〇〇語」など）の取り扱いについて】

留学期間中に通年科目と同等の教育を受けたものとみなし、「一括認定」「振替認定」ではなく成績評価（60～100点は合格、59点以下およびFは不合格）により単位認定を行います。

通年科目の成績評価方法については、次表の＜専攻語留学の通年科目の取り扱い＞の備考欄に記載のとおりとします。

単位認定の上限単位数については、留学期間中に本学で履修可能な通年科目の単位数（1学期間の留学であれば半分の単位数）を引いた単位数とします。（例えば、1年間留学し、上記の方法により通年科目20単位分を認定する場合、通常の単位認定の上限48単位から通年科目の20単位を引いた28単位が、単位認定の申請の上限単位数となります。）

※留学先大学での授業時間数により算出した本学での単位数が通年科目の単位数より少ない場合でも上記の取り扱いに基づいて単位認定を行います。

※単位を認定する通年科目は授業科目の先行履修条件に従います。（例えば、同一学期内に「総合〇〇語Ⅰ」と「総合〇〇語Ⅱ」は履修できないため、「総合〇〇語Ⅱ」の単位認定は行いません。）

＜専攻語留学の通年科目の取り扱い＞

	留学期	単位認定	単位認定の上限	成績評価	備 考
①	春・秋	上限には含まない	48単位から通年科目の単位数を引いたもの	成績評価	単位認定は、留学を終了する学期（1・2月）に、所属学科が独自に実施する試験（4技能でA2相当）を受験した場合に限る。
②	春のみ	上限には含まない	26単位から通年科目の半分の単位数を引いたもの	成績評価	留学を終了する学期の同一年度の秋学期に残りの通年科目を履修した場合に限る。 秋学期末の成績が不合格になっても留学の単位認定は変更しない。
③	秋のみ	上限には含まない	26単位から通年科目の半分の単位数を引いたもの	成績評価	留学を開始する直前の春学期に通年科目を履修し、留学を終了する学期（1・2月）に、所属学科が独自に実施する試験（4技能で1年次はA1または2年次はA2相当）を受験した場合に限る。
④	秋・春	上限には含まない	②③準用	②③準用	<p>＜1年次秋学期から2年次春学期まで留学＞ 1年次の通年科目は留学を開始する直前の春学期に通年科目を履修し、留学を終了する学期（7・8月）に所属学科が独自に実施する試験（4技能でA1相当）を受験した場合に限る。2年次の通年科目は②を準用する。</p> <p>＜2年次秋学期から3年次春学期まで留学＞ 2年次の通年科目は留学を開始する直前の春学期に通年科目を履修し、留学を終了する学期（7・8月）に、所属学科が独自に実施する試験（4技能でA2相当）を受験した場合に限る。</p>

※所属学科が独自に実施する試験は、4技能で1年次の通年科目はA1相当、2年次の通年科目はA2相当とします。

※通年科目（専門科目＜必修＞）を半期のみ履修した場合の出席の取り扱いは、「通年科目（専門科目＜必修＞）の成績評価」（44ページ）を準用します。

【2 非専攻語留学（留学先大学の授業での主たる使用言語が非専攻語）の単位認定の方法】

各学科の専門科目については、以下の①②の認定方式で単位を認定します。その他の授業科目区分の単位認定は、＜専攻語留学（留学先大学の授業での主たる使用言語が専攻語）の場合＞の留学の認定方式を準用します。

① 各学科の専門科目（必修〔英米語学科通常コースの選択必修を含む〕）として、振替認定可能な単位数がない場合は、当該科目区分の単位認定は行いません。

② 専門科目（選択）については、類似した科目を履修し合格した場合に限り、「海外留学認定科目」に振り替えて認定します。

※非専攻語留学については、通年科目の単位認定は行いません。

※留学期間に秋学期を含める場合、春学期に履修登録をした通年科目を、秋学期の留学開始後に当該通年科目を取り消します。

※留学に行く時期や留学先大学で履修した授業内容・授業時間数によっては、4年間での卒業は難しくなりますので、注意してください。

国際貢献学部

単位認定の方法

- ・留学先大学で修得した単位の認定方法は、科目対科目の「振替認定」とします。ただし、ゼミナール科目および全学共通科目（教養科目）は包括的な「一括認定」とします。
- ・学部基幹科目「Introductory Seminar A」「Global Engagement and Peace」および資格課程に関する科目の認定は行いません。
- ・ゼミナール科目Ⅰ～Ⅲは、留学中に担当教員から指導を受けていた場合に認定します。
なお、ゼミナール科目Ⅳは、担当教員から指導を受けたうえで、所定の期間に卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）を提出し、担当教員が合格と評価した場合に限り認定します。
- ・成績表等への表記は、一括認定の場合は海外留学認定科目（ただし、ゼミナール科目は本学の授業科目名）、振替認定の場合は本学の授業科目名とします。

【単位認定の対象になる授業科目と優先順位】

単位認定の対象になる授業科目は次表のとおりで、各学科の授業科目区分に応じて単位認定を行います。単位認定の申請は、次表の優先順位に基づいて本人が行ってください。

学部基幹科目、専門科目（必修／展開／選択）については、類似した科目を履修し合格した場合に限り、振り替えて認定し、認定可能な単位数がない場合は、当該科目区分の認定は行いません。また、留学期間中に本学で履修可能な授業科目は、再履修科目を含め、単位認定の申請ができます。

※留学に行く時期や留学先大学で履修した授業内容・授業時間数によっては、4年間での卒業は難しくなりますので、注意してください。

優先順位	授業科目区分	認定方法	認定結果の成績表（証明書）への表記方法	備 考
①	学部基幹科目	振替認定	授業科目名で表記	留学期間中に本学で履修可能な授業科目で、卒業要件単位数を上限として認定 ※ Introductory Seminar A、Global Engagement and Peace は単位認定の対象外
②	専門科目（必修）	振替認定	授業科目名で表記	留学期間中に本学で履修可能な授業科目で、卒業要件単位数を上限として認定
③	ゼミナール科目	一括認定	授業科目名で表記	留学期間中に本学で履修可能な授業科目で、卒業要件単位数を上限として認定
④	専門科目（展開） ※グローバル観光学科	振替認定	授業科目名で表記	留学期間中に本学で履修可能な授業科目で、卒業要件単位数を上限として認定
⑤	専門科目（選択）	振替認定	授業科目名で表記	留学期間中に本学で履修可能な授業科目で、卒業要件単位数を上限として認定
⑥	全学共通科目（外国語科目）	振替認定	授業科目名で表記	留学期間中に本学で履修可能な授業科目で、卒業要件単位数を上限として認定
⑦	全学共通科目（教養科目）	一括認定	海外留学認定科目で表記	上記①～⑥を含めて留学期間に応じた単位数を上限として認定 ※全学共通科目（教養科目）の卒業要件単位数を超えて修得した単位数を自由選択に算入

※「学部基幹科目（Introductory Seminar A、Global Engagement and Peace）」は認定しません。

※ゼミナール科目Ⅰ～Ⅲの認定は、留学中に担当教員から指導を受けていることを前提とします。ゼミナール科目Ⅳは、担当教員から指導を受けたうえで、所定の期間に卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）を提出し、担当教員が合格と評価した場合に限り認定します。

※資格課程に関する科目は認定しません。

※留学先大学で履修した実技に関する科目は、単位認定の対象としません。

短期大学

専攻語留学（留学先大学の授業での主たる使用言語が英語）の単位認定の方法

- ・留学先大学で修得した単位の認定方法は、原則として包括的な「一括認定」とします。
- ・成績表等への表記は、「一括認定」の場合は海外留学認定科目（ただし、専門科目（選択必修）は本学の授業科目名）とします。

【単位認定の対象になる授業科目と優先順位】

単位認定の対象になる授業科目は次表のとおりで、キャリア英語科の授業科目区分に応じて単位認定を行います。単位認定の申請は、次表の優先順位に基づいて本人が行ってください。

優先順位	授業科目区分	認定方法	認定結果の成績表（証明書）への表記方法	備 考
①	専門科目（選択必修）	一括認定	授業科目名で表記	留学期間中に本学で履修可能な授業科目で、卒業要件単位数を上限として認定 ※ Graduation Project II を含む。
②	専門科目（選択）	一括認定	海外留学認定科目で表記	卒業要件単位数を上限として認定
③	教養科目	一括認定	海外留学認定科目で表記	上記①②を含めて留学期間に応じた単位数を上限として認定

※「総合科目」は認定しません。

SAF（スタディ・アブロード・ファウンデーション）留学／休学留学（学部・短期大学生対象）

■ SAF（スタディ・アブロード・ファウンデーション）留学

本学がパートナーシップを締結している SAF をとおして、短期および長期留学に参加することができます。

なお、SAF をとおして長期留学をする場合は、認定留学または休学留学のいずれかになります。認定留学として留学する場合の本学への申請条件等については本学ホームページを、また単位認定については 187 ～ 191 ページを参照してください。

< SAF 留学に関するお問い合わせ >

ウェブサイト <http://www.kufs.ac.jp/interchange/support.html>

e-mail jp-info@safjapan.org

■ 休学留学

本学で「留学」としての認定を得ずに外国の教育機関等で学修する場合は、「休学」の手続きをとる必要があります。休学期間は本学の在学期間に算入しませんので、学部生は 4 年間、短期大学生は 2 年間で卒業することができません。

リーダーシップ・チャレンジ

リーダーシップ・チャレンジ

(学部・短期大学生対象)

京都外大リーダーズ・スクール (GLS) が、西日本学生リーダーズ・スクール (UNGL) と連携して実施する研修で、夏期休暇と春期休暇を利用しサイパン等で約 1 週間の研修を行います。価値観、立場、文化背景などが異なる組織での共同活動をととして実践的なリーダーシップ (スキル・知識・態度) を身に付けます。

なお、このプログラムは単位認定を行いません。

■ リーダーシップ・チャレンジ in サイパン (Intermediate Programs)

< 概要 >

北マリアナ諸島の中心島であるサイパン島内の 12 の小中学校において、1 週間先生の体験をします。自らが積極的にコミュニケーションを取ることで、担任の先生との協力体制を築き、自分が受け持つ小中学生に対して日本文化や道徳にまつわる授業を行います。また、自分の得意分野 (スポーツ、音楽等) を活かした異文化交流、社会貢献活動などを行います。その中で自らの振る舞いや言動を、自分自身、共に学ぶ仲間、そして教職員とともに深く振り返ることによって、自分自身の強みや課題を強く認識し、次のステップにつなげることができます。

■ APSSA 学生カンファレンス (Advance Programs) ※ 2025 年度は実施せず

< 概要 >

アジア太平洋地区の学生支援に携わる大学教職員のための国際学会で同時開催される「学生カンファレンス」への参加を通じて、実践的なリーダーシップの知識・スキル・態度を学びます。本カンファレンスは、2 年に 1 度開催され、アジア各国で開催されます。具体的な内容として、アジア太平洋地区各国の大学生が集まり、国際的な課題を解決するために、“大学時代に何を学べばよいのか、何をすればよいのか” などの様々なテーマで議論します。各国の大学生がチームを作り、それぞれの国の現状や課題、未来への展望を議論する中で、自分自身のリーダーシップが試される非常にチャレンジングな体験になることは間違いありません。

■ リーダーシップ・チャレンジ in 台湾 (Advance Programs) ※ 2025 年度は実施せず

< 概要 >

高雄第一科技大学において、台湾やタイの複数の大学からくる大学生や留学生とともに、リーダーシップ・トレーニングを行います。多様な価値観を持つ他国の学生とのグループワークやディスカッション、学外でのフィールドワークを通じて、実践的なリーダーシップの知識・スキル・態度を学びます。他者との協力場面における自らの振る舞いや言動を、自分自身、共に学ぶ仲間、そして教職員とともに深く振り返ることによって、自分自身の強みや課題を強く認識し、次のステップにつなげることができます。

■ その他

京都外大リーダーズ・スクール (GLS) では、上記海外研修に加え、約 20 校の大学・短期大学の連携事業として以下の国内研修を実施しています。ぜひ参加をご検討ください。

○ 学生リーダーズ・スプリングスクール (主催：京都外国語大学)

< 概要 >

毎年 2 月 (春休み) に、京都府内の研修施設にて、本学建学の精神のキーワードでもある「平和」をテーマとしたリーダーシップ研修を実施しています。様々な大学からの初対面の参加者とチームを組み、様々なミッションをこなす過程において実践的なリーダーシップの知識・スキル・態度を学びます。

○ 学生リーダーズ・サマースクール (主催：愛媛大学)

< 概要 >

毎年 9 月 (夏休み) に、愛媛県内の島にてサバイバル型のリーダーシップ研修を実施しています。様々な大学からの初対面の参加者とチームを組み、様々なミッションをこなす過程において実践的なリーダーシップの知識・スキル・態度を学びます。

■ 国際部 (4号館2階)

はじめての留学でも疑問や不安を解消でき、安心して留学生生活をスタートできるよう、きめ細やかなサポート体制を整えています。是非、活用してください。

- 留学相談
- 派遣留学手続きのサポート
- 留学説明会・オリエンテーション実施
- 留学フェアの実施

また、国際部ではホームページや Kyoto Gaidai UNIPA、国際部 SNS 等を通して、留学や国際交流に関する様々な情報を発信しています。

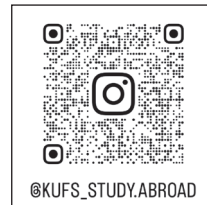
< 国際部ホームページ >



< 国際部公式 Line >



< 国際部 S.A. Instagram >



■ 留学情報室 (4号館2階)

留学に関する資料や過去に実施した交換留学プログラム〔派遣留学 A〕 選考試験の問題などを自由に閲覧できます。なお、留学情報室の利用については、以下の点に留意してください。

- パソコン・プリンター・スキャナーは留学に関する利用に限定します。

国際部・留学情報室 開室時間

月～金曜日 9:00 ～ 18:30 (祝日を除く)

土曜日 9:00 ～ 17:00 (祝日を除く)

※ 休暇期間中の開室時間は上記と異なりますので、ホームページなどで確認してください。



■ 国際部 Student Ambassador (S.A.)

国際部では“国際部 Student Ambassador (S.A.)” が活動しています！ (授業期間中)

S.A. とは国際部付の派遣留学経験者を中心とした学生スタッフです。留学を希望している人は、勉強方法や留学先での生活の様子など、聞きたいことがあれば気軽に相談に来てください。また「留学体験の発表会」や「交換留学生と外大生との交流イベント」なども実施しています。さらに、外国人留学生のサポートや相談も対応しています。日本の生活で困った事があれば気軽に相談に来てください。

※ 各イベントの詳細については決まり次第、Kyoto Gaidai UNIPA、国際部 SNS 等でお知らせします。



■ SAF (スタディ・アブロード・ファウンデーション)日本事務局 関西オフィス

国際部・留学情報室(4号館2階)に、本学が提携を結んでいる「米国非営利教育財団 SAF スタディ・アブロード・ファウンデーション日本事務局」の関西オフィスがあります。SAF 日本事務局 関西オフィスには、JAOS 認定留学カウンセラーの資格を持つ留学アドバイザーが在室し、留学についての質問に何でもお答えします。留学制度、留学プログラムや留学先大学選び、語学力アップの勉強法など、気軽に何でも相談してください。なお、アドバイザー在室時のスケジュールおよび個別相談の予約方法はホームページで確認してください。

■ 留学月間報告書閲覧システム

留学経験者や現在留学中の学生の様子がわかる「月間報告書」を Kyoto Gaidai UNIPA から閲覧することができます。最新の留学情報の収集に大いに役立ててください。

■ 留学フェア

「異文化を体験したい」「実践的に外国語を学びたい」など、海外へ夢を抱く学生のために留学フェアを開催しています。詳細については、決まり次第、Kyoto Gaidai UNIPA でお知らせします。

■ 各種プログラムの担当部署

国際部

短期留学プログラムおよび長期留学プログラム(国内交換留学を除く)、留学生アシスタントプログラム

キャリア支援部

キャリア教育プログラム(海外プログラム(インターンシップ)、海外フィールドワーク)、エアラインスタディプログラム(客室乗務員研修)

京都外大リーダーズ・スクール(2号館4階)

リーダーシップ・チャレンジ

海外渡航をする場合の留意事項

渡航先の国・地域によっては皆さんの想像以上に、治安の状況や流行している病気などが、日本と大きく異なります。ここでは、海外渡航をする場合の大事な情報を記載していますので、内容をしっかりと確認し、必要な手続きを確実に取ってください。

1. 渡航前

(1) 渡航先国・地域についての情報収集

渡航先を決める際には、渡航先国・地域の社会・治安情勢、衛生状況や病気に関する情報、生活習慣・風俗、犯罪傾向・手口など、最新の情報を以下のホームページ等で確認しておきましょう。

< 外務省 >

- 海外安全ホームページ <https://www.anzen.mofa.go.jp/>
- 世界の医療事情 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/index.html>
- 領事サービスセンター https://www.anzen.mofa.go.jp/about_center/

< 厚生労働省 >

- 感染病情報
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/index.html

(2) パスポートとビザ

渡航先が決まったら、渡航手続きを開始してください。旅券（パスポート）は原則として、マイナポータルで申請もしくは、住民票のある都道府県の旅券事務所で申請します。ただし、京都府以外に住民登録をしていますが、通学のために京都府内に住んでいる人は、京都府でパスポートを申請することができます。詳しくは、京都府旅券事務所のホームページ等で確認してください。

同時に、渡航先の国で査証（ビザ）が必要かどうかを各国の大使館や領事館のホームページで確認し、必要な場合は速やかに査証申請手続きを始めてください。手続方法、必要書類、取得までにかかる日数、手数料等の最新情報もホームページで早めに確認しましょう。

< 外務省 >

- パスポート申請先都道府県ホームページへのリンク
https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/passport/page22_004041.html
- 駐日外国公館リスト <https://www.mofa.go.jp/mofaj/link/emblast/>

(3) 航空券

出発日が決まったら、航空券を予約してください。航空券の種類によっては格安なものもありますが、「払い戻しできない」、「期日の変更ができない」、「途中で降機できない」等いくつか制限があるので、購入の際は十分注意してください。値段の安さだけにとらわれず、信頼のおける航空会社を選ぶよう情報収集をしておきましょう。

(4) 海外旅行傷害保険

外国では日本で加入している健康保険等は使用できません。怪我や病気で病院にかかった際の治療費は、日本では想像もつかないくらいの高額になることがあるため、補償内容をしっかり確認の上、出国から帰国までをカバーする海外旅行傷害保険に必ず加入しておいてください。

(5) 健康状態の確認

渡航前に健康診断や予防接種を受ける等、自分の健康状態や免疫抗体を把握しておいてください。病気予防や感染症の情報に関しては以下のホームページ等で確認してください。

< 厚生労働省検疫所 >

- FORTH (For Travelers' Health) <https://www.forth.go.jp/>
- また、持病のある人は、かかりつけの医療機関で、外国語での診断書や処方箋を作成してもらい、現地に持参してください。万一の場合に備え、持病について外国語で説明ができるよう準備しておきましょう。

(6) パスポートやクレジットカード等のコピー

万一、外国でパスポートやクレジットカード等を紛失した場合でも、あらかじめコピーを取っておくと届け出る時に便利です。また、パスポート等を紛失した場合の届出先の一覧を作成しておく、緊急の際に迅速に対処できます。(例：大使館、領事館、現地警察、クレジットカード会社、航空会社、保険会社等)

(7) 渡航前の学内手続

本学の留学制度以外で、休暇中や休学中に海外渡航する人は、「海外渡航届」を学生生活課へ提出してください。

2. 渡航期間中

(1) 安着連絡

無事現地に到着したことを家族へ知らせましょう。また、万一の場合に備え、日本の家族とは定期的に連絡を取り合うようにしましょう。

(2) 「在留届」の提出および「たびレジ」への登録

外国に住所または居所を定めて3ヵ月以上滞在する人は、その地域を管轄する日本大使館または総領事館に「在留届」を提出することが義務付けられています。また滞在期間が3ヵ月未満の人は、外務省海外旅行登録「たびレジ」へ登録してください。渡航先で事件・事故など思わぬ災害に巻き込まれた場合、日本大使館や総領事館は「在留届」や「たびレジ」の登録をもとに援護活動を行います。

< 外務省 >

●海外へ渡航される皆様へ <https://www.ezairyu.mofa.go.jp/>

(3) 安全情報の確認

現地での治安情勢や感染症などについては、状況が急に変化する可能性があるため、必ず以下のホームページで最新の情報を入手してください。また、日ごろから緊急連絡先(保険会社サポートデスク等)は身につけておくようにしましょう。

< 外務省 >

●海外安全ホームページ <https://www.anzen.mofa.go.jp/>

●在外公館リスト <https://www.mofa.go.jp/mofaj/annai/zaigai/list/>

(4) 現地での行動

渡航期間中は渡航先の法令を遵守し、本学の学生としての自覚と責任において行動してください。また、生活上のマナーや慣習等が日本とは異なるということを理解し、周辺の環境や治安情報に細心の注意を払い、あらゆる場面において安全第一を心がけてください。

- 危険地域に立ち入らない
- 夜は決して1人で出歩かない
- 大金を持ち歩かない
- 安易に見知らぬ人を信用しない
- 薬物使用に巻き込まれない
- 交通ルールを理解する
- 車やバイクの運転はしない

留学生との学内交流

来日する短期・長期の外国人留学生と交流できるよう、年間を通じて交流会やイベントを実施しています。また、外国人留学生の学習面や生活面のサポートを行う学生サポーターも募集しています。

※詳細は決まり次第、Kyoto Gaidai UNIPA・国際部 SNS 等でお知らせします。



VI

就職・
キャリア支援・
キャリア教育プログラム・
エアラインスタディプログラム

進路・就活サポート

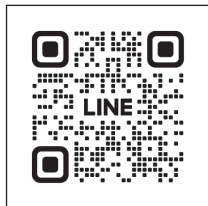
■ キャリア支援部＜ 4号館2階 ＞

学生の皆さんが将来希望する進路に就けるよう、次の支援を行っています。初年次から始める長期的な支援体制で、着実なキャリアアップにつなげます。

- キャリア相談、就職指導、履歴書添削、面接練習
- 就職支援サイト (KUFS Web Career) 運用
- キャリア教育プログラム (インターンシップ)
- 企業説明会
- エアラインスタディプログラム
- 就職試験対策・資格取得講座

また、キャリア支援部では、キャリア支援部 Website、Kyoto Gaidai UNIPA、KUFS Web Career 等を通して、様々な情報を配信しています。

< キャリア支援部 LINE >



■ キャリア支援部資料室＜ 4号館2階 ＞

就職に関する資料やSPI、玉手箱などの筆記試験対策の書籍をはじめ、各社新聞、エアライン雑誌など自由に閲覧できます。また、各書籍類は、事務室で手続きすれば、2日間貸出も可能。なお、資料室の利用について、以下の点に留意してください。

- パソコン、プリンターは、就職活動に関する利用に限定します。
- 飲食物の持ち込み、携帯電話の使用を禁止しています。

キャリア支援部・キャリア支援部資料室 開室時間 「通常授業期間中」の取扱時間

月～金曜日：9:00～18:30

土曜日：9:00～17:00

※ 休暇期間中の開室時間は上記とは異なります。

KUFS Web Career(就職支援サイト)について

キャリア支援部からの就職支援情報や学内就職イベント情報、また企業から本学に配信される求人情報やインターンシップ情報を、すべてオンラインで公開します。イベントへの予約やキャリア支援部への相談・添削・面接練習などの予約もKUFS Web Careerを通して行いますので、必ず登録して積極的に活用してください。
※スマートフォンからも利用できます。



KUFS Web Career(就職支援サイト)

<https://uc-student.jp/kufs/>



QRコードから
アクセス



■ PCログイン画面



■ スマートフォンログイン画面



■ 初期ログイン画面



[ID・PWを入力してログイン]

ID:学籍番号の前2ケタを外し、アルファベットを小文字にしたもの
(Kyoto Gaidai UNIPAのIDと同じ)

PW:生年月日8ケタ(※こちらは初回のみ。2回目以降のPWは自分で設定)

初めてログインされる方

学生情報を入力後
「アンケートへ進む」をクリック

機能紹介



求人検索機能

求人票、インターンシップ情報とともに、さまざまな検索条件から希望の情報を得ることができます。

フリーワード検索
クイック検索
条件検索
募集校限定求人
体験談のある企業 など



相談予約

キャリア相談の予約や就職イベントの申込みもオンラインでスムーズに行うことができます。

キャリア相談予約
キャリア相談カレンダー
就職イベント一覧
就職イベント予約 など



マイページ

基本情報のほかに、活動報告書や進路決定届の提出などもまとめて入力可能。また、気になった企業や求人情報をブックマークする機能もついています。

登録情報の確認・変更
進路希望の確認・変更
活動報告書の提出・確認
進路決定届の提出・確認
ブックマーク一覧 など

キャリア教育プログラム

名称	単位認定	対象年次
国内プログラム（インターンシップ）	あり	学部全年次 短大全年次
海外プログラム（インターンシップ）	あり・なし	学部全年次 短大全年次
大学コンソーシアム京都の産学連携教育プログラム	あり	学部全年次 短大全年次
海外・国内フィールドワーク	あり	学部全年次
エアラインスタディプログラム	202 ページ参照	

■単位認定

国内プログラム（インターンシップ）

【学部生】

本人の申請に基づき、学習・実習時間数に応じて他の本学主催のキャリア教育プログラム（国内外）、海外・国内フィールドワーク、エアラインスタディプログラム、大学コンソーシアム京都の産学連携教育プログラムで修得した単位とあわせて、全学共通科目（教養科目）「キャリア形成支援プログラム」として4単位を上限に単位を認定し、卒業要件に算入します。

【短期大学生】

本人の申請に基づき、学習・実習時間数に応じて他の本学主催のキャリア教育プログラム（国内外）、エアラインスタディプログラム、大学コンソーシアム京都の産学連携教育プログラムで修得した単位とあわせて、教養科目「キャリア形成支援プログラム」として4単位を上限に単位を認定し、卒業要件に算入します。

※単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」（学部46ページ、短期大学163ページ）を参照してください。

※当該学期に卒業を予定している学部4年次生および短期大学2年次生が、卒業を予定する学期の休暇中に参加した場合は単位認定を受けられませんので、卒業要件単位に含めないようにしてください。

海外プログラム（インターンシップ）

【学部生】

本人の申請に基づき、学習・実習時間数に応じて他の本学主催のキャリア教育プログラム（国内外）、海外・国内フィールドワーク、エアラインスタディプログラム、大学コンソーシアム京都の産学連携教育プログラムで修得した単位とあわせて、全学共通科目（教養科目）「キャリア形成支援プログラム」として4単位を上限に単位を認定し、卒業要件に算入します。

【短期大学生】

本人の申請に基づき、学習・実習時間数に応じて他の本学主催のキャリア教育プログラム（国内外）、エアラインスタディプログラム、大学コンソーシアム京都の産学連携教育プログラムで修得した単位とあわせて、教養科目「キャリア形成支援プログラム」として4単位を上限に単位を認定し、卒業要件に算入します。

※単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」（学部46ページ、短期大学163ページ）を参照してください。

※当該学期に卒業を予定している学部4年次生および短期大学2年次生が、卒業を予定する学期の休暇中に参加した場合は単位認定を受けられませんので、卒業要件単位に含めないようにしてください。

海外・国内フィールドワーク（学部生対象）

本人の申請に基づき、活動時間数に応じて他の本学主催のキャリア教育プログラム（国内外）、海外・国内フィールドワーク、エアラインスタディプログラム、大学コンソーシアム京都の産学連携教育プログラムで修得した単位とあわせて、全学共通科目（教養科目）「キャリア形成支援プログラム」として4単位を上限に単位を認定し、卒業要件に算入します。

※単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」（46 ページ）を参照してください。

※当該学期に卒業を予定している4年次生が、卒業を予定する学期の休暇中に参加した場合は単位認定を受けられませんので、卒業要件単位に含めないようにしてください。

エアラインスタディプログラム

名称	単位認定	対象年次
客室乗務員研修 ※海外プログラム（インターンシップ）	あり	学部全年次 短大全年次
JAL ホスピタリティ論 ※国内プログラム（インターンシップ）	あり	学部全年次 短大全年次
空港見学会	なし	学部 3 年次 短大 1 年次
エアライン講座サクセスプラン	なし	学部全年次 短大全年次

■単位認定

客室乗務員研修

【学部生】

本人の申請に基づき、学習・研修時間数に応じて他の本学主催のキャリア教育プログラム（国内外）、海外・国内フィールドワーク、エアラインスタディプログラム、大学コンソーシアム京都の産学連携教育プログラムで修得した単位とあわせて、全学共通科目（教養科目）「キャリア形成支援プログラム」として 4 単位を上限に単位を認定し、卒業要件に算入します。

【短期大学生】

本人の申請に基づき、学習・研修時間数に応じて他の本学主催のキャリア教育プログラム（国内外）、エアラインスタディプログラム、大学コンソーシアム京都の産学連携教育プログラムで修得した単位とあわせて、教養科目「キャリア形成支援プログラム」として 4 単位を上限に単位を認定し、卒業要件に算入します。

※単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」（学部 46 ページ、短期大学 163 ページ）を参照してください。

※当該学期に卒業を予定している学部 4 年次生および短期大学 2 年次生が、卒業を予定する学期の休暇中に参加した場合は単位認定を受けられませんので、卒業要件単位に含めないようにしてください。



就職試験対策・資格取得講座

履歴書・エントリーシートの書き方や面接対策などのセミナーを開講し、希望の仕事を目指す学生を細やかにサポートしています。また、資格取得を目指す学生をサポートするために、多岐にわたる対策講座も有料で開講しています。

<就職支援対策講座>

SPI（筆記試験）対策講座	無料
履歴書・エントリーシート対策講座	
面接対策講座	
グループディスカッション対策講座	
企業・業界研究講座	

<資格取得講座>

1日完結！MOS Word365 対策講座	有料
1日完結！MOS Excel365 対策講座	
1日完結！MOS PowerPoint365 対策講座	
宅地建物取引士（宅建）対策講座	
旅行業務取扱管理者（国内 & 総合）試験対策講座	
国内旅程管理主任者（ツアーコンダクター）対策講座	
日商簿記検定 3 級対策講座	
秘書検定 2 級対策講座	
色彩検定 2 級対策講座	
IT パスポート試験対策講座	
ファイナンシャルプランニング技能検定 3 級対策講座	
プログラミング講座エンジニア超入門	

<公務員試験対策講座>

国家一般職・地方上級・市職員・警察官・消防官対策講座【3 年次生対象】	有料
専門マスター（国家一般職・地方上級）講座【3 年次生対象】	
公務員基礎力養成講座【1・2 年次生対象】	
公務員直前対策講座【新 4 年次生対象】	
教員採用試験対策講座【2・3 年次生対象】	

上記 2025 年度開講実績

<https://www.kufs-shikaku.com/>

VII

学生生活の手引き



学生生活に関する相談

保健室・学生相談室・障がい学生支援室が連携し、学生の皆さんの心と身体の健康をサポートしています。不安なことがあれば、ひとりで悩まずに相談してください。学生本人に関する保護者からの相談も受け付けています。気軽に問い合わせてください。

健康支援課 相談申し込み・お問い合わせフォーム



※フォームにて申し込みを受け付けた場合は、後日、スタッフから個別に連絡します。

◇ 学生相談室

学生相談室では、専門のカウンセラーが皆さんの相談に応じています。学生相談室に直接来室するか、電話、または「相談申し込み・お問い合わせフォーム」で相談の申込ができます。可能な限りその場でも対応しますが、相談は原則として予約制です。「こんな相談でもいいのかな？」と迷う場合も、一度問い合わせてみてください。

困ったことがある時は一人で抱えず、相談を利用してみてください。

セルフケアについてのワークショップも開催しています。

相談内容

- ・自分自身のこと
- ・対人関係のこと
- ・学業や将来のこと
- ・心身の不調のこと（不安や緊張、ゆううつ、眠れない、食欲がないなど）

開室時間 月～金曜日 10:30～18:30

TEL.075-322-6025

※精神科医による心の健康相談

週1回（詳細は本学ホームページ、Kyoto Gaidai UNIPA 等で確認してください。健康相談では、診断書の発行や薬の処方はありません。）

◇ 障がい学生支援室

本学では、「京都外国語大学・京都外国語短期大学・障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき、全ての学生が等しく修学の機会を得られるように、授業や学生生活で合理的配慮を提供しています。

コーディネーターがみなさんの困っている状況やニーズを聴きながら、教職員と連携して学びやすい環境を調整します。受診はしたことがないけれど困っている、どのような支援が必要かわからないという場合にも気軽に相談してください。一緒に考えていきましょう。

また、学生サポーター（有償ボランティア）も募集しています。興味のある方は障がい学生支援室に問い合わせてください。

合理的配慮の申請方法について

授業や学生生活の中で合理的配慮を希望する場合は、健康支援課（保健室、学生相談室、障がい学生支援室）のいずれかの窓口にご相談ください。相談後、申請書および診断書等の根拠資料を添えて申請期間内に申請してください。

申請期間について (目安)

春学期申請期間：3月1日～ 5月31日

秋学期申請期間：9月1日～11月30日

申請の手続きに概ね3週間～1ヶ月程度かかります。合理的配慮はさかのぼって対応することが難しいため、可能な限り早めに相談してください。

合理的配慮の一例

使用教室や座席の配慮、教科書等の点訳またはテキストデータ化、PCやタブレットの使用許可、ノイズキャンセリングイヤホンの使用許可、支援機器の貸出、板書の撮影、講義の録音の許可、重要事項の視覚化、グループワーク、発表に関する配慮、別室受験、時間延長、解答方法の変更 等

※合理的配慮は学ぶ機会の均等を目指すものであり、成績や単位の保証(救済)を意味するものではありません。

開室時間 月～金曜日 10:30～18:30

TEL. 075-925-6839

e-mail: shien@kufs.ac.jp

◇保健室

保健室は、学生・教職員の健康診断、健康相談、怪我や疾病等の応急処置、医療機関の紹介、疾病や感染症に関する情報提供・注意喚起等を行い、日常の健康管理・健康保持増進および疾病予防に努めています。また、就職・進学・実習等に必要な健康診断証明書の発行も行っています。体調が優れないときや負傷したときは、我慢せずに来室してください。皆さんが健康な学生生活を送れるようサポートしますので、気軽に利用してください。

※保健室には、内服薬や生理用品は置いていません。

開室時間 月～金曜日 9:00～21:30 土曜日 9:00～17:00

TEL. 075-322-6024

e-mail: hoken@kufs.ac.jp

定期健康診断

定期健康診断は、自己の健康状態を知り、健康を維持していく上で必要不可欠であり、学校保健安全法で定められていますので、必ず受診してください。また、社会人学生の皆さんは、職場健診等の結果(コピー)の提出をもって、これに代えることができます。やむを得ず指定した日時に受診できない場合は、大学指定の健診機関を紹介しますので、必ず保健室に連絡をしてください。

なお、健康診断を受診していない学生に対しては、健康診断証明書を発行することができませんので、注意してください。

学校医による健康相談

学校医に相談のある人は、次の時間帯に来室してください。

木・金曜日 13:00～17:00

病気治療中、経過観察中

現在病気で治療中または経過観察中の下宿生や京都市外から通学する学生は、病状が悪化したときに備えて、京都市内の医療機関と連携できるように地元の主治医と相談しておいてください。

また、学校生活において注意すべきことがあれば保健室へ連絡してください。診断書等の提出をお願いする場合があります。

学校感染症

インフルエンザや新型コロナウイルス感染症等の「学校感染症」と診断された場合は、学校保健安全法第 19 条に基づき、学長より出席停止が命じられ「出席停止」の手続きを行います。

1. 最初に行うこと（保健室への連絡）

- ・診断を受けたら、速やかに保健室へ報告するか、感染症報告フォームに入力をして指示を受けてください。

感染症報告フォーム 学校感染症罹患・治癒証明書



感染症報告フォーム : <https://forms.gle/66qkq67vsG5ubhn48>

学校感染症罹患・治癒証明書 :

https://www.kufs.ac.jp/cms_image/file/1-Certificate of Infectious Disease and recovery.pdf

【重要】報告がないまま登校を再開するなど、事後での報告については出席停止の措置は行いません。必ず「治癒する前(発症時)」に報告をしてください。

2. 提出書類について

- ・「診断書」もしくは「学校感染症罹患・治癒証明書」が必要です。
- ・フォームで報告時に画像等でアップロード(添付)が可能です。
- ※報告時に診断書を提出できない場合、療養期間後 1 週間以内(厳守)に提出してください。

3. 授業担当教員への連絡

- ・書類の提出を確認し、出席停止解除後に保健室から授業担当教員へ「出席停止期間」をメールで報告します。
- ・出席停止期間中の授業については、履修上の不利益とならないように教員に配慮を依頼します。ただし、具体的な対応については、学生自身から直接授業担当教員に連絡し、指示を確認してください。

4. 注意事項

- ・UNIPA の表記について : 学校感染症による欠席は、UNIPA「出席管理」上では「欠席」と表記されます。

感染症の予防

- ア. 十分な栄養と睡眠をとり、体力・免疫力をつける。
- イ. 食事前や帰宅時には、必ずうがい、手洗いをする。
- ウ. 部屋は、適度な室温や湿度を保ち、こまめに換気を行う。
- エ. 流行前に医師と相談のうえ、予防接種を受ける。
- オ. マスクの着用を心がけ、人ごみ等への外出を控える。

■ 人権教育啓発室 < ハラスメントに関する相談 >

本学は、すべての学生および教職員の人権を尊重し、ハラスメントのない快適な環境で教育・研究活動を行うことができるよう、「ハラスメントに関するガイドライン」を制定し、セクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメント、その他のハラスメントについて防止の取り組みを行っています。

本学は、あなたのセクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメントやその他のハラスメントに関する悩みや疑問を受け止め、あなたのプライバシーの保護を第一に配慮し、あなたとともに問題の解決にあたります。

「これってハラスメントかもしれない」と疑問に思ったら、ひとりで悩まず、いつでも相談に来てください。

開室時間 月～金曜日 9:00～17:00

開室時間は変更する場合があります。本学ホームページ上の「開室カレンダー」で確認してください。

TEL.075-322-6045

e-mail : jinken@kufs.ac.jp

ハラスメントは人権侵害

セクシュアル・ハラスメントとは…

相手の望まない性的な言動によって、不快感や屈辱感を抱かせたり、相手の人格や個人としての尊厳を傷つけることです。同性および性的少数者への差別的な言動も含まれます。

< たとえばこんなこと >

- 男女にかかわらず、容姿・容貌を話題にして相手を不快にする。
- 飲み会などで不必要に相手の身体にさわる。
- しつように交際を求める。しつこく電話・LINE など連絡をする。
- ひわいなことばや性的なことばで冗談をいう。

アカデミック・ハラスメントとは…

教育・研究の場における力関係や上下関係を利用した、いじめ・嫌がらせによって、教育を受ける権利、研究を行う権利を侵害する行為です。

< たとえばこんなこと >

- 本人の意思にそわない研究テーマを押しつける。
- 正当な理由なく、指導を行わない。
- 単位認定において、不公平な取り扱いをする。
- 人格を傷つける発言をする。

パワー・ハラスメントとは…

優越的な関係を背景とした、業務の適正な範囲を超えた言動により、身体的若しくは精神的苦痛を与える行為です。

< たとえばこんなこと >

- 大声で威圧的な叱責をする。
- 必要以上に長時間にわたり叱責を繰り返し行う。
- 個人の能力を否定し、罵倒するような内容のメールを送信する。
- 職務上必要な情報を伝えない。

その他のハラスメント

アルコール、モラル、妊娠・出産および育児・介護休業等のハラスメント等があります。

ハラスメントだと感じたら

被害にあった日時・場所・状況・あなたの対応やその時の気持ちなど、被害の記録をとっておいてください。
ひとりで悩まずに相談窓口へ行きましょう。

相談方法

希望するハラスメント相談員に電話や e メールなどで連絡してください。学科や事務室などに関係なく、ハラスメント相談員を選ぶことができます。

ハラスメント専門相談員に相談することもできます。

ハラスメント専門相談員との相談時間は金曜日の 14:00 から 17:00 までです。

本学のハラスメント相談員、ハラスメント専門相談員の氏名や連絡先などの詳細は、本学ホームページを参照してください。

学外の相談機関（無料）

ハラスメントの専門相談機関ではありませんが、全般的な相談に応じてもらえます。

京都府男女共同参画センター らら京都

京都市南区東九条下殿田町 70 京都テルサ東館 2 階
TEL.075-692-3437

京都市男女共同参画センター ウィングス京都

京都市中京区東洞院六角下御射山町 262 番地
女性相談：TEL.075-212-7830 男性相談：TEL.075-277-1326

性暴力被害者の相談は…

京都性暴力被害者ワンストップ相談支援センター

京都 SARA 全国共通ダイヤル（フリーダイヤル）
TEL.075-222-7711 #8891
Email:kyotosara @ iaa.itkeeper.ne.jp

アルバイト

アルバイトは、学資や生活費の一助とするのが基本です。
学業や健康等に支障のないよう十分注意して就労するように心がけてください。
特に新入生の皆さんは、春学期中はまず大学生活に慣れるようにしてください。

本学では、危険を伴うものや教育的に好ましくない職種を避けるため「学生アルバイト情報ネットワーク（バイトネット）」に加盟し、安心・安全なアルバイトを紹介しています。このシステムは、パソコンやスマートフォンから、いつでもアルバイト求人情報を検索することができます。

アルバイト紹介システム利用方法

- 1. 学生アルバイト情報ネットワーク（バイトネット）にアクセス**
<https://www.aines.net/kufs/>
- 2. 登録**
初めて利用する場合は、本学が交付するメールアドレスが必要です。
新規登録ページよりメールアドレスを登録し、IDとパスワードを取得してください。
※学内のパソコンに限り、オートログインが利用できます。
- 3. 閲覧**
取得したIDとパスワードでログインすれば、求人情報が閲覧できます。
- 4. 応募**
希望する求人先へ各自で連絡し、面接日などの指示を受けます。
※このアルバイト紹介システムは、本学が「(株) 学生情報センター」に業務委託しています。
大阪事務局 TEL：0120-749-155 FAX：06-4806-0550

■ 注意事項

アルバイトの募集は、求人誌やインターネット、チラシ等さまざまな方法で行われていますが、これらの中には、危険を伴うものや学生にふさわしくない職種、不利益な労働条件なものも含まれており、事故やトラブルも起きています。
応募の際には十分注意し、また就労するにあたっては以下の内容を必ず確認してください。

- ① 仕事内容、就労場所
- ② 始業・終業時間、休憩時間、休日・休暇の諸条件
- ③ 賃金（金額、支払日、支払方法）
※時間給契約の場合、休憩時間に対する賃金は、通常支払われません。
※時間外や深夜に労働した場合は、賃金は割増しになります。
- ④ 仕事や通勤途中の事故やけが
※労災保険で療養費が支払われます。
その他、不明なことや気になることは必ず契約時に確認してください。

■ トラブルが起ったら

賃金の不払い、就労条件が違うなどのトラブルが起こった場合は、アルバイト就労にも労働基準法が適用されますので、アルバイト先の会社を管轄する労働基準監督署に相談してください。

- 京都労働局ホームページ
<https://jsite.mhlw.go.jp/kyoto-roudoukyoku/home.html>
- 大阪労働局ホームページ
<https://jsite.mhlw.go.jp/osaka-roudoukyoku/home.html>
- 兵庫労働局ホームページ
<https://jsite.mhlw.go.jp/hyogo-roudoukyoku/home.html>
- 夜間・土日の相談は「労働条件相談ホットライン」へ
TEL：0120-811-610
月～金 …… 17:00～22:00
土・日・祝 …… 9:00～21:00

食堂・書籍部・購買部・証明写真機・ATM

■ LIBRE (リブレ) 12号館 月～金／11:00～14:00

学内最大のランチスポットは、557席の食堂コーナーと112席のカフェコーナーを備えた、明るく開放的な空間です。低価格でボリューム満点のメニューが豊富に揃っており、学生たちがリラックスして食事を楽しむことができます。

■ COMPAGNO (コンパニーニョ) 1号館 月～金／9:00～18:00

「COMPAGNO」は、イタリア語で「仲間と共に集う」という意味を持つ、1号館地階にあるオープンスタイルのカフェラウンジです。130席を備え、学生たちがリラックスした時間を過ごせるだけでなく、自習や語らい、異文化交流の場としても利用されています。売店では、コーヒーや食品など、学生のニーズに応じた品揃えがあり、便利な学内のオアシスとなっています。

■ CAFE TARO (カフェタロー) 9号館 月～金／10:00～17:00

京都外国語大学の壁に飾られた岡本太郎画伯による貴重なレリーフが印象的なレストランです。72席の落ち着いた空間の中、留学生が多いこの大学ならではの、国際的でリラックスできる雰囲気、家庭的な親しみやすいメニューや、ドリンクのテイクアウトもある、静かに人気を集めているスポットです。

■ 書籍部 (丸善雄松堂) 11号館 月～金／9:00～18:00 土／10:00～15:00

学生にとって書籍は重要なパートナーであり、ここでは一般書、洋書、雑誌、専門書など幅広く揃えています。必要な本がない場合は注文で取り寄せも可能で、すべて1割引で購入できます。この充実したラインナップは、学生の学びをサポートし、心強い味方となっています。

■ 購買部 (マツ・コーポレーション) 11号館 月～金／9:30～18:00

文房具や家電製品、チケットなど、学習に必要なアイテムから生活用品まで、幅広く揃っており非常に便利です。

■ 証明写真機

11号館購買部の東側に、国際学生証や履歴書、パスポート用などの証明写真が撮影できる機械が設置されています。

■ キャッシュコーナー 月～金／9:00～20:00 土／9:00～14:00

三井住友銀行のATMが、2号館1階北側ロビーに設置されています。

※営業は休暇および大学行事(入試等)の実施状況により変更する場合があります。

付属図書館

■ 図書館・開館時間

	月～金曜日	土曜日	所蔵資料
図書館本館（7号館1階）	9:00～21:00	9:00～17:00	資料全般
アジア関係図書館（9号館2階）	10:00～18:00	—	アジア関係資料全般
第5閲覧室（6号館1階）	10:00～20:00	—	多読図書、二言語同時学習用図書、AV資料

京都国連寄託図書館（9号館2階）	10:00～18:00	—	国連資料
------------------	-------------	---	------

- ・ 図書館を利用する際は、必ず学生証を携帯してください。入退館の際、学生証を入退館ゲートのICカード読み取り部に近づけてください。
- ・ 休館日は、通常授業実施日、特別開館日を除く日曜および祝日、創立記念日、夏期・冬期休暇中の一定期間です。
- ・ 開館日や開館時間は、図書館ホームページや開館日程表でお知らせします。

■ 館外貸出について（貸出冊数と期間）

	冊数	期間
大学院生	20冊	4週間
学部生	10冊	3週間
短大生	10冊	3週間
科目等履修生	6冊	2週間
特別貸出（特別図書貸出制度）	6冊	4週間

- ・ 本館および第5閲覧室では、自動貸出・返却機で図書の貸出・返却ができます。アジア関係図書館ではカウンターで申し込んでください。
- ・ 図書の返却：返却期限までに学生証を添えて返却してください。返却が遅れると延滞日数に応じて一定の期間、貸出を受けられません。
- ・ 閉館中の図書の返却は、図書館本館正面に置いてある図書返却ポストに入れてください。ただし、返却遅れの図書は入れないでください。
- ・ 貸出中の図書を予約することができますので、本館総合カウンターに申し込んでください。また、図書館ホームページの「MyLibrary」からもWeb予約をすることができます。

■ 図書館では次のサービスを行っています。

レファレンス・サービス	資料の探し方や図書館の利用法がわからない時などは本館総合カウンターに申し出てください。	
蔵書検索	図書館の資料は蔵書検索で調べることができます。 蔵書検索ページはこちら → https://opac.kufs.ac.jp	
相互協力サービス	京都府内の公共図書館や、他大学図書館などから相互協力の取り決めに従って、複写物や図書の取り寄せができます。なお、他大学図書館の利用については、本館総合カウンターまでご相談ください。	
パソコン利用コーナー	第1閲覧室のパソコン利用コーナーでノートパソコンを利用することができます。	
MyLibrary	図書館ホームページからログインできます。利用状況照会、貸出履歴、予約登録、継続貸出、購入希望依頼など個人ポータル機能を活用することができます。	
学外利用サービス (MyLOFT)	電子書籍・電子ジャーナルおよびデータベースを学外から利用することができます。	

※図書館利用の詳細は、『Library Guide』をご覧ください。



ICTサービス・設備利用案内

■マルチメディア自習室 MAICO (6号館／6階)

「個人の学習目標達成のためのマルチメディア利用」という意味を表す『MAICO』。コンピューターを使用して、各種ツールを活用した学習ができ、目的に合わせた多様な自習スタイルに対応しています。

- ・個別学習エリア (12席)
コンピューターを用いた自習が可能です。
- ・簡易個室 (5席)
個別に仕切られたブースがあり、集中したい時に利用できます。コンピューターが必要な場合は、受付でノートパソコンを貸し出ししています。
- ・予約可能な個室 (3室)
学習室 (2室)：コンピューター、プロジェクター、ホワイトボードを備えていますので、グループ発表の練習等に利用できます。
コンテンツ編集・制作室 (1室)：自分の声を録音したり、動画の編集・制作に活用することができます。
- ・ラボスペース
研究や授業で使用していない時は、自習スペースとして利用できます。コンピューターが必要な場合は、受付でノートパソコンを貸し出ししています。

※最新の開室状況は、「MAICO 開室カレンダー」(<https://www.kufs.ac.jp/rcmme/opentime.html>)を確認してください。

【個室の予約方法】

予約方法の説明サイト (<https://sites.google.com/kufs.ac.jp/maico-info/roomreservation>)を確認のうえ、同ページ内にある予約サイトにアクセスしてください。

■CALL 教室 (131 教室／1号館3階、732 教室／7号館3階、833・834 教室／8号館3階)

英語を基軸にもう1つの外国語を同時に学べる「2言語同時学習」をはじめ、CALL (コンピューターを利用した語学学習) など、さまざまなメディア教材を活用した授業で使用しています。

■情報処理演習室 (641・642 教室／6号館4階、651・652 教室／6号館5階)

Microsoft Office だけでなく、画像編集 (641・642 教室のみ)、統計処理といった専門性の高いソフトウェアも導入し、コンピューターを利用する数多くの授業で使用しています。

■836 教室 (同時通訳・遠隔授業対応／8号館3階)

欧州会議 (EU) や国連の欧州本部でも採用されている同時通訳システムを導入。遠隔授業システムを使用して国内外の大学と遠隔授業をすることができます。

■自習用ノートパソコン

4号館1階・3階に自習用ノートパソコンの自動貸出 PC ロッカーを設置しています。

最新の設置場所・利用状況は、「コンピューター利用状況サイト」(<https://sites.google.com/kufs.ac.jp/openpc>)を確認してください。

■学内 ICT サービス・設備についての最新情報

詳細な情報は「ICT サポートページ」(https://sites.google.com/kufs.ac.jp/it-suportinfo/kufs_it)を確認してください。

MAICO
開室カレンダー



MAICO個室
予約サイト



コンピューター
利用状況サイト



ICTサポート
ページ



※ログインを求められる場合は、大学のメールアドレス (～@kufs.ac.jp) でログインしてください。

ランゲージセンター

ランゲージセンターは、皆さんが学んでいる外国語／授業で使用する言語の理解・運用能力の向上を図るとともに、正課外における、多様なニーズに基づいた語学講座などのプログラムを提供します。また、本学が有する語学教育資源を広く学外に提供することにより、地域・社会への貢献に資することも目的としています。

ランゲージセンターは、4号館1階にて外国語自律学習支援室 NINJA(以下「NINJA」)を運営しています。



〈NINJA セッションエリア〉



〈NINJA グループワークエリア〉



学習相談 学生×教員

語学学習・アカデミックスキル全般についてラーニングアドバイザー（日本人・外国人教員）に相談できるセッションです。学習目標設定・計画、語学検定試験、進路、語学スキル向上、レポートの書き方などについての相談に応じます。「学習について自分が何を悩んでいるかわからない」という相談でもウェルカム！（ただし、原則成績に関する添削はできません。）

- 予約制ですが、当日予約が入っていないセッション枠があれば NINJA 受付カウンターで申し込むこと（Drop-in）もできます。
- セッション形式は対面（NINJA）またはオンライン（Microsoft Teams）が選べます。

・アドバイジングセッション

日本人ラーニングアドバイザーと語学学習・アカデミックスキル全般についてゆっくりと話ができる 40 分のセッションです。

・スピーキング／ライティングセッション

外国人ラーニングアドバイザーに英語等のスピーキングとライティング全般について何でも相談できる 40 分のセッションです。

・日本語アカデミックヘルプデスク

日本語を専門とする日本人教員に日本語学習やライティングスキルについて相談ができる 40 分のヘルプデスクです。

学び・交流 学生×学生

ピア（学生同士）で学習を行うセッションや留学生と日本語で話すプログラムの他、タイの大学で日本語を学ぶ学生とのビデオチャットなど国際交流もできます。

また NINJA 学生コミュニティによるアクティビティやイベントも開催しています。

- 予約制ですが当日予約が入っていないセッション枠があれば NINJA 受付カウンターで申し込むこと（Drop-in）もできます。
- セッション形式は対面（NINJA）またはオンライン（Microsoft Teams）が選べます。

・ピアチュータリングセッション

ピアチューター*に英語の勉強方法や語学検定試験対策のコツなどについて相談できる 30 分のセッションです。学生スタッフだからこそ知っている情報や成功・失敗体験はきっとこれからの勉強の助けになります。

※主に英語に関する学習支援をおこなう学生スタッフ。定期的に研修に参加し、学習支援に関する知識やスキルを習得しています。

・Have a Chat

Have a Chat スタッフ*と世界のさまざまな言語を使っておしゃべりができる 30 分のセッションです。友達と楽しく参加したい人にもお勧めです。

※英語や世界のさまざまな言語で自由にコミュニケーションが取れる留学生をはじめとする学生スタッフ



・コツはまかせ先輩に！

英語学習で困っていることやアドバイスがほしいことについてピアチューターと定期的に話せる 60 分の小グループ制プログラムです。授業の空き時間を使って先輩の勉強方法や TOEIC のコツを知りたい人、友達と一緒に楽しく学びたい人にお勧めです。

※事前申込制（先着順）です。

・JCBP : Japanese Conversation Buddy Program

日本語を学習中の留学生と、国際交流を希望する学生がバディを組み、学期中毎週 1 回 40 分日本語で会話をするプログラムです。留学生と日本語で会話する中で、日本人学生も確かな日本語力の必要性を実感し、双方の日本語力を伸ばし合います。さらに、大学生活を豊かにする人間関係の構築や、多文化理解を促します。※マッチング制です。



・TLJ : Talk and Learn Japanese

タイの大学で日本語を学ぶ学生と 1 対 1 でバディを組み、ビデオチャットで日本語授業の復習・会話練習を行います。秋学期の約 2 ヶ月間毎週 1 時間の活動では、多文化理解の機会と、能動的に聴くこと、伝わりやすく表現することに真摯に取り組む経験を得ることができます。担当教員が毎週の活動の振り返りを丁寧に見守り、「説明する力」も養います。言語を問わず教員志望者にお勧めのプログラムです。

・イベント

NINJA の魅力を発信し、言語学習の楽しさを伝えるために活動している学生コミュニティ“NINJA Cast”（209 ページ）が、ランチタイムのアクティビティや季節ごとのイベント、言語・文化に関するプロジェクトなど様々な企画を実施します。

※一部予約制の場合があります。

講座・セミナー

ランゲージセンターでは学生の「目的」と「レベル」に合わせて講座やセミナーを対面やオンラインで開講しています。自分に最適な課題にチャレンジしてください。詳細は UNIPA でお知らせします。

・集中講座

夏期または春期休暇中に集中講座を開催し、英語のスキルアップのお手伝いをします。

・ランチタイムセミナー

ランゲージセンターの専任教員が、学生が今知りたい情報をコンパクトに紹介するセミナーです。

英語に関するもの：レポート対策・プレゼンスキルアップなど

「大人の日本語」：質問・感想・説明・プレゼン・発表スライド・Email の基本、レポートのための情報検索・引用方法・参考文献の書き方・Word 操作



IELTS 説明会

学習支援コミュニティ

《NINJA Cast》

外国語自律学習支援室 NINJA の魅力を発信し、言語学習の楽しさを伝えるために活動している学生コミュニティです。言語・文化に関するイベントやプロジェクトを企画・実施しています。

NINJA Cast メンバーは、NINJA カウンタースタッフや Have a Chat スタッフ、ピアチューターとしても活躍しています。

< NINJA インスタグラム >



学修サポート資料

「レポート作成サポート情報」や「メール作成サポート情報」など、大学での学修をサポートする資料を作成・提供しています。



< 学修サポート資料 >



各種語学検定試験受験料助成

125 ページまたは 175 ページへ



本学の教育の柱である「複言語・複文化の理解」の促進にあたり、学生の皆さんが学んだことを実践する機会を提供しています。

LinguaLink (翻訳・通訳人材バンク) は、事前に登録した学生を対象に、京都を中心とした学外から依頼があった翻訳や通訳の業務（有償・無償）を随時案内しています。

また、業務を行うにあたって、事前に必要な知識・ノウハウに関する研修や情報提供も行っています。

登録制となっていますので、活動を希望する学生は以下から登録を行ってください。

■ LinguaLink への登録

LinguaLink への登録は、以下の QR コードもしくは URL にアクセスし、専用フォームから登録*をしてください。または、Kyoto Gaidai UNIPA で案内される説明会に参加してください。

※登録時に、本学が発行するアカウント（例 25ua9999@kufs.ac.jp）によるログインが必要です。

登録フォーム

<https://forms.gle/PGYpbTrPEAPQGMb57>



■ LinguaLink 2025 年度の活動

- ・京都ハンナリーズホームゲーム通訳案内ボランティア（2024年9月～2025年5月）
- ・大阪・関西万博関西パビリオン京都ブース翻訳プロジェクト（2024年11月～2025年7月）
- ・国際会議 ISO/TC37（国際標準化機構第37委員会）通訳案内ボランティア（6月）
- ・祇園祭通訳案内ボランティア（7月）
- ・神宗（かんそう）日本の伝統食文化紹介の多言語化プロジェクトビデオ翻訳（7月～9月）
- ・京まふ（京都国際漫画・アニメフェア）通訳案内ボランティア（9月）
- ・京都市食品ロス削減月刊該当啓発キャンペーン多言語対応サポート（10月）
- ・大津祭通訳案内ボランティア（10月）
- ・特別講演会（講師：南谷かおり / テーマ：医療通訳）の実施（10月）

その他、随時ウェブページにて更新

LinguaLink ウェブページ

<https://sites.google.com/kufs.ac.jp/lingua-link/>



国際文化資料館 <10号館3階・4階>

京都外国語大学国際文化資料館は、世界各地の民族資料を収集、研究、保存し、展示するため1990年に準備室を開設、1991年に開館しました。近年新たに古代アンデスの考古資料、台湾～フィリピン～インドネシアなどの民族資料を収蔵し、既存資料とともに展示・公開しています。

国際文化資料館は、〈PAX MUNDI PER LINGUAS〉、すなわち「言語を通して世界の平和を」の建学の精神を具体的な博物館活動で実践している研究・教育・普及・国際交流施設です。世界の各地でさまざまな民族が創り上げた資料を収集、調査研究、展示、そして本学学生はもとより地域に開かれた教育普及活動を行ない、地域から世界に向けた協働と交流を進めています。

【収蔵分野】

イスラム世界の生活用品／グアテマラ・マヤの民俗資料（寄託品）／メキシコ考古資料（複製品）・民芸品・民俗資料／ブラジル・バイーア州民族資料／中国の兵馬俑（複製品）／ポルトガルの大航海時代におけるアジア進出関係資料／ラテンアメリカ現代美術／忍 TOBITA の絵画、陶芸品／古代南米美術品／中東資料／東南アジアの工芸品

【主な収蔵品／コレクション】

- ・イスラム世界の生活用品：衣装、水差し・なべ・やかんなどの用具、楽器、水タバコ用具など
- ・グアテマラ・マヤの民俗資料（寄託品）：すり鉢・乳鉢・メタテなどの石製品、染織された糸、豆、ヒカラ・カカオなど市で売られているもの、市の風景の写真など
- ・メキシコ考古資料（複製品）・民芸品・民俗資料：陶製女性像、多彩色陶製ろうそく立て、鞆、布、帽子など
- ・中国美術：兵馬俑（複製品）、陶磁器、書画、硯など
- ・ポルトガル大航海時代におけるアジア進出関係資料：天体観測器具、火縄銃など
- ・ラテンアメリカ現代美術：プスタマンテ作の彫刻
- ・忍 TOBITA コレクション：絵画、陶芸品
- ・古代南米美術品：土器、染織品など
- ・中東資料：ペルシャの土器など
- ・東南アジアの工芸品：櫛、籠、仮面など

開館日時 月～金曜日 10：00～16：00

休館日 土曜日・日曜日・祝日

※展示替えなどのため臨時休館することがあります。

※特別展開催時は、休館日が変更になります。

TEL.075-864-8741

e-mail : umc@kufs.ac.jp

HP <https://www.kufs.ac.jp/umc>



奨学金一覧

※制度に変更が生じる場合がありますので、必ず本学ホームページ等で確認してください。

経済的負担を軽減し、安心して学生生活が送れるよう、各種奨学金制度を設けています。

留学したい学生対象 担当部署：国際部

■交換留学プログラム [派遣留学 A]

給費

- 留学先大学の授業料免除および
留学奨学金 25 / 50 万円
(短期大学生は 30 万円)
海外の協定大学へ派遣する学生に
対して支給

対象	採用人数
大学に在学する正規生	80 ~ 160 名
短大に在学する正規生	

■セメスター・アブロード・ プログラム [派遣留学 B]

給費

- 留学奨学金 25 万円
海外の協定大学へ派遣する学生に
対して支給

対象	採用人数
大学に在学する 正規生	20 名

■ブリッジ・プログラム [派遣留学 C]

給費

- 留学奨学金 50 万円
海外の協定大学へ派遣する学生に
対して支給

対象	採用人数
大学に在学する 正規生	3 名

■夏期英語研修

給費

- 留学奨学金 24 万円
海外の協定大学へ派遣する学生に
対して支給

対象	採用人数
短大に在学する正規生	5 名

■First-Step Abroad Program (校友会)

給費

- 留学奨学金 5 万円
プログラムに参加する学生に対し
て支給

対象	採用人数
大学に在学する正規生	参加者全員
短大に在学する正規生	

経済的理由により修学困難な学生対象 担当部署：学生生活課

■学費補助奨学金

給費

- 大学 30 万円
短期大学 15 万円
勉学に励みながら、家計の状況が
厳しく、修学が困難な学生に対して
支援する

対象	採用人数
大学 1 ~ 4 年次生	29 名程度
短大 1・2 年次生	2 名程度

■自然災害の被災による学費減免

給費

- 当該学期の学費全額または
1/2 相当額を免除および
見舞金 10 万円
自然災害により被害に遭った学生
に対して支援する

■家計急変緊急給付金

給費

- 大学 30 万円
短期大学 15 万円
家計が急変し修学が困難な学生に
対して支援する

■私費外国人留学生授業料減額

給費

- 当該年度の授業料の 30% を
減額
学業成績優秀者で、経済的理由により
学費の納入が困難な私費外国人留学生
に対して支援する

対象
大学に在学する正規生 (在留資格「留学」を有する人)

■日本学生支援機構 奨学金

給費

貸費

- 学業成績優秀者で、経済的理由に
より修学困難な学生に対して
給付・貸与する

成績優秀者の学びをサポート 担当部署：学生生活課・国際部

■森田基金奨学金

給費

- 大学 30 万円
短期大学 15 万円
- 学業成績が特に優秀で、他の学生の模範と認められる人に支給

対象	採用人数
大学 2 ～ 4 年次生 (外国語学部)	39 名
大学 2 ～ 4 年次生 (国際貢献学部)	10 名
短大 2 年次生	2 名

■校友会奨学金

給費

- 15 万円
- 学業成績優秀者で、日本との文化交流に貢献する私費外国人留学生に対して支給

対象	採用人数
大学 2 ～ 4 年次に在学する正規生 (在留資格「留学」を有する人)	8 名

語学検定試験の資格取得をバックアップ 担当部署：教育支援課・ランゲージセンター

■新入生対象 GTEC受験料免除

給費

- 受験料相当額
- 入学前に実施する GTEC の受験料相当額を補助

対象	採用人数
大学の新入生	新入生全員
短大の新入生	

■TOEIC (IP) 受験料免除

給費

- 受験料相当額
- 年度末に実施する TOEIC (IP) の受験料相当額を補助

対象	採用人数
外国語学部 に在学する正規生	受験者全員
短大に在学する正規生	

■GTEC受験料免除 (後援会)

給費

- 受験料相当額
- 年度末に実施する GTEC の受験料相当額を補助

対象	採用人数
大学に在学する正規生	受験者全員
短大に在学する正規生	

■語学検定試験受験料助成制度 (後援会)

給費

- 受験料相当額
- 各種語学検定試験の受験料相当額を後援会が年度に 2 回助成

対象	採用人数
大学に在学する正規生	申請者全員
短大に在学する正規生	

■語学検定試験受験料助成制度 (アセスメント)

給費

- 受験料相当額
- 大学指定の検定試験の受験料相当額を年度に 1 回助成

対象	採用人数
外国語学部 (英米語・日本語学科除く) に在学する正規生	申請者全員

※対象となる検定試験
125 ページ・175 ページ参照

※対象となる検定試験
53 ページ・54 ページ参照

その他にもさまざまな支援制度を用意 担当部署：学生生活課

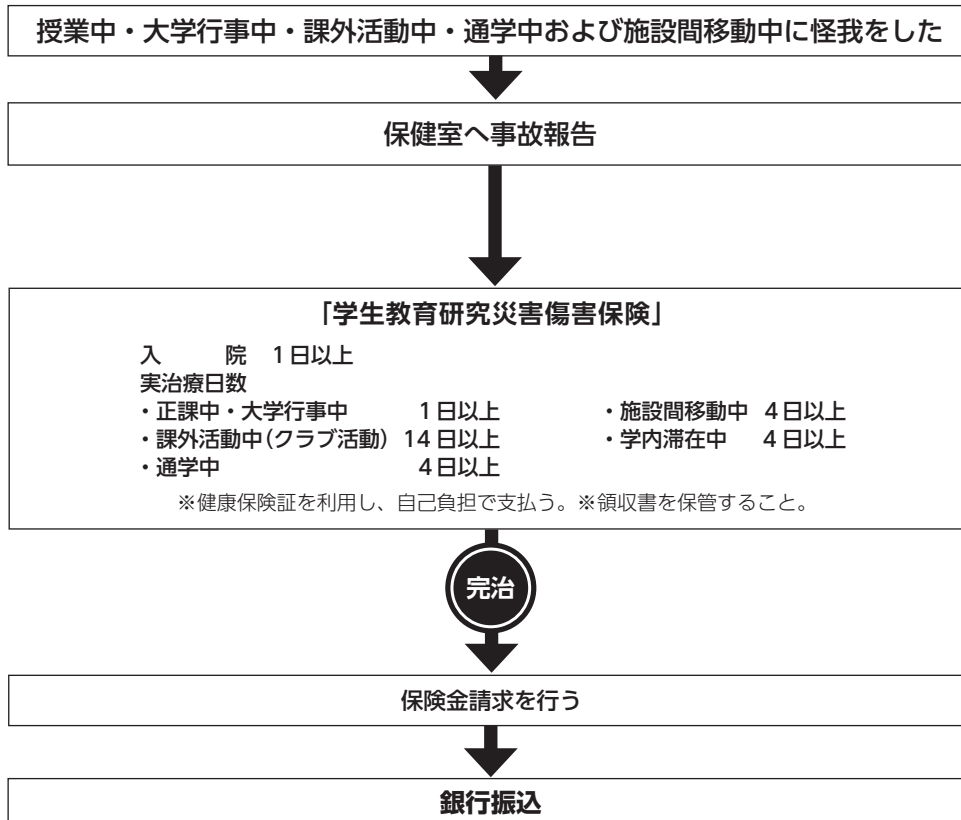
名称	制度概要	対象	採用人数	支給額
校友会 「輝く星となる学生」 奨学金 (給費)	学業成績優秀者で、将来に向けてさらなる可能性 (潜在的能力) を有している学生に対して支給	大学 1 ～ 3 年次生 短大 1 年次生	5 名以内	10 万円 (単年度)
校友会 併設短期大学推薦編入学試験 入学検定料助成金 (給費)	併設短期大学推薦編入学試験で合格し入学する学生に対し、入学検定料の一部を支給	短大 2 年次生	40 名程度	3 万円 (単年度)
石間裕給費奨学金 (給費)	学業成績優秀者で、就職への意欲がありながら、経済的理由により修学困難な学生に対して支給	大学 3 年次生	1 名	40 万円 (単年度)

上記以外に、民間団体や地方自治体からも本学に対して奨学金の募集依頼があります。

災害傷害保険給付

■ 学生教育研究災害傷害保険

授業・大学行事・課外活動に安心して参加できるよう、正規生全員が加入しています（大学負担）。



■ スポーツ安全保険

本学公認団体に対して、加入を義務付けています。

■ 学研災付帯学生生活総合保険

学生生活における傷害事故・賠償を要する事故等不測の事態に備え、学内外を問わず、1日24時間を総合的に補償する公益財団法人日本国際教育支援協会の「学研災付帯学生生活総合保険」を紹介しています。この制度への加入は任意で、希望者は下記へ連絡してください。

問い合わせ先

東京海上日動火災保険株式会社取扱代理店：T. S. A.

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-16-10 コスモス御苑ビル 501C

フリーダイヤル 0120-085-086

NO DRUGS!

「危険ドラッグって、どこでも手に入るじゃない」「大麻って実は安全なんだって」「海外では合法だから大丈夫」「1回ぐらいならやったって平気」「みんなやっているよ」「気分が明るくなるよ」

これらはSNSを通じてよく目にし、またよく聞く誘い文句ですが、このような甘い言葉に乗せられて興味本位で薬物に手を出すのは絶対にやめてください。気づいたときには薬物がないと生活できなくなり、友人関係や家族関係も崩壊し、とりかえしのつかない事態に陥ります。

怖いのは、薬物に関する中途半端な知識と「自分は大丈夫。関係ない」という思いこみです。大麻をはじめ薬物乱用に関する正しい知識を身につけ、断る勇氣が必要です。

危険ドラッグは、近年、特に深刻な社会問題となっており、意識障害や呼吸困難などの深刻な症状を引き起こすだけでなく、乱用者による犯罪や交通事故が頻発しています。医薬品医療機器等法（旧薬事法）によって指定薬物の輸入、製造、販売、授与に加え所持、使用、購入、譲り受けも禁止されています。持っているだけでも取り締まりの対象となることをしっかりと認識してください。違反した場合、3年以下の懲役もしくは300万円以下の罰金またはこれらが併科されます。

大麻は、記憶への影響、学習能力の悪化、知覚の変化、人格喪失などを引き起こすほか使用を止めても依存性が残るなどとされています。

大麻は、大麻取締法により刑罰の対象になります。

- ・栽培、輸入、輸出 → 1年以上10年以下の拘禁刑
- ・使用、所持、譲り受け、譲り渡し → 7年以下の拘禁刑

覚醒剤は、特に依存性が高く、乱用を続けると覚醒剤精神病になります。その症状は、使用を止めても長期間残る危険性があります。大量の覚醒剤を摂取すると急性中毒になり、死亡することもあります。

覚醒剤は、覚せい剤取締法により刑罰の対象になります。

- ・輸入、輸出、製造 → 1年以上の拘禁刑
- ・使用、所持、譲り受け、譲り渡し → 10年以下の拘禁刑

また、ほかの薬物も「麻薬及び向精神薬取締法」「あへん法」「毒物及び劇物取締法（シンナー等）」などの法律で規制されています。

< 相談窓口 >

きょうと薬物乱用防止情報センター TEL: 075-414-4790 e-mail: yakumu@pref.kyoto.lg.jp
京都府精神保健福祉総合センター TEL: 075-641-1810
京都市こころの健康増進センター TEL: 075-314-0874

< 参考 >

公益財団法人 麻薬・覚せい剤乱用防止センター URL: <https://www.dapc.or.jp/>

ストーカーは犯罪行為

同じ相手に対して繰り返し「つきまとい等」を行うのがストーカー行為です。ストーカー規制法により「ストーカーは犯罪行為」であることが明確になりました。普段から不審な人物に気をつけること、また対人関係にも気を配ることが自身を守る第一歩です。学生生活等にて、不安に思うことがあれば学生生活課に相談してください。

こんな人がストーカー

特定の人に対する好意の感情などを満たすため、次のような行為を繰り返して行えばストーカーとみなされます。

- 住居や学校などでのつきまとい、待ち伏せ、押しかけ、うろつき。
- 監視していると告げる行為。
- 面会、交際など義務のないことを要求すること。
- 著しく粗野な言動、乱暴な言動。
- 無言電話、連続した電話・ファクシミリ・電子メール・SNS メッセージ、手紙。
- 汚物や動物の死体などの送付。
- 名誉を傷つける。
- 性的羞恥心を侵害する。

被害を受けたら警察に相談

警察ではあなたを守ることを最優先に考えて相談体制を整えており、こうした悪質な行為に対して、行為者への警告や犯罪捜査による検挙などを行うほか、被害者に対して被害防止策のアドバイスや防犯機器の一時貸し出し、被害の防止交渉に関する助言などを行っています。

ストーカー行為をした者は、1年以下の懲役または100万円以下の罰金が科せられます。また、警察からの禁止命令等に違反してつきまとい等をした者は、2年以下の懲役又は200万円以下の罰金が科せられます。

相談時にはできるだけ多くの証拠を

ストーカー行為は人間の感情と深く関わっているため、公的機関である警察の介入が難しい面もあります。そこで、警察に相談する際は自分の受けたストーカー行為が第三者にも明確に伝わるよう、できれば次のような証拠を集めておきましょう。

- ストーカー行為のあった日時や場所をできるだけ詳しく記録しておく。
- ストーカーの言動や動作を文書にしておく。
- 手紙やメール、着信履歴を保存し、電話や会話も録音しておく。
- 相手の身元が分からない場合は、身長や体型、メガネの有無や髪形など、できるだけ詳しい特徴を記録しておく。

ストーカー被害の外部相談窓口

京都ストーカー相談支援センター KSCC TEL.075-415-1124
京都府警察 警察総合相談室 # 9110 または TEL.075-414-0110
最寄りの警察署

危険な「闇バイト」や詐欺に注意！

SNSなどで「高収入」「楽して稼げる」といった甘い言葉で募集されているアルバイトには、犯罪に加担させられる危険性が潜んでいます。

- 受け子、出し子**：詐欺グループの一員として、被害者から現金やキャッシュカードを受け取ったり、ATMから不正に現金を引き出したりする行為です。
- 叩き（タタキ）**：強盗のことです。
- 名義貸し**：自分の名義で携帯電話や銀行口座を契約し、犯罪組織に渡す行為です。
- 運び屋**：薬物などの違法な物品を運搬する行為です。

あなたも被害者、そして加害者になる可能性があります

こうした「闇バイト」は、軽い気持ちで始めたつもりでも、気づかいうちに詐欺や強盗などの重大な犯罪の実行犯になってしまいます。

「知らなかった」では済まされません。犯罪に加担した場合、懲役刑や罰金刑などの厳しい刑罰が科せられるだけでなく、**多額の損害賠償**を請求されることもあります。

また、個人情報抜き取られたり、違法な労働を強要されたりして、**あなた自身が犯罪の被害者**になってしまうケースも後を絶ちません。

少しでも怪しいと感じた場合は、一人で抱え込まず、すぐに**警察や消費生活センター**に相談してください。

詐欺の被害に遭わないために

- 「**お金が急に必要になった**」というメールやSNSのメッセージが、友人や家族から送られてきても安易に信用しないでください。必ず本人に直接電話などで確認しましょう。
- 「**当選しました**」「**限定セールです**」など、心当たりのない不審なメールやSMSのURLは、絶対にクリックしないでください。
- 「**あなたの情報が漏れています**」などと不安をあおる電話やメールにも注意が必要です。

闇バイトに関する外部相談窓口

警察相談専用電話：#9110

消費者ホットライン：188

最寄りの警察署：警察署の生活安全課

SNS利用上の注意

SNS利用上の注意喚起

SNSは友人や家族とのコミュニケーション、情報収集に大変便利なツールですが、使い方を一歩間違えると、自分自身や他者を傷つけたり、思わぬトラブルに巻き込まれたりする危険性があります。以下の点に十分注意して、責任ある利用を心がけましょう。

個人情報の公開に注意する

SNSに安易に**個人情報**を公開することは、犯罪に巻き込まれるリスクを高めます。

- 氏名、住所、電話番号、生年月日、顔写真などの個人情報は、公開範囲を限定するか、公開しないようにしましょう。
- 大学名や所属学部、サークル名などを公開することで、**ストーカー被害**や**なりすまし**に遭う可能性も考えられます。
- 投稿に位置情報が付加されていないか、必ず確認しましょう。

誹謗中傷や差別的な発言をしない

匿名性が高いからといって、他者を**誹謗中傷**したり、**差別的な発言**をしたりすることは絶対にやめましょう。

- 軽い気持ちで投稿した内容でも、受け取った相手は深く傷つくことがあります。
- 他者を攻撃するような投稿は、**名誉毀損**や**侮辱罪**などの法的責任を問われる可能性があります。
- 一度インターネット上に公開された情報は完全に消すことは困難です。過去の投稿が将来の就職活動などに影響を与える可能性も念頭に置いておきましょう。

著作権や肖像権を侵害しない

インターネット上の**画像**、**文章**、**音楽**、**動画**などを無断で転載・共有することは、**著作権の侵害**にあたります。

- 他者の顔が写っている写真を許可なくSNSに投稿することは**肖像権の侵害**にあたる可能性があります。
- 著作権・肖像権侵害は、損害賠償を請求されるなど、法的なトラブルに発展する可能性があります。

SNSに関するトラブルに巻き込まれた場合の外部相談窓口

警察相談専用電話：#9110

違法・有害情報相談センター：<https://www.ihaho.jp/>

あの手この手の悪質商法

言葉巧みな勧誘で高額な商品やサービスを売りつける悪質商法。そのターゲットになりやすいのが社会的経験に乏しい若者です。悪質商法で扱われる商品は、絵画や宝石から健康器具、布団、さらに学習教材や資格講座、エステまで多彩。世の中にはそんなにおいしい話などないはずと冷静に考えて、だまされないようにするのが一番ですが、万一契約してしまった場合はクーリング・オフ制度を利用してすぐに解約し、被害を防止しましょう。

悪質商法の手口はさまざま

■マルチ(まがい)商法

友だちや知り合いを販売組織に加入させたり、商品を売ったりすると次々にリポートが入って簡単に高収入が得られる。そんな誘い文句で入会を促し、入会金や商品の購入代金を支払わせる商法です。しかし、実際には1人が2人を、2人が4人を勧誘するといったネズミ算式のシステムはすぐに行き詰って破綻してしまうことが明らかです。また、金銭的な被害だけでなく、加入した人は身近で声を掛けやすい友人などを勧誘するため、大切な人間関係を損なうことも少なくありません。最近ではインターネットを利用した「ネットねずみ講」も広がっていますので十分に注意してください。

■キャッチセールス

繁華街などで「アンケートに答えてください」「いま、無料でお肌のチェックをしています」といった声を掛けて営業所などに誘導し、断り切れない雰囲気をつくって高価な宝石や化粧品、エステなどを強引に契約させる手口です。知らない人から甘い話を持ちかけられても決して応じないようにしましょう。

■アポイントメントセールス

電話や郵便で「珍しい宝石があるのでご覧いただきたい」とか「あなたが当選なさいました」と営業所や喫茶店などに呼び出し、商品や会員権などを売りつける手法です。呼び出された先では帰ろうとしても帰らせてもらえず、何時間も説得されるため根負けして買ってしまうケースが多いようです。また、出会い系サイトなどで知り合った異性から「会いたい」と誘われて出かけ、宝石や毛皮など高額商品の契約をさせられる「デート商法」にも気を付けてください。

■資格商法

「安い受講料で簡単に資格が取れる」「資格の取得後は高収入が約束されている」といった言葉で建築士や社会保険労務士、電気主任技術者などさまざまな資格取得講座の受講を勧め、高額な登録料を請求したり、教材を売りつけたりする商法です。電話でしつこく勧誘された場合も、「結構です」「はいはい」といったあいまいな対応は禁物。勝手に承諾とみなされることがあります。また「認定前の国家資格」といったふれこみで架空の資格を勧める手口や、「以前受講した講座がまだ終了していない」「被害者リストから削除する」と言って新たな請求をしてくる二次被害も見られるので注意してください。

■モニター商法

布団や着物、浄水器などのモニターになってアンケートに答えたり、感想を報告したりすればモニター料を支払うと言って購入契約をさせる商法です。実際にはモニター料が支払われず、高額の商品代金だけが請求されるといった被害があります。

■内職・アルバイト商法

「自宅でできるアルバイトを紹介する」などと言って勧誘し、その仕事に必要なことから講習会に参加させたり商品を購入させたりします。しかし、仕事は紹介されず、講習費用や商品代金だけを取られてしまいます。

しまった!と思ったらクーリング・オフ

悪質商法にはほかにもさまざまな手口があり、若者の被害はあとを絶ちません。巧みな言葉でだまされたり、精神的に追い込まれたりして、冷静な判断ができないまま契約を交わしてしまうのです。しかし、そこであきらめてはいけません。あなたを救うためにクーリング・オフという制度があります。

一般的に、契約を交わせばお互いにそれを守るのが原則ですが、消費者を守るため、契約したあと頭を冷やす(Cooling Off) ための時間を設けて、一定期間内なら無条件で契約を解除できるようにしたのがクーリング・オフ制度です。

クーリング・オフ制度による解約は、期間内(下記参照)にハガキなどの書面で行います。契約先への送付は特定記録郵便または簡易書留を用い、送付内容は必ずコピーしておきましょう。クレジット契約をしている場合は、販売会社とクレジット会社に同時に通知します。

< クーリング・オフができる取引と期間 >

- 訪問販売(キャッチセールス、アポイントメントセールスなどを含む): 8 日間
- 電話勧誘販売: 8 日間
- 特定継続的役務提供(エステ、美容医療、語学教室、学習塾、家庭教師、パソコン教室、結婚相手紹介サービス): 8 日間
- 訪問購入(業者が消費者の自宅等を訪ねて、商品の買い取りを行うもの): 8 日間
- 連鎖販売取引(ネットワークビジネス、マルチ商法): 20 日間
- 業務提供誘引販売取引(内職・アルバイト商法、モニター契約など): 20 日間

悪質商法やクーリング・オフ制度の外部相談窓口

悪質商法 110 番 TEL.075-451-9449
京都府消費生活安全センター TEL.075-671-0004
京都市消費生活総合センター TEL.075-366-1319

命にかかわるアルハラ

大学生になると、新入生歓迎コンパやサークルの飲み会、大学祭など“お酒を飲む機会”が次々と待ち構えています。これらは仲間と過ごす楽しい時間のはずですが、同時に、急性アルコール中毒など死に至る深刻な危険もはらんでいます。法律で禁じられた 20 歳未満の者の飲酒はもちろん、たとえ 20 歳以上の者であってもイッキ飲みや飲酒の強要は重大な事故につながりかねません。また、自動車やバイク、自転車などの飲酒運転による事故は被害者やその家族だけでなく、加害者自身の人生も台無しにしてしまいます。こうした悲劇を避けるためにも、アルハラ（アルコール・ハラメント）についての認識をしっかりと持ち、飲酒のルールを確実に守ってください。

アルハラの定義とは

人権を侵害し、時には人の命を奪うことにもなりかねないアルハラ。次のような行為はすべてアルハラといえます。

■飲酒の強要

先輩・後輩の関係や罰ゲームなどで圧力をかけ、飲まなければならない状況に追い詰めること。

■イッキ飲ませ

場を盛り上げるために一息で飲み干すことを強要したり、早飲み競争をさせること。

■意図的な酔いつぶし

酔いつぶすことを意図して飲ませること。場合によっては傷害行為にもあたります。

■飲めない人への配慮を欠くこと

本人の体質や宗教上の理由などを無視して無理やり飲ませるのはもちろんのこと、酒類以外の飲み物を用意しなかったり、飲めないことをからかったりする行為も該当します。

■酔ったうえでの迷惑行為

からんだり悪ふざけをする、暴言・暴力、セクハラ、その他のひんしゅく行為です。

※無理に飲ませた人が強要罪や傷害罪に問われるだけでなく、現場ではやし立てた人も傷害現場助成罪などに問われます。アルハラに気づいたら、すぐにやめさせましょう。

こんな状態は危険信号

お酒の飲み過ぎによる急性アルコール中毒では吐き気、嘔吐、めまい、動悸、血圧低下、意識障害などの症状があらわれます。次のような状態に陥った場合、あるいは命の危険を感じた場合にはすぐに応急処置を施し、ためらわずに救急車を呼んでください。

- 大きなびきをかいて、呼びかけたりつねったりしても起きない。
- 顔色が悪く、とろんとしていて、名前を呼んでもまったく反応がない。
- 体温が低下して全身が冷たくなっている。
- 呼吸が異常に早くて浅いか、異常にゆっくりしていて時々しか息をしていない。

覚えておきたい応急処置

- 周囲の人が付き添い、絶対に一人にしないでください。
- 衣服をゆるめて楽にし、毛布などを掛けて保温します。
- 酔いつぶれた人を抱き起して無理に吐かせるのは窒息の恐れがあって大変危険です。横向きにして吐物が自然に口から出るようにします。

カルトの罠にはまらない

カルト団体は、学生に被害を与えるだけでなく被害を社会に広げて学生を加害者にします。カルト団体は信教・思想の自由、財産を侵害し、人間関係と社会生活を破壊します。絶対に近寄ってはいけません。向こうから近寄って来たら、きっぱり拒絶してください。

カルトの見分け方～例示～

■名前がない、名前が変わる（初期）

カルトは、最初は名乗りません。サークルを偽装したりボランティア活動やスポーツ、文化イベント、セミナーの形で、「親切で優しい」先輩の顔で誘惑します。

■活動内容が変わる（初期）

時期や参加者により活動内容を変え学生の興味を引きます。また、「1ヵ月体験入会」、「格安合宿」などの看板を掲げることもあります。

■異常に厳しい生活上の決まり

飲酒、喫煙、恋愛の禁止等

■教祖や教団組織への盲目的服従

■信者の過去や人間関係の否定

■教団外の組織・制度の敵視

■信者の自主性やプライバシーの軽視

カルトへの対処法

■怪しい人（魅力ある、親切な、優しい人に見える）には近寄らない。

住所や電話番号を教えると、しつこく勧誘します。勧誘されたら、きっぱり断わってください。

■誰かに話す。

「ここの話には深い意味がある。ほかの人には理解できないから、両親や友人に話さないように」と言われたら、必ず家族や友人に話をしてください。

■情報統制を感じたら、直ちに逃げる。

この団体の言うことだけが正しくて、社会一般の情報は誤りであると言われたら、その時すでにあなたは危機的状況にあります。すぐに逃げてください。

■はっきりしなくても、大学（学生生活課）に相談する。

大学にはカルト関連の情報が 있습니다。他の大学や警察とも連携しています。

■証拠を確保する。

文書は日付を記して保存し、献金等の場合は日時といきさつをメモする。違法行為があれば写真記録や録音をする。

■自主性・自立性の養成

特に、新入生がカルトの勧誘のターゲットになります。根本的な解決策は、多くの情報を取り入れ、さまざまな人とコミュニケーションをとりつつ、批判的精神を鍛え、自主性・自立性を養成することです。

このことは、悪徳商法の罠や不正薬物の誘惑などに対して身を守ることにもつながります。

< 参考 > 日本脱カルト協会 <http://www.jscpr.org/>

20歳になったら国民年金

国民年金とは、年老いた時やいざという時の生活を、働いている世代みんなで支えようという考えで作られた仕組みです。

日本国内に住んでいる20歳以上60歳未満の人は、国民年金への加入が法律で義務付けられています。

20歳になったら、お住まいの市（区）役所または町村役場、もしくはお近くの年金事務所で必ず国民年金加入の手続きをしてください。

学生納付特例制度

申請により在学中の保険料納付が猶予される制度です。

所得がない学生が、将来、保険料の未納期間を理由に、老齢基礎年金や障害基礎年金を受け取れなくなることを防ぐため、本人が申請すれば保険料の納付が猶予されます。

学生納付特例の期間は、年金を受け取るために必要な期間として計算されます。また、病気やけがで障害が残った場合も年金を受け取ることができます。

※猶予期間は、年金を受け取るために必要な「受給資格期間」として扱われますが、年金額には反映しません。

ただし、10年以内にその期間の保険料を納付すれば、年金額に反映されます。

申請書は、住民票を登録している市（区）役所・町（村）役場の国民年金窓口または最寄りの年金事務所に提出してください。

詳細は、日本年金機構のホームページ（<https://www.nenkin.go.jp/>）で確認してください。

選挙権は18歳以上

公職選挙法等の一部が改正され、選挙権年齢が「満18歳以上」に引き下げられたことによって、大学および短期大学の全ての日本国籍を持つ学生が有権者になりました。

選挙は、国民が政治に参加し、主権者としてその意思を政治に反映させることのできる大切な機会です。

選挙のマナーやルールを理解し、選挙権を有効に使ってください。

選挙に行くために

選挙権を持っていても、実際に投票するためには、市区町村の選挙管理委員会が管理する名簿（選挙人名簿）に登録されていなければなりません。選挙人名簿は、住民票がある市区町村で登録されます。実家を離れて下宿をする場合は、必ず住民票を移す手続きをしてください。事情により、住民票を移していない人は、実家のある市区町村で投票することになります。

選挙当日投票所に行けない場合は「期日前投票制度」や「不在者投票制度」、また、長期の留学中の場合は「在外投票制度」を利用することができます。

詳細は、市区町村の選挙管理委員会に問い合わせてください。

18歳は大人です

2022年4月1日から、成年年齢が18歳になりました。成年年齢を20歳から18歳に引き下げるとは、18歳・19歳の自己決定権を尊重するものであり、その積極的な社会参加を促すことになると期待されます。

民法が定めている成年年齢は、「一人で契約をすることができる年齢」という意味と、「父母の親権に服さなくなる年齢」という意味があります。成年に達すると、親の同意を得なくても、自分の意思で様々な契約ができるようになるということです。つまり、契約を結ぶかどうかを決めるのが自分自身なら、その契約に対しての責任を負うのも自分自身になります。契約には様々なルールがあり、知識がないまま安易に契約を交わすとトラブルに巻き込まれる可能性がありますので十分に注意しましょう。

18歳（成年）になったらできること	20歳にならないとできないこと （これまでと変わらないこと）
<ul style="list-style-type: none"> ●親の同意がなくても契約できる <ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話の契約 ・ローンを組む ・クレジットカードをつくる ・一人暮らしの部屋を借りる 等 ●10年有効のパスポートを取得する ●結婚 <ul style="list-style-type: none"> ・女性の結婚可能年齢が16歳から18歳に引き上げられ、男女とも18歳になる 等 	<ul style="list-style-type: none"> ●飲酒をする ●喫煙をする ●競馬、競輪、オートレースなどの公営競技の投票券（馬券等）を買う ●国民年金の加入義務 ●大型・中型自動車運転免許の取得 等